

# I

## 履修概要

---

1. 入学から卒業まで	2
2. 履修登録	17
3. 授業	19
4. 単位制	21
5. 試験及び成績評価	25
6. 学籍・修業年限・学費	28
7. 学生サポート	31

# 1 入学から卒業まで

お茶の水女子大学では、確かな未来を担う人間を育成するために、学生が自律性と協調性を育み、論理的思考力と創造的探究心を習得できるよう、さまざまな教育方法を取り入れています。

とくに教育の基本をなす教養教育の特色は、「堅固な基礎的知識」の教授と「21世紀型リベラルアーツ教育」ですが、本学のリベラルアーツ教育は、問題を発見し、それを解決する能力を習得するお茶の水女子大学固有の教育プログラムで、既存の学問分野を越えた知識と学問の手法を提供します。

また、専門教育では、一人ひとりの意欲やニーズに柔軟に対応できるよう、それぞれの学部・学科ごとにプログラムを設けた「複数プログラム選択型」教育を平成23年度から新設致しました。より一層、学修の効果を期待しています。

本学では、上記目標を達成するために、1「コア科目」、2「専門教育科目又は専攻科目・関連科目」、3「自由に選択して履修する科目」の大きく3つの学習区分が設定されており、その中で必修科目・選択科目が配置されています。

なお、学生は本学に原則として4年以上在籍し、各自の所属する学部のガイドラインに従って、124単位以上（生活科学部食物栄養学科については、138単位以上）の卒業要件単位を充足してください。

## 【学部・学科の構成】

文教育学部	人文科学科	哲学・倫理学・美術史コース、比較歴史学コース、地理学コース
	言語文化学科	日本語・日本文学コース、中国語圏言語文化コース、英語圏言語文化コース、仏語圏言語文化コース
	人間社会科学科	社会学コース、教育科学コース、心理学コース
	芸術・表現行動学科	舞踊教育学コース、音楽表現コース
	人文科学科・言語文化学科・人間社会科学科	グローバル文化学環
理学部	数学科	
	物理学科	
	化学科	
	生物学科	
	情報科学科	
生活科学部	食物栄養学科	
	人間・環境科学科	
	人間生活学科	発達臨床心理学講座、生活社会科学講座、生活文化学講座

## (1) コア科目

コア (core) とは芯という意味です。コア科目は、これからの学修・研究における社会的関心が高く現代世界を理解するうえで重要と思われる問題領域や視点を核とし芯 (コア) となるべきものを、学生が主体的に模索し育成する際の一助となるよう設定されています。科目として、**文理融合リベラルアーツ**、**基礎講義**、**情報**、**外国語**、**スポーツ健康**に区分されます。(参考) 文教育学部-文教育学部履修規程 P. 179、理学部-理学部履修規程 P. 198、生活科学部-生活科学部履修規程 P. 208

### ① 文理融合リベラルアーツ

文理融合リベラルアーツは、文系理系にまたがる5つのテーマ；生命と環境、色・音・香、生活世界の安全保障、ことばと世界、ジェンダーにそって、講義・討論・発表・実験・実習・演習を組み合わせた系列科目群がつけられており、自然科学・人文科学・社会科学の3つの角度から多面的に学ぶ授業です。

これにより、高度な専門教育を支え、使いこなすための領域横断的な視野、変化に対応する判断力、発信・交渉能力など、生涯をとおして、自在 (リベラル) に使える技 (アーツ) を育成します。各系列の授業科目には、「講義」と「演習・実習・実験」の2種類があり、これを組み合わせて、知識と実践力を高めます。「講義」は隔年で、「演習・実習・実験」は

毎年同じ科目が開講され、2年間を1クールとして、当該系列のすべての科目が開講されます。「講義」では、テーマに立脚した課題学習を通じて、学問分野の基本を習得するとともに、自然・人間・社会の関係や相互作用を多面的に理解することを目的にします。「演習・実習・実験」は、少人数の演習形式で行われ、文献講読、実地調査、口頭発表など担当教員によって異なりますが、教員を含めたディスカッションを交えることを原則とした半期編成の授業です。聞き・読み・書き・語り・

計り・作るという作業を通じて、思考力やコミュニケーション力を養成します（いずれも2単位）。「演習・実習・実験」科目（各系列の科目番号が20番台のもの）は、少人数の演習形式で行われる半期演習科目であり、原則として1科目20名を定員とし、各年度の初めに、Web抽選申請入力（第3希望まで申請することができる）にもとづいて決定します。希望者が定員を超えた科目は抽選とし、その際は1年次の履修希望者を優先します。初回のオリエンテーションに出席し、所定の期日までにWeb抽選申請入力を済ませてください。

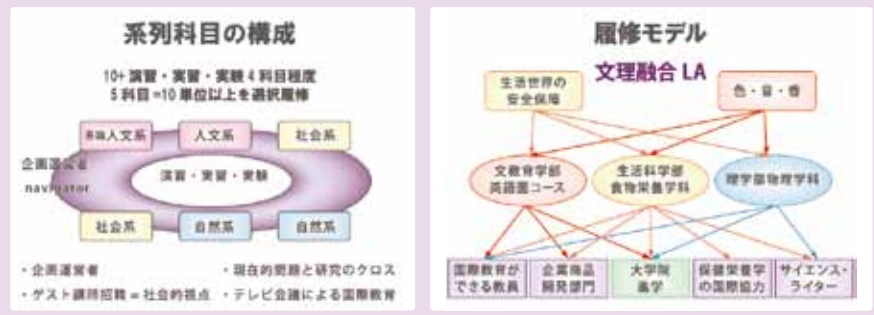
系列の科目を5科目（10単位）以上履修した者には、申請に基づき、成績証明書に「系列履修認定」が明記されます。

文理融合リベラルアーツ科目は、原則として月、水、金曜の1・2限、3・4限に開講され（演習科目は、月曜または水曜の3・4限の前期）、1-2年次に受講しやすいように設計されています。しかし、受講年次については、制限を設けていないので、3-4年次も含めて計画的に履修できます。

現代世界の鍵となる5つのテーマ

新プログラム「文理融合リベラルアーツ」では、文系理系にまたがる5つのテーマ（生命と環境、色・音・香、生活世界の安全保障、ことばと世界、ジェンダー）にそって、講義、討論、発表、演習・実験・実習を組み合わせた系列科目群をつくり、自然・人文・実習を通して、読み・聞き・書き・語り・作るという5つの能力を養成します。演習では、テーマに関連するテキスト（書物や論文）を読み、発表・討論し、レポートを書くことで、読解力や表現力を高めます。「生物と環境」や「色・音・香」では、海の生物を採集し観察する実験やおもしろさを作り出す実習で、自然の仕組みや生活技術を体感します。「生活世界の安全保障」では、NPOでのインターンシップなどを通して、実践力を養成します。

いずれも21世紀の世界の鍵となるテーマです。どの系列でも文理双方から問題を問いかけ、ここを「切り口」として知識と経験を広げ、主題を根源から理解することがゴールです。



科目一覧

系列1 生命と環境		系列2 色・音・香		系列3 生活世界の安全保障		系列4 ことばと世界		系列1 ジェンダー	
(講義)	(単位)	(講義)	(単位)	(講義)	(単位)	(講義)	(単位)	(講義)	(単位)
生命と環境 1	2	色・音・香 1	2	生活世界の安全保障 1	2	ことばと世界 1	2	ジェンダー 1	2
生命と環境 2	2	色・音・香 2	2	生活世界の安全保障 2	2	ことばと世界 2	2	ジェンダー 2	2
生命と環境 3	2	色・音・香 3	2	生活世界の安全保障 3	2	ことばと世界 3	2	ジェンダー 3	2
生命と環境 4	2	色・音・香 4	2	生活世界の安全保障 4	2	ことばと世界 4	2	ジェンダー 4	2
生命と環境 5	2	色・音・香 5	2	生活世界の安全保障 5	2	ことばと世界 5	2	ジェンダー 5	2
生命と環境 6	2	色・音・香 6	2	生活世界の安全保障 6	2	ことばと世界 6	2	ジェンダー 6	2
生命と環境 7	2	色・音・香 7	2	生活世界の安全保障 7	2	ことばと世界 7	2	ジェンダー 7	2
生命と環境 8	2	色・音・香 8	2	生活世界の安全保障 8	2	ことばと世界 8	2	ジェンダー 8	2
生命と環境 9	2	色・音・香 9	2	生活世界の安全保障 9	2	ことばと世界 9	2	ジェンダー 9	2
生命と環境 10	2	色・音・香 10	2	生活世界の安全保障 10	2	ことばと世界 10	2	(演習・実習・実験)	
(演習・実習・実験)		(演習・実習・実験)		(演習・実習・実験)		ことばと世界 11	2	ジェンダー 21	2
生命と環境 21	2	色・音・香 21	2	生活世界の安全保障 21	2	ことばと世界 12	2	ジェンダー 22	2
生命と環境 22	2	色・音・香 22	2	生活世界の安全保障 22	2	(演習・実習・実験)		ジェンダー 23	2
生命と環境 23	2	色・音・香 23	2	生活世界の安全保障 23	2	ことばと世界 21	2	ジェンダー 24	2
生命と環境 24	2	色・音・香 24	2	生活世界の安全保障 24	2	ことばと世界 22	2	ジェンダー 25	2
生命と環境 25	2			生活世界の安全保障 25	2	ことばと世界 23	2		
生命と環境 26	2					ことばと世界 24	2		
						ことばと世界 25	2		
						ことばと世界 26	2		
						ことばと世界 27	2		

## ② 基礎講義

基礎講義は、大学での勉学や社会生活で必要となる基本を学ぶ科目です。文理融合リベラルアーツの講義科目が課題に沿った学習であるのに対して、基礎講義は学問分野の体系にそって学ぶことで基礎力を育成します。1-2年次に受講しやすいように原則として月、水、金曜の1・2限、3・4限に開講されますが、3-4年次に学ぶことで基礎力を上げることができます。

### 科目一覧

科目	単位	科目	単位	科目	単位
哲学	2	ミクロ経済学入門	2	一般化学実験	2
現代心理学	2	マクロ経済学入門	2	安全管理概論	2
法学Ⅰ（日本国憲法）	2	基礎微積分学	2	総合コース	2～4
法学Ⅱ（法学入門）	2	基礎線形代数学	2	お茶の水女子大学論	2
法と文学	2	統計学	2		
政治学入門	2	一般物理学実験	2		

## ③ 情報

情報教育科目の「メディアリテラシ」では、大学における教育・研究活動で必要となる基本的な情報スキルや知識に加え、自立した人間として知識基盤社会で活躍するために最低限身に付けておきたい情報に関する知識を講義します。

「情報科学」では、情報に関する一般的な知識を講義します。「情報処理学」では、情報処理技術の歴史、現状及びその基盤となる学問等を概説します。「情報処理演習」は、すべての学部学科において1年次前学期の必修科目です。この科目では、現代の情報社会における情報の意味を考察し、情報を取り扱う態度を学びます。また、情報ツールを自ら構築し、使いこなし、各自の専門領域に取り入れる手法を、初歩から学んでいきます。学科を基本としたクラス分けで16クラスが開講されており、学部ごとに取り扱う題材が異なっています。必ず指定されたクラスを1年次に履修してください。複数のクラスを履修することはできません。

「プログラミング演習1」では、一般的なプログラミング言語を用いて、コンピュータプログラミングの基礎を学びます。異なるプログラミング言語をあつかう複数のクラスが開講され、在学中にどれかひとつのクラスのみ履修できます。定員が定められているクラスについては、初回の授業に出席した者の中から受講者を決定します。各クラスの授業内容や用いるプログラミング言語、定員等については、シラバスを参照してください。

「プログラミング演習2」では、コンピュータプログラミング入門と、コンピュータを使って問題を解くことを考えます。複数のクラスが開講される場合には、在学中にどれかひとつのクラスのみ履修できます。定員が定められているクラスについては、初回の授業に出席した者の中から受講者を決定します。各クラスの授業内容や定員等については、シラバスを参照してください。

「コンピュータ演習1」では、自分専用のパソコンを使って、コンピュータの活用とプログラミングの初歩を学びます。与えられた環境でプログラミングだけを学ぶのではなく、必要なツールを入手し、自分用のパソコンをカスタマイズすることもあわせて修得します。毎回の授業に、各自がパソコンを持参してください。複数のクラスが開講される場合には、在学中にどれかひとつのクラスのみ履修できます。定員が定められているクラスについては、初回の授業に出席した者の中から受講者を決定します。各クラスの授業内容や定員等については、シラバスを参照してください。

「コンピュータ演習2」では、コンピュータにまつわるいくつかのトピックについて学びます。複数のクラスが開講される場合には、在学中にどれかひとつのクラスのみ履修できます。定員が定められているクラスについては、初回の授業に出席した者の中から受講者を決定します。各クラスの授業内容や定員等については、シラバスを参照してください。

「情報学演習1」及び「情報学演習2」では、情報にまつわるいくつかのトピックについて学びます。複数のクラスが開講される場合には、在学中にどれかひとつのクラスのみ履修できます。定員が定められているクラスについては、初回の授業に出席した者の中から受講者を決定します。各クラスの授業内容や定員等については、シラバスを参照してください。

### 授業科目一覧

科目	単位	備考	科目	単位	備考
メディアリテラシ	2		プログラミング演習2	2	定員あり
情報科学	2		コンピュータ演習1	2	定員あり
情報処理学	2		コンピュータ演習2	2	定員あり
情報処理演習	2	文A～文G、理A～理E、生活A～生活D	情報学演習1	2	定員あり
プログラミング演習1	2	定員あり	情報学演習2	2	定員あり

## ④ 外国語

本学で現在コア科目として開設されている外国語は以下の6言語です。

**英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語**

他に文教育学部の学部共通科目に、ギリシャ語、ラテン語、スペイン語、イタリア語、アジア諸語Ⅰ～Ⅳがあります。必修単位に認定される外国語の種類と必修単位数は、学部・学科別に以下のとおり定められており、各外国語の授業科目の中でも必修単位に認定される科目とされない科目があります。必修単位に認定される科目は各外国語の授業科目表に示されています。これらは学部・学科によって異なるので注意してください。また、履修に条件を設けた科目があるので、各外国語の授業科目表の履修条件欄にも注意してください。

## 授業科目一覧

学部・学科		必修となる外国語の種類及び単位数
文教育学部	人文学科	<b>外国語の必修単位数は16単位である。</b> 英語(10単位)・ドイツ語(16単位)・フランス語(16単位)・中国語(16単位)から1か国語を( )内に示された単位数修得すること。なお、英語を選択した場合、残りの6単位は、他の外国語(ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・朝鮮語)から一つ選んで修得すること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分は「自由に選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
	言語文化学科	<b>外国語の必修単位数は20単位である。</b> 英語(10単位)・ドイツ語(16単位)・フランス語(16単位)・中国語(16単位)から1か国語を( )内に示された単位数修得すること。2つ以上の外国語(英語・ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・朝鮮語から選択)の単位を修得し、合計20単位修得すること。なお、英語を選択した場合、残りの10単位は、他の外国語(ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・朝鮮語から選択)で修得すること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分は「自由に選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
	人間社会科学 芸術・表現行動学科	<b>英語(10単位)・ドイツ語(16単位)・フランス語(16単位)・中国語(16単位)から1か国語を( )内に示された単位数修得すること。</b> なお、ドイツ語・フランス語・中国語を選択した場合は、10単位を外国語の必修単位としたうえで、6単位を「自由に選択して履修できる科目の単位」とすることができる。このほか、外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分は「自由に選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
	グローバル文化学環	<b>外国語の必修単位数は18単位である。</b> 英語10単位を必修とする。残りの8単位は、コア外国語のドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語、ないし学部共通科目のスペイン語、イタリア語、アジア諸語で修得すること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分は「自由に選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
理学部	数学科	<b>英語、ドイツ語、フランス語、中国語のうち、一つの言語について8単位以上を修得しなければならない。</b> なお、英語で外国語の必修単位を充たす場合、コア外国語の英語の授業科目(「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」)、「中級英語」で6単位、及び「専門英語」(理学部の各学科の以下の専攻科目)で2単位を修得しなければならない。 数学英語(数学科)・物理英語(物理学科)・化学英語(化学科)・生物学外書講読(生物学科)・英文講読(情報科学科)
	物理学科	
	化学科	
	生物学科	
情報科学科	コア科目の必修単位30単位のうち、外国語科目を12単位まで充てることができる。12単位を超える分は「自由に選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。	
生活科学部	食物栄養学科	<b>英語、ドイツ語、フランス語、中国語のうち、一つの言語について8単位以上を修得しなければならない。</b> なお、英語で外国語の必修単位を充たす場合、コア外国語の英語の授業科目(「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」)、「中級英語」で6単位、及び「専門英語」(生活科学部の各学科の以下の専攻科目)で2単位を修得しなければならない。 食物栄養専門英語(食物栄養学科)・科学英語演習(人間・環境科学科)・発達臨床心理学専門英語(発達臨床心理学講座)・生活社会科学専門英語(生活社会科学講座)・生活文化学専門英語(生活文化学講座)
	人間環境学科	
	人間生活学科	
		8単位を超える分は、コア科目の必修単位または「自由に選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。

## ● I 英語

### 1 授業科目

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
* 基礎英語 I・II	各2	1	基礎的英語力を充実させる。	同一年度で I・II を連続して履修することが望ましい。
* 中級英語 I・II (文教育学部)	各2	2	中級レベルの英語力を充実させる。reading/listening、speaking/writing の2分野から選択して履修する。ただし、speaking/writing は中級英語 I・II のいずれかのみで履修可能。	「基礎英語 I・II」の単位を修得していること。同一年度で I・II を連続して履修することが望ましい。
* 中級英語 (理学部・生活科学部)	2	2	中級レベルの読解力・聴解力を充実させる。	「基礎英語 I・II」の単位を修得していること。
** 総合英語 I・II (文教育学部)	各2	1～2	中級レベルの英語力を充実させる。reading、listening、writing、speaking の4分野を組み合わせて開講する。	「基礎英語 I」を履修していること。
総合英語 (理学部・生活科学部)	2	2	中級レベルの英語力を充実させる。reading、listening、writing、speaking の4分野を組み合わせて開講する。	「基礎英語 I・II」の単位を修得していること。
** 英会話 I・II	各2	1	基礎的な会話力を養成する。	「英会話 I」については「基礎英語 I」を、「英会話 II」については「基礎英語 II」を履修していること。
** 英会話 III・IV	各2	2～4	自分の考えをまとめて表現するのに十分な会話力を充実させる。	「基礎英語 I・II」の単位を修得していること。
上級英語 I・II	各2	3～4	reading、listening を中心として、高度な英語力を充実させる。授業は原則として英語で行われる。	英語の単位を最低10単位修得していること。文教育学部の学生は、英語10単位を*のついた基本科目(8単位)と**のついた準基本科目で修得していること。理学部・生活科学部の学生は、英語10単位を*のついた基本科目(6単位)と「総合英語(理学部・生活科学部)」、所属学科・講座の専門英語、または「英会話 I-IV」で修得していること。同一年度で I と II を連続して履修することが望ましい。
ビジネス英語 I・II	各2	2～4	ビジネスに用いられる英語力を養成する。	英語の単位を最低8単位修得していること。文教育学部の学生は、英語8単位を*のついた基本科目(4単位以上)と**のついた準基本科目で修得していること。理学部・生活科学部の学生は、英語8単位を*のついた基本科目(4単位以上)と「総合英語(理学部・生活科学部)」、所属学科・講座の専門英語、または「英会話 I-IV」で修得していること。同一年度で I・II を併せて履修することが望ましいが、I・II はそれぞれ単独での履修も可。
時事英語 I・II	各2	2～4	時事英語の知識に基づいた英語力を養成する。	
英語プレゼンテーション I・II	各2	2～4	自分の考えや研究成果を発表するための英語力を養成する。	

注) ① \* 全学部の学生がコア科目(外国語)の必修単位に充てることができる基本科目です。

\*\* 文教育学部の学生のみがコア科目(外国語)の必修単位に充てることができる準基本科目です。ただし、英語の必修単位に充てる場合は、\*\*の科目を合わせて2単位を限度とします。

- ② コア外国語の必修単位に充てることができない科目の単位は、自由に選択して履修する科目の単位に充てることができます。
- ③ 科目名のⅠ、Ⅲは前期開講科目、Ⅱ、Ⅳは後期開講科目を示します。
- ④ 対象学年は、必修単位を満たす外国語として英語を履修する場合の指定です。ただし、英語を必修外国語としない場合でも、履修条件を満たすように履修してください。
- ⑤ 4 履修に関する特別措置【P. 8参照】に該当する学生は、言語文化学科（英文研究室）の判断で指定されたクラスを履修します。該当する学生は、履修手続きの前に英文研究室（文教育学部1号館419号室）に相談してください。

## 2 クラス編成

科目	対象学年	編成のされ方	備考
基礎英語Ⅰ・Ⅱ	1	入学時に受験する TOEIC スコアを基に習熟度別クラス編成を行い、指定されたクラスで履修する。	
中級英語Ⅰ・Ⅱ (文教育学部)	2	1年次学年末に受験する TOEIC スコアを基に習熟度別クラス編成を行い、指定されたクラスで履修する。	
中級英語 (理学部・生活科学部)	2	1年次学年末に受験する TOEIC スコアを基に習熟度別クラス編成を行い、指定されたクラスで履修する。	
総合英語Ⅰ・Ⅱ (文教育学部)	1～2	初回の授業の際に、履修希望者がクラス定員の上限を超えた場合は、任意抽出方式により調整の上、受講者を決定する。その場合、2年生に優先権がある。	
総合英語 (理学部・生活科学部)	2	初回の授業の際に、履修希望者がクラス定員の上限を超えた場合は、任意抽出方式により調整の上、受講者を決定する。	
英会話Ⅰ・Ⅱ	1	Ⅰに関しては1年次の4月に、Ⅱに関しては1年次の6月に履修希望届を提出する。履修希望者がクラス定員の上限を超えた場合は、任意抽出方式により調整を行う。その場合、1年生に優先権がある。	学年が同じ場合、「英会話Ⅱ」に関しては「英会話Ⅰ」を履修していない学生に優先権がある。
英会話Ⅲ・Ⅳ	2～4	初回の授業の際に、履修希望者がクラス定員の上限を超えた場合は、任意抽出方式により調整の上、受講者を決定する。その場合、文教育学部の学生に優先権がある。	学部が同じ場合、「英会話Ⅲ」に関しては「英会話Ⅰ・Ⅱ」を、「英会話Ⅳ」に関しては「英会話Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修していない学生に優先権がある。
上級英語Ⅰ・Ⅱ	3～4	初回の授業の際に、履修希望者がクラス定員の上限を超えた場合は、任意抽出方式により調整の上、受講者を決定する。	特別措置により必修単位を満たす科目として履修する学生に優先権がある。
ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ	2～4	同上	
時事英語Ⅰ・Ⅱ	2～4	同上	
英語プレゼンテーションⅠ・Ⅱ	2～4	同上	

- 注) ① 上記各科目のクラス定員は30名です。
- ② 履修希望の提出等に関する手続きについては、学生センターの掲示をよく見て、指定された期間内に申込をしてください。
- ③ 再履修の必要がある学生は、再履修に関する措置【P. 8参照】に従って、履修希望届を提出してください。
- ④ 英語を必修外国語としない場合で2年次以降に「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」の履修を希望する場合は、再履修の場合(前項③)と同様の手続きで、履修希望届を提出して下さい。また、1年次学年末に実施する TOEIC IP テストを受験しておいてください。
- ⑤ 言語文化学科英語圏言語文化履修コースの学生が「上級英語Ⅰ・Ⅱ」及び「英会話Ⅲ・Ⅳ」に履修希望届を提出した場合、各クラスの定員に余裕がある場合のみ受講が可能となります。
- ⑥ 聴講については、クラス定員に余裕がある時にのみ許可します。

## 3 より高度な授業科目

上級レベルの英会話・英作文の学習を希望する場合は、文教育学部言語文化学科専攻科目の「英会話演習(上級)」 「英

作文演習（上級）」を履修してください。それぞれのクラス定員は30名です。

なお、これらはコア科目の単位にはならないので注意してください。

#### 4 履修に関する特別措置

1) 入学以前に『実用英語技能検定』（文部科学省認定・財団法人日本英語検定協会主催）1級又は準1級、『TOEIC』（財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会主催）730点以上のスコアもしくは『TOEFL』（Educational Testing Service (ETS) 主催）において550 (PBT) / 213 (CBT) / 79 (iBT) 点以上のスコアを持っている学生に関する措置

（「I-4 単位制」（2））【P. 21-23】参照）

※入学後に本学で実施する TOEIC IP テストのスコアは対象になりません。

a 入学以前に『実用英語技能検定』準1級、TOEIC730点以上815点未満のスコアもしくは『TOEFL』550 (PBT) / 213 (CBT) / 79 (iBT) 点以上580 (PBT) / 237 (CBT) / 92 (iBT) 点未満のスコアを持っている学生

「基礎英語 I・II」に相当する4単位を認定します。残りの必修単位は、各学部・学科ごとに定められた「コア科目（外国語）の必修単位を満たすことができる科目」で充足させます。ただし、入学時に言語文化学科（英文研究室）が相応の英語力を有すると判断した場合は、残りの必修単位を「上級英語 I・II」で充足させることができます。

b 入学時に『実用英語技能検定』1級、『TOEIC』815点以上のスコアもしくは『TOEFL』580 (PBT) / 237 (CBT) / 92 (iBT) 点以上のスコアを持っている学生

文教育学部の学生に関しては、「基礎英語 I・II」及び「中級英語 I・II」に相当する8単位を、理学部・生活科学部の学生に関しては、「基礎英語 I・II」、「中級英語」及び「総合英語」に相当する8単位を認定します。残りの必修単位は「上級英語 I・II」で充足させます。

2) 上記1)の『実用英語技能検定』、『TOEIC』もしくは『TOEFL』による単位認定資格を持たないが、それに相当する英語力を有する学生に関する措置

a 英語を必修外国語として履修する場合

入学時に言語文化学科（英文研究室）の判断で指定された科目を履修し、これらの科目で英語の必修単位を充足させることを認めます。

b 英語を必修外国語としない場合

履修を希望する年度初めに言語文化学科（英文研究室）の判断で指定された科目を履修してください。

\*上記の条件を充たし、単位認定を希望する者は、所定の期間に教務チームで単位認定の申請をしてください。

3) 第1年次終了まで（または、「基礎英語 I・II」の単位を修得するまで）に『実用英語技能検定』1級、『TOEIC』815点以上のスコアもしくは『TOEFL』580 (PBT) / 237 (CBT) / 92 (iBT) 点以上のスコアを得た学生に関する措置

次年度の履修手続きの際、「上級英語 I・II」の履修を認めます。なお、英語を必修外国語として履修している場合は、残りの必修単位を「上級英語 I・II」で充足させることを認めます。

#### 5 再履修に関する措置

再履修が必要となった場合は、文教育学部の学生は文教育学部用指定クラスで、理学部・生活科学部の学生は理学部・生活科学部用指定クラスで履修して下さい。この場合、英語を必修外国語としている学生の履修が優先されます。

## ●II ドイツ語・フランス語・中国語

ドイツ語・フランス語・中国語は、基礎3クラスと発展2クラス、及び基礎会話クラス、初歩クラスが開設されています。

### [ドイツ語]

#### 1 授業科目

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
* 基礎ドイツ語（文法） I・II	各2	1	1年間をかけてドイツ語の文法を詳しく学ぶ。ドイツ語の文法体系はかなりしっかりしているため、1年間の学習を通じて高度なドイツ語の文章の読解が可能になる。	「基礎ドイツ語（演習）I・II」と同時に履修すること。同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
* 基礎ドイツ語（演習） I・II	各2	1	文法練習問題（作文を含む）を多くこなすことによって、文法知識がしっかり身につくようになる。	「基礎ドイツ語（文法）I・II」と同時に履修すること。同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。



科目	単位	対象学年	内容	履修条件
* 基礎ドイツ語（応用） I・II	各2	1	読み・書き・話し・聞くという総合的な訓練を通じて実践的な語学力を養う。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
** 発展ドイツ語 I・II	各2	2	さまざまなジャンルの中級程度のドイツ語に取り組みながら、ドイツ語の力を伸ばす。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
** 発展ドイツ語 III・IV	各2	2	さまざまなジャンルの中級程度のドイツ語に取り組みながら、ドイツ語の力を伸ばす。	同一年度でIII・IVを連続して履修することが望ましい。
*** 基礎ドイツ語会話 I・II	各2	1～4	外国人講師による簡単な日常会話の演習。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
*** 基礎ドイツ語初歩 I・II	各2	1～4	ドイツ語文法の概略をつかみ、簡単な文章が読めるようにする。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。

注) ① \* 全学部がコア科目（外国語）の必修単位の充てることができる基本科目です。

\*\* 文教育学部の学生のみがコア科目（外国語）の必修単位の充てることができる準基本科目です。

\*\*\* 言語文化学科、グローバル文化学環の学生のみが、英語 10 単位またはフランス語、中国語 16 単位を\*もしくは\*\*のついで基本科目及び準基本科目で履修した場合に限り、残りのコア科目（外国語）の必修単位の充てることができる科目です。

② 科目名の I、III は前期開講科目、II、IV は後期開講科目を示します。

③ 対象学年は、必修単位を満たす外国語としてドイツ語を履修する場合の目安です。

④ 4 履修に関する特別措置に該当する学生は、言語文化学科の判断で指定されたクラスを履修してください。

## 2 クラス編成

1 クラス 50 名以内とします。指定されたクラスで履修してください。

1 クラスの履修希望者が 50 名を超えた時は、調整を行います。

## 3 より高度な授業科目

発展ドイツ語よりも高度な内容の学習を希望する場合は、文教育学部言語文化学科の専門科目を履修してください。

なお、これらはコア科目の単位にはならないので注意してください。

## 4 履修に関する特別措置

1) 入学時に『ドイツ語技能検定試験』（財団法人ドイツ語学文学振興会主催）3 級以上に合格している学生に関する措置（「4 単位制」（2）【P. 21-23】参照。）

a 3 級合格者：「基礎ドイツ語（文法）I・II」「基礎ドイツ語（演習）I・II」に相当する 8 単位を認定します。

b 2 級以上合格者：「基礎ドイツ語（文法）I・II」及び「基礎ドイツ語（演習）I・II」「基礎ドイツ語（応用）I・II」「発展ドイツ語 I・II」「発展ドイツ語 III・IV」のいずれかに相当する 12 単位を認定します。

2) 既にドイツ語を学んでおり、相当の実力があると認められる学生に関しては、必修単位を満たすことができる基本科目及び準基本科目以外の履修によって、必修科目を満たすことを認める場合があります。

## [フランス語]

### 1 授業科目

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
* 基礎フランス語（文法） I・II	各2	1	フランス語の文法の基礎を修得し、簡単な会話や文章の読解ができるようになる。	「基礎フランス語（演習）I・II」と同時に履修すること。同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
* 基礎フランス語（演習） I・II	各2	1		「基礎フランス語（文法）I・II」と同時に履修すること。同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
** 基礎フランス語 (応用) I・II	各2	1	読み・書き・話し・聞くという様々な基本的な訓練を通じて実践的な語学力を養う。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
** 発展フランス語 I・II	各2	2	基礎を固めつつ、テキストの読解や様々な練習を通じて、フランス語学力の向上を図る。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
** 発展フランス語 III・IV	各2	2		同一年度でIII・IVを連続して履修することが望ましい。
*** 基礎フランス語会話 I・II	各2	1～4	外国人講師によるフランス語初歩の会話演習。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
*** フランス語初歩 I・II	各2	1～4	フランス語文法の概略をつかむ。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。

- 注) ① \* 全学部の学生がコア科目 (外国語) の必修単位に充てることができる基本科目です。  
 \*\* 文教育学部の学生のみがコア科目 (外国語) の必修単位に充てることができる準基本科目です。  
 \*\*\* 言語文化学科、グローバル文化学環の学生のみが、英語 10 単位またはドイツ語、中国語 16 単位を\*もしくは\*\*のついた基本科目及び準基本科目で履修した場合に限り、残りのコア科目 (外国語) の必修単位に充てることができる科目です。
- ② 科目名の I、III は前期開講科目、II、IV は後期開講科目を示します。  
 ③ 対象学年は、必修単位を満たす外国語としてフランス語を履修する場合の目安です。  
 ④ 履修に関する特別措置に該当する学生は、言語文化学科 (仏文研究室) の判断で指定されたクラスを履修してください。

## 2 クラス編成

- 1 クラス 50 名以内とします。指定されたクラスで履修してください。  
 1 クラスの履修希望者が 50 名を超えた時は、調整を行います。

## 3 より高度な授業科目

発展フランス語よりも高度な内容の学習を希望する場合は、文教育学部言語文化学科の専攻科目を履修してください。  
 なお、これらはコア科目の単位にはならないので注意してください。

## 4 履修に関する特別措置

- 1) 入学時に『実用フランス語技能検定試験』(財団法人フランス語教育振興協会主催) 4 級以上に合格している学生に関する措置 (「4 単位制」(2)【P. 21-23 参照】)
- a 4 級合格者: 「基礎フランス語 (文法) I・II」「基礎フランス語 (演習) I・II」に相当する 8 単位を認定します。  
 b 3 級以上合格者: 「基礎フランス語 (文法) I・II」「基礎フランス語 (演習) I・II」「基礎フランス語 (応用) I・II」「発展フランス語 I・II」「発展フランス語 III・IV」のいずれかに相当する 12 単位を認定します。
- 2) 既にフランス語を学んでおり、相当の実力があると認められる学生に関しては、必修単位を満たすことができる基本科目及び準基本科目以外の履修によって、必修科目を満たすことを認める場合があります。

## [中国語]

### 1 授業科目

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
* 基礎中国語 (文法) I・II	各2	1	中国語の文法の基礎を修得し、簡単な会話や文章の読解ができるようにする。	「基礎中国語 (演習) I・II」と同時に履修すること。同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
* 基礎中国語（演習） I・II	各2	1	中国語の基礎的な演習を行い、簡単な会話や文章の読解ができるようにする。	「基礎中国語（演習）I・II」と同時に履修すること。同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
** 基礎中国語（応用） I・II	各2	1	簡単な文章の読解を通じて、中国語の基礎を修得する。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
** 発展中国語I・II	各2	2	標準的な中国語の文章の読解を行う。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
** 発展中国語III・IV	各2	2	基礎的学力を固めつつ、標準的文章の読解、及び聴解能力を高める。	同一年度でIII・IVを連続して履修することが望ましい。
*** 基礎中国語会話I・II	各2	2～4	外国人講師による簡単な中国語会話演習。	「基礎中国語（文法）（演習）I・II」を履修済みであることが望ましい。同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
*** 中国語初歩I・II	各2	1～4	中国語の入門を図る。併せて発音や聞き取りの練習も行う。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。

注) ① \* 全学部の学生がコア科目（外国語）の必修単位に充てることができる基本科目です。

\*\* 文教育学部の学生のみがコア科目（外国語）の必修単位に充てることができる準基本科目です。

\*\*\* 言語文化学科、グローバル文化学環の学生のみが、英語10単位またはドイツ語、フランス語16単位を\*もしくは\*\*のついた基本科目及び準基本科目で履修した場合に限り、残りのコア科目（外国語）の必修単位に充てることができる科目です。

② 科目名のI、IIIは前期開講科目、II、IVは後期開講科目を示します。

③ 対象学年は、必修単位を満たす外国語として中国語を履修する場合の目安です。

④ 履修に関する特別措置に該当する学生は、言語文化学科（中文研究室）の判断で指定されたクラスを履修してください。

## 2 クラス編成

1クラス50名以内とします。指定されたクラスで履修してください。

1クラスの履修希望者が50名を超えた時は、調整を行います。

## 3 より高度な授業科目

発展中国語よりも高度な内容の学習を希望する場合は、文教育学部言語文化学科の専攻科目を履修してください。

なお、これらはコア科目の単位にはならないので注意してください。

## 4 履修に関する特別措置

1) 入学時に『中国語検定』（日本中国語検定協会主催）4級以上に合格している学生、『中国語コミュニケーション能力検定』（中国語コミュニケーション協会主催）において250点以上のスコアをもっている学生及び『漢語水平考試験』（中国語国家HSK委員会主催）の2級以上に合格している学生に関する措置（「4 単位制」（2）【P.21-23参照】）

A 入学時に『中国語検定』（日本中国語検定協会主催）4級以上に合格している学生に関する措置

a 4級合格者：「基礎中国語（文法）I・II」「基礎中国語（演習）I・II」に相当する8単位を認定します。

b 3級以上合格者：「基礎中国語（文法）I・II」「基礎中国語（演習）I・II」「基礎中国語（応用）I・II」「発展中国語I・II」「発展中国語III・IV」のいずれかに相当する12単位を認定します。

B 入学時に『中国語コミュニケーション能力検定』（中国語コミュニケーション協会主催）において250点以上のスコアをもっている学生に関する措置

250点以上400点未満：「基礎中国語（文法）I・II」「基礎中国語（演習）I・II」に相当する8単位を認定します。

400点以上：「基礎中国語（文法）I・II」「基礎中国語（演習）I・II」「基礎中国語（応用）I・II」「発展中国語I・II」「発展中国語III・IV」のいずれかに相当する12単位を認定します。

C 入学時に『漢語水平考試験』（中国語国家HSK委員会主催）の2級以上に合格している学生に関する措置

a 2級合格者：「基礎中国語（文法）I・II」「基礎中国語（演習）I・II」に相当する8単位を認定します。

b 3級以上合格者：「基礎中国語（文法）I・II」「基礎中国語（演習）I・II」「基礎中国語（応用）I・II」「発展中国語I・II」「発展中国語III・IV」のいずれかに相当する12単位を認定します。

2) 既に中国語を学んでおり、相当の実力があると認められる学生に関しては、必修単位を満たすことができる基本科目及び準基本科目以外の履修によって、必修科目を満たすことを認める場合があります。

### ●Ⅲ ロシア語・朝鮮語

ロシア語と朝鮮語は、初歩クラスと会話クラスが開講されます。

#### [ロシア語]

##### 1 授業科目

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
***ロシア語初歩Ⅰ・Ⅱ	各2	1～4	ロシア語の基礎を学ぶ。	同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
***ロシア語会話Ⅰ・Ⅱ	各2	1～4	簡単なロシア語会話の練習。	「ロシア語初歩Ⅰ・Ⅱ」を履修済みであることが望ましい。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。

注) \*\*\*人文科学科、言語文化学科、グローバル文化学環の学生のみが、英語10単位またはドイツ語、フランス語、中国語16単位を\*もしくは\*\*のついた基本科目及び準基本科目で履修した場合に限り、残りのコア科目(外国語)の必修単位に充てることができる科目です。

#### [朝鮮語]

##### 1 授業科目

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
***朝鮮語初歩Ⅰ・Ⅱ	各2	1～4	朝鮮語の基礎を学ぶ。	同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
***朝鮮語会話Ⅰ・Ⅱ	各2	1～4	簡単な朝鮮語会話の練習。	「朝鮮語初歩Ⅰ・Ⅱ」を履修済みであることが望ましい。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。

注) \*\*\*人文科学科、言語文化学科、グローバル文化学環の学生のみが、英語10単位またはドイツ語、フランス語、中国語16単位を\*もしくは\*\*のついた基本科目及び準基本科目で履修した場合に限り、残りのコア科目(外国語)の必修単位に充てることができる科目です。

#### ⑤ スポーツ健康

##### 1 スポーツ健康の履修

全学部とも「スポーツ健康実習」2単位が必修です。

##### 2 授業科目

学部	必修科目		自由選択科目					
	スポーツ健康実習		スポーツ科学概論		健康科学概論		生涯スポーツ	
	単位数	履修年次	単位数	履修年次	単位数	履修年次	単位数	履修年次
全学部	2単位	1年次	2単位	1～4年次	2単位	1～4年次	1～3単位	1～4年次

注) ①「生涯スポーツ」の履修単位を「スポーツ健康実習」の単位に替えることは、原則的にはできません。

②「スポーツ科学概論」、「健康科学概論」、「生涯スポーツ」の単位は、コア科目(「スポーツ健康」の選択科目)として卒業単位の中に含めることができます。

##### 1) スポーツ健康実習

運動やスポーツを通じて健康や体力の維持増進を図り、あわせて自己の身体への理解と関心を深めることを目的とします。前期は主に体力の維持増進を目的として「共通フィットネス」を履修する。後期は開講される種目(テニス、バドミントン、ソフトボール、サッカー、ダンス、多職種など)の中から履修する種目を選択します。前・後期それぞれ2回ずつの講義が含まれます。

自己の体力水準を正しく知ってもらうために、4月と12月に体力診断テストを行います。

なお、傷害あるいは慢性疾患等で運動することができない場合は、軽運動クラスを選択することができます。

## 2) スポーツ科学概論

人はなぜスポーツをするのか、スポーツは人にどのような影響を与えるのか、というテーマについて、人文・社会科学的視点からと生理学的視点から、それぞれ講義します。

## 3) 健康科学概論

青年期、成人期を女性として健康に生きるための基本的な知識、考え方を学び、同時に健康をめぐる諸問題に対する関心を深めることを目的とします。

## 4) 生涯スポーツ

生涯にわたって自らの生活の中に運動やスポーツを取り入れ実践していくことができる基礎的能力を高めることを目的とします。開講する種目は学生からの要望の高い種目が用意されます。各学期の第一週目にガイダンスと受講の受付をします。

## (2) 専門教育科目（必修プログラム）又は専攻科目・関連科目

### ① 専門教育科目（プログラムに属する科目）

複数プログラム選択履修制度とは、「主プログラム」「強化プログラム」「副プログラム」「学際プログラム」の4つから構成されており、

- 深く専門的な知識を学びたい
- 将来の進路を考えて、幅広くさまざまな分野の知識や技能を身につけたい
- 分野を横断した最先端の学問領域を学びたい
- 国際理解を深めたい

など、学生が自分の目標にあわせて、学部の域を超えて、さまざまなプログラムを選択的に組み合わせることにより、多様で豊かな学びを構築するための制度です。

#### 「主プログラム」とは

自分の所属する学科から提供される知識や技能の基礎を学ぶプログラムをいいます。

#### 「強化プログラム」とは

専攻した分野をさらに深く、又は広く学ぶためのプログラムをいいます。

#### 「副プログラム」とは

自分の専攻した分野と異なる学習プログラムをいいます。

#### 「学際プログラム」とは

さまざまな分野を融合する最先端の知識や技能を学ぶ学際型プログラムをいいます。

皆さんは、自分の目標に合わせてプログラムを設定していくことになりますが、一つ目のプログラム（第1プログラム）の設定は、自分の所属する学科の提供するものから選択しなければなりません。また、二つ目のプログラム（第2プログラム）は、所属学部の提供するプログラムを選択。三つ目のプログラム（第3プログラム）は、それぞれ他学科、他学部の提供する副プログラムや学際プログラムからも選択可能ですので、「Ⅱ 授業科目一覧」を見て確認してください。

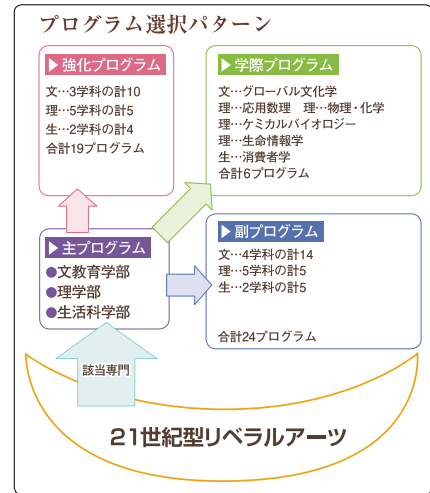
また、プログラムの種類・内容及び単位数の関係については、次の表を参照してください。

第1プログラム	必修	主プログラム（自分の所属する学科から選択）
第2プログラム	選択必修	強化プログラム又は副プログラム又は学際プログラム（自分の所属する学部内から選択）
第3プログラム	自由選択	副プログラム又は学際プログラム

教育改革の方向性  
学生主体の新しい学士課程の創成



21世紀型リベラルアーツ教育を踏まえた高度な専門基礎教育



○プログラムの種類・内容及び単位数の関係表

プログラムの種類 (提供プログラム)	専門教育			プログラム内容等
	文教育学部	理学部	生活科学部	
主プログラム (20 プログラム)	44 又は 48 単位	60 単位	42 又は 60 単位	各専門領域の基礎的な知識や技能を、一貫的で調和的に修得するためのプログラム。提供学科は、文教育学部芸術・表現行動学科及び生活科学部食物栄養学科を除く全学科
強化プログラム (19 プログラム)	20 単位	20 単位	20 単位	各専門領域をさらに深く、または広く学ぶためのプログラム。提供学科は、文教育学部芸術・表現行動学科、グローバル文化化学環及び生活科学部食物栄養学科を除く全学科
副プログラム (23 プログラム)	20 単位	20 単位	20 単位	学生の多様な能力・適性及び学習意欲に応え、専門とは異なる分野の幅広い学習機会を提供するためのプログラム。 (提供学部学科) 文教育学部 13 ・哲学・倫理学・美術史プログラム ・比較歴史学プログラム ・地理環境学プログラム ・日本語・日本文学プログラム ・中国語圏言語文化プログラム ・英語圏言語文化プログラム ・仏語圏言語文化プログラム ・日本語教育プログラム ・社会学プログラム ・教育科学プログラム ・心理学プログラム ・舞踊教育学プログラム ・音楽表現プログラム 理学部 5 ・数学プログラム ・物理学プログラム ・化学プログラム ・生物学プログラム ・情報科学プログラム 生活科学部 5 ・人間・環境科学プログラム ・発達臨床心理学プログラム ・公共政策論プログラム ・ジェンダー論プログラム ・生活文化学プログラム
学際プログラム (6 プログラム)	20 単位	20 単位	20 単位	新たな領域融合型ないしは学際型の専門領域に即応し、先端研究分野等で要請される新しいタイプの専門人養成に対応するためのプログラム。 (提供学部学科) 文教育学部 グローバル文化化学環 ・グローバル文化学プログラム 理学部 数学科、物理学科、情報科学科 ・応用数理プログラム 理学部 物理学科、化学科 ・物理・化学プログラム 理学部 化学科、生物学科 ・ケミカルバイオロジープログラム 理学部 生物学科、化学科、情報科学科 ・生命情報学プログラム 生活科学部 人間生活学科 ・消費者学プログラム

- 注) ① 強化プログラムの履修は、同領域の主プログラムを履修していることが選択の要件です。  
 ② 副プログラムは、履修した主プログラムと同領域のものは選択できません。ただし、グローバル文化学を主プログラムとする学生は、所属する学科のいずれかのコース・講座の提供する副プログラムの履修を必修とします。  
 ③ 学際プログラムのうち、理学部の提供する4プログラムについては、理系の学生（理学部全学科と生活科学部食物栄養学科、人間・環境科学科）のみ選択できます。

- ④ 文教育学部芸術・表現行動学科と生活科学部食物栄養学科の学生も、副プログラム又は学際プログラムを選択することができます。

### プログラムの選択方法

主プログラムは、理系の学生は、入学時点で決定しています（Webにより手続き【P.17参照】）。文系の学生は、1年次終了時（1月頃）にWeb申請し、申請者数（第一希望者の数）が受け入れ上限数を上回っている場合は、当該主プログラム提供学科（コース・講座）における選考により決定します。

第2プログラムは、文系理系とも2年次終了時に、Web申請により選択できます。

第3プログラムは、2年次終了以降、随時、Web申請可能です。

専門教育（専攻）科目の履修方法については次の規則や冊子を参照してください。

複数プログラム選択履修制度実施規則 …… P.178

文教育学部 文教育学部履修規程 …… P.179 及び「文教育学部履修案内」

理学部 理学部履修規程 …… P.198 及び「課程履修について」

生活科学部 生活科学部履修規程 …… P.208 及び「履修の手引き」

プログラム全般について不明な点は、総合学修支援センターに問い合わせてください。

## ②文教育学部 芸術・表現行動学科と生活科学部 食物栄養学科専攻科目・関連科目

文教育学部 芸術・表現行動学科と生活科学部 食物栄養学科は、複数プログラム選択履修制度とは異なる専門教育カリキュラムに従って学習します。なお、芸術・表現行動学科と食物栄養学科で学んでいても副プログラム又は学際プログラムを選択することができます。

### (3) 自由に選択して履修する科目・単位

自由に選択して履修する科目は、個々の学生が多様な関心や目的を達成するために、学生が自ら計画し、本学全体のカリキュラムの中から自由に選択履修をする科目です。

具体的には、専門教育科目（必修プログラム）は、プログラムとしてではなく、科目単位でも履修することができ、自由に選択して履修する科目の単位に充てることができます。また、各プログラム修了の必要単位数を超える分は「自由に選択して履修する科目・単位」として、卒業に必要な履修単位数に組み入れられます。

### (4) 外国人留学生特別科目

#### ●外国人留学生特別科目「日本語演習」、「日本事情演習」の単位の取扱い

日本語、日本事情の授業科目については、次の基準によりコア科目の単位として取扱います。

学部 科目区分	コア科目として取扱う単位数の上限		
	【文教育学部】 合計 20 単位	【理学部】 合計 16 単位	【生活科学部】 合計 18 単位
コア科目 基礎講義(実験を除く)	(6 単位)	(10 単位)	
外国語	(16 単位)	(8 単位)	

開設する「日本語演習」、「日本事情演習」の授業科目は、次のとおりです。

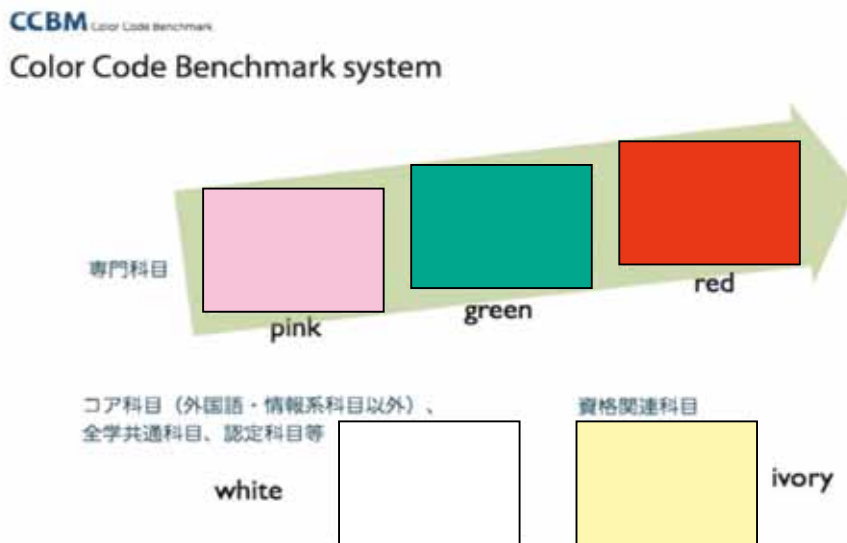
科目	単位	毎週の授業時数	科目	単位	毎週の授業時数
日本語演習 I A	2	半期 2	日本事情演習 I A	2	半期 2
I B	2	〃	I B	2	〃
II A	2	〃	II A	2	〃
II B	2	〃	II B	2	〃
III A	2	〃	III A	2	〃
III B	2	〃	III B	2	〃
IV A	2	〃	IV A	2	〃
IV B	2	〃	IV B	2	〃
V A	2	〃	V A	2	〃
V B	2	〃	V B	2	〃

## (5) カラーコードベンチマーク【CCBM】について

本学では、すべての授業科目について、カリキュラム構成上の位置づけや教育目標に照らした水準をわかりやすくシンプルな色彩別に明示しています。これにより、複数プログラム選択履修における個々の学生の目的に沿った履修計画を立てやすくし、学修支援の基盤のひとつとして機能させています。

### ●カラーコードの分類方法

授業科目の水準（ベンチマーク）が表すことは、主としてカリキュラム体系における一般的な学修の順序の目安です。多くの場合、それは授業内容の難易水準に沿っています。また、例外はありますが、それは概ね学生が到達すべき学習成果の目標の水準にも沿っています。ベンチマークは、基本的には、3階梯のシンプルな構造になっています。これに3つのカラーコード（ピンク・グリーン・レッド）を適用して識別しています。さらに教職科目等資格関連科目（アイボリー）や既修得単位や単位互換などによる認定科目（ホワイト）など、この分類に馴染まない科目として2分類を加えています。これによって、本学のすべての授業科目を5色のカラーコードに分類しています。



- 1 ピンク** カリキュラム体系上、一般的な学修の順序からみてはじめに履修することが望ましいと考えられる科目。あるいは他の開講科目との関連で学修順序性は特にないが、授業内容の難易や到達すべき学習成果の目標の水準が比較的控えめに設定されている科目。
- 2 グリーン** カリキュラム体系上、一般的な学修の順序からみてカラーコード・ピンクの科目を履修した後に履修することが望ましいと考えられる科目。あるいは他の開講科目との関連で学修順序性は特にないが、授業内容の難易や到達すべき学習成果の目標の水準がやや高く設定されている科目。
- 3 レッド** 一般的な学修順序性からみてカラーコード・グリーンの科目を履修した後に履修することが望ましいと考えられる科目。または、グリーンの科目での成績について一定のグレードポイントをクリアした場合に履修が認められる科目。あるいは他の開講科目との関連で学修順序性は特にないが、授業内容の難易度や到達すべき学習成果の目標の水準が高く設定されている科目。
- 4 アイボリー** 教職等資格関連科目。
- 5 ホワイト** 既修得単位や単位互換などによる認定科目。



## (1) 授業科目の履修

### ① 履修科目の決定

授業時間割を基礎にして、各自の履修する科目を決めます。ほかに学年担当（一覧は別冊「時間割」1P）の教員の指導、この冊子の「学部履修規程」「開講科目一覧」「諸資格の取得」、別冊の「開講科目」、各学部の履修案内、**本学 Web ページ** (<http://yw.ao.ocha.ac.jp/Syllabus>) 内のシラバスを参考にしてください。

### ② 履修の手続きについて

履修登録は、学内に設置してあるパソコンから、Web 上で履修登録を行います。この手続きをしないと単位を修得することができませんので注意してください。おおまかな日程は、以下のとおりです。詳細は学生ポータルサイト又は学生センター教務用掲示板に掲示するので、各自で確認してください。なお、科目によって抽選で履修者を決定することがあり、希望した科目の履修が出来ない場合があります。

◇前期・通年科目（履修登録）	4月中旬
◇前期・通年科目（履修取り消し）	7月中旬
◇後期科目（履修登録）	10月上旬
◇後期・通年科目（履修取り消し）	1月上旬

#### 履修登録上の注意点

- ・所定の期日以外、履修登録することはできません。
- ・履修未登録の場合その科目の試験を受けることはできません。
- ・授業に出ていても単位修得を希望しない場合は聴講となります。履修申請の際に聴講欄にチェックをしてください。

## (2) Web 履修登録マニュアル

### ① ログイン画面にアクセス

学内にある共用パソコンで「ID」「パスワード」を入力しログインしてください。次にデスクトップにある「IT Center ポータル」から「Web 履修システム」へと進みます。

（共用の PC はラーニング・コモンズや IT ルーム等にあります。）

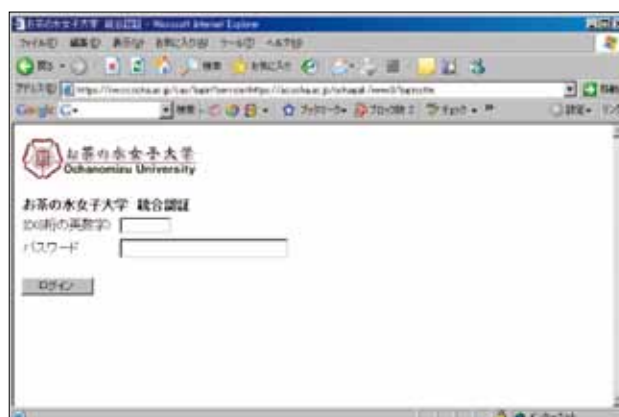
アクセスは、共用パソコン以外の学内のパソコンからでもできます。この場合、以下の URL を入力してください。「Web 履修システム」にアクセスされます。

URL <https://sw.ao.ocha.ac.jp>

### ② ログイン

- ・認証画面でお茶大アカウントの ID（ユーザー名）とパスワード（学籍番号、パスワード）を入力し、【ログイン】ボタンをクリックします。  
（お茶大アカウントは、学生用 WebMail（Active! Mail）で使用しているものです。）
- ・ID、パスワードが間違っている場合は、ログイン画面が再表示されます。

■ログイン画面



### ③ メインメニュー

- ・ログインした学生個人の情報が表示されます。
- ・各メニューの【Go】ボタンをクリックすると次画面へ進みます。
- ・お知らせ欄は毎回必ず確認してください。

■メインメニュー画面



### ④ 履修申請

- ・履修関連－履修申請をクリックします。

具体的な操作については、シラバス (<http://yw.ao.ocha.ac.jp/Syllabus/>) に掲載してある履修登録マニュアルを参照してください。



### ⑤ その他

Web 履修登録についてのご相談は、総合学修支援センターにお越しください。

## (3) 履修の取消し

実際に授業を受けた結果、履修登録時に思い描いていた授業内容と異なったことなどを理由に履修を取消したくなった場合に（集中講義は除く）、選択科目や履修学期が指定されていない必修科目について、前期科目は7月、後期科目については1月、通年科目については、7月と1月に履修取消しが行える「履修取消し手続き」制度があります。この手続きは所定の手続き期間内に学生自身が学内オンラインを使い Web での申請を介して行います。

なお、この期間に「履修取消し」した科目に替わる科目の追加登録をしたり、新たな科目を履修登録したりすることはできません。また、この期間外に履修取消しを行うことはできません。ただし、通年科目を7月に取り消した場合、その科目と同曜日同時間に開講される後期の授業科目を登録することはできます。

## (4) 聴講

単位取得を前提とせず、知識の修得を目的として受講を希望する場合、聴講希望科目の担当教員に伝え、聴講許可が出た場合、聴講登録（Web 履修登録）が可能となります。従って、授業には出席できますが、単位認定はされません。

# 3 授業

## (1) 授業と休日

休業日は「学則 第3節 学年、学期及び休業日」の中に定められています。しかし、いろいろな行事や事由のため臨時に授業が休みとなる場合があります（半日、全日等）、春、夏、冬の休業期間の始めや終わりも必ずしも学則どおりにいかない場合もあります。それらはすべて教務チーム（学生センター棟1F）を通して掲示されます。また、教務関係行事日程は当該年度の「授業時間割」に記載されています。

前学期 4月1日から9月30日まで  
後学期 10月1日から翌年3月31日まで

### 授業時間（月曜日～金曜日）

1・2限	9:00 ~ 10:30
3・4限	10:40 ~ 12:10
5・6限	13:20 ~ 14:50
7・8限	15:00 ~ 16:30
9・10限	16:40 ~ 18:10

## (2) 休講

授業担当教員が公務、学会出席、病気等のためやむを得ず休講となる場合は、教員からの連絡により、掲示板に掲示されます。休講情報については、掲示板、学生ポータルサイト、携帯電話でも確認できます。

## (3) 補講

各学期末に補講期間を設けています。補講の有無については、当該授業で確認してください。また、交通機関のストライキ・台風等による運休に対する措置休講となった授業の補講については、別途発表します。

## (4) 交通機関のストライキ・台風等非常時に対する授業関係措置

### ① 交通機関のストライキ・台風等による運休に対する措置

交通機関のストライキ等運休に対して次のとおり措置します。

次のいずれかが運休した場合

- ・首都圏のJR線
- ・地下鉄丸ノ内線・有楽町線と都営交通が同時に行ったとき
- ・東武東上線

#### 授業取扱

運休時間	授業の取扱
当日午前6時30分までに運転開始	平常どおり
当日午前6時30分まで運休	午前中休講
当日午前10時まで運休	全日休講

ただし、首都圏のJR線の部分ストライキ（拠点ストライキ）等による運休の場合は平常どおり授業を行います。

## ② 台風等による気象警報の発表に伴う授業休講等の措置について

台風により、気象庁から東京 23 区西部に「暴風警報」が発令された場合、授業の取扱いは、次のとおりです。

暴風警報（東京 23 区西部）	授業の取扱
午前 6 時 30 分の時点で、暴風警報が発令中の場合	午前の授業を休講
午前 11 時の時点で、暴風警報が発令中の場合	5・6, 7・8 時限の授業を休講
午後 2 時の時点で、暴風警報が発令中の場合	9・10 時限以降の授業を休講

情報の確認 下記の方法により、確認してください。

◇気象庁から、東京 23 区西部において、警報（「暴風警報」）の発表

- ・気象庁のホームページ
- ・テレビ・ラジオ等のマスメディアによる確認

その他、気象状況の悪化、不測の事態による休講の取扱いについては、その都度、措置します。

休講となった授業の補講については、別途発表します。

## (5) 公欠等についての取扱い

学校保健安全法に定める感染症と診断された場合は、他の学生等に感染させてしまう恐れがあります。その場合は、治療が確認された後に、医師の診断書を教務チームに提出してください。授業担当教員に、欠席及び評価に対する配慮を依頼する文書を交付します。

また、教育実習・介護等体験、裁判員に選出された場合の欠席の取扱いは公欠としますので、公欠願を教務チームまで提出してください。

# 4 単位制

各授業科目の単位は以下に述べるように、教室における学習だけで成り立っているわけではありません。教室での課題に対するレポート作成、予習・復習などの学習時間が含まれています。

この考え方は、下記の〔1単位の基準〕に基づくもので、このことを理解したうえで、1年間に履修登録する上限のめやすを50単位とし、実り多い履修を心がけてください。尚、この上限設定は、教員免許状等の資格取得のための科目履修には適用されません。

## (1) 単位の基準

### 〔1単位の基準〕

各授業科目は、1単位あたり45時間の学習を必要とする内容をもって構成することを標準として、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとなっています。

◇講義、演習については、15時間の授業をもって1単位とします。

◇実験、実習及び実技については、30時間の授業をもって1単位とします。

ただし、個人指導による実技及び教育実習等の授業科目、並びに卒業論文、卒業研究、特別研究又はこれに準ずる授業科目や資格に関する授業科目については、別に定めるところによります。

## (2) 入学以前に修得した単位及び検定等に合格している学生の単位認定

### 〔既修得単位の認定〕

既修得単位の認定を受けようとする者は、別紙様式1による「他大学等において修得した単位等に係る認定願」に成績証明書等を添えて、当該学部長に願い出てください。当該学部長は、教育上有益と認めるときは、当該学科長及び願い出のあった授業科目の関係教員等と協議のうえ、当該教授会の議を経て、既修得単位の認定を行います。

当該学部長より認定した科目及び単位について、別紙様式2による認定書が交付されます。

なお、単位の認定を行った場合は、認定した単位に代えて、他の授業科目の履修を行うなど履修内容の有益化を図るよう、各学部からの指導を受けてください。

○申請期限——入学した年度の前学期授業開始日の前日まで(教務チームに申請の申し出をし、申請手続の指示を受けること。)

別紙様式 1

他大学等において修得した単位等に係る認定願

平成 年 月 日

学部長 殿  
所属 学部 学科 年  
学籍番号  
氏名 印

学則第17条  
学則第18条  
学則第22条2 } の規程により単位の認定を受けたいので、関係の証明書を添付の上、下記に  
より申請します。

認定を受けようとする科目・単位			認定の対象となる他大学等において修得した科目・単位等		
科目区分	授業科目名	単位	授業科目名等	単位等	備考

○単位等の修得を行った機関名  
○単位等の修得を行った時期 平成( 年 月～ 年 月)

別紙様式 2

他大学等において修得した単位等に係る認定書

所属 学部 学科 年  
学籍番号  
氏名

認定する授業科目			認定の基礎となった単位等		
科目区分	授業科目名	単位 評価	授業科目名等	単位等 評価等	備考

学則第17条  
学則第18条  
学則第22条2 } の規定に基づき、上記のとおり本学において修得又は履修したものとみなし  
単位を認定する。

平成 年 月 日  
お茶の水女子大学 学部長 印

## 〔外国語検定による単位の認定〕

『実用英語技能検定』1級又は準1級の合格者、『TOEIC』730点以上のスコアを持つ者、『TOEFL』550(PBT) / 213(CBT) / 79(iBT)点以上のスコアを持つ者、『中国語検定』4級以上の合格者、『中国語コミュニケーション能力検定』250点以上のスコアを持つ者、『漢語水平考試験』2級以上の合格者、『実用フランス語技能検定試験』4級以上の合格者、『ドイツ語技能検定試験』3級以上の合格者の単位認定は、別紙様式1による「他大学等において修得した単位等に係る認定願」にそれぞれの基準を満たしていることを証明する書類を添えて、当該学部長に願い出てください。当該学部長は、関係学科教員等と協議のうえ、当該教授会の議を経て、認定を行います。

当該学部長より認定した科目及び単位について、別紙様式2による認定書が交付されます。

なお、単位の認定を行った場合は、認定した単位に代えて、他の授業科目の履修を行うなど履修内容の有益化を図るよう、各学部からの指導を受けてください。

○申請期限——入学した年度の前学期授業開始日の前日まで(教務チームに申請の申し出をし、申請手続の指示を受けること。)

## 〔認定できる単位数〕

授業科目区分	授業の取扱
コア科目	※60単位を限度とする。
専門・専攻科目	
その他の授業科目	

※本学において修得した単位以外のものについて、上記単位数を上限とします。なお、各外国語検定等による認定単位は以下の表のとおりとします。

## 認定科目及び単位一覧

授業科目	条件	認定科目・単位
実用英語技能検定	準1級合格者	「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」に相当する4単位を認定する。
	1級合格者	文教育学部の学生に関しては、「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」及び「中級英語Ⅰ・Ⅱ」に相当する8単位を、理学部・生活科学部の学生に関しては、「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」及び「中級英語」、「総合英語」に相当する8単位を認定する。
TOEIC	730点以上 815点未満	「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」に相当する4単位を認定する。
	815点以上	文教育学部の学生に関しては、「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」及び「中級英語Ⅰ・Ⅱ」に相当する8単位を、理学部・生活科学部の学生に関しては、「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」及び「中級英語」、「総合英語」に相当する8単位を認定する。
TOEFL	550(PBT)/213(CBT)/79(iBT)点以上580(PBT)/237(CBT)/92(iBT)点未満	「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」に相当する4単位を認定する。
	580(PBT) / 237(CBT) / 92(iBT)点以上	文教育学部の学生に関しては、「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」及び「中級英語Ⅰ・Ⅱ」に相当する8単位を、理学部・生活科学部の学生に関しては、「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」及び「中級英語」、「総合英語」に相当する8単位を認定する。
中国語検定	4級合格者	「基礎中国語(文法)Ⅰ・Ⅱ」「基礎中国語(演習)Ⅰ・Ⅱ」に相当する8単位を認定する。
	3級以上合格者	「基礎中国語(文法)Ⅰ・Ⅱ」「基礎中国語(演習)Ⅰ・Ⅱ」「基礎中国語(応用)Ⅰ・Ⅱ」「発展中国語Ⅰ・Ⅱ」「発展中国語Ⅲ・Ⅳ」のいずれかに相当する12単位を認定する。
中国語コミュニケーション能力検定	250点以上 400点未満	「基礎中国語(文法)Ⅰ・Ⅱ」「基礎中国語(演習)Ⅰ・Ⅱ」に相当する8単位を認定する。
	400点以上	「基礎中国語(文法)Ⅰ・Ⅱ」「基礎中国語(演習)Ⅰ・Ⅱ」「基礎中国語(応用)Ⅰ・Ⅱ」「発展中国語Ⅰ・Ⅱ」「発展中国語Ⅲ・Ⅳ」のいずれかに相当する12単位を認定する。
漢語水平考試験	2級合格者	「基礎中国語(文法)Ⅰ・Ⅱ」「基礎中国語(演習)Ⅰ・Ⅱ」に相当する8単位を認定する。
	3級以上合格者	「基礎中国語(文法)Ⅰ・Ⅱ」「基礎中国語(演習)Ⅰ・Ⅱ」「基礎中国語(応用)Ⅰ・Ⅱ」「発展中国語Ⅰ・Ⅱ」「発展中国語Ⅲ・Ⅳ」のいずれかに相当する12単位を認定する。
実用フランス語技能検定試験	4級合格者	「基礎フランス語(文法)Ⅰ・Ⅱ」「基礎フランス語(演習)Ⅰ・Ⅱ」に相当する8単位を認定する。
	3級以上合格者	「基礎フランス語(文法)Ⅰ・Ⅱ」「基礎フランス語(演習)Ⅰ・Ⅱ」「基礎フランス語(応用)Ⅰ・Ⅱ」「発展フランス語Ⅰ・Ⅱ」「発展フランス語Ⅲ・Ⅳ」のいずれかに相当する12単位を認定する。

授業科目	条件	認定科目・単位
ドイツ語 技能検定試験	3級合格者	「基礎ドイツ語(文法) I・II」「基礎ドイツ語(演習) I・II」に相当する8単位を認定する。
	2級以上合格者	「基礎ドイツ語(文法) I・II」及び「基礎ドイツ語(演習) I・II」「基礎ドイツ語(応用) I・II」「発展ドイツ語 I・II」「発展ドイツ語 III・IV」のいずれかに相当する12単位を認定する。

### (3) 英語の単位認定を受けた場合の履修に関する特別措置

- ①入学以前に『実用英語技能検定』（文部科学省認定・財団法人日本英語検定協会主催）準1級、『TOEIC』（財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会主催）730点以上815点未満のスコアもしくは『TOEFL』（Educational Testing Service (ETS) 主催）550 (PBT) / 213 (CBT) / 79 (iBT) 点以上580 (PBT) / 237 (CBT) / 92 (iBT) 点未満のスコアを持っている学生は、単位認定を申請することにより「基礎英語 I・II」に相当する4単位を認定されます。残りのコア外国語の必修単位の履修については、特別措置【P. 8参照】が適用されます。
- ②入学以前に『実用英語技能検定』1級、『TOEIC』815点以上のスコアもしくは『TOEFL』580 (PBT) / 237 (CBT) / 92 (iBT) 点以上のスコアを持っている学生は、単位認定を申請することにより、文教育学部の学生に関しては、「基礎英語 I・II」及び「中級英語 I・II」に相当する8単位を、理学部・生活科学部の学生に関しては、「基礎英語 I・II」、「中級英語」及び「総合英語」に相当する8単位を認定されます。残りのコア外国語の必修単位の履修については、特別措置【P. 8参照】が適用されます。

### (4) 海外研修による単位認定

本学が提携した海外の大学での語学研修、ならびに語学教育の内容を含む海外研修を行うことによりコア科目（外国語）の英語の単位として認定します。

- ① 研修の参加資格は以下のとおりです。
  - 1) 「基礎英語 I（・II）」をすでに修得済み、又は「基礎英語 I（・II）」を履修中であること。\*
  - 2) 『TOEIC』スコア500点以上を取得していることが望ましい（この場合のスコアは、『TOEIC』の正規の公開テスト、本学主催の TOEIC IP テスト、本学消費生活協同組合主催の College TOEIC のいずれのスコアでもよい）。
  - 3) 事前・事後教育に参加できること。

\* 研修参加希望者が募集定員に満たない場合に限り、この条件を満たさない学生の参加を認めます。
- ② 以下の条件を満たし、所定の期間に単位認定の申請を行うと、コア科目（外国語）の英語の単位が認定されます。認定単位数は海外研修の参加回数にかかわらず4単位を上限とします。認定可能な科目と単位数は研修ごとに異なるため、詳細は研修説明会にて発表します。
  - 1) 本学で行う事前・事後教育に参加すること
  - 2) 海外研修の全期間にわたって研修に参加すること
  - 3) 研修を受けた大学により研修の修了が認められること
  - 4) 本学で課した課題を研修後に提出すること
- ③ 研修希望の提出等に関する手続きについては、学生センターの掲示をよく見て、指定された期間内に申し込んでください。参加希望者が募集定員を上回った場合は選考を行います。

### (5) 学部学生交流協定に基づく単位互換制度

本学では東京工業大学、東京芸術大学、東京外国語大学、共立女子大学（生活科学部のみ）、東京海洋大学（理学部のみ）との単位互換制度を実施しています。ついては、当該大学の授業科目の履修（特別聴講学生）を希望する学生は、申込関係の資料を教務チームで受け取り、所定の期日までに手続きをしてください。

学部学生交流協定校一覧

協定先	受入・派遣学生の条件				履修可能学部
	対象学生	文教育学部	理学部	生活科学部	
東京工業大学	—	○	○	○	理学部／工学部／生命理工学部
東京芸術大学	—	○	○	○	音楽学部
共立女子大学	—	×	×	○	家政学部
東京外国語大学	2年生以上	○	○	○	外国語学部
東京海洋大学	—	×	○	×	海洋学部

派遣学生申請書

**派遣学生申請書**

平成 年 月 日

文教育学部長  
理学部長 殿  
生活科学部長

所 属 \_\_\_\_\_ 学部 \_\_\_\_\_ 学科 \_\_\_\_\_ コース・講座  
氏 名 \_\_\_\_\_  
学籍番号 \_\_\_\_\_  
連絡先 \_\_\_\_\_

私は、平成 年度に \_\_\_\_\_ 大学 \_\_\_\_\_ 学部において下記科目を履修したいので、派遣学生として許可願います。

記

科目番号			
科目名			
教官名			
単位数			
学 期			
曜 日			
時 限			
※選択科目として認定を希望する場合は、本学の読み替え科目名			

※読み替え科目については、学科の承認を得ること。

上記科目を履修することを承認します。

\_\_\_\_\_ 学科 学年担当

氏 名 (印)



## (1) 試験

学年を分けて、9月30日までが前学期、10月1日以降が後学期です。各期の終りに一定の期末試験が設けられています。各科目とも前学期、後学期それぞれの終了時に試験を行うのが原則ですが、前期末の試験を省く科目もあります。前期だけで終わる科目は、前期末に試験を行います。

これらの試験は、その期間内の平常の時間割で行われるのが通例です。学生は、事前に教員と必ず打合わせ、筆記試験・レポートの別、その日時・場所について承知しておかねばなりません。

なお、試験に際には学生証の提示を求める場合があります。また、遅刻した場合の入室制限及び退室を認める時間を設けることがあります。

### 不正行為

カンニング等の不正行為は学生にとってあるまじき行為であり、本学では以下のように処します。

I 試験において不正行為を行った者については、教育機構長は、別に定める手続きにより、次の措置を行います。

- (1) 当該学期履修科目の全ての受験科目を無効とする。
- (2) 学内に当該措置（措置事例）について告示する。

II 前項の不正行為については、同項に規定する措置のほか、学則第66条に規定する懲戒の対象とします。

### 追試験

病気その他止むを得ない理由により、期末試験を受けられなかった学生については、担当教員が特に必要があると認められた場合に限り追試験を行うことがあります。

追試験を希望する者は期末試験終了後、1週間以内に教務チーム（学生センター）を経て担当教員に「追試験願」を提出しなければなりません。

ただし、卒業・修了予定者は直ちに申し出ることとします。

いずれの場合も、原則として「やむを得ない理由」を証明する書類が必要です。

## (2) 成績評価

### ① 成績評価

成績の評価は、原則として試験、平常の成績及び出席状況を総合して、100点満点、60点以上を合格とする素点による評価またはレターグレード（S、A、B、C、D（不合格））による評定で評価されます。成績通知票・成績証明書には合格科目それぞれについて以下のとおり記載されます。

レターグレードと評点区間、及び評価基準の対応関係は次のとおりです。

- S（90点以上）：基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
- A（90点未満～80点以上）：基本的な目標を十分に達成している。
- B（80点未満～70点以上）：基本的な目標を達成している。
- C（70点未満～60点以上）：基本的な目標を最低限度達成している。
- D（60点未満不合格）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価は上記の評価基準のほか、S評価を評価対象者の15%以内（履修者数が10人未満の場合は2名以下）に留めることを目安にした評価基準を設けて評定されます。履修放棄によって評定できない場合はD（不合格）となります。授業科目によって素点評価がなされる場合とレターグレードで評定される場合がありますが、後者の場合はつぎの規定により評点が定まります。

$$S = 95, A = 85, B = 75, C = 65, D（不合格） = 55$$

### ② GPA 制度

本学は学生の視点に立った教育改革を推進するため、米国やアジア諸国で行われているGPA（Grade Point Average）制度を導入しました。この制度は、各学生の授業科目ごとの成績評価を一定の方法でグレードポイント（GP）

に置き換え、その GP に該当の科目の単位数を乗じて、それを履修数分合算し、その値を登録科目総単位数で割って算出するものです。

GPA 制度は単位数という学習の「量」だけではなく、成績評価に基づく「質」について保証するものです。GPA により、学期（セメスター）毎の学習の成果がより明確となり、学生の学習意欲の向上や履修登録の自己規制、さらに各自の努力目標が具体的になることなどをねらいとしています。ここでは、学生にとって、大切と考える目的や効果を 3 つあげます。

#### 1) 学ぶ意欲がいっそうに増す

個々の科目における学習改善努力が成績に反映しやすくなります。これまでは成績評価が 5 段階のみであらわれ、粗かったため、多少の努力のほどは成績評価値になかなか反映されませんでした。

GPA では科目の試験やレポートの素点評価がリアルに成績に反映するので、学習努力の違いが成績差異としてはっきりみえやすくなります。したがって、自分自身の成績改善に向けての動機が高まり、授業への積極的な参加意欲が増すことになるでしょう。

また、単に単位の修得だけでなく、よりよい成績をとることの意味が実感できるようになります。

#### 2) 不合格を避け、しっかり履修

GPA の算定ではある科目が不合格になると、その GP は 0 で、しかも GPA 算定の分母にはその科目の単位数が加算されます。そのため、不合格をとると最終的な GPA の値に大きなダメージを負います。

これまでのように不合格科目は成績証明書に記載されず、必修科目でない限り何の損失も被らないというようなことはなくなります。ただし、一度不合格になった科目でも再履修してあらためて合格の成績をとれば、その新たな成績が上書きされてあらためて GPA 算定がなされます。

ともあれ GPA 制度のもとでは、履修した科目は不合格にならないように気をつけることが大事になります。そのためには、科目履修の際に必要な以上に多くの科目を履修してあとで負担にならないよう十分留意し、計画的な履修をすることが大切になります。

#### 3) 自分の成績の位置づけがわかるとともに各種選考基準の透明性が増す

学期ごとに学科目の GP や GPA 値を確認しながら、学内での自分の成績の相対的な位置づけを確認していくことができます。さらに、今後、奨学金の貸与基準、特定の科目の履修基準、種々の学内選考の際の基準指標などに GPA 値が使われるようになりますので、目指すべき成績について具体的な目標を設定しやすくなります。

また、就職や留学、進学など対外的な場面で、この値が求められても対応できることになります。

### ③ GPA の算定方法

GPA は、授業科目ごとの成績評価（100 点満点の素点評価 SS）をつぎに示した 1) の算定方法で GP に置き換え、つぎに 2) の算定方法で、その GP に該当の科目の単位数を乗じて、それを履修科目数分合算し、その値を履修総単位数で除することにより求めます。

$$1) \quad GP = (SS - 55) / 10 \quad \text{ただし、} GP < 0.5 \text{ は } GP = 0.0 \text{ とする。}$$

SS は 100 点満点の素点評価

$$2) \quad GPA = (\text{履修科目の GP} \times \text{当該科目の単位数}) \text{ の総和} / \text{履修総単位数}$$

・履修総単位数には不合格となった科目 (GP = 0) の単位数も含まれる。

### ④ 2つの GPA 指標 (f-general GPA と f-strict GPA) の併用

本学では GPA の機能特性を十全に発揮させ、かつ国内外の大学との通用性を確保するため、f-strict GPA と f-general GPA (f は functional の略)、2つの指標を併用します。

f-strict GPA は現在、多くの大学で採用されている GPA と実用上、十分な互換性をもっていることが検証済みです。しかし、成績のトップゾーンにかぎってはとくに米国と我が国の多くの大学において GP (A) の最高点を 4.0、合格域の最低点を 1.0 にしているのに対して、f-strict GP (A) では最高点が 4.5、最低点が 0.5 になります。そこで他機関との通用性を優先して、本学では対外的に用いる GPA として f-strict GP が点 4.0 以上の値 (100 点満点換算で 95 点以上) を一律 4.0、1.0 以下、0.5 以上の値を一律 1.0 にした f-general GP も用います。

一方、学内で GPA を種々の用途に使う場合には (成績の全範囲について原成績を忠実に反映する) f-strict GP (A) を用います。

## &lt;事 例&gt;

## functional GPA 算定の例示

○5科目17単位分の場合のGPとそのアベレージがどのように求められるか

科目	単位	成績評点	LG	f-strict GP	f-strict GP × 単位数	f-general GP	f-general GP × 単位数
地理概論	2	84	A	2.90	5.80	2.90	5.80
地 学	2	98	S	4.30	8.60	4.00	8.00
地学演習	4	50	D	0.00	0.00	0.00	0.00
地学実験	1	66	C	1.10	1.10	1.10	1.10
卒業研究	8	70	B	1.50	12.00	1.50	12.00
計	17				27.50		26.90

5と7カラム目のGPは次式で求めます。成績評点は100点満点ですが、科目によっては小数点以下の値をもった評価もありえます。

$$GP = (\text{成績評点} - 55) / 10 \quad (\text{ただし、} GP < 0.5 \text{ は } GP = 0.0 \text{ とする})$$

最後に、 $GP = \Sigma (GP \times \text{当該科目の単位数}) / \text{履修総単位数}$  ですので、上例では、

$$\text{f-strict GPA} = 27.50 / 17 = 1.617$$

$$\text{f-general GPA} = 26.90 / 17 = 1.582 \quad \text{となります。}$$

## ★留意点

- ・上例の値は段階評価でいえば、良のゾーンの下限近くに相当します。ですから、上例は全体としてあまりよくない成績の事例です。
- ・上例では地学演習（通年4単位）で不合格をとっているため、GPが0となり、しかも単位数が相対的に大きかった科目であるため、GPAが大きく損失しています。仮に、この科目で80点をとってれば、f-strict GPAは2.205でした。
- ・ちなみに、よく学ばれて各科目で比較的よい成績をとった好ましい例もシミュレーションしておきましょう。

科目	単位	成績評点	LG	f-strict GP	f-strict GP × 単位数	f-general GP	f-general GP × 単位数
地理概論	2	84	A	2.90	5.80	2.90	5.80
地 学	2	98	S	4.30	8.60	4.00	8.30
地学演習	4	80	A	2.50	10.00	2.50	10.00
地学実験	1	90	S	3.50	3.50	3.50	3.50
卒業研究	8	85	A	3.00	24.00	3.00	24.00
計	17				51.90		51.60

$$\text{f-strict GPA} = 51.90 / 17 = 3.052$$

$$\text{f-general GPA} = 51.60 / 17 = 3.035$$

米国の損保会社にはGPAが3.0以上の成績をもつ学生の自動車保険料を25%割引にするなどの特典を設定しているところがあります。この値がもつ社会的通用性の一面をあらわしています。

## ⑤ GPA 算定の対象科目

他大学などでの履修（留学を含む）や本学における評価でレターグレードや素点ではなく、単位認定として評価される科目や「合否・不合格」による評定で成績がでる科目を除く総ての科目が対象になります。

## ⑥ 成績通知票・成績証明書への記載

成績通知票や成績証明書にはその趣旨説明とともにf-strict GP (A)、f-general GP (A) 両指標を併記します。

また、GPA算定方法の説明や「不可」評価の単位数を記載し、成績とGPA間の整合性を明白にします。

# 6

## 学籍・修業年限・学費

学籍とは、本学の学生としての身分を有していることをいいます。学籍は入学によって発生し、卒業、退学、除籍によって失われます。在学とは、学生が本学の学籍を有し、現に学修している状態をいいます。在学期間とは、その学修している期間をいいます。修業年限とは、本学の教育課程を修了するために必要な最小の在学期間をいい、在学年限とは、本学に在学できる最長の在学期間をいいます。なお、休学期間は在学期間には含めません。

### (1) 修業年限

修業年限は4年です。修業年限の2倍を超えて在学することはできません。ただし、編入学、転学部・転学科等による学生は、修業すべき年数の2倍を超えて在学することはできません。また、入学前に、本学の科目等履修生として一定の単位を修得した者が入学する場合、規定により認められた単位の全部、又は一部が教育課程の一部を履修したと認められるときは、当該学部教授会の議を経て、規定する修業年限について当該単位数、その修得に要した期間その他を考慮して、2分の1を超えない範囲でその修業年限に通算することができます。

### (2) 休学

病気その他の事由により引き続き2か月以上修学することができないときは、事由を添えて学長に願い出てその許可を得る必要があります。なお、休学の期間はその学年末までとし、特別の事情があるときは、引き続き休学を願い出ることができます。

#### ■留意事項

- ・休学期間は、通算して定められた修業年限の年数を超えることができません。
- ・休学期間は、在学期間には算入しません。
- ・休学期間中にその事由が消滅したときは、学長の許可を得て復学することができます。

### (3) 復学

休学の理由が解消して復学を希望する者は、その理由を具して学長に願い出て、許可を受けなければなりません。

### (4) 退学

退学を希望する者は、その理由を具して学長に願い出て、許可を受けなければなりません。

### (5) 除籍

次の各号のいずれかに該当する者は、当該学部教授会の議を経て、学長が除籍します。

- ・授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- ・本学則に定める第14条第2項に定める在学年限を超えた者
- ・本学則に定める第14条第3項に定める休学期間を超えてなお修学できない者
- ・長期間にわたり行方不明の者
- ・入学料の免除を申請した者で、免除を許可されなかった場合又は半額免除を許可された場合であって、納付すべき入学料の全額又は半額を所定の期日までに納付しない者

### (6) 転学

本学から他の大学に転学しようとする者は、学長の承認を得なければなりません。

### (7) 留学

本学には大学間交流協定校に留学する「交換留学派遣制度」があります。

交換留学生として派遣されるためには、学内の選考を経て協定校の承諾を得る必要があります。

留学期間は修業年限に含まれ、修得した単位は一定の条件により認定を受けることができます。

協定校	国名	締結年月日
アジア		
淑明女子大学校	大韓民国	2000. 2. 14
同徳女子大学校	大韓民国	2005. 3. 30
梨花女子大学校	大韓民国	2000. 2. 28
タマサート大学	タイ	2007. 6. 13
チェンマイ大学	タイ	2010. 5. 27
プリンス・オブ・ソンクラーク大学	タイ	2009. 8. 14
国立政治大学	台湾	2001. 7. 25
国立台北芸術大学	台湾	2002. 1. 29
国立台湾大学	台湾	1999. 12. 17
大連外国語学院	中国	2006. 10. 2
北京外国語大学	中国	2005. 10. 17
北京大学歴史学系	中国	2002. 1. 26
国立ハノイ教育大学	ベトナム	2008. 3. 3
中 東		
アンカラ大学	トルコ	2007. 8. 8
カイロ大学	エジプト	2007. 3. 15
マンソウラ大学	エジプト	2003. 3. 30
北 米		
ヴァッサー大学	アメリカ	2006. 6. 1
パーデュ大学	アメリカ	2004. 1. 26
マウントアリソン大学	カナダ	2006. 8. 9
オセアニア		
モナシュ大学	オーストラリア	1994. 12. 14
オタゴ大学	ニュージーランド	2003. 12. 19

協定校	国名	締結年月日
ヨーロッパ		
オックスフォード大学 クイーンズコレッジ	イギリス	1994. 1. 18
ケンブリッジ大学ガートンコレッジ	イギリス	1994. 7. 20
マンチェスター大学	イギリス	2009. 9. 15
ロンドン大学 東洋・アフリカ研究学院	イギリス	1999. 8. 5
国立ナポリ大学 オリエンターレ	イタリア	2011. 1. 11
ウィーン工科大学	オーストリア	2002. 12. 5
スロバキア工科大学	スロバキア	2003. 3. 4
カレル大学	チェコ	2004. 9. 7
ケルン大学	ドイツ	2010. 3. 18
ブレーメン応用科学大学	ドイツ	2011. 1. 21
バーギシュ・ブッパタル大学	ドイツ	2002. 2. 24
オウステロボテナ先端科学大学	フィンランド	2009. 12. 1
タンペレ大学	フィンランド	2003. 2. 13
ストラスブール大学	フランス	2002. 7. 5
パリ・ディドロ(パリ第7)大学	フランス	2008. 2. 1
ブレーズ・パスカル (クレルモン第2)大学	フランス	2009. 8. 28
ワルシャワ大学	ポーランド	2010. 2. 10
ブカレスト大学	ルーマニア	2009. 8. 3
トムスク国立教育大学	ロシア	2002. 7. 3
ロシア連邦国立科学センター 理論実験物理学研究所	ロシア	2004. 6. 21

- ※1. 協定大学44校の内、学生を派遣できる協定校のみを記載しています。
- ※2. 協定校は随時更新されますので、最新情報は以下の大学HPにてご確認ください。  
<http://www.ocha.ac.jp/intl/exchange.html>

## (8) 転学部及び転学科

学部内の他学科等または他学部への転入（以下「転学部・転学科」という）を考えている学生はまずは学年担当の教員等に相談してみてください。所属の学科や転入希望先の学年担当教員、学科長、学年担当が相談に応じます（これらの教員の連絡場所や連絡方法が分からないときは、教務チームに問い合わせください。）

転学部・転学科の手続きなどの取扱は、次のとおりです。教務チームが窓口になっています。できるだけ早い時期に願い出てください。

- ① 転学部・転学科を申し出ることのできる学生は、転学部・転学科の時期において在学1か年以上となる見込みのものとしします。  
転学部・転学科の期日は、4月1日としします。
- ② 「転学部・転学科願」は所定の様式により、教務チーム（学生センター）に前年度1月末日までに提出してください。  
転学部・転学科受験許可は、受入れ学科等の了承を得た上、2月中旬までに所属学部教授会の議を経るものとしします。  
この受験許可にあたっては、受入れ学科等の収容人員などの事情が考慮されます。
- ③ 受験許可の場合の試験期間は、2月下旬より3月上旬までの間に行ってください。
- ④ 転学部・転学科の可否の判定は、次の各号を総合判定し、受入学部教授会の議を経て決定します。
  - ・ 入学者選抜試験の成績
  - ・ 在学中の成績
  - ・ 転学部・転学科試験成績
  - ・ 面接
- ⑤ 転学部・転学科の可否は、本人に通知します。
- ⑥ 転学部・転学科が認められた者の在学期間は、受入学部教授会の議を経て決定します。

転学部・転学科願

平成 年 月 日

お茶の水女子大学長 殿

学科長		学年担当	
-----	--	------	--

学部 学科 平成 年度生

氏名 ㊞

(〒 )

連絡先

(TEL ( ) )

下記理由により 学部 学科 へ  
 転 学部・学科 したいので許可くださるようお願いいたします。

理 由

学部長		教務チーム	
-----	--	-------	--

**(9) 学費**

- ①授業料は、毎年下記の期限までに、年額（535,800円、平成23年4月1日現在による）の2分の1ずつを2期に分けて納めてください。なお、銀行振込の場合一括で納めていただいても構いません。口座振替の場合は、各自の登録口座へ、銀行振込の場合は、本学指定口座へ、以下の期限までに振り込んでください。

前期分	口座振替	5月27日
	銀行振込	5月31日
後期分	口座振替	11月27日
	銀行振込	11月30日

上記期間内に納入されない場合は、除籍の対象となる場合がありますので、注意してください。

なお、口座振替日は変更する場合がありますので、大学ホームページをご覧ください。

- ②経済的事由により、納付が困難であり、かつ学業が優秀と認められる者又はその他やむを得ない事情があると認められる者で、当該学部を経て学長に願いが出たときは、授業料の全部又は一部を免除し、又は授業料の徴収を猶予することがあります。

# 7 学生サポート

## (1) 本学ホームページの紹介 <http://www.ocha.ac.jp>

休講をはじめ、大学で行われている研究やシンポジウムなどの告知が数多く発信されています。履修に関することや授業のシラバス、行事予定なども確認することができます。

また、奨学金や授業料免除、学生寮のことなど最新情報が掲載されていますので、積極的に活用してください。

大学ホームページで確認できる一覧

学生生活関係	○奨学金 ○授業料免除 ○授業料 ○学生寮（国際学生宿舎、小石川寮、お茶大 SCC） ○課外活動（届出、貸出物品一覧など） ○学園祭 ○学生相談室 ○就職 ○ピアサポートプログラム ○拾得物・遺失物
履修関係	■休講情報 ■教室変更 ■時間割り変更 ■インフォメーション ○休学・復学・退学の手続き ■履修登録日程 ■成績通知日時 ○シラバス ○教務年間日程 ○教員免許など各種資格取得 ○学部・院 教育研究者情報 ○各学部・大学院紹介 ○科目等履修生、研究生、聴講生の募集 ○証明書発行の手続
その他	○本学の歩み ○同窓会・後援会・生活協同組合 ○国際交流（留学） ○イベント情報 ○公開講座 ○セミナー案内 ○大学刊行物 ○図書館、情報基盤センターなど各種センター利用案内

注) ■印の情報は携帯電話でも確認することができます。

## (2) 学生ポータルサイトの紹介

大学ホームページ以外にも、学内はもちろん学外からでも授業や学生生活に関する情報にアクセスが可能な学生ポータルサイトを開設しています。なお、学生ポータルサイトへのアクセスには「お茶大アカウント」が必要です。

パソコン用ホームページ <http://tw.ao.ocha.ac.jp>  
携帯電話用ホームページ <http://tw.ao.ocha.ac.jp/k/>

## (3) 教務関係事務の相談

履修上の各種の疑問は、学年担当や教務チーム（学生センター棟1F）に問合わせ、事務担当窓口で解決できないときは、委員会や教授会等に諮りますから教務チームに相談してください。

## (4) 総合学修支援センター

「複数プログラム履修」に関する履修相談、GPA 制度、カラーコードベンチマークに関する相談等、その他、総合的な学修相談、学修の支援を行います。

## (5) グローバル教育センター

外国人留学生及び海外留学を希望する日本人学生に対し、修学及び生活に必要な教育・指導助言を行うとともに、地域と連携した留学生のための支援事業を実施します。

## (6) 外国語教育センター

コア外国語教育の履修指導、本学企画の海外語学研修への協力（単位認定のためのオリエンテーション等）、マルチメディア語学ラボ（MMLL）（共通講義棟1号館201室）での外国語の自習指導などを行います。また、言語文化学科英語圏コースと協力して国内語学キャンプ（イングリッシュ・キャンプ）を企画・実施します。

## (7) 諸証明書の発行

学生が卒業見込証明書、成績証明書を希望するときは、学生センター棟2Fに設置されている自動発行機で受けとることができます。そのほかの証明書や卒業後に卒業証明書を希望するときは、教務チーム（学生センター棟1F）備付けの「証明書交付願」に記入してください。その場合は4日目（ただし、土・日・祝日は除く）までに作成します。

## (8) 掲示の場所

事務から学生に連絡する事項は、主に掲示板に掲示します。又、学部に関するものは、各学部の掲示板に掲げることもあります。見落としのないよう、毎日一度は掲示に注意してください。

## (9) 学生センターの窓口業務と諸手続一覧

種 別		担当窓口	電 話 03-5978	期 限	参 照			
履 修 ・ 授業関係	履修相談、学業成績、授業時間割（補講・休講・変更・定期試験）	学生センター	2772～3 5140	その都度	履修ガイド参照			
	履修登録届			別に指示				
	追試験願			1週間以内				
	卒業（見込）証明書（自動発行機で発行可能）			4日前				
	※成績証明書			4日前				
	転学部・転科願			1月末まで				
	他大学等において習得した単位等に係る認定願			その都度				
免 許 ・ 実習関係	教職関係（教員免許状・教育実習）		教務チーム・教務係	5141～2		その都度	キャンパスガイド参照	
	その他資格（学芸員課程・社会教育主事）					〃		
	教育職員免許上一括申請受付					7月及び12月		
	教育実習履修届					別に指示		
	教員免許上取得見込証明書発行					その都度		
	単位取得証明書発行					〃		
身 上 異動関係	住所変更・身分異動届		施設環境 チーム	5125		その都度		キャンパスガイド参照
	休学届、退学届、復学届	〃						
	住所変更届	〃						
	保証人変更届	〃						
	改姓届、本籍変更届	〃						
科目等履 修生・研 究生関係	科目等履修生・研究生・特別聴講学生受付	財務チーム	2722	毎年受付 される期間内	キャンパスガイド参照			
	単位修得証明書発行			〃				
授 業 料 納 付 ・ 施設使用	授業料に関する問い合わせ	財務チーム	5119 5120～2	その都度		キャンパスガイド参照		
	授業料の納付・領収書発行			前期4月末日 後期10月末日				
学 生 生 活 関 係	志賀高原体育運動場・館山野外教育施設使用申込書	学生センター	5147	その都度			キャンパスガイド参照	
	各種届出・物品貸出			〃				
	習得・遺失物届			〃				
	掲示物届出			〃				
	下宿・アパート紹介			〃				
	学生証			入学時				
	※在学証明書			その都度				
	※学割証			〃				
	通学証明書			〃				
	学生証再交付願			〃				
災害傷害保険	〃							



種 別		担当窓口	電 話 03-5978	期 限	参 照
課外活動 関 係	学生サークル・課外活動	学生センター	5147		キャンパスガイド参照
	德音祭				
	課外活動施設			その都度	
	団体設立届（願）			〃	
	集会届（願）			〃	
	印刷物の配布、販売署名運動等届出			〃	
	登山届			〃	
テニスコート利用願					
奨学金・ 授業料免 除・学費 貸付関係	奨学金（日本学生支援機構、地方公共団体、学内奨学金、その他）	学生・キャリア支援チーム学生係	5148	掲示の都度	
	奨学生願書			〃	
	授業料免除申請書		5147	〃	
	授業料徴収猶予（月割分納）申請書			その都度	
	学費貸付金申込				
寮 関 係	学生寮	学生センター	5147		
	入居申請書			掲示の都度	
	入寮願			〃	
	退去願			〃	
就職関係	就職指導・相談	キャリア支援センター	5658	その都度	
	就職情報・資料収集			〃	
	家庭教師・アルバイト			〃	
	就職内定届・就職登録票			〃	
	推薦書			〃	
保健関係	健康相談・体調管理など	保健管理センター	5156	その都度	
	※健康診断書			〃	

※自動発行機で発行可能

# Ⅱ

## 授業科目一覧

---

- 1. コア科目 …………… 36
- 2. 専門教育科目 …………… 41
- 3. キャリアデザインプログラム科目群 … 157

## 1

## コア科目

文理融合リベラルアーツ		
授業科目	単位数	備考（ローマ数字は、標準履修年次を示す。）
<b>系列1 生命と環境</b>		
(講義)		
生命と環境 1	2	(生物学科は履修できない)
生命と環境 2	2	
生命と環境 3	2	
生命と環境 4	2	
生命と環境 5	2	
生命と環境 6	2	
生命と環境 7	2	
生命と環境 8	2	
生命と環境 9	2	
生命と環境 10	2	
(演習・実習・実験)		
生命と環境 21	2	
生命と環境 22	2	
生命と環境 23	2	
生命と環境 24	2	
生命と環境 25	2	
生命と環境 26	2	
<b>系列2 色・音・香</b>		
(講義)		
色・音・香 1	2	
色・音・香 2	2	
色・音・香 3	2	
色・音・香 4	2	
色・音・香 5	2	
色・音・香 6	2	
色・音・香 7	2	
色・音・香 8	2	
色・音・香 9	2	
色・音・香 10	2	
(演習・実習・実験)		
色・音・香 21	2	
色・音・香 22	2	
色・音・香 23	2	
色・音・香 24	2	
<b>系列3 生活世界の安全保障</b>		
(講義)		
生活世界の安全保障 1	2	
生活世界の安全保障 2	2	
生活世界の安全保障 3	2	
生活世界の安全保障 4	2	
生活世界の安全保障 5	2	
生活世界の安全保障 6	2	

授業科目	単位数	備考（ローマ数字は、標準履修年次を示す。）
生活世界の安全保障 7	2	
生活世界の安全保障 8	2	
生活世界の安全保障 9	2	
生活世界の安全保障 10	2	
(演習・実習・実験)		
生活世界の安全保障 21	2	
生活世界の安全保障 22	2	
生活世界の安全保障 23	2	
生活世界の安全保障 24	2	
生活世界の安全保障 25	2	
<b>系列4 ことばと世界</b>		
(講義)		
ことばと世界 1	2	
ことばと世界 2	2	
ことばと世界 3	2	
ことばと世界 4	2	
ことばと世界 5	2	
ことばと世界 6	2	
ことばと世界 7	2	
ことばと世界 8	2	
ことばと世界 9	2	
ことばと世界 10	2	
ことばと世界 11	2	
ことばと世界 12	2	
(演習・実習・実験)		
ことばと世界 21	2	
ことばと世界 22	2	
ことばと世界 23	2	
ことばと世界 24	2	
ことばと世界 25	2	
ことばと世界 26	2	
ことばと世界 27	2	
<b>系列5 ジェンダー</b>		
(講義)		
ジェンダー 1	2	
ジェンダー 2	2	
ジェンダー 3	2	
ジェンダー 4	2	
ジェンダー 5	2	
ジェンダー 6	2	
ジェンダー 7	2	
ジェンダー 8	2	
ジェンダー 9	2	
(演習・実習・実験)		
ジェンダー 21	2	
ジェンダー 22	2	
ジェンダー 23	2	
ジェンダー 24	2	

## 基礎講義

授業科目	単位数	備考（ローマ数字は、標準履修年次を示す。）
哲学	2	(数学科、情報科学科は履修できない) (数学科、情報科学科は履修できない) (物理学科は履修できない) (化学科は履修できない) (I)
現代心理学	2	
法学Ⅰ（日本国憲法）	2	
法学Ⅱ（法学入門）	2	
法と文学	2	
政治学入門	2	
ミクロ経済学入門	2	
マクロ経済学入門	2	
基礎微分積分学	2	
基礎線形代数学	2	
統計学	2	
一般物理学実験	2	
一般化学実験	2	
安全管理概論	2	
総合コース	2～4	
お茶の水女子大学論	2	

## 情報

授業科目	単位数	備考（ローマ数字は、標準履修年次を示す。）
(必修科目)		
情報処理演習	2	
(選択科目)		
メディアリテラシ	2	
情報科学	2	
情報処理学	2	
プログラミング演習1	2	
プログラミング演習2	2	
コンピュータ演習1	2	
コンピュータ演習2	2	
情報学演習1	2	
情報学演習2	2	

## 外国語（必修）

各学部別途掲載

文教育学部 P.183 / 理学部 P.201 / 生活科学部 P.211

授業科目	単位数	学年	CCBM	備考
<b>英語</b>				
* 基礎英語Ⅰ	2	(Ⅰ)	Pink	
* 基礎英語Ⅱ	2	(Ⅰ)	Pink	
* 中級英語Ⅰ	2	(Ⅱ)	Green	
* 中級英語Ⅱ	2	(Ⅱ)	Green	
* 中級英語	2	(Ⅱ)	Green	
** 総合英語Ⅰ	2	(Ⅰ・Ⅱ)	Green	
** 総合英語Ⅱ	2	(Ⅰ・Ⅱ)	Green	
** 総合英語	2	(Ⅱ)	Green	
** 英会話Ⅰ	2	(Ⅰ)	Pink	
** 英会話Ⅱ	2	(Ⅰ)	Pink	
** 英会話Ⅲ	2	(Ⅱ～Ⅳ)	Green	

授業科目	単位数	学年	CCBM	備考
** 英会話Ⅳ	2	(Ⅱ～Ⅳ)	Green	
上級英語Ⅰ	2	(Ⅲ・Ⅳ)	Red	
上級英語Ⅱ	2	(Ⅲ・Ⅳ)	Red	
ビジネス英語Ⅰ	2	(Ⅱ～Ⅳ)	Green	
ビジネス英語Ⅱ	2	(Ⅱ～Ⅳ)	Green	
時事英語Ⅰ	2	(Ⅱ～Ⅳ)	Green	
時事英語Ⅱ	2	(Ⅱ～Ⅳ)	Green	
英語プレゼンテーションⅠ	2	(Ⅱ～Ⅳ)	Green	
英語プレゼンテーションⅡ	2	(Ⅱ～Ⅳ)	Green	
<b>ドイツ語</b>				
* 基礎ドイツ語(文法)Ⅰ	2	(Ⅰ)	Pink	
* 基礎ドイツ語(文法)Ⅱ	2	(Ⅰ)	Pink	
* 基礎ドイツ語(演習)Ⅰ	2	(Ⅰ)	Pink	
* 基礎ドイツ語(演習)Ⅱ	2	(Ⅰ)	Pink	
** 基礎ドイツ語(応用)Ⅰ	2	(Ⅰ)	Pink	
** 基礎ドイツ語(応用)Ⅱ	2	(Ⅰ)	Pink	
** 発展ドイツ語Ⅰ	2	(Ⅱ)	Green	
** 発展ドイツ語Ⅱ	2	(Ⅱ)	Green	
** 発展ドイツ語Ⅲ	2	(Ⅱ)	Green	
** 発展ドイツ語Ⅳ	2	(Ⅱ)	Green	
***基礎ドイツ語会話Ⅰ	2	(Ⅰ～Ⅳ)	Pink	
***基礎ドイツ語会話Ⅱ	2	(Ⅰ～Ⅳ)	Pink	
***ドイツ語初歩Ⅰ	2	(Ⅰ～Ⅳ)	Pink	
***ドイツ語初歩Ⅱ	2	(Ⅰ～Ⅳ)	Pink	
<b>フランス語</b>				
* 基礎フランス語(文法)Ⅰ	2	(Ⅰ)	Pink	
* 基礎フランス語(文法)Ⅱ	2	(Ⅰ)	Pink	
* 基礎フランス語(演習)Ⅰ	2	(Ⅰ)	Pink	
* 基礎フランス語(演習)Ⅱ	2	(Ⅰ)	Pink	
** 基礎フランス語(応用)Ⅰ	2	(Ⅰ)	Pink	
** 基礎フランス語(応用)Ⅱ	2	(Ⅰ)	Pink	
** 発展フランス語Ⅰ	2	(Ⅱ)	Green	
** 発展フランス語Ⅱ	2	(Ⅱ)	Green	
** 発展フランス語Ⅲ	2	(Ⅱ)	Green	
** 発展フランス語Ⅳ	2	(Ⅱ)	Green	
***基礎フランス語会話Ⅰ	2	(Ⅰ～Ⅳ)	Pink	
***基礎フランス語会話Ⅱ	2	(Ⅰ～Ⅳ)	Pink	
***フランス語初歩Ⅰ	2	(Ⅰ～Ⅳ)	Pink	
***フランス語初歩Ⅱ	2	(Ⅰ～Ⅳ)	Pink	
<b>中国語</b>				
* 基礎中国語(文法)Ⅰ	2	(Ⅰ)	Pink	
* 基礎中国語(文法)Ⅱ	2	(Ⅰ)	Pink	
* 基礎中国語(演習)Ⅰ	2	(Ⅰ)	Pink	
* 基礎中国語(演習)Ⅱ	2	(Ⅰ)	Pink	
** 基礎中国語(応用)Ⅰ	2	(Ⅰ)	Pink	
** 基礎中国語(応用)Ⅱ	2	(Ⅰ)	Pink	
** 発展中国語Ⅰ	2	(Ⅱ)	Green	
** 発展中国語Ⅱ	2	(Ⅱ)	Green	
** 発展中国語Ⅲ	2	(Ⅱ)	Green	
** 発展中国語Ⅳ	2	(Ⅱ)	Green	

授業科目	単位数	学年	CCBM	備考
***基礎中国語会話Ⅰ	2	(Ⅱ～Ⅳ)	Pink	
***基礎中国語会話Ⅱ	2	(Ⅱ～Ⅳ)	Pink	
***中国語初歩Ⅰ	2	(Ⅰ～Ⅳ)	Pink	
***中国語初歩Ⅱ	2	(Ⅰ～Ⅳ)	Pink	
<b>ロシア語</b>				
***ロシア語初歩Ⅰ	2	(Ⅰ～Ⅳ)	Pink	
***ロシア語初歩Ⅱ	2	(Ⅰ～Ⅳ)	Pink	
***ロシア語会話Ⅰ	2	(Ⅰ～Ⅳ)	Pink	
***ロシア語会話Ⅱ	2	(Ⅰ～Ⅳ)	Pink	
<b>朝鮮語</b>				
***朝鮮語初歩Ⅰ	2	(Ⅰ～Ⅳ)	Pink	
***朝鮮語初歩Ⅱ	2	(Ⅰ～Ⅳ)	Pink	
***朝鮮語会話Ⅰ	2	(Ⅰ～Ⅳ)	Pink	
***朝鮮語会話Ⅱ	2	(Ⅰ～Ⅳ)	Pink	

<b>スポーツ健康</b>				
授業科目	単位数	学年	備考	
(必修科目)				
スポーツ健康実習	2	(Ⅰ)		
(選択科目)				
スポーツ科学概論	2	(Ⅰ～Ⅳ)		
健康科学概論	2	(Ⅰ～Ⅳ)		
生涯スポーツ	1～3	(Ⅰ～Ⅳ)		

# 2

# 専門教育科目

## 1 文教育学部

文教育学部履修規程 (P. 179) により、以下の別表のとおり卒業に必要な単位 124 単位を修得してください。各学科プログラム等に関することは、別表第 2、3 を参照してください。

学科別	科目区分	必修及び選択必修の科目・単位						自由に選択して履修する科目・単位								卒業に必要な履修単位数		
		コア科目					専門教育科目(必修プログラム)	コア科目	専攻科目	学部共通科目	他学科の専攻科目	他学部の科目	全学共通科目	教職共通科目	教職に関する科目		必修以外の選択プログラム	
		文理融合リベラルアーツ	基礎講義	情報報	外国語	スポーツ健康	主プログラム											強化プログラム
人文科学科		18		16	2	44	20										24	124
言語文化学科		18		20	2	44	20										20	124
人間社会科学科		18		10	2	48	20										26	124
グローバル文化学環		18		18	2	44	20										22	124

**備考**

- 1 情報処理演習(情報)2単位は、必修とする。
- 2 外国語の必修単位に関しては、別表第3を参照すること。また、外国語の履修方法は別に定める。
- 3 スポーツ健康は、スポーツ健康実習2単位を必修とし、その履修方法は別に定める。
- 4 主プログラムは、所属学科から選択すること。
- 5 強化プログラム・副プログラム・学際プログラムは、所属学部のプログラムから一つを選択すること。
- 6 強化プログラムは、同一名の主プログラムを選択していることが履修要件となる。
- 7 選択している主プログラムと同領域の副プログラムを選択することはできない。
- 8 必修以外の選択プログラムは、別表第2の所属学科が指定するプログラム選択一覧に従い、副プログラム、学際プログラムから選択すること。
- 9 教職に関する科目(教職概論、教育実習及び教職実践演習は除く。)の単位については、10単位までを自由に選択して履修する科目・単位として取り扱う。
- 10 外国人留学生特別科目(外国人留学生対象)の単位については、20単位までをコア科目として取り扱う。ただし、スポーツ健康実習の単位に充てることはできない。
- 11 グローバル文化学環履修者は、所属学科によらず、グローバル文化学環の欄に記載される科目・単位を履修すること。また、必修プログラムとして、グローバル文化学主プログラムと所属学科の副プログラムを履修すること。

学科別	科目区分	必修及び選択必修の科目・単位						自由に選択して履修する科目・単位								卒業に必要な履修単位数		
		コア科目					専攻科目	関連科目	コア科目	専攻科目	学部共通科目	他学科の専攻科目	他学部の科目	全学共通科目	教職共通科目		教職に関する科目	必修以外の選択プログラム
		文理融合リベラルアーツ	基礎講義	情報報	外国語	スポーツ健康												
芸術・表現行動学科		18		10	2	64											30	124

**備考**

- 1 情報処理演習(情報)2単位は、必修とする。
- 2 外国語の必修単位に関しては、別表第3を参照すること。また、外国語の履修方法は別に定める。
- 3 スポーツ健康は、スポーツ健康実習2単位を必修とし、その履修方法は別に定める。
- 4 必修以外の選択プログラムは、別表第2の所属学科が指定するプログラム選択一覧に従い、副プログラム、学際プログラムから選択すること。
- 5 教職に関する科目(教職概論、教育実習及び教職実践演習は除く。)の単位については、10単位までを自由に選択して履修する科目・単位として取り扱う。
- 6 外国人留学生特別科目(外国人留学生対象)の単位については、20単位までをコア科目として取り扱う。ただし、スポーツ健康実習の単位に充てることはできない。



別表第2

【(文) 二つ目の選択プログラム】(別表第1-1 備考5関係)

所属学科・コース		所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」														
		哲学・倫理学・美術史(副)	比較歴史学(副)	地理環境学(副)	日本語・日本文学(副)	中国語圏言語文化(副)	英語圏言語文化(副)	仏語圏言語文化(副)	日本語教育(副)	社会学(副)	教育科学(副)	心理学(副A) 人間社会科学科対象	心理学(副B) 人間社会科学科以外対象	舞踊教育学(副)	音楽表現(副)	グローバル文化学(学際)
人文科学科	哲学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	歴史	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地理	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
言語文化学科	グロ文	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	日文	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	中文	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	英文	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	仏文	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	グロ文	×	×	×	○	○	○	○	○	×	×	○	×	×	×	○
人間社会科学科	社会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	教育	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	心理	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
芸術・表現行動学科	グロ文	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	×	×	○	○
	舞踊音楽	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【(文) 三つ目の選択プログラム(文・プログラム)】(別表第1-1 備考8関係、別表第1-2 備考4関係)

所属学科・コース		所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」														
		哲学・倫理学・美術史(副)	比較歴史学(副)	地理環境学(副)	日本語・日本文学(副)	中国語圏言語文化(副)	英語圏言語文化(副)	仏語圏言語文化(副)	日本語教育(副)	社会学(副)	教育科学(副)	心理学(副A) 人間社会科学科対象	心理学(副B) 人間社会科学科以外対象	舞踊教育学(副)	音楽表現(副)	グローバル文化学(学際)
人文科学科	哲学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	歴史	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地理	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
言語文化学科	グロ文	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日文	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	中文	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	英文	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	仏文	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	グロ文	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人間社会科学科	社会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	教育	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	心理	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
芸術・表現行動学科	グロ文	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	舞踊音楽	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【(文) 三つ目の選択プログラム(理・プログラム)】(別表第1-1 備考8関係、別表第1-2 備考4関係)

所属学科・コース		所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」								
		数学(副)	物理学(副)	化学(副)	生物学(副)	情報科学(副)	応用数理(学際)	物理・化学(学際)	ケミカルバイオロジー(学際)	生命情報学(学際)
人文科学科	哲学	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	歴史	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	地理	○	○	○	○	○	×	×	×	×
言語文化学科	グロ文	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	日文	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	中文	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	英文	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	仏文	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	グロ文	○	○	○	○	○	×	×	×	×
人間社会科学科	社会	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	教育	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	心理	○	○	○	○	○	×	×	×	×
芸術・表現行動学科	グロ文	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	舞踊音楽	○	○	○	○	○	×	×	×	×

【(文) 三つ目の選択プログラム(生・プログラム)】(別表第1-1 備考8関係、別表第1-2 備考4関係)

所属学科・コース		所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」					
		人間・環境科学(副)	発達臨床心理学(副)	公共政策論(副)	ジェンダー論(副)	生活文化学(副)	消費者学(学際)
人文科学科	哲学	○	○	○	○	○	○
	歴史	○	○	○	○	○	○
	地理	○	○	○	○	○	○
言語文化学科	グロ文	○	○	○	○	○	○
	日文	○	○	○	○	○	○
	中文	○	○	○	○	○	○
	英文	○	○	○	○	○	○
	仏文	○	○	○	○	○	○
	グロ文	○	○	○	○	○	○
人間社会科学科	社会	○	○	○	○	○	○
	教育	○	○	○	○	○	○
	心理	○	○	○	○	○	○
芸術・表現行動学科	グロ文	○	○	○	○	○	○
	舞踊音楽	○	○	○	○	○	○

# 文教育学部 主プログラム・強化プログラム

## 人文科学科 哲学・倫理学・美術史コース

カリキュラムポリシー	主：44単位	強化：20単位
<p><b>主プログラム</b></p> <p>①教育目標</p> <p>LA（リベラルアーツ）の中核を担う哲学・倫理学・美術史の使命は、わたしたちの人生を、いかに考え、いかに生き、いかに表現し、いかに幸福なものとするかという、もっとも実的な応用力の養成です。主・強化・副、そのいずれのレベルにおいても、普遍的価値の学習を基礎にしつつ、根本につねにたちもどり現実の実践力を追求します。この高度教養教育に基づき、21世紀型 LA は国際性・学際性・専門性を発信します。</p> <p>本コースはこれに基づき構成され、人類が求めてきた真・善・美についての基礎的な勉強をするためのプログラムを作成しました。哲学、倫理学、美術史を効率よく学ぶためのプログラムになっています。</p> <p>ねらいは二つあります。①哲学、倫理学、美術史を幅広くバランスよく学習することができるということ、②専門的に深く勉強することができるということです。これらの相反する目標に対応するために必要な科目を用意し、それぞれのプログラムに配置しました。</p> <p>主プログラムは、哲学、倫理学、美術史のそれぞれを専門的に勉強するために必要な基礎的な科目を配置しました。</p> <p>②内容・構成</p> <p>本プログラムは、「学科共通科目8単位」「卒業論文8単位」、概論、特殊講義、演習などからなります。</p> <p>なお、主プログラムにおいて、「人文科学科共通科目8単位」は、人文科学科としてのまとまりを確保するために必修としました。そのうち哲学、倫理、美術史に関係する科目からは、最低4単位の必修、それ以外を含めてさらに4単位の必修を課しました。</p>		
<p><b>強化プログラム</b></p> <p>①教育目標</p> <p>LA（リベラルアーツ）の中核を担う哲学・倫理学・美術史の使命は、わたしたちの人生を、いかに考え、いかに生き、いかに表現し、いかに幸福なものとするかという、もっとも実的な応用力の養成です。主・強化・副、そのいずれのレベルにおいても、普遍的価値の学習を基礎にしつつ、根本につねにたちもどり現実の実践力を追求します。この高度教養教育に基づき、21世紀型 LA は国際性・学際性・専門性を発信します。</p> <p>本コースはこれに基づき構成され、人類が求めてきた真・善・美についての基礎的な勉強するためのプログラムを作成しました。哲学、倫理学、美術史を効率よく学ぶためのプログラムになっています。</p> <p>ねらいは二つあります。①哲学、倫理学、美術史を幅広くバランスよく学習することができるということ、②専門的に深く勉強することができるということです。これらの相反する目標に対応するために必要な科目を用意し、それぞれのプログラムに配置しました。</p> <p>強化プログラムは、哲学、倫理学、美術史のそれぞれの学問領域を一層深く勉強するためにさらに専門的な科目を配置しました。</p> <p>②内容・構成</p> <p>本プログラムは、特殊講義、演習などからなります。</p>		

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
哲学基礎論	2	I～II	Pink	○	以下の科目から4単位選択		
倫理学基礎論	2	I～II	Pink	○			
美術史基礎論	2	I～II	Pink	○			
比較文化史	2	I～II	Pink	○	以下の科目から4単位選択		
比較社会史	2	I～II	Pink	○			
自然と人間	2	I～II	Pink	○			
人間と空間	2	I～II	Pink	○			
哲学・倫理学・美術史選択基礎	2	I		○			
卒業論文	8	IV	Red	◎			
哲学概論 I	2	I～IV	Red	○	以下の科目から28単位選択		
哲学概論 II	2	I～IV	Pink	○			
倫理学概論 I	2	I～IV	Pink	○			
倫理学概論 II	2	I～IV	Pink	○			
美術史学概論	2	I～IV	Pink	○			
				○			

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム		◎必修 ○選択	
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
概念分析論演習 I	2	II～IV	Red	○			
概念分析論演習 II	2	II～IV	Red	○			
理論分析論演習 I	2	II～IV	Red	○			
理論分析論演習 II	2	II～IV	Red	○			
問題分析論演習 I	2	II～IV	Red	○			
問題分析論演習 II	2	II～IV	Red	○			
英書講読	2	II～IV	Green	○			
哲学 A I	2	I～IV	Green	○			
哲学 A II	2	I～IV	Green	○			
哲学 A III	2	I～IV	Green	○			
哲学 A IV	2	I～IV	Green	○			
哲学 B I	2	I～IV	Green	○			
哲学 B II	2	I～IV	Green	○			
哲学 B III	2	I～IV	Green	○			
哲学 B IV	2	I～IV	Green	○			
哲学演習 C I	2	II～IV	Red	○			
哲学演習 C II	2	II～IV	Red	○			
哲学演習 C III	2	II～IV	Red	○			
哲学演習 C IV	2	II～IV	Red	○			
日本倫理思想史 I	2	I～IV	Green	○			
日本倫理思想史 II	2	I～IV	Green	○			
西洋倫理思想史 I	2	I～IV	Green	○			
西洋倫理思想史 II	2	I～IV	Green	○			
倫理思想史特殊講義 A I	2	II～IV	Green	○			
倫理思想史特殊講義 A II	2	II～IV	Green	○			
倫理思想史特殊講義 B I	2	II～IV	Green	○			
倫理思想史特殊講義 B II	2	II～IV	Green	○			
西洋美術史 A I	2	II～IV	Green	○			
西洋美術史 A II	2	II～IV	Green	○			
西洋美術史 A III	2	II～IV	Green	○			
西洋美術史 B I	2	II～IV	Green	○			
西洋美術史 B II	2	II～IV	Green	○			
西洋美術史 B III	2	II～IV	Green	○			
東洋美術史 A I	2	II～IV	Green	○			
東洋美術史 A II	2	II～IV	Green	○			
東洋美術史 A III	2	II～IV	Green	○			
東洋美術史 B I	2	II～IV	Green	○			
東洋美術史 B II	2	II～IV	Green	○			
東洋美術史 B III	2	II～IV	Green	○			
哲学演習 A I	2	II～IV	Red	○		○	以下の科目 から 20 単位 選択
哲学演習 A II	2	II～IV	Red	○		○	
哲学演習 A III	2	II～IV	Red	○		○	
哲学演習 A IV	2	II～IV	Red	○		○	
哲学演習 B I	2	II～IV	Red	○		○	
哲学演習 B II	2	II～IV	Red	○		○	
哲学演習 B III	2	II～IV	Red	○		○	
哲学演習 B IV	2	II～IV	Red	○		○	
倫理学演習 A	4	II～IV	Red	○		○	

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム				
				主プログラム	備考	◎必修 ○選択	強化プログラム	備考
倫理学演習B	4	Ⅱ～Ⅳ	Red	○			○	
倫理思想史演習A	4	Ⅱ～Ⅳ	Red	○			○	
倫理思想史演習B	4	Ⅱ～Ⅳ	Red	○			○	
倫理学特殊講義AⅠ	2	Ⅱ～Ⅳ	Pink	○			○	
倫理学特殊講義AⅡ	2	Ⅱ～Ⅳ	Pink	○			○	
倫理学特殊講義BⅠ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○			○	
倫理学特殊講義BⅡ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○			○	
倫理学資料講読	4	Ⅱ～Ⅳ	Red	○			○	
日本倫理思想史資料講読	4	Ⅱ～Ⅳ	Red	○			○	
西洋倫理思想史資料講読	4	Ⅱ～Ⅳ	Red	○			○	
倫理学研究	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○			○	
日本倫理思想史研究	2	Ⅰ～Ⅳ	Pink	○			○	
西洋倫理思想史研究	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○			○	
宗教と倫理学	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○			○	
生命と倫理学	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○			○	
日本の社会と文化	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○			○	
形象分析学演習Ⅰ	4	Ⅱ～Ⅳ	Red	○			○	
形象分析学演習Ⅱ	4	Ⅱ～Ⅳ	Red	○			○	
形象分析学演習Ⅲ	4	Ⅱ～Ⅳ	Red	○			○	
形象分析学特殊講義Ⅰ	4	Ⅱ～Ⅳ	Green	○			○	
形象分析学特殊講義Ⅱ	4	Ⅱ～Ⅳ	Green	○			○	
形象分析学特殊講義Ⅲ	4	Ⅱ～Ⅳ	Green	○			○	
美術史学演習Ⅰ	4	Ⅱ～Ⅳ	Red	○			○	
美術史学演習Ⅱ	4	Ⅱ～Ⅳ	Red	○			○	
美術史学演習Ⅲ	4	Ⅱ～Ⅳ	Red	○			○	
美術史学特殊講義Ⅰ	4	Ⅱ～Ⅳ	Green	○			○	
美術史学特殊講義Ⅱ	4	Ⅱ～Ⅳ	Green	○			○	
美術史学特殊講義Ⅲ	4	Ⅱ～Ⅳ	Green	○			○	
哲学特別研究AⅠ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green				○	
哲学特別研究AⅡ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green				○	
哲学特別研究AⅢ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green				○	
哲学特別研究BⅠ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green				○	
哲学特別研究BⅡ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green				○	
哲学特別研究BⅢ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green				○	
哲学研究指導Ⅰ	2	Ⅳ	Red				○	
哲学研究指導Ⅱ	2	Ⅳ	Red				○	
倫理学研究指導Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	Red				○	
倫理学研究指導Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	Red				○	
倫理学研究指導Ⅲ	2	Ⅱ～Ⅳ	Red				○	
形象分析学調査演習	2	Ⅱ	Red				○	
美術史学研究指導Ⅰ	4	Ⅱ～Ⅳ	Red				○	
美術史学研究指導Ⅱ	4	Ⅱ～Ⅳ	Red				○	
美術史学研究指導Ⅲ	4	Ⅱ～Ⅳ	Red				○	

# 人文科学科 比較歴史学コース

<b>カリキュラムポリシー</b>	<b>主：44単位</b>	<b>強化：20単位</b>
<p><b>主プログラム</b></p> <p>①教育目標 歴史は社会の反映であり、歴史を学ぶことは社会での実践力となります。日本史、東洋史、西洋史という枠組みを思考の地域軸と時間軸として位置づけ、同時に相互の比較や連関・交流に着目し、比較史的観点や社会史の視角を重視しつつ、歴史研究を通してその社会全体を俯瞰しその全体像を総合的に把握できるような柔軟な思考方法を養います。当たり前と思われることを疑い、自分なりの間を見つけ、そのための論拠（史料）を探し、論理を組み立てるといった歴史研究の基礎的手法（これは社会に出ても十分有効です）を身につけてください。</p> <p>②内容・構成 本プログラムは、まず基礎的知識を身につけ歴史学を学ぶとはどういうことなのかを理解する入門型の初級科目、文献・情報収集方法、研究史の調べ方など、専門教育に必須の基礎知識・研究方法を体得させるための中級科目、歴史学研究の基幹である研究文献・史料を実際に読解する演習（上級科目）、その集大成としての卒業論文から構成されます。多彩な科目群からバランスよく選択して履修することで、歴史学の（最小限の）方法論を体得します。総単位数は44単位以上、学科共通科目8単位、演習科目12単位以上、卒業論文8単位を必修とします。</p>		
<p><b>強化プログラム</b></p> <p>①教育目標 比較歴史学の主プログラムを専攻し、さらに歴史学の分野での専門知識を深め、磨こうと考える学生が専攻するものとします（主プログラム専攻者以外の履修は不可）。比較歴史学が開講する講義科目を中心に、幅広くより深い歴史学の知識と学びを習得することを目指します。一つの分野に限定せず、日本史・東洋史・西洋史を横断するかたちで履修して、視野を広げることを推奨します。</p> <p>②内容・構成 強化プログラムは、日本史・東洋史・西洋史各分野の専門的で多彩な講義科目群を主プログラム科目に加えた構成になっています。主プログラムで履修した科目以外に、20単位の取得が必要です。</p>		

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム		◎必修 ○選択	
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
比較文化史	2	I～II	Pink	◎			
比較社会史	2	I～II	Pink	◎			
比較歴史学選択基礎	2	I		○			
史学研究指導	2	IV	Red	○			
卒業論文	8	IV	Red	◎			
哲学基礎論	2	I～II	Pink	○	以下の科目から4単位選択		
倫理学基礎論	2	I～II	Pink	○			
美術史基礎論	2	I～II	Pink	○			
自然と人間	2	I～II	Pink	○			
人間と空間	2	I～II	Pink	○			
日本文化史概論	2	I～IV	Pink	○		○	以下の科目から20単位選択
日本史概説	2	I～IV	Pink	○		○	
アジア史概説	2	I～IV	Pink	○		○	
西洋史概説	2	I～IV	Pink	○		○	
日本史入門講読	2	I	Pink	○		○	
外国史入門講読Ⅰ	2	I	Pink	○		○	
外国史入門講読Ⅱ	2	I	Pink	○		○	
日本史研究法	2	II	Green	○		○	
アジア史研究法	2	II	Green	○		○	
西洋史研究法	2	II	Green	○		○	
グローバル・ヒストリー	2	I～II	Pink	○		○	
日本史講読	2	II	Green	○		○	

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム		◎必修 ○選択	
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
アジア史講読	2	Ⅱ	Green	○		○	
西洋史講読	2	Ⅱ	Green	○		○	
古文書学	2	Ⅱ	Green	○		○	
歴史史科学	2	Ⅱ	Green	○		○	
日本史論文講読	2	Ⅱ	Green	○		○	
外国史論文講読	2	Ⅱ	Green	○		○	
歩いて学ぶ比較歴史Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○		○	
歩いて学ぶ比較歴史Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○		○	
日本古代史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○	以下の科目 から12単位 選択	○	
日本古代史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
日本中世史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
日本中世史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
日本近世史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
日本近世史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
日本近代史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
日本近代史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
日本古代史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
日本古代史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
日本中世史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
日本中世史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
日本近世史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
日本近世史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
日本近代史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
日本近代史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
東アジア史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
東アジア史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
西アジア史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
西アジア史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
東アジア史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
東アジア史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
西アジア史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
西アジア史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
比較アジア史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
比較アジア史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
比較アジア史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
比較アジア史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
西洋政治史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
西洋政治史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
西洋社会史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○	○		
西洋社会史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○	○		
西洋社会経済史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○	○		
西洋社会経済史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○	○		
西洋政治史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○	○		
西洋政治史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○	○		
西洋社会史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○	○		
西洋社会史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○	○		
西洋社会経済史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○	○		
西洋社会経済史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○	○		
歴史史料調査Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Green			○	

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム		◎必修 ○選択	
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
歴史史料調査Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Green			○	
歴史現地調査Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Green			○	
歴史現地調査Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Green			○	
考古学通論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
考古学通論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
歴史考古学	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
史跡調査	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
日本古代中世文化史	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
日本近世近代文化史	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
日本古代中世史特殊講義	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
日本近世近代史特殊講義	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
日本古代中世政治史	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
日本近世近代政治史	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
日本古代中世社会経済史	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
日本近世近代社会経済史	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
東アジア政治史	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
西アジア政治史	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
東アジア社会経済史	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
西アジア社会経済史	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
東アジアの歴史と文化	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
西アジアの歴史と文化	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
比較アジア社会史論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
比較アジア社会史論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
比較アジア文化史論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
比較アジア文化史論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
西洋政治史	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
西洋社会経済史	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
西洋社会史	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
西洋中世史	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
西洋近世史	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
西洋近現代史	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
西洋文化史	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
フランス史	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
ドイツ史	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
イギリス史	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
歴史学文献講読Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
歴史学文献講読Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
都市社会史	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
歴史情報論	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
比較女性史	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
比較家族史	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
歴史人類学	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	

# 人文科学科 地理学コース（地理環境学）

カリキュラムポリシー	主：44単位	強化：20単位
<b>主プログラム</b> <b>①教育目標</b> 地理学は、学校教育における社会科の基礎科目のひとつであり、また大学の教育・研究においては文系と理系の知をローカルな地域・場所で考え、結びつける総合科学であり、さらに社会生活においては現実的な諸問題に解決策を与える応用科学・政策科学です。現実的な諸問題の解決のために、ローカル、ナショナル、グローバルの地理的マルチスケールのセンスを養成します。		
<b>②内容・構成</b> 地理学の独自の観点を学ぶためのスキルとして、フィールドワーク（東京近郊と日本各地）、地図・GIS、地域統計分析、自然観測、英書講読の授業を、必修・選択必修で学んでもらいます。これによって、総合科学としての地理学の基礎的な技能が身につきます。また経済、社会、都市、環境などの地理学の知識を講義や演習で学ぶことで、特定の地域で設定したテーマの卒業論文へとつなげます。		
<b>強化プログラム</b> <b>①教育目標</b> 地理学主専攻プログラムを学び終えた学生を対象に、大学院進学（留学を含む）に向けて、地理学の広範な分野の知識を、講義、演習、特殊講義によって学んでもらいます。これによって、地理学の専門家としてオールラウンドの知識・スキルを身に付けることができます。		
<b>②内容・構成</b> 国家公務員や大学研究者でなお女性比率の低い地理学関連分野に進む学生向けの専門的な授業です。卒業後に取得できる資格には、社会調査士、学芸員などの他、現在導入を検討中の地域調査士、GIS学術士があります。他学科・他学部の「関連科目」等を履修することによって、気象予報士の資格取得にも対応可能です。		

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム				
				主プログラム	備考	◎必修 ○選択	強化プログラム	備考
人間と空間	2	I～II	Pink	◎				
自然と人間	2	I～II	Pink	◎				
哲学基礎論	2	I～II	Pink	○	以下の科目から4単位選択			
倫理学基礎論	2	I～II	Pink	○				
美術史基礎論	2	I～II	Pink	○				
比較文化史	2	I～II	Pink	○				
比較社会史	2	I～II	Pink	○				
地理学フィールドワークA	2	III	Red	◎				
地理学フィールドワークB	2	I～III	Green	◎				
地理学フィールドワーク演習	2	III	Red	◎				
地理学研究法演習	2	III	Red	◎				
地域分析学演習II	2	IV	Red	○	以下の科目から2単位選択			
環境地理学演習II	2	IV	Red	○				
社会地理学演習II	2	IV	Red	○				
都市・福祉地理学演習II	2	IV	Red	○				
地理学卒業演習	2	IV	Red	◎				
卒業論文	8	IV	Red	◎				
地理学選択基礎	2	I		○	以下の科目から10単位選択			
都市と自然	2	I	Pink	○		○	主プログラムで未履修科目から20単位選択	
地理学英書講読	2	I～II	Green	○		○		
地図学	2	II～IV	Green	○		○		
都市地理学	2	I～IV	Green	○		○		
経済地理学	2	I～IV	Green	○		○		
社会地理学	2	I～IV	Green	○		○		
自然地理学	2	I～IV	Green	○		○		



授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム		◎必修 ○選択	
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
文化地理学	2	I～IV	Green	○		○	
測量学	2	II～IV	Green	○		○	
地誌学	2	II～IV	Green	○		○	
地理情報システム演習 I	2	II～III	Green	○		○	
環境地理学基礎演習	4	II～III	Green	○	以下の科目から4単位選択	○	
人文地理学分析基礎演習	4	II～III	Green	○		○	
文化地理学演習	2	II～IV	Red	○	以下の科目から2単位選択	○	
地域分析学演習 I	2	II～IV	Red	○		○	
環境地理学演習 I	2	II～IV	Red	○		○	
自然地理学演習 I	2	II～IV	Red	○		○	
社会地理学演習 I	2	II～IV	Red	○		○	
都市・福祉地理学演習 I	2	II～IV	Red	○		○	
オセアニア社会文化論 I	2	II～IV	Green			○	
オセアニア社会文化論 II	2	II～IV	Red			○	
文化理論研究	2	II～IV	Green			○	
地域開発論	2	II～IV	Green			○	
フィールドワーク方法論	2	II～IV	Green			○	
社会政策論 I	2	I～IV	Pink			○	
社会政策論 II	2	II～IV	Green			○	
環境化学	2	II	Green			○	
住居学概論	2	I	Pink			○	
民俗学	2	I～IV	Pink			○	
地理環境学演習 I	2	II～IV	Red			○	
地理環境学演習 II	2	II～IV	Red			○	
地理環境学演習 III	2	II～IV	Red			○	
地理環境学演習 IV	2	II～IV	Red			○	
地理情報システム演習 II	2	II～IV	Red			○	
都市社会史	2	II～IV	Green			○	
歴史情報論	2	II～IV	Green			○	
地球環境科学	2	I～III	Pink			○	
大気・海洋科学概論	2	I～IV	Pink			○	
地学基礎実験	2	I～IV	Pink			○	
環境情報論	2	III～IV	Red			○	
建築環境計画論	2	II	Green			○	
歴史文化論	2	II～III	Green			○	
環境デザイン論	2	II～III	Green			○	

# 言語文化学科 日本語・日本文学コース

カリキュラムポリシー	主：44単位	強化：20単位
<b>主プログラム</b> <b>①教育目標</b> 本プログラムにおいては、日本語・日本文学について多角的に学び、言語と文学の観点から日本文化の本質を考察する識見と力量を育むことを目標とします。日本語学・日本上代文学・日本中古文学・日本中世文学・日本近世文学・日本近代文学・日本現代文学の各領域にわたって、基礎から応用へと段階をふみながら、その全般について学習します。 <b>②内容・構成</b> 日本語・日本文学の根幹をなす科目群から構成されています。基礎的学習である概論、通時的学習の文学史、各論を学ぶ講読・特殊研究・特殊講義が、知識の習得に関わる科目群としておかれ、これらは1年次から4年次まで、段階をふんで履修します。研究方法の習得にあたっては、2年次より用意された各種演習によって学び、これらすべての統合として、4年次に卒業論文の執筆が配置されています。		
<b>強化プログラム</b> <b>①教育目標</b> 本プログラムにおいては、日本語・日本文学について広範に学び、言語と文学の観点から日本文化の本質を考察する識見と力量を育むことを目標とします。日本語学・日本上代文学・日本中古文学・日本中世文学・日本近世文学・日本近代文学・日本現代文学の各領域にわたって、深くかつ発展的に学習します。 <b>②内容・構成</b> 強化プログラムは、主プログラムの履修を基盤に、さらに各自の関心を専門的に深化・発展させるためのものです。よって、科目群も、高度な内容のものを中心に履修するよう配置されています。		

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム			
				主プログラム	備考	◎必修	○選択
卒業論文	8	IV	Red	◎			
日本文学概説	2	I～II	Pink	○	以下の科目から8単位選択		
日本語学通論	2	I～II	Pink	○			
英語圏言語文化入門	2	I～II	Pink	○			
中国現代文学史	2	I～II	Pink	○			
中国古典文学史（宋～清）	2	I～II	Pink	○			
ヨーロッパ言語文化論	2	I～II	Pink	○			
言語学入門Ⅰ	2	I～II	Pink	○			
言語学入門Ⅱ	2	I～II	Pink	○			
日本古典文学史論（上代）	2	I～II	Green	○	以下の科目から8単位選択	○	以下の科目から4単位選択
日本古典文学史論（中古）	2	I～III	Green	○		○	
日本古典文学史論（中世）	2	II～III	Green	○		○	
日本古典文学史論（近世）	2	II～IV	Green	○		○	
日本近代文学史論（近代）	2	III～IV	Green	○		○	
日本近代文学史論（現代）	2	III～IV	Green	○		○	
日本語彙論	2	I～IV	Green	○	以下の科目から2単位選択	○	以下の科目から2単位選択
日本語文法総論	2	I～IV	Green	○		○	
日本語音声表現論	2	I～IV	Green	○		○	
日本語文章表現論	2	I～II	Pink	○	以下の科目から2単位選択	○	以下の科目から2単位選択
日本文学論講読Ⅰ	2	I～III	Pink	○		○	
日本文学論講読Ⅱ	2	I～III	Pink	○		○	
日本文学論講読Ⅲ	2	I～III	Pink	○		○	
日本文学論講読Ⅳ	2	I～III	Pink	○	○		
日本語学特殊研究	2	II～IV	Green	○	以下の科目から6単位選択	○	以下の科目から6単位選択
日本語史特殊研究	2	II～IV	Green	○		○	
日本古典文学論特殊研究（上代）	2	I～IV	Green	○		○	

Ⅱ  
 2  
 専門教育科目  
 文教育学部

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム		◎必修 ○選択	
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
日本古典文学論特殊研究 (中古)	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○		○	
日本古典文学論特殊研究 (中世)	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○		○	
日本古典文学論特殊研究 (近世)	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○		○	
日本近代文学論特殊研究 (近代)	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○		○	
日本近代文学論特殊研究 (現代)	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○		○	
日本語学特殊講義Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	Red	○		○	
日本語学特殊講義Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	Red	○		○	
日本古典文学論特殊講義Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	Red	○		○	
日本古典文学論特殊講義Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	Red	○		○	
日本古典文学論特殊講義Ⅲ	2	Ⅱ～Ⅳ	Red	○		○	
日本近代文学論特殊講義Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	Red	○		○	
日本近代文学論特殊講義Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	Red	○		○	
日本語・日本文学選択基礎	2	Ⅰ		○			
日本古典文学論基礎演習Ⅰ	2	Ⅱ	Pink	◎			
日本古典文学論演習 (上代)Ⅰ	2	Ⅲ	Red	○	以下の科目 から6単位 選択	○	以下の科目 から2単位 選択
日本古典文学論演習 (上代)Ⅱ	2	Ⅲ	Red	○		○	
日本古典文学論演習 (中古)Ⅰ	2	Ⅲ	Red	○		○	
日本古典文学論演習 (中古)Ⅱ	2	Ⅲ	Red	○		○	
日本古典文学論演習 (中世)Ⅰ	2	Ⅲ	Red	○		○	
日本古典文学論演習 (中世)Ⅱ	2	Ⅲ	Red	○		○	
日本古典文学論演習 (近世)Ⅰ	2	Ⅲ	Red	○		○	
日本古典文学論演習 (近世)Ⅱ	2	Ⅲ	Red	○		○	
日本近代文学論演習 (近代)Ⅰ	2	Ⅲ	Red	○		○	
日本近代文学論演習 (近代)Ⅱ	2	Ⅲ	Red	○		○	
日本近代文学論演習 (現代)Ⅰ	2	Ⅲ	Red	○		○	
日本近代文学論演習 (現代)Ⅱ	2	Ⅲ	Red	○		○	
日本語学演習Ⅰ	2	Ⅲ	Red	○		○	
日本語学演習Ⅱ	2	Ⅲ	Red	○		○	
日本語学研究指導	2	Ⅳ	Red	○	以下の科目か ら2単位選択		
日本文学研究指導	2	Ⅳ	Red	○			
日本古典文学論基礎演習Ⅱ	2	Ⅱ	Pink			○	以下の科目か ら2単位選択
日本語学基礎演習	2	Ⅱ	Pink			○	
書道Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	Pink			○	以下の科目か ら2単位選択
書道Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	Pink			○	

# 言語文化学科 中国語圏言語文化コース

<b>カリキュラムポリシー</b>	<b>主：44単位</b>	<b>強化：20単位</b>
<p><b>主プログラム</b></p> <p>①教育目標 中国語圏言語文化コースでは、現代中国語のトレーニングを基盤として、中国の現代文化および古典文化、ひいては中国に対する総合的な理解を深めることを目指しています。確実な中国語運用能力の土台のもとに、様々な分野で活躍しうる人材を育成することを目標とします。</p> <p>②内容・構成 本プログラムは、学科共通科目（選択）、中国語の実践的運用能力を習得するための科目群（必修）、現代語学・古典文献に関する基本的知識を習得するための科目群（必修）、現代文化、現代語学、古典文献、古典文学の四分野に関する研究方法を習得するための科目群（選択）、そして卒業論文作成指導の科目群（選択）ならびに卒業論文（必修）から構成されます（また別途、高大連携科目を設けます）。</p>		
<p><b>強化プログラム</b></p> <p>①教育目標 中国語圏言語文化コースの主プログラムと併せて履修することにより、中国の言語文化に関するより一層高度な知識・技能を習得することを目標とします。高等学校等の教員を目指す学生、あるいは大学院に進学することを希望する学生には本プログラムが適しています。</p> <p>②内容・構成 主プログラムよりも高度な中国語の実践運用能力の習得を目指すための科目群と、現代文化・現代語学・古典文献・古典文学の四分野に関する研究技能を強化するための科目群、および大学院との連携を意識した科目から構成されます。</p>		

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム				
				主プログラム	備考	◎必修 ○選択	強化プログラム	備考
日本文学概説	2	I～II	Pink	○	以下の科目から8単位選択			
日本語学通論	2	I～II	Pink	○				
英語圏言語文化入門	2	I～II	Pink	○				
中国現代文学史	2	I～II	Pink	○				
中国古典文学史（宋～清）	2	I～II	Pink	○				
ヨーロッパ言語文化論	2	I～II	Pink	○				
言語学入門Ⅰ	2	I～II	Pink	○				
言語学入門Ⅱ	2	I～II	Pink	○				
中国語ヒアリング基礎	2	I～II	Green	◎				
中国語コミュニケーション・スキル	2	II～IV	Green	◎				
中国語作文基礎演習	2	II～IV	Red	◎				
中国語作文応用演習	2	II～IV	Red	◎				
中国語講読	2	II～IV	Green	◎				
中国語学概論	2	I～II	Pink	◎				
中国古典文学史（先秦～唐）	2	I～II	Pink	◎				
中国文化論	2	II～IV	Green	○	以下の科目から12単位選択	○	以下の科目から、主プログラムにおいて既修得の科目を除く4単位選択	
中国現代作家論	2	II～IV	Red	○		○		
日中対照言語学	2	II～IV	Green	○		○		
中国語統語論	2	II～IV	Green	○		○		
中国古典文献講読入門	2	II～IV	Green	○		○		
中国古典文献講読基礎	2	II～IV	Green	○		○		
中国文学古典講読	2	II～IV	Green	○		○		
中国文学古典演習	2	II～IV	Red	○		○		
中国語圏言語文化選択基礎	2	I		○				
中国現代文化特別演習	2	IV	Red	○	以下の科目から2単位選択			
中国現代語学特別演習	2	IV	Red	○				

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム			
				主プログラム	備考	◎必修	○選択
中国古典文献特別演習	2	Ⅳ	Red	○			
中国古典文学特別演習	2	Ⅳ	Red	○			
卒業論文	8	Ⅳ	Red	◎			
中国言語文化論演習	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			◎	
中国事情	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			◎	
中国語会話演習	2	Ⅱ～Ⅳ	Red			◎	
中国語ヒアリング演習	2	Ⅱ～Ⅳ	Red			◎	
中国現代作品論	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			◎	
中国語文法論	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			◎	
中国語学文献講読	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			◎	
中国古典詩講義演習	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			◎	

# 言語文化学科 英語圏言語文化コース

カリキュラムポリシー	主：44単位	強化：20単位
<b>主プログラム</b> <b>①教育目標</b> 英語圏言語文化主プログラムは、英語圏の言語文化に関する研究を専攻し、柔軟な英語運用能力を習得するとともに、学術的研究の成果や深い思想を英語で正確に表現し、自信を持って広く世界に発信できる能力を身につけることを目指すものです。スピーキングの技能に関して言えば、単なる日常的会話のレベルにとどまることなく、将来は海外の研究者・知識人と対等に議論できるレベルの技能の習得を目標とします。		
<b>②内容・構成</b> 本プログラムは、英語で学術的論文を書きまたその内容を口頭で正確に発表できるようになるための、方法論的問題を学ぶ科目群および基礎から中級レベルに至る専門的知識・教養を学ぶ科目群を中心に組まれています。また中学・高等学校の教員免許（英語）を取得するために必要な科目の単位も、本プログラムの中で取得できるように組まれています。本プログラムをとる学生は、最終年に英語で卒業論文を提出することが義務づけられています。		
<b>強化プログラム</b> <b>①教育目標</b> 英語圏の言語文化についての高度な専門的知識・技能を身につけるためのプログラムである。本プログラム履修者は、卒業後国際社会で通用する洗練された英語力と、豊かにして深い文化的教養を身につけて巣立つことを期待されています。また卒業後に大学院進学を目指す人が履修するのにも、ふさわしいプログラムです。		
<b>②内容・構成</b> 英語圏言語文化主プログラムが、専門的研究の基本的な方法論を学び、英語で学術論文を書く技術を修得するための科目を中心に組まれているのに対し、本プログラムは主としてより専門性の高い科目群を中心に構成されています。分野にとらわれず一般性の高い方法論等を学ぶ科目群においては、最終的には上級レベルまで到達すべく組まれています。		

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
日本文学概説	2	I～II	Pink	○	以下の科目から8単位選択		
日本語学通論	2	I～II	Pink	○			
英語圏言語文化入門	2	I～II	Pink	○			
中国現代文学史	2	I～II	Pink	○			
中国古典文学史（宋～清）	2	I～II	Pink	○			
ヨーロッパ言語文化論	2	I～II	Pink	○			
言語学入門Ⅰ	2	I～II	Pink	○			
言語学入門Ⅱ	2	I～II	Pink	○			
英米文学演習（初級）	2	II～IV	Pink	◎	以下の科目から6単位選択		
英作文演習（初級）	2	II	Pink	◎			
英会話演習（初級）	2	II	Pink	◎			
対照表現学演習Ⅰ	2	III～IV	Red	◎			
対照表現学演習Ⅱ	2	III	Red	◎			
英文法Ⅰ	2	I	Pink	◎			
英文法Ⅱ	2	I	Pink	◎			
卒業論文	8	IV	Red	◎			
特別演習（言語研究方法論）Ⅰ	2	III	Red	○			
特別演習（言語研究方法論）Ⅱ	2	III～IV	Red	○			
特別演習（英米文学研究方法論）Ⅰ	2	III	Red	○	○の科目から8単位選択		
特別演習（英米文学研究方法論）Ⅱ	2	III～IV	Red	○			
特別演習（作品分析）	2	IV	Red	○			
特別演習（言語資料分析）	2	IV	Red	○			
英語学入門	2	II	Pink	○			
英語学概論	2	II～IV	Green	○			

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム		◎必修 ○選択	
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
英文法演習	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○		○	以下の科目 から6～8単 位選択
英語音声学演習	2	Ⅱ	Green	○		○	
英文学史Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅲ	Green	○		○	
英文学史Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○		○	
米文学史Ⅰ	2	Ⅲ	Green	○		○	
米文学史Ⅱ	2	Ⅲ	Green	○		○	
英米文学演習（中級）	2	Ⅲ	Green			○	
英米文学演習（上級）	2	Ⅲ～Ⅳ	Green			○	
英語圏言語文化選択基礎	2	Ⅰ		○			
英語圏テキスト講読	2	Ⅱ	Pink	○			
英作文演習（中級）	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○		○	以下の科目 から12～14 単位選択
英会話演習（中級）	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○		○	
英文学特殊講義Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	Red	○		○	
英文学特殊講義Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	Red	○		○	
英文学特殊講義Ⅲ	2	Ⅱ～Ⅳ	Red	○		○	
英文学特殊講義Ⅳ	2	Ⅱ～Ⅳ	Red	○		○	
英文学特殊講義Ⅴ	2	Ⅱ～Ⅳ	Red	○		○	
英文学特殊講義Ⅵ	2	Ⅱ～Ⅳ	Red	○		○	
英文学特殊講義Ⅶ	2	Ⅱ～Ⅳ	Red	○		○	
英文学特殊講義Ⅷ	2	Ⅱ～Ⅳ	Red	○		○	
英語学特殊講義Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
英語学特殊講義Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
英語学特殊講義Ⅲ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
英語学特殊講義Ⅳ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
英語学特殊講義Ⅴ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
英語学特殊講義Ⅵ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
英語学特殊講義Ⅶ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
英語学特殊講義Ⅷ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
英語圏言語文化研究	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○		○	
英米事情	2	Ⅲ～Ⅳ	Green	○			
第二言語教授法研究	2	Ⅲ～Ⅳ	Green	○			
中国文化論	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
仏語圏言語文化論Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Green			○	
仏語圏言語文化論Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Green			○	
独文学特殊講義Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
英作文演習（上級）	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
英会話演習（上級）	2	Ⅲ	Red			○	
ギリシャ語	4	Ⅰ～Ⅳ	Pink			○	
ラテン語	4	Ⅰ～Ⅳ	Pink			○	
スペイン語	4	Ⅱ～Ⅳ	Pink			○	
イタリア語	4	Ⅰ～Ⅳ	Pink			○	

# 言語文化学科 仏語圏言語文化コース

カリキュラムポリシー	主：44単位	強化：20単位
<b>主プログラム</b> <b>①教育目標</b> 本プログラムの教育目標は以下ようになります。 1 フランス語の専門的知識と実践的運用能力を身に付けます。 2 フランス語で営まれている様々な文化現象を理解します。 3 狭い意味での言語文化だけではなく、思想から映画まで、ファッションから移民問題まで、幅広くフランス語圏の文化と社会を学びます。 4 ドイツ語圏文化を初めとして、イタリアやスペインなどのヨーロッパの他の国の文化や、あるいは世界のフランス語圏の文化にも視野を広げます。 5 日仏交流、日欧交流などの異文化交流にも関心を持ちます。 <b>②内容・構成</b> 本プログラムは、上記のような本コースの教育目標をプログラム全体において実現するために、以下のような5つの科目群から構成されます。 一番目の科目群は、言語文化学科共通科目です。ここではヨーロッパのみならず、広く英語圏、中国語圏、日本の言語文化の諸相を学びます。また言語学の基礎もここで学びます。 二番目の科目群では、フランスの周辺国を中心として広くヨーロッパの言語や文化についての知識を獲得します。 三番目の科目群では、フランス語圏の文化やフランスの社会について知見を得ます。 四番目の科目群では、フランス語の運用能力を高めます。 五番目の科目群では、フランスの文学や思想を分析します。		
<b>強化プログラム</b> <b>①教育目標</b> 本プログラムの教育目標は、主プログラムで学んだ幅広い知見を基礎にして、さらに、各人の関心に応じて自分が学習したい領域をより集中的に学ぶことです。そして、そのことによって、より深い専門的知識やより高い語学能力を身につけることを目指します。 <b>②内容・構成</b> 主プログラムを構成する5つの科目群から、学科共通科目の科目群を除いた残りの4つの科目群から構成されます。さらに主プログラムに含まれる主として1、2年生で履修する基本的な授業科目は、ここでは原則的に除かれています。		

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
日本文学概説	2	I～II	Pink	○	以下の科目から8単位選択		
日本語学通論	2	I～II	Pink	○			
英語圏言語文化入門	2	I～II	Pink	○			
中国現代文学史	2	I～II	Pink	○			
中国古典文学史(宋～清)	2	I～II	Pink	○			
ヨーロッパ言語文化論	2	I～II	Pink	○			
言語学入門I	2	I～II	Pink	○			
言語学入門II	2	I～II	Pink	○			
欧州文化論I	2	II～IV	Green	○	以下の科目から26単位選択	○	○の科目から20単位選択
欧州文化論II	2	II～IV	Green	○		○	
西欧社会文化論I	2	I～IV	Pink	○			
西欧社会文化論II	2	I～IV	Pink	○			
西欧社会文化論III	2	II～IV	Green	○		○	
西欧社会文化論IV	2	II～IV	Green	○		○	
独文学演習I	2	III～IV	Red	○		○	
独文学演習II	2	III～IV	Red	○		○	
独文学特殊講義I	2	III～IV	Red	○		○	
独文学特殊講義II	2	III～IV	Red	○		○	



授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム			
				主プログラム	備考	◎必修	○選択
ギリシャ語	4	I～IV	Pink	○		○	
ラテン語	4	I～IV	Pink	○		○	
スペイン語	4	I～IV	Pink	○		○	
イタリア語	4	I～IV	Pink	○		○	
仏語圏言語文化論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○		○	
仏語圏言語文化論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○		○	
仏語圏言語文化論Ⅲ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○		○	
仏語圏言語文化論Ⅳ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○		○	
仏語圏社会言語論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○		○	
仏語圏社会言語論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○		○	
フランス社会文化論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○		○	
フランス社会文化論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○		○	
フランス社会文化論Ⅲ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○		○	
フランス社会文化論Ⅳ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○		○	
基礎仏作文演習	2	Ⅱ	Green	○			
中級仏作文演習	2	Ⅱ	Green	○			
基礎仏会話演習	2	Ⅱ	Green	○			
中級仏会話演習	2	Ⅱ	Green	○			
上級仏会話演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
上級仏会話演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
基礎仏語学演習	2	Ⅲ	Red	○		○	
中級仏語学演習	2	Ⅲ	Red	○		○	
上級仏語学演習Ⅰ	2	Ⅳ	Red	○		○	
上級仏語学演習Ⅱ	2	Ⅳ	Red	○		○	
応用仏語学演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
応用仏語学演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
近代仏文学演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
近代仏文学演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
近代仏文学特殊講義Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
近代仏文学特殊講義Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
現代仏文学演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
現代仏文学演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
現代仏文学特殊講義Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
現代仏文学特殊講義Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
仏文学特殊研究	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
仏文学特別研究	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
仏語言語文化研究指導	2	Ⅳ	Red	◎			
卒業論文	8	Ⅳ	Red	◎			
仏語圏言語文化選択基礎	2			○			

# 人間社会科学科 社会学コース

<b>カリキュラムポリシー</b>	<b>主：48単位</b>	<b>強化：20単位</b>
<p><b>主プログラム</b></p> <p>①<b>教育目標</b> 社会学プログラムは、理論的ないし実証的方法により、人間の意識と行動の社会的側面、およびその基盤をなす社会の構造と変動を多角的に分析・考察し、人間や社会を広く根本的に見通す力量を育てることを目標としています。社会学の基礎理論と研究方法、および社会意識、ジェンダー、社会政策等の主要な研究領域に対応する科目、および文化人類学、教育社会学等の隣接領域に関する科目を用意し、学生それぞれが持つ社会に対する関心を育てる事を目指しています。</p> <p>②<b>内容・構成</b> 主プログラムは、社会学プログラムの中心をなす科目から構成されます。社会学・行動科学の基礎を学ぶ為の、「人間と社会」を含む人間社会科学科の共通科目8単位、社会学カリキュラムの特色である社会調査法と卒業論文などからなる必修科目16単位、社会学・社会調査関連の講義14単位、同じく社会学・社会調査関連の演習10単位の合計48単位です。</p>		
<p><b>強化プログラム</b></p> <p>①<b>教育目標</b> 社会学プログラムは、理論的ないし実証的方法により、人間の意識と行動の社会的側面、およびその基盤をなす社会の構造と変動を多角的に分析・考察し、人間や社会を広く根本的に見通す力量を育てることを目標としています。社会学の基礎理論と研究方法、および社会意識、ジェンダー、社会政策等の主要な研究領域に対応する科目、および文化人類学、教育社会学等の隣接領域に関する科目を用意し、学生それぞれが持つ社会に対する関心を育てる事を目指しています。</p> <p>②<b>内容・構成</b> 強化プログラムは、主プログラムに加えて、社会学・社会調査関連の講義科目6科目12単位を履修する事で社会的なテーマについてより幅広く学習し、また社会学・社会調査関連の演習科目4科目8単位を履修する事で、反省的・批判的思考をより深く養成することを目的としています。</p>		

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム			
				主プログラム	備考	◎必修 ○選択	強化プログラム
人間と社会	2	I～II	Pink	◎			
人間科学論	2	I～II	Pink	○	以下の科目から6単位選択		
人間科学方法論	2	I～II	Pink	○			
人間と情報	2	I～II	Pink	○			
人間と発達	2	I～II	Pink	○			
社会学選択基礎	2	I		○			
ジェンダー論	2	I～IV	Pink	○	以下の科目から14単位選択（内※印の科目からは6単位まで）	○	○の科目から12単位選択（内※印の科目からは、主プログラムで取得するものも含めて6単位まで）
現代社会論	2	I～IV	Pink	○		○	
現代生活論	2	I～IV	Pink	○		○	
社会意識論	2	II～IV	Green	○		○	
比較社会論	2	II～IV	Green	○		○	
社会政策論Ⅰ	2	I～IV	Pink	○		○	
社会政策論Ⅱ	2	II～IV	Green	○		○	
社会問題論	2	II～IV	Green	○		○	
社会調査の設計と実施	2	I～IV	Pink	○		○	
教育社会学概論	2	II～IV	Pink	○			
教育社会学特殊講義	2	I～IV	Green	○		○	
学校社会学特殊講義	2	I～IV	Green	○		○	
文化人類学概論	2	I～IV	Pink	○			
文化人類学特殊講義	2	I～IV	Green	○		○	
民族誌学特殊講義	2	I～IV	Green	○		○	
比較社会政策論	2	II～IV	Green	○	○		
フィールドワーク方法論	2	II～IV	Green	○			
人間と空間	2	I～IV	Pink	○			

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム					
				主プログラム	備考	◎必修 ○選択	強化プログラム	備考	
都市地理学	2	I～IV	Green	○					
社会福祉学	2	II	Green	※○			※○		
家族社会学	2	III	Green	※○			※○		
老人福祉論	2	II	Green	※○			※○		
老年学	2	II～IV	Green	※○			※○		
地域社会論	2	II	Green	※○			※○		
児童福祉論	2	II～IV	Green	※○			※○		
応用生活統計学	2	I	Pink	※○			※○		
社会統計学 I	2	II	Green	※○			※○		
ジェンダー論演習 I	2	III～IV	Red	○	以下の科目 から10単位 選択		○	以下の科目 から8単位 選択	
ジェンダー論演習 II	2	III～IV	Red	○		○			
現代社会論演習 I	2	III～IV	Red	○		○			
現代社会論演習 II	2	III～IV	Red	○		○			
社会保障論演習 I	2	III～IV	Red	○		○			
社会保障論演習 II	2	III～IV	Red	○		○			
社会政策論演習 I	2	II～IV	Red	○		○			
社会政策論演習 II	2	II～IV	Red	○		○			
現代生活論演習 I	2	III～IV	Red	○		○			
現代生活論演習 II	2	III～IV	Red	○		○			
社会意識論演習 I	2	III～IV	Red	○		○			
社会意識論演習 II	2	III～IV	Red	○		○			
教育社会学演習	4	III～IV	Red	○					
学校社会学演習	4	III～IV	Red	○					
文化人類学演習	4	III～IV	Red	○					
民族誌学演習	4	III～IV	Red	○					
社会調査法	4	II～IV	Red	◎					
社会学研究指導 I	2	III	Green	◎					
社会学研究指導 II	2	IV	Red	◎					
卒業論文	8	IV	Red	◎					

カリキュラムポリシー	主：48 単位	強化：20 単位
<p><b>主プログラム</b></p> <p>①教育目標 教育科学プログラムは、「教育」という営みを理論と実践の両面から多角的に考察し、教育から人間や社会を広く根本的に見通す力量を育てることを趣旨としています。4年間の学習を通じて、教育にかかわる事象をテーマに選び、自分なりの知識、視点、方法で卒業論文をまとめることとなります。この主プログラムは、卒業論文を作成するための必要最小限の学習メニューです。また、本プログラムの科目は、小学校教員等の教職課程の一部を構成しています。</p> <p>②内容・構成 本プログラムは、学科共通科目（8単位、うち「人間と発達」は必修）、他コース科目（6単位）、概論（6単位）、特殊講義（8単位）、演習（8単位）および必修の「教育実地研究」（1年次）、「教育科学研究指導I」（3年次）、「同II」（4年次）「卒業論文」から成っています。教育思想、教育史、教育社会学、文化人類学、教育方法学、教育開発論、生涯学習論等から自分の専攻領域を選び、その領域を中心にして概論・特殊講義・演習を選んで履修してください。</p>		
<p><b>強化プログラム</b></p> <p>①教育目標 教育科学の主プログラムと重ねて履修することにより、教育という事象をより幅広く、かつより深く捉えることを可能にするための学習メニューです。概論、特殊講義、演習を主プログラムに加えて幅広く履修します。教員その他教育にかかわる職業に就く場合、大学院で引き続き教育科学を学ぶ場合のほか、教育科学の内容で一定の水準の卒業論文を作成するためには、本プログラムが適しています。</p> <p>②内容・構成 概論・特殊講義・演習でプログラムを構成しています。主プログラムだけでは概論が3科目、特殊講義が4科目、演習が2科目しか履修できませんが、本プログラムで概論2～4科目、特殊講義2～4科目、演習2～3科目をさらに履修することができます。自分が専攻する領域に関連する科目をやや広く履修し、知識や研究方法の基礎固めが可能となります。</p>		

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム			
				主プログラム	備考	◎必修 ○選択	備考
人間と発達	2	I～II	Pink	◎			
人間科学論	2	I～II	Pink	○	以下の科目から6単位選択		
人間科学方法論	2	I～II	Pink	○			
人間と社会	2	I～II	Pink	○			
人間と情報	2	I～II	Pink	○			
ジェンダー論	2	I～IV	Pink	○			
現代社会論	2	I～IV	Pink	○	以下の科目から6単位選択		
教育心理学概論	2	I～II	Pink	○			
社会心理学概論	2	I～II	Pink	○			
発達心理学概論	2	I～II	Pink	○			
臨床心理学概論	2	I～II	Pink	○			
認知心理学概論	2	I～II	Pink	○			
教育思想概論	2	I～IV	Pink	○		以下の科目から6単位選択	○
教育史概論	2	I～IV	Pink	○	○		
教育社会学概論	2	I～IV	Pink	○	○		
文化人類学概論	2	I～IV	Pink	○	○		
教育行財政学概論	2	I～IV	Pink	○	○		
教育方法学概論	2	I～IV	Pink	○	○		
教育課程概論	2	I～IV	Pink	○	○		
教育開発概論	2	I～IV	Pink	○	○		
生涯学習概論	2	I～IV	Pink	○	○		
教育科学概論 I	2	I～IV	Pink	○	○		
教育科学概論 II	2	I～IV	Pink	○	○		

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム			
				主プログラム	備考	◎必修	○選択
教育思想特殊講義	2	I～IV	Green	○	○の科目から8単位選択	○	○の科目から4単位以上選択
教育人間学特殊講義	2	I～IV	Green	○			
教育史特殊講義	2	I～IV	Green	○			
教育史料分析特殊講義	2	I～IV	Green	○			
教育社会学特殊講義	2	I～IV	Green	○			
学校社会学特殊講義	2	I～IV	Green	○			
文化人類学特殊講義	2	I～IV	Green	○			
民族誌学特殊講義	2	I～IV	Green	○			
教育方法学特殊講義	2	I～IV	Green	○			
教育課程特殊講義	2	I～IV	Green	○			
教育開発特殊講義	2	I～IV	Green	○			
比較教育特殊講義	2	I～IV	Green	○			
生涯学習特殊講義	2	I～IV	Green	○			
社会教育学特殊講義	2	I～IV	Green	○			
教育科学特殊講義Ⅰ	2	I～IV	Green	○			
教育科学特殊講義Ⅱ	2	I～IV	Green	○			
教育科学特殊講義Ⅲ	2	I～IV	Green	○			
教育科学特殊講義Ⅳ	2	I～IV	Green	○			
学校インターンシップ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green				
児童社会文化論	2	Ⅱ～Ⅲ	Green				
博物館学概論	2	Ⅱ～Ⅳ	Ivory				
教育科学選択基礎	2	I		○			
教育思想演習	4	Ⅲ～Ⅳ	Red	○	以下の科目から8単位選択	○	以下の科目から8単位以上選択
教育人間学演習	4	Ⅲ～Ⅳ	Red	○			
教育史演習	4	Ⅲ～Ⅳ	Red	○			
教育史料分析演習	4	Ⅲ～Ⅳ	Red	○			
教育社会学演習	4	Ⅲ～Ⅳ	Red	○			
学校社会学演習	4	Ⅲ～Ⅳ	Red	○			
文化人類学演習	4	Ⅲ～Ⅳ	Red	○			
民族誌学演習	4	Ⅲ～Ⅳ	Red	○			
教育方法学演習	4	Ⅲ～Ⅳ	Red	○			
教育課程演習	4	Ⅲ～Ⅳ	Red	○			
教育開発演習	4	Ⅲ～Ⅳ	Red	○			
比較教育演習	4	Ⅲ～Ⅳ	Red	○			
生涯学習演習	4	Ⅲ～Ⅳ	Red	○			
社会教育学演習	4	Ⅲ～Ⅳ	Red	○			
教育科学演習Ⅰ	4	Ⅲ～Ⅳ	Red	○			
教育科学演習Ⅱ	4	Ⅲ～Ⅳ	Red	○			
社会教育計画Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	Ivory		○	以下の科目から0～2単位選択	
社会教育計画Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	Ivory		○		
社会教育特講Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	Ivory		○		
社会教育特講Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	Ivory		○		
社会教育課題研究	2	Ⅱ～Ⅳ	Ivory		○		
社会教育実習	2	Ⅱ～Ⅳ	Ivory		○		
教育実地研究	2	I	Pink	◎			
教育科学研究指導Ⅰ	1	Ⅲ	Green	◎			
教育科学研究指導Ⅱ	1	Ⅳ	Red	◎			
卒業論文	8	Ⅳ	Red	◎			

# 人間社会科学科 心理学コース

カリキュラムポリシー	主：48単位	強化：20単位
<b>主プログラム</b> <b>①教育目標</b> 心理学は、実証的な方法によって、人間や他の動物などの行動を観察・分析し、人間の心的な活動の仕組みや働きを解明しようとする学問です。主プログラムでは、学生に、心理学に関する基礎的な知識と、心理学研究に必要なテクニックを学ばせるとともに、人間に関わる事象への深い理解と科学的な見方、更に、どのような問題に対しても論理的、分析的に考えられる力を身につけさせたいと考えています。		
<b>②内容・構成</b> 主プログラムの設定科目には、3つの柱があります。第1に、心理学に関する基礎知識を学ぶための概論、第2に、概論の内容を深めるための演習、第3に、心理学研究のテクニックを習得するための実験演習や研究法などの科目があります。そして、4年次には、こうして身につけた知識とテクニックを使い、自分自身の関心を持ったテーマについて、研究を計画・実施し、卒業論文を執筆します。本プログラムには、心理学の主要5領域（認知、社会、教育、発達、臨床）がありますが、主プログラムでは4年次までにこのうちの1領域を専攻し、その領域を中心とした卒業研究をおこないます。		
<b>強化プログラム</b> <b>①教育目標</b> 心理学は、実証的な方法によって、人間や他の動物などの行動を観察・分析し、人間の心的な活動の仕組みや働きを解明しようとする学問です。専門強化プログラムでは、学生に、主プログラムで培った心理学に関する基礎的な知識と心理学研究に必要なテクニックをさらに磨き、領域融合的な先端的内容による卒業研究をおこなうことによって、幅広い心理学的研究力や実践力を身につけさせたいと考えています。		
<b>②内容・構成</b> 専門強化プログラムでは、主専攻プログラムで専攻した領域（認知、社会、教育、発達、臨床）に加えて、もう1領域を専攻し、先端的な領域融合型の卒業研究をおこなうことをめざします。		

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
人間科学方法論	2	I～II	Pink	◎			
人間と情報	2	I～II	Pink	◎			
人間科学論	2	I～II	Pink	○	以下の科目から4単位選択		
人間と発達	2	I～II	Pink	○			
人間と社会	2	I～II	Pink	○			
発達心理学概論	2	I～II	Pink	◎			
認知心理学概論	2	I～II	Pink	◎			
教育心理学概論	2	I～II	Pink	◎			
社会心理学概論	2	I～II	Pink	◎			
臨床心理学概論	2	I～II	Pink	◎			
心理統計法	2	II	Pink	◎			
心理学基礎演習（理論）	2	II	Pink	◎			
心理学基礎演習（応用）	2	II	Pink	◎			
心理学基礎実験演習 I	2	II	Pink	◎			
心理学基礎実験演習 II	2	II	Pink	◎			
心理学応用実験演習	2	III	Green	◎			
卒業論文	8	IV	Red	◎			
発達心理学演習（基礎）	2	II～III	Green	○	以下の科目から「基礎」「応用」を必ず含む4単位選択	○	○の科目から20単位選択
発達心理学演習（応用）	2	III～IV	Red	○		○	
認知心理学演習（基礎）	2	II～III	Green	○		○	
認知心理学演習（応用）	2	III～IV	Red	○		○	
教育心理学演習（基礎）	2	II～III	Green	○		○	
教育心理学演習（応用）	2	III～IV	Red	○		○	
						○	

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
社会心理学演習（基礎）	2	Ⅱ～Ⅲ	Green	○		○	
社会心理学演習（応用）	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
臨床心理学演習（基礎）	2	Ⅱ～Ⅲ	Green	○		○	
臨床心理学演習Ⅰ（応用）	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
臨床心理学演習Ⅱ（応用）	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
心理学選択基礎	2	Ⅰ		○			
発達心理学の展開	2	Ⅱ～Ⅲ	Green	○	以下の科目 から2単位 選択	○	
認知心理学の展開	2	Ⅱ～Ⅲ	Green	○		○	
教育心理学の展開	2	Ⅱ～Ⅲ	Green	○		○	
社会心理学の展開	2	Ⅱ～Ⅲ	Green	○		○	
臨床心理学の展開	2	Ⅱ～Ⅲ	Green	○		○	
発達心理学特殊講義	2	Ⅱ～Ⅳ	Red	○		○	
認知心理学特殊講義	2	Ⅱ～Ⅳ	Red	○		○	
教育心理学特殊講義	2	Ⅱ～Ⅳ	Red	○		○	
社会心理学特殊講義	2	Ⅱ～Ⅳ	Red	○		○	
臨床心理学特殊講義	2	Ⅱ～Ⅳ	Red	○		○	
発達心理学研究法（基礎）	2	Ⅳ	Red	○	以下の科目 から4単位 選択	○	
発達心理学研究法（応用）	2	Ⅳ	Red	○		○	
認知心理学研究法（基礎）	2	Ⅳ	Red	○		○	
認知心理学研究法（応用）	2	Ⅳ	Red	○		○	
教育心理学研究法（基礎）	2	Ⅳ	Red	○		○	
教育心理学研究法（応用）	2	Ⅳ	Red	○		○	
社会心理学研究法（基礎）	2	Ⅳ	Red	○		○	
社会心理学研究法（応用）	2	Ⅳ	Red	○		○	
臨床心理学研究法Ⅰ（基礎）	2	Ⅳ	Red	○		○	
臨床心理学研究法Ⅰ（応用）	2	Ⅳ	Red	○		○	
臨床心理学研究法Ⅱ（基礎）	2	Ⅳ	Red	○	○		
臨床心理学研究法Ⅱ（応用）	2	Ⅳ	Red	○	○		

# グローバル文化学環

<b>カリキュラムポリシー</b>	<b>主：44単位</b>
<b>主プログラム</b> <b>①教育目標</b> グローバル化時代に、文化の差異を理解しながら、その差異をこえて協働し、新しい関係や価値を創り出していく力をもった市民を育てます。	
<b>②内容・構成</b> 次の科目群からなり、いずれの科目においても学生との双方向的な教育を重視しています。現場を訪ねて考える実習や、国内外からの講師招聘、インターネットを含む交流授業などをとりいれています。	
(1) 政治・経済・文化のグローバル化を理解する基礎科目 (2) 変容する地域や文化をどのように理解するかを学ぶ「地域研究・地域文化（Comprehension）」 (3) 多様な文化をもつ人々が交流するための理論と実践を学ぶ「多文化交流（Communication）」 (4) 国際的な場での平和と協力について学ぶ「国際関係・国際協力（Collaboration）」 (5) 地域研究、多文化交流、国際協力にかかわる現場を体験し、現場でのコミュニケーションや問題解決の力を養う「実習」 (6) 文献資料、フィールドワーク、社会調査などにもとづく卒業研究（4年生）、およびそのツールとなる研究法科目	

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム	
				主プログラム	◎必修 ○選択 備考
哲学基礎論	2	I～II	Pink	○	以下の科目から、所属する学科が開講する科目を4単位選択
倫理学基礎論	2	I～II	Pink	○	
美術史基礎論	2	I～II	Pink	○	
比較文化史	2	I～II	Pink	○	
比較社会史	2	I～II	Pink	○	
人間と空間	2	I～II	Pink	○	
自然と人間	2	I～II	Pink	○	
日本文学概説	2	I～II	Pink	○	
日本語学通論	2	I～II	Pink	○	
英語圏言語文化入門	2	I～II	Pink	○	
中国古典文学史（宋～清）	2	I～II	Pink	○	
中国現代文学史	2	I～II	Pink	○	
言語学入門Ⅰ	2	I～II	Pink	○	
言語学入門Ⅱ	2	I～II	Pink	○	
ヨーロッパ言語文化論	2	I～II	Pink	○	
人間と社会	2	I～II	Pink	○	
人間と発達	2	I～II	Pink	○	
人間科学論	2	I～II	Pink	○	
人間科学方法論	2	I～II	Pink	○	
人間と情報	2	I～II	Pink	○	
グローバル文化学総論	2	I～IV	Pink	○	以下の科目から8単位以上選択
国際関係論	2	I～IV	Pink	○	
グローバル・メディア論	2	I～IV	Pink	○	
グローバル化と経済	2	I～IV	Pink	○	
比較ジェンダー論	2	I～IV	Green	○	
比較法文化論	2	I～IV	Pink	○	
グローバル・ヒストリー	2	I～IV	Pink	○	
地域研究方法論	2	II～IV	Green	○	
文化理論研究	2	II～IV	Green	○	
多文化間交流論	2	II～IV	Green	○	
言語と文化	2	II～IV	Green	○	
国際協力学	2	I～IV	Green	○	



授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム	
				主プログラム	◎必修 ○選択 備考
文化変動論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	以下の科目から4単位以上選択
文化変動論Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○	
イスラム社会文化論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
イスラム社会文化論Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○	
オセアニア社会文化論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
オセアニア社会文化論Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○	
対日交流論	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
中国社会文化論	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
東アジア社会文化論	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
南アジア社会文化論	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
アフリカ社会文化論	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
地域研究特論	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
英米事情	2	Ⅲ～Ⅳ	Green	○	
文化と人間関係Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	以下の科目から4単位以上選択
文化と人間関係Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○	
グローバル化と言語教育Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
グローバル化と言語教育Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○	
文化と心理	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
表現行動論Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	Pink	○	
表現行動論Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	Pink	○	
言語と社会Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
言語と社会Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
多文化共生論	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
国際交流論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
国際交流論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
多文化交流特論	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
国際協力方法論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	以下の科目から4単位以上選択
国際協力方法論Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○	
平和構築論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
平和構築論Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○	
国際開発論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
国際開発論Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○	
グローバル化と労働	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
国際機構論	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
国際教育協力論	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
NGO/NPO論	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
比較社会政策論	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
地域開発論	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
国際金融論	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
国際協力特論	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
多文化交流実習Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	Green	○	以下の科目から4単位以上選択
多文化交流実習Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	Red	○	
多文化交流実習Ⅲ	2	Ⅰ～Ⅳ	Green	○	
多文化交流実習Ⅳ	2	Ⅰ～Ⅳ	Red	○	
グローバル文化学実習	2	Ⅰ～Ⅳ	Green	○	
地域研究実習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
地域研究実習Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	Green	○	
国際協力実習Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	Green	○	
国際協力実習Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	Red	○	

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム	
				主プログラム	◎必修 ○選択 備考
国際協力実習Ⅲ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
フィールドワーク方法論	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
グローバル文化学方法論	2	Ⅱ～Ⅳ	Green	○	
グローバル文化学特論	2	Ⅲ～Ⅳ	Green	◎	
卒業研究	8	Ⅳ	Red	◎	
卒業研究演習	2	Ⅳ	Red	○	

# 副プログラム・学際プログラム

## 哲学・倫理学・美術史副プログラム

単位数：20

### カリキュラムポリシー

#### ①教育目標

LA（リベラルアーツ）の中核を担う哲学・倫理学・美術史の使命は、わたしたちの人生を、いかに考え、いかに生き、いかに表現し、いかに幸福なものとするかという、もっとも実的な応用力の養成です。主・強化・副、そのいずれのレベルにおいても、普遍的価値の学習を基礎にし、根本につねにたちもどり現実の実践力を追求します。この高度教養教育に基づき、21世紀型 LA は国際性・学際性・専門性を発信します。

本コースはこれに基づき構成され、人類が求めてきた真・善・美についての基礎的な勉強をするためのプログラムを作成しました。哲学、倫理学、美術史を効率よく学ぶためのプログラムになっています。

ねらいは二つあります。①哲学、倫理学、美術史を幅広くバランスよく学習することができるということ、②専門的に深く勉強することができるということです。これらの相反する目標に対応するために必要な科目を用意し、それぞれのプログラムに配置しました。

副プログラムは、とくに哲学、倫理学、美術史を全体として広く学ぶための科目を配置してあります。

#### ②内容・構成

本プログラムは、哲学、倫理学、美術史の、基礎的な知識を幅広く得るために、基礎論、概論、特殊講義などからなります。

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
哲学基礎論	2	I～II	選択	Pink	以下の科目から20単位選択
倫理学基礎論	2	I～II	選択	Pink	
美術史基礎論	2	I～II	選択	Pink	
哲学概論Ⅰ	2	I～IV	選択	Pink	
哲学概論Ⅱ	2	I～IV	選択	Pink	
哲学AⅠ	2	I～IV	選択	Green	
哲学AⅡ	2	I～IV	選択	Green	
哲学AⅢ	2	I～IV	選択	Green	
哲学AⅣ	2	I～IV	選択	Green	
哲学BⅠ	2	I～IV	選択	Green	
哲学BⅡ	2	I～IV	選択	Green	
哲学BⅢ	2	I～IV	選択	Green	
哲学BⅣ	2	I～IV	選択	Green	
倫理学概論Ⅰ	2	I～IV	選択	Pink	
倫理学概論Ⅱ	2	I～IV	選択	Pink	
日本倫理思想史Ⅰ	2	I～IV	選択	Green	
日本倫理思想史Ⅱ	2	I～IV	選択	Green	
西洋倫理思想史Ⅰ	2	I～IV	選択	Green	
西洋倫理思想史Ⅱ	2	I～IV	選択	Green	
倫理学研究	2	II～IV	選択	Green	
西洋倫理思想史研究	2	II～IV	選択	Green	
宗教と倫理学	2	II～IV	選択	Green	
生命と倫理学	2	II～IV	選択	Green	
日本の社会と文化	2	II～IV	選択	Green	
形象分析学特殊講義Ⅰ	4	II～IV	選択	Green	
形象分析学特殊講義Ⅱ	4	II～IV	選択	Green	
形象分析学特殊講義Ⅲ	4	II～IV	選択	Green	
西洋美術史AⅠ	2	II～IV	選択	Green	
西洋美術史AⅡ	2	II～IV	選択	Green	
西洋美術史AⅢ	2	II～IV	選択	Green	
西洋美術史BⅠ	2	II～IV	選択	Green	
西洋美術史BⅡ	2	II～IV	選択	Green	

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
西洋美術史BⅢ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
東洋美術史AⅠ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
東洋美術史AⅡ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
東洋美術史AⅢ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
東洋美術史BⅠ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
東洋美術史BⅡ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
東洋美術史BⅢ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
美術史学特殊講義Ⅰ	4	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
美術史学特殊講義Ⅱ	4	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
美術史学特殊講義Ⅲ	4	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	

## カリキュラムポリシー

## ①教育目標

比較歴史学の主プログラムを専攻しない学生に向けて、歴史学のエッセンスを学び、歴史を構成する基本的な地域・時間軸を理解し、歴史資料にもとづく研究法を学ぶことを目的とします。広く社会に生起する事象について、歴史学を学んだことで比較の軸としての複眼的視点を獲得することを目指します。比較歴史学を主プログラムとしないすべての学生に向けて開かれています。また、中学校社会科、高校地歴科および公民科の教職免許取得にも適します。

## ②内容・構成

歴史学の基礎的知識を身につけ歴史学を学ぶとはどういうことなのかを理解する入門型の初級科目、文献・情報収集方法や研究史の調べ方など必須の基礎知識を得るための中級科目、そして各時代・分野ごとの専門性の高い多彩な講義・演習科目群（上級科目）で構成されます。自分の関心に応じて自由なカリキュラム編成が可能であり、幅広くさまざまな時代・地域を学ぶのもよいし、地域や時代を絞った履修形態をとることもできます（たとえば、東洋史型—東洋史の科目群を集中的に履修—、あるいは近世史型—日東西の近世関連科目の集中履修—など）。

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
比較文化史	2	I～II	選択	Pink	以下の科目から20単位選択
比較社会史	2	I～II	選択	Pink	
日本文化史概論	2	I～IV	選択	Pink	
日本史概説	2	I～IV	選択	Pink	
アジア史概説	2	I～IV	選択	Pink	
西洋史概説	2	I～IV	選択	Pink	
日本史研究法	2	II	選択	Green	
アジア史研究法	2	II	選択	Green	
西洋史研究法	2	II	選択	Green	
グローバル・ヒストリー	2	I～II	選択	Pink	
日本史講読	2	II	選択	Green	
アジア史講読	2	II	選択	Green	
西洋史講読	2	II	選択	Green	
古文書学	2	II～IV	選択	Green	
歴史史料学	2	II～IV	選択	Green	
歩いて学ぶ比較歴史 I	2	II～IV	選択	Green	
歩いて学ぶ比較歴史 II	2	II～IV	選択	Green	
歴史史料調査 I	2	III～IV	選択	Green	
歴史史料調査 II	2	III～IV	選択	Green	
歴史現地調査 I	2	III～IV	選択	Green	
歴史現地調査 II	2	III～IV	選択	Green	
考古学通論 I	2	II～IV	選択	Green	
考古学通論 II	2	II～IV	選択	Green	
歴史考古学	2	II～IV	選択	Green	
史跡調査	2	II～IV	選択	Green	
日本古代中世文化史	2	II～IV	選択	Green	
日本近世近代文化史	2	II～IV	選択	Green	
日本古代中世史特殊講義	2	II～IV	選択	Green	
日本近世近代史特殊講義	2	II～IV	選択	Green	
日本古代中世政治史	2	II～IV	選択	Green	
日本近世近代政治史	2	II～IV	選択	Green	
日本古代中世社会経済史	2	II～IV	選択	Green	
日本近世近代社会経済史	2	II～IV	選択	Green	
東アジア政治史	2	II～IV	選択	Green	
西アジア政治史	2	II～IV	選択	Green	

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
東アジア社会経済史	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
西アジア社会経済史	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
東アジアの歴史と文化	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
西アジアの歴史と文化	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
比較アジア社会史論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
比較アジア社会史論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
比較アジア文化史論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
比較アジア文化史論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
西洋政治史	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
西洋社会経済史	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
西洋社会史	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
西洋中世史	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
西洋近世史	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
西洋近現代史	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
西洋文化史	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
フランス史	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
ドイツ史	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
イギリス史	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
歴史学文献講読Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
歴史学文献講読Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
都市社会史	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
比較女性史	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
比較家族史	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
日本古代史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
日本古代史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
日本中世史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
日本中世史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
日本近世史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
日本近世史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
日本近代史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
日本近代史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
日本古代史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
日本古代史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
日本中世史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
日本中世史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
日本近世史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
日本近世史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
日本近代史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
日本近代史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
東アジア史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
東アジア史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
西アジア史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
西アジア史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
東アジア史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
東アジア史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
西アジア史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
西アジア史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
比較アジア史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
比較アジア史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
比較アジア史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
比較アジア史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
西洋政治史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
西洋政治史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
西洋社会史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
西洋社会史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
西洋社会経済史演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
西洋社会経済史演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
西洋政治史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
西洋政治史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
西洋社会史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
西洋社会史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
西洋社会経済史料演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
西洋社会経済史料演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	

カリキュラムポリシー	
①教育目標	総合科学（関係の学）としての地理学の知識を講義、演習によって提供し、自然・人文・社会科学のそれぞれの分野が問題とする現象の地域性、場所性について、地理的センスを身に付けてもらいます。
②内容・構成	自然、政治、経済、社会、文化、言語などのいずれの現象においても、それらが生起する特定の地理的コンテキストの理解が不可欠です。近年の知識情報化社会では、地理的知識・スキル・センスのもつ重要性は、ますます高まるものと考えられます。こうした社会的要請にこたえるための地理学的基礎を、講義と実習で行います。

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
人間と空間	2	I～II	選択	Pink	以下の科目から既修得単位を除く12単位選択
自然と人間	2	I～II	選択	Pink	
都市と自然	2	I	選択	Pink	
地誌学	2	II～IV	選択	Green	
都市地理学	2	I～IV	選択	Green	
経済地理学	2	I～IV	選択	Green	
社会地理学	2	I～IV	選択	Green	
自然地理学	2	I～IV	選択	Green	
文化地理学	2	I～IV	選択	Green	
地理学英書講読	2	I～II	選択	Green	
地図学	2	II～IV	選択	Green	
測量学	2	II～IV	選択	Green	
人文地理学分析基礎演習	4	II～III	選択	Green	
環境地理学基礎演習	4	II～III	選択	Green	以下の科目から2単位選択
地域分析学演習 I	2	II～IV	選択	Red	
環境地理学演習 I	2	II～IV	選択	Red	
自然地理学演習 I	2	II～IV	選択	Red	
文化地理学演習	2	II～IV	選択	Red	
社会地理学演習 I	2	II～IV	選択	Red	
都市・福祉地理学演習 I	2	II～IV	選択	Red	
地理学フィールドワーク B	2	I～III	必修	Green	



## カリキュラムポリシー

## ①教育目標

本プログラムにおいては、日本語・日本文学について広範に学び、言語と文学の観点から日本文化の本質を考察する識見と力量を育むことを目標とします。日本語学・日本上代文学・日本中古文学・日本中世文学・日本近世文学・日本近代文学・日本現代文学の各領域にわたって、その基礎的なところを学習します。

## ②内容・構成

副プログラムは、日本語・日本文学以外のプログラムを主とする学生のためのカリキュラムです。基礎的知識の広範な習得を重視して、科目群も広範かつ基本的なものを配置しています。

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
日本文学概説	2	I～II	必修	Pink	
日本古典文学史論（上代）	2	I～II	選択	Green	以下の科目から6単位選択
日本古典文学史論（中古）	2	I～III	選択	Green	
日本古典文学史論（中世）	2	II～III	選択	Green	
日本古典文学史論（近世）	2	II～IV	選択	Green	
日本近代文学史論（近代）	2	III～IV	選択	Green	
日本近代文学史論（現代）	2	III～IV	選択	Green	
日本語学通論	2	I～II	選択	Pink	
日本語語彙論	2	I～IV	選択	Green	
日本語文法総論	2	I～IV	選択	Green	
日本語音声表現論	2	I～IV	選択	Green	
日本語文章表現論	2	I～II	選択	Pink	以下の科目から4単位選択
日本文学論講読Ⅰ	2	I～III	選択	Pink	
日本文学論講読Ⅱ	2	I～III	選択	Pink	
日本文学論講読Ⅲ	2	I～III	選択	Pink	
日本文学論講読Ⅳ	2	I～III	選択	Pink	以下の科目から6単位選択
日本語学特殊研究	2	II～IV	選択	Green	
日本語史特殊研究	2	II～IV	選択	Green	
日本古典文学論特殊研究（上代）	2	I～IV	選択	Green	
日本古典文学論特殊研究（中古）	2	II～IV	選択	Green	
日本古典文学論特殊研究（中世）	2	II～IV	選択	Green	
日本古典文学論特殊研究（近世）	2	II～IV	選択	Green	
日本近代文学論特殊研究（近代）	2	II～IV	選択	Green	
日本近代文学論特殊研究（現代）	2	II～IV	選択	Green	
日本語学特殊講義Ⅰ	2	II～IV	選択	Red	
日本語学特殊講義Ⅱ	2	II～IV	選択	Red	
日本古典文学論特殊講義Ⅰ	2	II～IV	選択	Red	
日本古典文学論特殊講義Ⅱ	2	II～IV	選択	Red	
日本古典文学論特殊講義Ⅲ	2	II～IV	選択	Red	
日本近代文学論特殊講義Ⅰ	2	II～IV	選択	Red	
日本近代文学論特殊講義Ⅱ	2	II～IV	選択	Red	

## カリキュラムポリシー

## ①教育目標

中国語圏言語文化コース以外の主プログラムを履修する学生が、その主プログラムの学習内容と中国の言語文化とを連携させて学際的な学習・研究を行うことを目標とします。

## ②内容・構成

本プログラムは、中国語の実践的運用能力を習得するための科目群（選択）、現代文化・現代語学・古典文献・古典文学の四分野の基本的知識を習得するための科目群（選択）、四分野に関する研究的アプローチの方法を習得するための科目群（選択）から構成されます。

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
中国語学概論	2	I～II	必修	Pink	
中国古典文学史（先秦～唐）	2	I～II	必修	Pink	
中国語ヒアリング基礎	2	I～II	選択	Green	以下の科目から4単位以上 選択
中国語コミュニケーション・スキル	2	II～IV	選択	Green	
中国語作文基礎演習	2	II～IV	選択	Red	
中国語作文応用演習	2	II～IV	選択	Red	
中国語講読	2	II～IV	選択	Green	以下の科目から6単位以上 選択
中国文化論	2	II～IV	選択	Green	
中国現代作家論	2	II～IV	選択	Red	
日中対照言語学	2	II～IV	選択	Green	
中国語統語論	2	II～IV	選択	Green	
中国古典文献講読入門	2	II～IV	選択	Green	
中国古典文献講読基礎	2	II～IV	選択	Green	
中国文学古典講読	2	II～IV	選択	Green	
中国文学古典演習	2	II～IV	選択	Red	

## カリキュラムポリシー

## ①教育目標

英語圏言語文化副プログラムは、英語圏言語文化以外の領域を主専攻とする学生が副専攻として履修することを主たる目的として設置されています。また英語圏言語文化以外の主プログラムとこのプログラムを併せて履修する形で、中学・高等学校の教員免許（英語）を取得することも可能です。

## ②内容・構成

本プログラムの内容は、主として、英語圏の言語文化を研究するための基礎的科目群、中学・高等学校の教員免許（英語）取得に必要な単位を取得することのできる科目群、学際的研究に関心をもつ他専攻の学生に教養として英語圏言語文化に関する最先端の学問的成果を提供することを想定した科目群から構成されています。

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
英文法Ⅰ	2	I	必修	Pink	
英文法Ⅱ	2	I	必修	Pink	
英米文学演習（初級）	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Pink	以下の科目から4単位選択
英作文演習（初級）	2	Ⅱ	選択	Pink	
英会話演習（初級）	2	Ⅱ	選択	Pink	
英語学入門	2	Ⅱ	選択	Pink	以下の科目から4～6単位選択
英語学概論	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
英文法演習	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
英語音声学演習	2	Ⅱ	選択	Green	
英文学史Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅲ	選択	Green	
英文学史Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
米文学史Ⅰ	2	Ⅲ	選択	Green	
米文学史Ⅱ	2	Ⅲ	選択	Green	
英作文演習（中級）	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	以下の科目から6～8単位選択
英会話演習（中級）	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
英文学特殊講義Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Red	
英文学特殊講義Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Red	
英文学特殊講義Ⅲ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Red	
英文学特殊講義Ⅳ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Red	
英文学特殊講義Ⅴ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Red	
英文学特殊講義Ⅵ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Red	
英文学特殊講義Ⅶ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Red	
英文学特殊講義Ⅷ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Red	
英語学特殊講義Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
英語学特殊講義Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
英語学特殊講義Ⅲ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
英語学特殊講義Ⅳ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
英語学特殊講義Ⅴ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
英語学特殊講義Ⅵ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
英語学特殊講義Ⅶ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
英語学特殊講義Ⅷ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
英語圏言語文化研究	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
英米事情	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Green	
第二言語教授法研究	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Green	

カリキュラムポリシー	
①教育目標	仏語圏言語文化以外の主プログラムを履修した学生が、自分が学んだ主プログラムの内容と本プログラムの内容とを関連させて、学際的な知識や複合的な能力を獲得することを目標とします。
②内容・構成	主プログラムを構成する5つの科目群から、学科共通科目の科目群を除いた残りの4つの科目群から構成されます。履修者の関心に応じて、特に1つの分野を集中的に履修してもよく、また幅広くいくつかの分野を履修するのもよいでしょう。

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
欧州文化論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	以下の科目から20単位選択
欧州文化論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
西欧社会文化論Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Pink	
西欧社会文化論Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Pink	
西欧社会文化論Ⅲ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
西欧社会文化論Ⅳ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
独文学演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
独文学演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
独文学特殊講義Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
独文学特殊講義Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
ギリシャ語	4	Ⅰ～Ⅳ	選択	Pink	
ラテン語	4	Ⅰ～Ⅳ	選択	Pink	
スペイン語	4	Ⅰ～Ⅳ	選択	Pink	
イタリア語	4	Ⅰ～Ⅳ	選択	Pink	
仏語圏言語文化論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
仏語圏言語文化論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
仏語圏言語文化論Ⅲ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
仏語圏言語文化論Ⅳ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
仏語圏社会言語論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
仏語圏社会言語論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
フランス社会文化論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
フランス社会文化論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
フランス社会文化論Ⅲ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
フランス社会文化論Ⅳ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
基礎仏作文演習	2	Ⅱ	選択	Green	
中級仏作文演習	2	Ⅱ	選択	Green	
基礎仏会話演習	2	Ⅱ	選択	Green	
中級仏会話演習	2	Ⅱ	選択	Green	
上級仏会話演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
上級仏会話演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
基礎仏語学演習	2	Ⅲ	選択	Red	
中級仏語学演習	2	Ⅲ	選択	Red	
上級仏語学演習Ⅰ	2	Ⅳ	選択	Red	
上級仏語学演習Ⅱ	2	Ⅳ	選択	Red	
応用仏語学演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
応用仏語学演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
近代仏文学演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
近代仏文学演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
近代仏文学特殊講義Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
近代仏文学特殊講義Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
現代仏文学演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
現代仏文学演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
現代仏文学特殊講義Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
現代仏文学特殊講義Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
仏文学特殊研究	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
仏文学特別研究	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	

## カリキュラムポリシー

## ①教育目標

- ・多様な言語、文化的背景を持つ学習者を理解し、彼らのコミュニケーション能力を向上させるための基盤となる理論や方法、専門性と実践力をもったグローバル社会の日本語教育専門家を育成します。
- ・外国語または第二言語としての日本語教育のスキルを獲得します。

## ②内容・構成

- ・日本語教育副プログラムの科目を学ぶことにより、国内外の教育機関等で活躍する日本語教育専門家に必要とされる専門知識の基礎や実践力を学びます。
- ・所定の科目群中、必修科目を2単位、選択科目を18単位履修すればこのプログラムの必要要件を満たすことができます。

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
第二言語教授法演習Ⅰ	2	I～Ⅳ	必修	Pink	以下の科目から18単位選択
第二言語教授法演習Ⅱ	2	I～Ⅲ	選択	Pink	
日本語表現法概論	2	I～Ⅳ	選択	Pink	
日本語教育学研究法実習	2	I～Ⅳ	選択	Green	
日本語教育学概論Ⅰ	2	I～Ⅳ	選択	Pink	
日本語教育学概論Ⅱ	2	I～Ⅳ	選択	Pink	
日本語教育法演習	2	I～Ⅳ	選択	Green	
多文化間人間関係論演習	2	I～Ⅳ	選択	Green	
異文化間教育学演習	2	I～Ⅳ	選択	Green	
社会言語学演習	2	I～Ⅳ	選択	Green	
日本語学概論Ⅰ	2	I～Ⅳ	選択	Pink	
日本語学概論Ⅱ	2	I～Ⅳ	選択	Pink	
日本語非母語話者年少者教育学概論	2	I～Ⅳ	選択	Pink	
日本語教育学特殊講義	2	I～Ⅳ	選択	Green	

カリキュラムポリシー
<p>①教育目標</p> <p>社会学プログラムは、理論的ないし実証的方法により、人間の意識と行動の社会的側面、およびその基盤をなす社会の構造と変動を多角的に分析・考察し、人間や社会を広く根本的に見通す力量を育てることを目標としています。社会学の基礎理論と研究方法、および社会意識、ジェンダー、社会政策等の主要な研究領域に対応する科目、および文化人類学、教育社会学等の隣接領域に関する科目を用意し、学生それぞれが持つ社会に対する関心を育てる事を目指しています。</p> <p>②内容・構成</p> <p>社会学以外の主プログラムを履修する学生を対象とした副プログラムでは、社会学・行動科学の基礎を学ぶ為の、「人間と社会」を含む学科共通科目を2科目4単位履修する他、社会調査法4単位を必修とする事で社会学の特色である実証研究の方法を修得します。また社会学の講義科目から4科目履修する事で多様な社会学的テーマについての理解を深め、社会学の演習科目2科目に参加する事で、反省的批判的思考の訓練をしながら自らの問題関心を育ててゆく事を目指します。</p>

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
人間と社会	2	I～II	選択	Pink	以下の科目から4単位選択。 ただし、人間社会科学科の学生は、本プログラムの他の科目で単位を満たすことができる。
人間科学論	2	I～II	選択	Pink	
人間科学方法論	2	I～II	選択	Pink	
人間と情報	2	I～II	選択	Pink	
人間と発達	2	I～II	選択	Pink	
ジェンダー論	2	I～IV	選択	Pink	以下の科目から8単位選択
現代社会論	2	I～IV	選択	Pink	
現代生活論	2	I～IV	選択	Pink	
社会意識論	2	II～IV	選択	Green	
比較社会論	2	II～IV	選択	Green	
社会政策論 I	2	I～IV	選択	Pink	
社会政策論 II	2	II～IV	選択	Green	
社会問題論	2	II～IV	選択	Green	
社会調査の設計と実施	2	I～IV	選択	Pink	
ジェンダー論演習 I	2	III～IV	選択	Red	
ジェンダー論演習 II	2	III～IV	選択	Red	
現代社会論演習 I	2	III～IV	選択	Red	
現代社会論演習 II	2	III～IV	選択	Red	
社会保障論演習 I	2	III～IV	選択	Red	
社会保障論演習 II	2	III～IV	選択	Red	
社会政策論演習 I	2	II～IV	選択	Red	
社会政策論演習 II	2	II～IV	選択	Red	
現代生活論演習 I	2	III～IV	選択	Red	
現代生活論演習 II	2	III～IV	選択	Red	
社会意識論演習 I	2	III～IV	選択	Red	
社会意識論演習 II	2	III～IV	選択	Red	
社会調査法	4	II～IV	必修	Red	

カリキュラムポリシー	
①教育目標	教育科学以外の主プログラムを履修した学生が、自分が学んだ主プログラムの内容と教育科学の内容とを関連させて、学際的な研究を行うことを目標とします。
②内容・構成	「人間と発達」（教育科学コースの担当教員が自分の専門領域の概要を講義）を必修としつつ、概論（3～5科目）と特殊講義（3～5科目）を中心に履修します。基本的な知識を幅広く得るために概論・特殊講義を広く履修することも可能ですが、特定のことがらを深く学ぶために特定領域の概論・特殊講義を土台にして最後に演習を履修することもできます。

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考	
人間と発達	2	I～II	必修	Pink		
教育思想概論	2	I～IV	選択	Pink	以下の科目から6単位以上選択	
教育史概論	2	I～IV	選択	Pink		
教育社会学概論	2	I～IV	選択	Pink		
文化人類学概論	2	I～IV	選択	Pink		
教育行財政学概論	2	I～IV	選択	Pink		
教育方法学概論	2	I～IV	選択	Pink		
教育課程概論	2	I～IV	選択	Pink		
教育開発概論	2	I～IV	選択	Pink		
生涯学習概論	2	I～IV	選択	Pink		
教育科学概論Ⅰ	2	I～IV	選択	Pink		
教育科学概論Ⅱ	2	I～IV	選択	Pink		
教育思想特殊講義	2	I～IV	選択	Green		以下の科目から6単位以上選択
教育人間学特殊講義	2	I～IV	選択	Green		
教育史特殊講義	2	I～IV	選択	Green		
教育史料分析特殊講義	2	I～IV	選択	Green		
教育社会学特殊講義	2	I～IV	選択	Green		
学校社会学特殊講義	2	I～IV	選択	Green		
文化人類学特殊講義	2	I～IV	選択	Green		
民族誌学特殊講義	2	I～IV	選択	Green		
教育方法学特殊講義	2	I～IV	選択	Green		
教育課程特殊講義	2	I～IV	選択	Green		
教育開発特殊講義	2	I～IV	選択	Green		
比較教育特殊講義	2	I～IV	選択	Green		
生涯学習特殊講義	2	I～IV	選択	Green		
社会教育学特殊講義	2	I～IV	選択	Green		
教育科学特殊講義Ⅰ	2	I～IV	選択	Green		
教育科学特殊講義Ⅱ	2	I～IV	選択	Green		
教育科学特殊講義Ⅲ	2	II～IV	選択	Green		
教育科学特殊講義Ⅳ	2	I～IV	選択	Green		
学校インターンシップ	2	II～IV	選択	Green		
教育思想演習	4	III～IV	選択	Red	以下の科目から0～8単位選択	
教育人間学演習	4	III～IV	選択	Red		
教育史演習	4	III～IV	選択	Red		
教育史料分析演習	4	III～IV	選択	Red		
教育社会学演習	4	III～IV	選択	Red		
学校社会学演習	4	III～IV	選択	Red		
文化人類学演習	4	III～IV	選択	Red		
民族誌学演習	4	III～IV	選択	Red		



授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
教育方法学演習	4	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
教育課程演習	4	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
教育開発演習	4	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
比較教育演習	4	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
生涯学習演習	4	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
社会教育学演習	4	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
教育科学演習Ⅰ	4	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
教育科学演習Ⅱ	4	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	

カリキュラムポリシー
<p>①教育目標</p> <p>心理学は、実証的な方法によって、人間や他の動物などの行動を観察・分析し、人間の心的な活動の仕組みや働きを解明しようとする学問です。副プログラムA(人間科学科学生用)では、学生に、心理学を理解するために必要な基礎的な知識と技法を学ばせるとともに、それぞれが主専攻として学ぶ社会学あるいは教育学と心理学との融合的な視点を獲得させ、人間に関わる事象と社会とのかかわりについての理解を深化させることを目的としています。</p> <p>②内容・構成</p> <p>概論および展開の履修によって心理学の基礎的かつ幅広い教養を身に付けるとともに、心理学の基本的な方法論(心理統計学および演習(基礎))を習得し、人間に関わる事象への理解と科学的な見方を養います。</p>

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
発達心理学概論	2	I ~ II	選択	Pink	以下の科目から4単位以上 選択
認知心理学概論	2	I ~ IV	選択	Pink	
教育心理学概論	2	I ~ IV	選択	Pink	
社会心理学概論	2	I ~ II	選択	Pink	
臨床心理学概論	2	I ~ IV	選択	Pink	
心理統計法	2	II ~ IV	選択	Pink	
発達心理学演習(基礎)	2	II ~ IV	選択	Green	以下の科目から4単位以上 選択
認知心理学演習(基礎)	2	II ~ IV	選択	Green	
教育心理学演習(基礎)	2	II ~ IV	選択	Green	
社会心理学演習(基礎)	2	II ~ IV	選択	Green	
臨床心理学演習(基礎)	2	II ~ IV	選択	Green	
発達心理学の展開	2	II ~ III	選択	Green	
認知心理学の展開	2	II ~ III	選択	Green	
教育心理学の展開	2	II ~ III	選択	Green	
社会心理学の展開	2	II ~ III	選択	Green	
臨床心理学の展開	2	II ~ III	選択	Green	
発達心理学特殊講義	2	II ~ IV	選択	Red	
認知心理学特殊講義	2	II ~ IV	選択	Red	
教育心理学特殊講義	2	II ~ IV	選択	Red	
社会心理学特殊講義	2	II ~ IV	選択	Red	
臨床心理学特殊講義	2	II ~ IV	選択	Red	

カリキュラムポリシー
<p>①教育目標 心理学は、実証的な方法によって、人間や他の動物などの行動を観察・分析し、人間の心的な活動の仕組みや働きを解明しようとする学問です。副プログラム B (人間社会科学科以外の学生用) では、学生に、心理学を理解するために必要な基礎的な知識と基本的な技法を学ばせ、人間に関わる事象に関するより深い理解力を身につけさせます。</p> <p>②内容・構成 概論・心理基礎科目および展開の履修によって心理学の基礎的かつ幅広い教養を身に付け、人間に関わる事象への理解と科学的な見方を養います。</p>

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
人間科学方法論	2	I ~ II	必修	Pink	以下の科目から 4 単位以上 選択
人間と情報	2	I ~ II	必修	Pink	
発達心理学概論	2	I ~ II	選択	Pink	
認知心理学概論	2	I ~ IV	選択	Pink	
教育心理学概論	2	I ~ IV	選択	Pink	
社会心理学概論	2	I ~ II	選択	Pink	
臨床心理学概論	2	I ~ IV	選択	Pink	
心理統計法	2	II ~ IV	選択	Pink	
発達心理学の展開	2	II ~ III	選択	Green	以下の科目から 4 単位以上 選択
認知心理学の展開	2	II ~ III	選択	Green	
教育心理学の展開	2	II ~ III	選択	Green	
社会心理学の展開	2	II ~ III	選択	Green	
臨床心理学の展開	2	II ~ III	選択	Green	
発達心理学演習 (基礎)	2	II ~ IV	選択	Green	
認知心理学演習 (基礎)	2	II ~ IV	選択	Green	
教育心理学演習 (基礎)	2	II ~ IV	選択	Green	
社会心理学演習 (基礎)	2	II ~ IV	選択	Green	
臨床心理学演習 (基礎)	2	II ~ IV	選択	Green	
発達心理学特殊講義	2	II ~ IV	選択	Red	
認知心理学特殊講義	2	II ~ IV	選択	Red	
教育心理学特殊講義	2	II ~ IV	選択	Red	
社会心理学特殊講義	2	II ~ IV	選択	Red	
臨床心理学特殊講義	2	II ~ IV	選択	Red	

カリキュラムポリシー	
①教育目標	舞踊教育学コース副プログラムでは、他コースの学生を対象として、舞踊や運動科学に関する基礎的な科目を提供します。このプログラムを履修することにより、舞踊や運動が人間にとってどのような意義があるのかについての理解を深めることが出来、自らの専門分野の研究に活かすことが出来ます。
②内容・構成	舞踊学概論と表現行動論は、本プログラムにおける中心的科目であり、必修科目に位置づけられています。その他の科目は概論、演習、特殊講義、実習から構成されていますが、演習科目の履修には、その基礎となる概論科目をあらかじめ履修しておくことが条件とされます。実習科目は舞踊や運動経験の少ない人でも無理なく履修できる内容となっており、理論面での理解を深めるためにも履修することが望ましいものです。

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考	
舞踊学概論	2	I	必修	Pink		
表現行動論Ⅰ	2	I～Ⅳ	選択	Pink	以下の科目から6～14単位選択	
表現行動論Ⅱ	2	I～Ⅳ	選択	Pink		
舞踊芸術学	2	Ⅱ	選択	Green		
民族舞踊学	2	Ⅱ	選択	Green		
臨床舞踊論	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green		
スポーツ人間学	2	Ⅱ	選択	Green		
体育原理	2	Ⅱ	選択	Green		
動作学	2	Ⅱ	選択	Green		
舞踊・運動科学研究法入門	2	Ⅱ	選択	Pink		
舞踊芸術学実験演習	2	Ⅲ	選択	Red		以下の科目から0～4単位選択
民族舞踊学実験演習	2	Ⅲ	選択	Red		
臨床舞踊論実験演習	2	Ⅲ	選択	Red		
スポーツ人間学実験演習	2	Ⅲ	選択	Red		
動作学実験演習	2	Ⅲ	選択	Red		
スポーツ文化論演習	2	Ⅲ	選択	Red		
体育心理学	2	I～Ⅳ	選択	Green	以下の科目から0～8単位選択	
運動学（運動方法学を含む）	2	I～Ⅳ	選択	Green		
解剖学	2	Ⅱ	選択	Green		
生理学（運動生理学を含む）	2	Ⅱ	選択	Green		
舞踊学特殊講義	2	I～Ⅳ	選択	Green		
運動科学特殊講義	2	I～Ⅳ	選択	Green		
舞踊教育法実習（初等教育）	1	I～Ⅳ	選択	Green	以下の科目から0～2単位選択	
舞踊教育法実習（中等教育）	1	Ⅲ	選択	Green		
民族舞踊実習（基礎）	1	I～Ⅳ	選択	Pink		

## カリキュラムポリシー

## ①教育目標

音楽表現コース副プログラムでは、他コースの学生を対象として、音楽学に関する基礎的な科目を提供します。このプログラムを履修することにより、音楽に対してどのような学問的アプローチがあるのか、について理解を深めるとともに、自らの専門分野との関連を学ぶことが出来ます。

## ②内容・構成

音楽学概論と日本音楽史概論、西洋音楽史IとIIは、必修科目です。その他の科目は概論や演習からなっていますが、演習科目の履修には、その基礎となる概論科目をあらかじめ履修しておく必要があります。なお、西洋音楽史IおよびII、音楽学研究法、音楽学基礎演習はいずれも英語のテキストを使用します。

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
音楽学概論	2	I～IV	選択	Pink	以下の科目から8～14単位 選択
日本音楽史概論	2	I	選択	Pink	
西洋音楽史I	2	I	選択	Pink	
西洋音楽史II	2	II	選択	Green	
音楽学研究法	2	II	選択	Green	
音楽形式論	2	I～II	選択	Pink	
民族音楽学	2	II～IV	選択	Green	
音楽学基礎演習I	2	II	選択	Green	以下の科目から4～8単位選択
音楽学基礎演習II	2	II	選択	Green	
音楽学研究演習	4	III～IV	選択	Red	
音楽学特殊講義I	2	II～IV	選択	Green	以下の科目から0～4単位選択
音楽学特殊講義II	2	II～IV	選択	Green	
西洋音楽史特殊講義I	2	II～IV	選択	Green	
西洋音楽史特殊講義II	2	II～IV	選択	Green	
アジア音楽論I	2	II～IV	選択	Green	
アジア音楽論II	2	II～IV	選択	Green	

カリキュラムポリシー	
①教育目標	グローバル化時代に、文化の差異を理解しながら、その差異をこえて協働し、人々と共に新しい関係や価値を創り出していく力をもった市民を育てます。
②内容・構成	次の科目群からなり、いずれの科目においても学生との双方向的教育を重視し、国内外からの講師招聘やインターネットを含む交流授業をとりいれています。
	(1) 政治・経済・文化のグローバル化を理解する基礎科目
	(2) 変容する地域や文化をどのように理解するかを学ぶ「地域研究・地域文化（Comprehension）」
	(3) 多様な文化をもつ人々が交流するための理論と実践を学ぶ「多文化交流（Communication）」
	(4) 国際的な場での平和と協力について学ぶ「国際関係・国際協力（Collaboration）」
	(5) 地域研究、多文化交流、国際協力にかかわる現場を体験し、現場でのコミュニケーションや問題解決の力を養う「実習」
	(6) グローバル文化学にかかわる研究法

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
グローバル文化学総論	2	I～IV	選択	Pink	以下の科目から4～8単位選択
国際関係論	2	I～IV	選択	Pink	
グローバル・メディア論	2	I～IV	選択	Pink	
グローバル化と経済	2	I～IV	選択	Pink	
比較ジェンダー論	2	I～IV	選択	Green	
比較法文化論	2	I～IV	選択	Pink	
グローバル・ヒストリー	2	I～IV	選択	Pink	
地域研究方法論	2	II～IV	選択	Green	
文化理論研究	2	II～IV	選択	Green	
多文化間交流論	2	II～IV	選択	Green	
言語と文化	2	II～IV	選択	Green	
国際協力学	2	I～IV	選択	Green	
文化変動論 I	2	II～IV	選択	Green	
文化変動論 II	2	III～IV	選択	Red	
イスラム社会文化論 I	2	II～IV	選択	Green	
イスラム社会文化論 II	2	III～IV	選択	Red	
オセアニア社会文化論 I	2	II～IV	選択	Green	
オセアニア社会文化論 II	2	III～IV	選択	Red	
対日交流論	2	II～IV	選択	Green	
中国社会文化論	2	II～IV	選択	Green	
東アジア社会文化論	2	II～IV	選択	Green	
南アジア社会文化論	2	II～IV	選択	Green	
アフリカ社会文化論	2	II～IV	選択	Green	
地域研究特論	2	II～IV	選択	Green	
英米事情	2	III～IV	選択	Green	
文化と人間関係 I	2	II～IV	選択	Green	
文化と人間関係 II	2	III～IV	選択	Red	
グローバル化と言語教育 I	2	II～IV	選択	Green	
グローバル化と言語教育 II	2	III～IV	選択	Red	
文化と心理	2	II～IV	選択	Green	
表現行動論 I	2	I～IV	選択	Pink	
表現行動論 II	2	I～IV	選択	Pink	
言語と社会 I	2	II～IV	選択	Green	
言語と社会 II	2	II～IV	選択	Green	

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
多文化共生論	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
国際交流論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
国際交流論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
多文化交流特論	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
国際協力方法論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
国際協力方法論Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
平和構築論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
平和構築論Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
国際開発論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
国際開発論Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
グローバル化と労働	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
国際機構論	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
国際教育協力論	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
NGO/NPO論	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
比較社会政策論	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
地域開発論	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
国際金融論	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
国際協力特論	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
多文化交流実習Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green	
多文化交流実習Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Red	
多文化交流実習Ⅲ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green	
多文化交流実習Ⅳ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Red	
グローバル文化学実習	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green	
地域研究実習Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
地域研究実習Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green	
国際協力実習Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green	
国際協力実習Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Red	
国際協力実習Ⅲ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
フィールドワーク方法論	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
グローバル文化学方法論	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
卒業研究演習	2	Ⅳ	選択	Red	

# 芸術・表現行動学科 舞踊教育学コース

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考	
<b>●専攻科目（必修）</b>						
舞踊芸術学	2	Ⅱ	必修	Green		
民族舞踊学	2	Ⅱ	必修	Green		
臨床舞踊論	2	Ⅱ	必修	Green		
スポーツ人間学	2	Ⅱ	必修	Green		
体育原理	2	Ⅱ	必修	Green		
動作学	2	Ⅱ	必修	Green		
モダンダンス・テクニック（初級）	1	Ⅰ	必修	Pink		
舞踊創作法実習（舞踊構成法）	1	Ⅱ	必修	Green		
舞踊創作法実習（即興創作）	1	Ⅰ	必修	Pink		
民族舞踊実習（基礎）	1	Ⅰ	必修	Pink		
舞踊教育法実習（中等教育）	1	Ⅲ	必修	Green		
舞踊・運動科学研究法入門	2	Ⅱ	必修	Pink		
舞踊・運動科学研究法演習	2	Ⅲ	必修	Red		
卒業論文	8	Ⅳ	必修	Red		
<b>●専攻科目（選択）</b>						
舞踊学概論	2	Ⅰ	選択	Pink		専攻科目（選択）及び関連科目から35単位以上選択
表現行動論Ⅰ	2	Ⅰ	選択	Pink		
表現行動論Ⅱ	2	Ⅰ	選択	Pink		
モダンダンス・テクニック（中級）Ⅰ	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green		
モダンダンス・テクニック（中級）Ⅱ	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green		
モダンダンス・テクニック（上級）	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green		
舞踊創作法実習（舞踊上演・制作）	2	Ⅲ	選択	Red		
舞踊教育法実習（初等教育）	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green		
民族舞踊実習（発展）	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green		
舞踊上演法実習（初級）	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green		
舞踊上演法実習（中級）	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green		
舞踊上演法実習（上級）	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green		
舞踊表現技法実習	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green		
舞踊芸術学実験演習	2	Ⅲ	選択	Red		
民族舞踊学実験演習	2	Ⅲ	選択	Red		
臨床舞踊論実験演習	2	Ⅲ	選択	Red		
スポーツ人間学実験演習	2	Ⅲ	選択	Red		
動作学実験演習	2	Ⅲ	選択	Red		
スポーツ文化論演習	2	Ⅲ	選択	Red		
陸上競技	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green		
器械体操	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green		
新体操	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	Pink		
球技（基礎）	1	Ⅰ～Ⅱ	選択	Pink		
球技（指導法）	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green		
球技（教材研究）	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green		
水泳実習	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green		
スキー実習	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green		
日本舞踊実習	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green		
バレエ実習	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green		
舞踊音楽構成法	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green		
運動学（運動方法学を含む）	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green		
解剖学	2	Ⅱ	選択	Green		

授業科目一覧

Ⅱ

2

専門教育科目  
文教育学部



授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考	
生理学（運動生理学を含む）	2	Ⅱ	選択	Green		
体育心理学	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green		
衛生学及び公衆衛生学	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green		
学校保健	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green		
病理学	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green		
学校安全と救急看護	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green		
舞踊学特殊講義	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green		
運動科学特殊講義	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Green		
表現療法講義演習	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Red		
舞踊・スポーツ情報演習	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Red		
<b>●関連科目（選択）</b>						
教育方法学概論	2		選択	Pink		
教育社会学概論	2		選択	Pink		
文化人類学概論	2		選択	Pink		
生涯学習概論	2		選択	Pink		
<b>●専攻科目（選択）－高大連携科目</b>						
舞踊教育学選択基礎	2	Ⅰ	選択			
<p>高大連携科目は、大学との連携を行っている高校の生徒が履修する科目であるため、大学生は履修できない。なお、履修した生徒が本学に入学した場合は、当該科目は別表第1（第6条関係）「自由に選択して履修する科目・単位」内の「専攻科目 選択」の単位として認定することができる。</p>						

## 芸術・表現行動学科 音楽表現コース

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
<b>●専攻科目（必修）</b>					
ソルフェージュ	2	I	必修	Pink	
音楽形式論	2	I～II	必修	Pink	
ピアノⅠ演習（伴奏を含む）	4	I	必修	Pink	
声楽Ⅰ演習	4	I	必修	Pink	
作曲原論Ⅰ	2	I	必修	Pink	
作曲原論Ⅱ	2	I	必修	Pink	
西洋音楽史Ⅰ	2	I	必修	Pink	
西洋音楽史Ⅱ	2	II	必修	Green	
日本音楽史概論	2	I	必修	Pink	
音楽学研究法	2	II	必修	Green	
音楽学基礎演習Ⅰ	2	II	必修	Green	
音楽学基礎演習Ⅱ	2	II	必修	Green	
卒業研究	8	IV	必修	Red	
<b>●専攻科目（選択）</b>					
ピアノⅡ	4	II	選択	Green	以下の科目から28単位以上 選択
ピアノⅢ	4	III	選択	Red	
ピアノⅣ	4	IV	選択	Red	
ピアノ研究演習AⅠ	2	II～IV	選択	Pink	
ピアノ研究演習AⅡ	2	II～IV	選択	Pink	
ピアノ研究演習BⅠ	2	II～IV	選択	Pink	
ピアノ研究演習BⅡ	2	II～IV	選択	Pink	
ピアノ研究演習CⅠ	2	II～IV	選択	Pink	
ピアノ研究演習CⅡ	2	II～IV	選択	Pink	
ピアノレパートリー研究AⅠ	2	II～IV	選択	Green	
ピアノレパートリー研究AⅡ	2	II～IV	選択	Green	
ピアノレパートリー研究BⅠ	2	II～IV	選択	Green	
ピアノレパートリー研究BⅡ	2	II～IV	選択	Green	
ピアノレパートリー研究CⅠ	2	II～IV	選択	Green	
ピアノレパートリー研究CⅡ	2	II～IV	選択	Green	
ピアノ特別演習AⅠ	2	II～IV	選択	Green	
ピアノ特別演習AⅡ	2	II～IV	選択	Green	
ピアノ特別演習BⅠ	2	II～IV	選択	Green	
ピアノ特別演習BⅡ	2	II～IV	選択	Green	
ピアノ特別演習CⅠ	2	II～IV	選択	Green	
ピアノ特別演習CⅡ	2	II～IV	選択	Green	
ピアノ演奏法研究AⅠ	2	II～IV	選択	Red	
ピアノ演奏法研究AⅡ	2	II～IV	選択	Red	
ピアノ演奏法研究BⅠ	2	II～IV	選択	Red	
ピアノ演奏法研究BⅡ	2	II～IV	選択	Red	
ピアノ演奏法研究CⅠ	2	II～IV	選択	Red	
ピアノ演奏法研究CⅡ	2	II～IV	選択	Red	
ピアノ合奏研究	2	II～IV	選択	Green	
室内楽研究	2	II～IV	選択	Green	
ピアノ指導法研究	2	II～IV	選択	Green	
声楽Ⅱ	4	II	選択	Green	
声楽Ⅲ	4	III	選択	Red	
声楽Ⅳ	4	IV	選択	Red	

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
声楽特別演習	4	Ⅱ～Ⅳ	選択	Pink	
歌曲研究AⅠ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Green	
歌曲研究AⅡ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Green	
歌曲研究BⅠ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Green	
歌曲研究BⅡ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Green	
オペラ研究AⅠ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Red	
オペラ研究AⅡ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Red	
オペラ研究AⅢ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Red	
オペラ研究AⅣ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Red	
オペラ研究BⅠ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Red	
オペラ研究BⅡ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Red	
オペラ研究BⅢ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Red	
オペラ研究BⅣ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Red	
演奏身体論AⅠ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
演奏身体論AⅡ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
演奏身体論BⅠ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
演奏身体論BⅡ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
演奏身体論CⅠ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
演奏身体論CⅡ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
声楽指導法研究Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
声楽指導法研究Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
音楽学概論	2	I	選択	Pink	
指揮法	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Pink	
作曲Ⅰ	4	I	選択	Green	
作曲Ⅱ	4	Ⅱ	選択	Green	
西洋音楽史特殊講義Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
西洋音楽史特殊講義Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
民族音楽学	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Green	
アジア音楽論Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
アジア音楽論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
音楽学研究演習	4	Ⅲ	選択	Red	
音楽学特殊講義Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
音楽学特殊講義Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
日本音楽演奏法	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Pink	
合唱演習Ⅰ	2	I～Ⅳ	選択	Pink	
合唱演習Ⅱ	2	I～Ⅳ	選択	Green	
合奏演習	2	I	選択	Pink	
卒業演奏研究	2	Ⅳ	選択	Red	
卒業論文演習	4	Ⅳ	選択	Red	
<b>●専攻科目（選択）—高大連携科目</b>					
音楽表現選択基礎	2	I	選択		
<p>高大連携科目は、大学との連携を行っている高校の生徒が履修する科目であるため、大学生は履修できない。なお、履修した生徒が本学に入学した場合は、当該科目は別表第1（第6条関係）「自由に選択して履修する科目・単位」内の「専攻科目 選択」の単位として認定することができる。</p>					

## 学部共通科目

授業科目	単位	CCBM
法学通論	4	Pink
法学概論	2	Pink
政治学通論	4	Pink
政治学概論	2	Pink
経済学通論	4	Pink
経済学概論	2	Pink
社会学通論	4	Pink
社会学概論	2	Pink
ギリシャ語	4	Pink
ラテン語	4	Pink
スペイン語	4	Pink
イタリア語	4	Pink
哲学通論Ⅰ	2	Pink
哲学通論Ⅱ	2	Pink
倫理学通論Ⅰ	2	Pink
倫理学通論Ⅱ	2	Pink
文化交流論	2	Pink
アジア諸語Ⅰ	2	Pink
アジア諸語Ⅱ	2	Pink
アジア諸語Ⅲ	2	Pink
アジア諸語Ⅳ	2	Pink

## 全学共通科目

授業科目	単位	CCBM	備考
NPO入門	2	Pink	
女性リーダーへの道（入門編）	2	Pink	
女性リーダーへの道（ロールモデル入門編）	2	Pink	
女性リーダーへの道（実践入門編）	2	Green	
キャリアプランとライフプランⅠ	2	Pink	
キャリアプランとライフプランⅡ	2	Pink	
情報コミュニケーション技術と創発性	2	Pink	
働く女性の権利と地位	2	Pink	卒業に必要な単位に含めることができない
共生社会で働く	2	Pink	卒業に必要な単位に含めることができない
グループワークとマネジメント	2	Pink	卒業に必要な単位に含めることができない
キャリアプランニング実習	1	Pink	卒業に必要な単位に含めることができない
インターンシップ	1	Green	卒業に必要な単位に含めることができない
クリエイティブ・ライティングⅠ	2	Green	
クリエイティブ・ライティングⅡ	2	Green	
クリエイティブ・ライティングⅢ	2	Green	
クリエイティブ・ライティングⅣ	2	Green	
博物館学概論	2	Ivory	
博物館資料特殊講義	2	Ivory	
博物館活動特殊講義	2	Ivory	
博物館実習	3	Ivory	
初等解析学Ⅰ	2	Pink	
初等解析学Ⅱ	2	Pink	
初等線形代数学	2	Pink	

授業科目	単位	CCBM	備考
初等代数学	2	Pink	
数の歴史	2	Pink	
物理学概論A	2	Pink	
物理学概論B	2	Pink	
基礎化学A	2	Pink	
基礎科学B	2	Pink	
基礎生物学A	2	Pink	
基礎生物学B	2	Pink	
宇宙・地球科学	2	Pink	
地球環境科学	2	Pink	
大気・海洋科学概論	2	Pink	
地史・古生物学概論	2	Pink	
物理学基礎実験	2	Pink	
化学基礎実験	2	Pink	
生物学基礎実験	2	Pink	
地学基礎実験	2	Pink	
数理基礎論	2	Pink	
確率序論	2	Green	
コンピュータシステム序論	2	Pink	
生命情報学概論	2	Green	
計算生物学	2	Green	
海外交換留学認定科目	2～12	Green	
グローバル COE 人間発達科学論 I	2	Green	
グローバル COE 人間発達科学論 II	2	Green	
グローバル COE 人間発達科学論 III	2	Green	
科学英語 I	2		
科学英語 II	2		
物理学サブリメント	2	Pink	卒業に必要な単位に含めることができない
生物学サブリメント	2	Pink	卒業に必要な単位に含めることができない
英語基礎強化ゼミ	2	Pink	卒業に必要な単位に含めることができない
TOEFL 対策ゼミ R/L	2		卒業に必要な単位に含めることができない
TOEFL 対策ゼミ S/W	2		卒業に必要な単位に含めることができない
企画・運営力養成講座	2		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 I	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 II	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 III	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 IV	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 V	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 VI	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 VII	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 VIII	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 IX	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 X	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 X I	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 X II	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 X III	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 X IV	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 X V	1		卒業に必要な単位に含めることができない

# 人間社会科学科教職科目 社会コース（中学校・高等学校）

## 教科に関する科目

授業科目	単位	CCBM
日本史概説	2	Pink
日本文化史概論	2	Pink
アジア史概説	2	Pink
西洋史概説	2	Pink
考古学通論 I	2	Green
考古学通論 II	2	Green
歴史考古学	2	Green
教育史演習	4	Red
教育史料分析演習	4	Red
都市と自然	2	Pink
地誌学	2	Pink
自然地理学	2	Pink
文化地理学	2	Pink
社会地理学	2	Pink
地図学	2	Pink
自然と人間	2	Pink
人間と空間	2	Pink
文化人類学概論	2	Pink
文化人類学特殊講義	2	Green
民族誌学特殊講義	2	Green
文化人類学演習	4	Red
民族誌学演習	4	Red
法学通論	4	Pink
法学概論	2	Pink
政治学通論	4	Pink
政治学概論	2	Pink
社会学通論	4	Pink
社会学概論	2	Pink

授業科目	単位	CCBM
経済学通論	4	Pink
経済学概論	2	Pink
教育行財政学特殊講義	2	Ivory
教育政策科学演習	4	Ivory
教育行財政学演習	4	Ivory
現代生活論	2	Pink
経済地理学	2	Pink
都市地理学	2	Pink
現代社会論	2	Pink
社会政策論 I	2	Pink
社会調査法	4	Red
教育社会学特殊講義	2	Green
教育社会学演習	4	Red
学校社会学演習	4	Red
生涯学習概論	2	Pink
哲学通論 I	2	Ivory
哲学通論 II	2	Ivory
倫理学通論 I	2	Ivory
倫理学通論 II	2	Ivory
教育思想演習	4	Ivory
教育人間学演習	4	Red
日本倫理思想史 I	2	Green
日本倫理思想史 II	2	Green
西洋倫理思想史 I	2	Green
西洋倫理思想史 II	2	Green
社会心理学概論	2	Pink
認知心理学概論	2	Pink

授業科目一覧

II

2

文教育学部  
専門教育科目

## 教職 社会コース（中学校・高等学校）

### 教職に関する科目

授業科目	単位	CCBM
教職概論	2	Ivory
教育思想概論	2	Pink
教育史概論	2	Pink
教育心理学概論	2	Pink
発達心理学概論	2	Pink
発達臨床心理学 I	2	Green
教育行財政学概論	2	Pink
教育社会学概論	2	Pink
教育課程概論	2	Pink
社会科教育法 I（地理歴史）	2	Ivory
社会科教育法 II（公民）	2	Ivory

授業科目	単位	CCBM
公民科教育法	2	Ivory
道徳教育の研究	2	Ivory
特別活動の研究	2	Ivory
教育方法学概論	2	Pink
視聴覚教育メディア論	2	Ivory
臨床心理学概論	2	Pink
学校臨床学	2	Pink
事前・事後指導	1	Ivory
教育実習	高校は2単位 中学は4単位	Ivory
教職実践演習（教諭）	2	Ivory

## 教職 小学校・幼稚園コース

### 教科に関する科目

授業科目	単位	CCBM
国語科教育論	2	Ivory
社会科教育論	2	Ivory
算数科教育論	2	Ivory
理科教育論	2	Ivory
生活科教育論	2	Ivory
家庭科教育論	2	Ivory

授業科目	単位	CCBM
教職ピアノ	1	Ivory
教職声楽	1	Ivory
教職合唱	1	Ivory
教職指揮法	1	Ivory
図工科教育論	2	Ivory
幼・小体育実技	2	Ivory

### 教職に関する科目

授業科目	単位	CCBM
教職概論	2	Ivory
教育思想概論	2	Pink
教育史概論	2	Pink
教育心理学概論	2	Pink
発達心理学概論	2	Pink
発達臨床心理学 I	2	Green
教育行財政学概論	2	Pink
教育社会学概論	2	Pink
教育課程概論	2	Pink
小学校教材研究（国語）	2	Ivory
小学校教材研究（社会）	2	Ivory
小学校教材研究（算数）	2	Ivory
小学校教材研究（理科）	2	Ivory
小学校教材研究（生活）	2	Ivory
小学校教材研究（音楽）	2	Ivory
小学校教材研究（図工）	2	Ivory
小学校教材研究（家庭）	2	Ivory
小学校教材研究（体育）	2	Ivory
道徳教育の研究	2	Ivory
特別活動の研究	2	Ivory

授業科目	単位	CCBM
教育方法学概論	2	Pink
視聴覚教育メディア論	2	Ivory
保育課程論	2	Ivory
保育学	2	Green
保育内容の研究 I（言葉）	2	Ivory
保育内容の研究 II（人間関係）	2	Ivory
保育内容の研究 III（環境）	2	Ivory
保育表現 I（指導法）	2	Ivory
保育表現 II（指導法）	2	Ivory
保育内容・健康	2	Ivory
保育指導法 I	2	Ivory
保育指導法 II	2	Ivory
生徒指導の研究	2	Ivory
臨床心理学概論	2	Pink
学校臨床学	2	Pink
幼児理解と教育相談	2	Ivory
保育臨床学	2	Green
事前・事後指導	1	Ivory
教育実習	4	Ivory
教職実践演習（教諭）	2	Ivory

## 教職共通科目

授業科目	単位	CCBM
国語科教育論	2	Ivory
社会科教育論	2	Ivory
算数科教育論	2	Ivory
理科教育論	2	Ivory
生活科教育論	2	Ivory
家庭科教育論	2	Ivory

授業科目	単位	CCBM
教職ピアノ	1	Ivory
教職声楽	1	Ivory
教職合唱	1	Ivory
教職指揮法	1	Ivory
図工科教育論	2	Ivory
幼・小体育実技	2	Ivory

## 教職に関する科目 中学校・高等学校

授業科目	単位	CCBM
教職概論	2	Ivory
教育原論（思想・歴史）	2	Ivory
教育心理	2	Ivory
教育原論（社会・制度）	2	Ivory
教育課程論	2	Ivory
社会科教育法Ⅰ（地理歴史）	2	Ivory
社会科教育法Ⅱ（公民）	2	Ivory
地理歴史科教育法	2	Ivory
公民科教育法	2	Ivory
国語科教育法Ⅰ	2	Ivory
国語科教育法Ⅱ	2	Ivory
中国語科教育法Ⅰ	2	Ivory
中国語科教育法Ⅱ	2	Ivory
英語科教育法Ⅰ	2	Ivory
英語科教育法Ⅱ	2	Ivory

授業科目	単位	CCBM
保健体育科教育法Ⅰ	2	Ivory
保健体育科教育法Ⅱ	2	Ivory
音楽科教育法Ⅰ	2	Ivory
音楽科教育法Ⅱ	2	Ivory
道德教育の研究	2	Ivory
特別活動の研究	2	Ivory
教育方法論	2	Ivory
視聴覚教育メディア論	2	Ivory
生徒指導の研究	2	Ivory
学校カウンセリング	2	Ivory
事前・事後指導	1	Ivory
教育実習	高校は2単位 中学は4単位	Ivory
教職実践演習（教諭）	2	Ivory

## 教職に関する科目 小学校・幼稚園コース

授業科目	単位	CCBM	備考
教職概論	2	Ivory	
教育原論（思想・歴史）	2	Ivory	
教育心理	2	Ivory	
教育原論（社会・制度）	2	Ivory	
教育課程論	2	Ivory	小学校希望者
小学校教材研究（国語）	2	Ivory	〃
小学校教材研究（社会）	2	Ivory	〃
小学校教材研究（算数）	2	Ivory	〃
小学校教材研究（理科）	2	Ivory	〃
小学校教材研究（生活）	2	Ivory	〃
小学校教材研究（音楽）	2	Ivory	〃
小学校教材研究（図工）	2	Ivory	〃
小学校教材研究（家庭）	2	Ivory	〃
小学校教材研究（体育）	2	Ivory	〃
道德教育の研究	2	Ivory	〃
特別活動の研究	2	Ivory	〃
教育方法論	2	Ivory	〃

授業科目	単位	CCBM	備考
保育課程論	2	Ivory	幼稚園希望者
保育内容の研究Ⅰ（言葉）	2	Ivory	〃
保育内容の研究Ⅱ（人間関係）	2	Ivory	〃
保育内容の研究Ⅲ（環境）	2	Ivory	〃
保育表現Ⅰ（指導法）	2	Ivory	〃
保育表現Ⅱ（指導法）	2	Ivory	〃
保育内容・健康	2	Ivory	〃
保育指導法Ⅰ	2	Ivory	〃
保育指導法Ⅱ	2	Ivory	〃
視聴覚教育メディア論	2	Ivory	
生徒指導の研究	2	Ivory	小学校希望者
学校カウンセリング	2	Ivory	〃
幼児理解と教育相談	2	Ivory	幼稚園希望者
事前・事後指導	1	Ivory	
教育実習	4	Ivory	
教職実践演習（教諭）	2	Ivory	



## 外国人留学生特別科目

授業科目	単位	CCBM
日本語演習ⅠA	2	Pink
日本語演習ⅠB	2	Pink
日本語演習ⅡA	2	Green
日本語演習ⅡB	2	Green
日本語演習ⅢA	2	Green
日本語演習ⅢB	2	Green
日本語演習ⅣA	2	Green
日本語演習ⅣB	2	Green
日本語演習ⅤA	2	Green
日本語演習ⅤB	2	Green
日本事情演習ⅠA	2	Pink
日本事情演習ⅠB	2	Pink
日本事情演習ⅡA	2	Green
日本事情演習ⅡB	2	Green
日本事情演習ⅢA	2	Green
日本事情演習ⅢB	2	Green
日本事情演習ⅣA	2	Green
日本事情演習ⅣB	2	Green
日本事情演習ⅤA	2	Green
日本事情演習ⅤB	2	Green

## 2 理学部

理学部履修規程 (P. 199) により、以下の別表のとおり卒業に必要な単位 124 単位を修得してください。各学科プログラム等に関することは、別表 2、3 を参照してください。

学科別	科目区分	必修及び選択必修の科目・単位								自由に選択して履修する科目・単位							卒業に必要な履修単位数		
		コア科目				専門教育科目(必修プログラム)				コア科目	専攻科目	他学科の専攻科目	関連科目	他学部の科目	全学共通科目	教職に関する科目		必修以外の選択プログラム	
		文理融合リベラルアーツ	基礎講義	情報	外国語	スポーツ健康	主プログラム	強化プログラム	副プログラム										学際プログラム
数学科				30					60	20								14	124
物理学科				30					60	20								14	124
化学科				30					60	20								14	124
生物学科				30					60	20								14	124
情報科学科				30					60	20								14	124

**備考**

- 1 情報処理演習(情報) 2 単位は、必修とする。
- 2 外国語は、一の外国語について 8 単位を必修とする。  
コア科目の必修単位のうち、外国語での単位は 12 単位までとする。
- 3 スポーツ健康は、スポーツ健康実習 2 単位を必修とし、その履修方法は別に定める。
- 4 主プログラムは、所属学科から選択すること。
- 5 強化プログラム・副プログラム・学際プログラムは、所属学部のプログラムから一つを選択すること。
- 6 強化プログラムは、同一名の主プログラムを選択していることが履修要件となる。
- 7 選択している主プログラムと同領域の副プログラムを選択することはできない。
- 8 必修以外の選択プログラムは、別表第 2 の所属学科が指定するプログラム選択一覧に従い、副プログラム、学際プログラムから選択すること。
- 9 教職に関する科目(教職概論、教育実習及び教職実践演習は除く。)の単位については、6 単位までを自由に選択して履修する科目・単位として取り扱う。
- 10 外国人留学生特別科目(外国人留学生対象)の単位については、16 単位までをコア科目として取り扱う。

別表第2 (第5条関係)

【(理) 二つ目の選択プログラム】(別表第1 備考5関係)

所属学科・コース	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」								
	数学(副)	物理学(副)	化学(副)	生物学(副)	情報科学(副)	応用数理(学際)	物理・化学(学際)	ケミカルバイオロジー(学際)	生命情報学(学際)
数 学 科		○	×	×	○	○	×	×	○
物 理 学 科	○		○	○	○	○	○	○	○
化 学 科	×	○		○	×	×	○	○	○
生 物 学 科	○	○	○		○	○	○	○	○
情 報 科 学 科	○	○	×	×		○	×	×	○

【(理) 三つ目の選択プログラム(文・プログラム)】(別表第1 備考8関係)

所属学科・コース	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」														
	哲学・倫理学・美術史(副)	比較歴史学(副)	地理環境学(副)	日本語・日本文学(副)	中国語圏言語文化(副)	英語圏言語文化(副)	仏語圏言語文化(副)	日本語教育(副)	社会学(副)	教育科学(副)	心理学(副A) 人間社会科学科対象	心理学(副B) 人間社会科学科以外対象	舞踊教育学(副)	音楽表現(副)	グローバル文化学(学際)
数 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
物 理 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
化 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
生 物 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
情 報 科 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○

【(理) 三つ目の選択プログラム(理・プログラム)】(別表第1 備考8関係)

所属学科・コース	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」								
	数学(副)	物理学(副)	化学(副)	生物学(副)	情報科学(副)	応用数理(学際)	物理・化学(学際)	ケミカルバイオロジー(学際)	生命情報学(学際)
数 学 科		○	○	○	○	○	○	○	○
物 理 学 科	○		○	○	○	○	○	○	○
化 学 科	○	○		○	○	○	○	○	○
生 物 学 科	○	○	○		○	○	○	○	○
情 報 科 学 科	○	○	○	○		○	○	○	○

【(理) 三つ目の選択プログラム(生・プログラム)】(別表第1 備考8関係)

所属学科・コース	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」					
	人間・環境科学(副)	発達臨床心理学(副)	公共政策論(副)	ジェンダー論(副)	生活文化学(副)	消費者学(学際)
数 学 科	○	○	○	○	○	○
物 理 学 科	○	○	○	○	○	○
化 学 科	○	○	○	○	○	○
生 物 学 科	○	○	○	○	○	○
情 報 科 学 科	○	○	○	○	○	○

# 理学部 主プログラム・強化プログラム

## 数学科

カリキュラムポリシー	主：60単位	強化：20単位
<p><b>主プログラム</b></p> <p>①教育目標 この主プログラムにおいては二つの大きな目標を持つ。ひとつは広分野に及ぶ現代数学の基礎教育を施すことであり、もうひとつは数学的論理思考力を身に付けさせることである。これにより数学を学び研究しようと志す学生に対しては高度職業人あるいは研究者として自ら学んでいける素地を育むことになる。また数学的論理思考力を身に付けるということはどの分野に進むとしても社会における有為な人物となりうるということで、そのような人物が輩出されることになる。</p> <p>②内容・構成 数学を学ぶ上での基礎となる内容のものと数学の様々な話題に接する為の「数学講話」や4年間の数学の学習の総まとめとなる「数学講究」を含み、必修もしくは必修に準ずる科目群からなる。数学科で提供する強化プログラム、または、副プログラムの科目を履修する為の予備知識もこのプログラムで提供される。数学科を卒業するためには、この科目群の殆ど全ての60単位以上を履修しなければならない。</p>		
<p><b>強化プログラム</b></p> <p>①教育目標 数学における様々な分野を特化してより深く理解し追求するためのより高度な専門性の高い知識や能力を養うことに加えて、一つの専門にこだわらず、数学全般に対する視野を拡げることがこのプログラムの教育目標であり、現代数学の新しい結果や問題に触れることにより、問題の発見力・構成力を育む他、数学の重要性・おもしろさを後世に伝えていくコミュニケーション力を身につけた、専門性の高い職業人が養成されることが期待される。</p> <p>②内容・構成 各人の興味と能力に応じて、数学の多岐にわたる分野を幅広く学習、あるいは特定の分野を深く学習できるように、様々な科目が選択科目として用意されている。これらの科目群のうちのすべての科目が毎年開講される訳ではないが、主プログラムの科目よりは専門性が高いが、現代数学における基礎として位置付けられる科目は毎年、または、隔年で開講され、講義内容の理解を深める為の演習も用意されている。</p>		

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム			
				主プログラム	備考	◎必修	○選択
線形代数学Ⅰ	2	I	Green	◎			
線形代数学Ⅱ	2	I	Green	◎			
線形代数学Ⅲ	2	II	Green	◎			
線形代数学演習Ⅰ	2	I	Green	◎			
線形代数学演習Ⅱ	2	I	Green	◎			
微分積分学Ⅰ	2	I	Green	◎			
微分積分学Ⅱ	2	I	Green	◎			
微分積分学Ⅲ	2	II	Green	◎			
微分積分学演習Ⅰ	2	I	Green	◎			
微分積分学演習Ⅱ	2	I	Green	◎			
微分積分学演習Ⅲ	2	II	Green	◎			
ベクトル解析	2	II	Green	◎			
位相空間論	2	II	Green	◎			
位相空間論演習	2	II	Green	◎			
代数学Ⅰ	2	II	Green	◎			
代数学Ⅱ	2	III	Green	◎			
代数学演習	2	III	Green	◎			
関数論	2	III	Green	◎			
関数論演習	2	III	Green	◎			
数学講究	8	IV	Red	◎			

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム			
				主プログラム	備考	◎必修 ○選択	備考
数学演習ⅩⅤ	2	I	Green	○	以下の科目 から14単位 選択		
多様体論	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○			
積分論	2	Ⅲ	Red	○			
代数学Ⅲ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○			
微分方程式論	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○			
初等代数学	2	I～Ⅳ	Pink	○			
数の歴史	2	I～Ⅳ	Pink	○			
確率序論	2	I～Ⅳ	Green	○			
数学選択基礎	2	I		○			
数理解析序論	2	Ⅱ	Green				○
数学英語	2	Ⅱ	Green			※○	
関数解析	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
微分幾何学	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
位相幾何学	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
ガロア理論	2	Ⅳ	Red			○	
フーリエ解析とラプラス変換	2	Ⅳ	Red			○	
関数論続論	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
確率論	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
計算基礎論	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数理経済学	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数理統計学	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
コンピュータシステム序論	2	I～Ⅳ	Pink			○	
応用数学Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
応用数学Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
応用数学Ⅲ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
応用数学Ⅳ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
応用数学Ⅴ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数理構造特別講義Ⅰ	2	Ⅳ	Red			○	
数理構造特別講義Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数理構造特別講義Ⅲ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数理構造特別講義Ⅳ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数理構造特別講義Ⅴ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数理構造特別講義Ⅵ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数理構造特別講義Ⅶ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数理構造特別講義Ⅷ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数理構造特別講義Ⅸ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数理構造特別講義Ⅹ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数理解析特別講義Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数理解析特別講義Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数理解析特別講義Ⅲ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数理解析特別講義Ⅳ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数理解析特別講義Ⅴ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数理解析特別講義Ⅵ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数理解析特別講義Ⅶ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数理解析特別講義Ⅷ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数理解析特別講義Ⅸ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数理解析特別講義Ⅹ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数学演習Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数学演習Ⅱ	2	Ⅲ	Red			○	

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム			
				主プログラム	備考	◎必修 ○選択 強化プログラム	備考
数学演習Ⅲ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数学演習Ⅳ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数学演習Ⅴ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数学演習Ⅵ	2	Ⅲ	Red			○	
数学演習Ⅶ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数学演習Ⅷ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数学演習Ⅸ	2	Ⅰ～Ⅳ	Red			○	
数学演習Ⅹ	2	Ⅱ	Red			○	
数学演習ⅩⅠ	2	Ⅰ～Ⅳ	Red			○	
数学演習ⅩⅡ	2	Ⅰ～Ⅳ	Red			○	
数学演習ⅩⅢ	2	Ⅰ～Ⅳ	Red			○	
数学演習ⅩⅣ	2	Ⅰ～Ⅳ	Red			○	
数理逍遥Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅲ	Red			○	
数理逍遥Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	Red			○	
数理逍遥Ⅲ	2	Ⅰ～Ⅲ	Red			○	
数理逍遥Ⅳ	2	Ⅰ～Ⅲ	Red			○	
数理逍遥Ⅴ	2	Ⅲ	Red			○	
数理逍遥Ⅵ	2	Ⅱ～Ⅲ	Red			○	
数理逍遥Ⅶ	2	Ⅱ～Ⅲ	Red			○	
数理逍遥Ⅷ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数理逍遥Ⅸ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数理逍遥Ⅹ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数学輪講Ⅰ	2	Ⅰ	Red			○	
数学輪講Ⅱ	2	Ⅱ	Red			○	
数学輪講Ⅲ	2	Ⅲ	Red			○	
代数学特別講義Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
代数学特別講義Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
代数学特別講義Ⅲ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
代数学特別講義Ⅳ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
代数学特別講義Ⅴ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
幾何学特別講義Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
幾何学特別講義Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
幾何学特別講義Ⅲ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
幾何学特別講義Ⅳ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
幾何学特別講義Ⅴ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
解析学特別講義Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
解析学特別講義Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
解析学特別講義Ⅲ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
解析学特別講義Ⅳ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
解析学特別講義Ⅴ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	

# 物理学科

<b>カリキュラムポリシー</b>	主：60単位	強化：20単位
<b>主プログラム</b> <b>①教育目標</b> 物理学の主要分野の基礎を講義により学習する。それと平行して、問題解決の能力を養うための演習と、物理現象の自発的な発見と検証の能力を磨くための実験を行う。以上を経て、各人が課題を設定し、これを首尾一貫した系統的な物理学の考え方をを用いて問題を解決することを目標として特別研究を行い、その完成を修了要件とする。		
<b>②内容・構成</b> 物理学科が用意する講義科目・演習科目・実験科目・特別研究からなる。物理学を学ぶ上で有用であると思われる、数学、地学、ほか、理学の基礎実験科目を含んでいる。		
<b>強化プログラム</b> <b>①教育目標</b> 主プログラムで学んだ物理学の基礎的内容を発展させた専門性の高い科目群を履修する。それにより、物理学の細分化された専門分野での高度な知識を習得し、将来、大学院等で具体的かつ最前線の研究テーマに取り組むための実力を身につける。		
<b>②内容・構成</b> 素粒子・宇宙・原子核・物性物理等の幅広い分野の専門的・応用的科目から構成されている。講義科目に加えて計算機実習科目、および各研究室に配属してそで行われている研究に触れる科目（物理学基礎研究）を用意している。		

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
古典力学	2	I	Pink	○			
解析力学	2	I	Green	○			
電磁気学Ⅰ	2	I	Pink	○			
電磁気学Ⅱ	2	I	Green	○			
物理数学Ⅰ	2	I	Pink	○			
物理数学Ⅱ	2	I	Pink	○			
数理物理学	2	Ⅱ	Green	○			
力学系理論	2	Ⅱ	Green	○			
熱力学	2	Ⅱ	Pink	○			
統計力学	2	Ⅲ	Green	○			
量子力学Ⅰ	2	Ⅱ	Green	○			
量子力学Ⅱ	2	Ⅱ	Green	○			
量子力学Ⅲ	2	Ⅲ	Red	○			
力学演習	2	I	Pink	○			
電磁気学演習	2	I	Pink	○			
物理数学演習	2	Ⅱ	Pink	○			
量子力学演習	2	Ⅱ	Pink	○			
統計力学演習	2	Ⅲ	Green	○			
基礎物理学実験	2	Ⅱ	Pink	○			
物理学実験	4	Ⅲ	Green	○			
特別研究	12	Ⅳ	Red	○			
物理英語	2	I	Pink	※○	各選択（※印はコア科目 外国語の英語に充てる ことが出来る）		
初等解析学Ⅰ	2	I～Ⅳ	Pink	○			
初等解析学Ⅱ	2	I～Ⅳ	Pink	○			
初等線形代数学	2	I～Ⅳ	Pink	○			
宇宙・地球科学	2	I～Ⅳ	Pink	○			
地球環境科学	2	I～Ⅳ	Pink	○			
大気・海洋科学概論	2	I～Ⅳ	Pink	○			
地史・古生物学概論	2	I～Ⅳ	Pink	○			

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム			
				主プログラム	備考	◎必修 ○選択	強化プログラム
化学基礎実験	2	I～IV	Pink	○			
生物学基礎実験	2	I～IV	Pink	○			
地学基礎実験	2	I～IV	Pink	○			
物理学選択基礎	2	I		○			
固体電子論	2	Ⅲ	Red			○	以下の科目から20単位選択
相転移物理学	2	Ⅲ	Red			○	
凝縮系物理学	2	Ⅳ	Red			○	
原子核物理学	2	Ⅳ	Red			○	
素粒子物理学	2	Ⅲ	Red			○	
物性物理学序論	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
相対論	2	Ⅱ	Green			○	
宇宙物理学	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
連続体物理学	2	Ⅱ～Ⅲ	Green			○	
流体物理学	2	Ⅲ	Green			○	
物理実験学	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
基礎エレクトロニクス	2	Ⅲ	Green			○	
量子光学	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
ソフトマター物理	2	Ⅱ～Ⅳ	Red			○	
場の量子論	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
計算物理学講義・演習	4	Ⅲ	Green			○	
物理学基礎研究	2	Ⅲ～Ⅳ	Pink			○	
物理学特別講義Ⅰ	2		Red			○	
物理学特別講義Ⅱ	2		Red			○	
物理学特別講義Ⅲ	2		Red			○	
物理学特別講義Ⅳ	2		Red			○	
物理学特別講義Ⅴ	2		Red			○	
物理学特別講義Ⅵ	2		Red			○	
物理学特別講義Ⅶ	2		Red			○	
物理学特別講義Ⅷ	2		Red			○	
物理学特別講義Ⅸ	2		Red			○	
物理学特別講義Ⅹ	2		Red			○	
物理学特別講義ⅩⅠ	2		Red			○	
物理学特別講義ⅩⅡ	2		Red			○	
物理学特別講義ⅩⅢ	2		Red			○	
物理学特別講義ⅩⅣ	2		Red			○	
物理学特別講義ⅩⅤ	2		Red			○	
物理学特別講義ⅩⅥ	2		Red			○	
物理学特別講義ⅩⅦ	2		Red			○	
物理学特別講義ⅩⅧ	2		Red			○	
物理学特別講義ⅩⅨ	2		Red			○	
物理学特別講義ⅩⅩ	2		Red			○	



# 化学科

<b>カリキュラムポリシー</b>	<b>主：60単位</b>	<b>強化：20単位</b>
<p><b>主プログラム</b></p> <p>①<b>教育目標</b> 講義科目における、化学及びそれに関連する分野の概念を理解すること、また、それに基づいた基礎的知識の系統的な修得を目指すとともに、講義科目によって身につけた力を、講義と密接に連携した実験科目の履修により、化学あるいはその関連分野に展開可能かつ実践的な基礎的力を身につけることを目標とする。</p> <p>②<b>内容・構成</b> 主プログラムでは、化学の5つの主要分野である物理化学、無機化学、有機化学、分析化学、生物化学の専門分野の基礎を講義により順次学習し、化学の体系を理解する。さらに講義内容の十分な理解と化学の研究に必要な実験手法を身につけるために各分野の実験をおこなう。化学の専門課程を理解する為の基礎を身につけることを目標とする。</p> <hr/> <p><b>強化プログラム</b></p> <p>①<b>教育目標</b> 強化プログラムでは、各分野の基礎に立脚し、専門的事柄について講義および実験を通して学習する。これにより、幅広くかつ深い知識を習得するとともに、物質の構造、性質、反応に関する理解を深め、化学的視点に基づいた問題解決能力と問題発見能力を涵養することを目標とする。</p> <p>②<b>内容・構成</b> 物質の構造、性質、反応に関する共通的内容を含む必修科目と、それらを発展させたものもしくは現代化学の先端的内容を含んだ選択科目群から構成される。</p>		

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム			
				主プログラム	備考	◎必修 強化プログラム	○選択 備考
物理化学Ⅰ	2	Ⅱ	Green	◎			
物理化学Ⅱ	2	Ⅱ	Green	◎			
物理化学Ⅲ	2	Ⅱ	Green	◎			
無機化学Ⅰ	2	Ⅰ	Green	◎			
無機化学Ⅱ	2	Ⅱ	Green	◎			
有機化学Ⅰ	2	Ⅱ	Green	◎			
有機化学Ⅱ	2	Ⅱ	Green	◎			
分析化学Ⅰ	2	Ⅱ	Green	◎			
生物化学Ⅰ	2	Ⅱ	Green	◎			
生物化学Ⅱ	2	Ⅱ	Green	◎			
基本化学実験Ⅰ	2	Ⅰ	Pink	◎			
基本化学実験Ⅱ	2	Ⅱ	Green	◎			
基本化学実験Ⅲ	2	Ⅱ	Green	◎			
基本化学実験Ⅳ	2	Ⅱ	Green	◎			
専門化学実験Ⅰ	6	Ⅲ	Red	◎			
専門化学実験Ⅱ	4	Ⅲ	Red	◎			
化学演習Ⅰ	2	Ⅳ	Red	◎			
化学演習Ⅱ	2	Ⅳ	Red	◎			
特別研究Ⅰ	4	Ⅳ	Red	◎			
特別研究Ⅱ	8	Ⅳ	Red	◎			
化学特別ゼミⅠ	2	Ⅰ	Pink	○	各選択（※印はコア科目 外国語の英語に充てる ことが出来る）		
化学特別ゼミⅡ	2	Ⅰ	Pink	○			
化学英語	2	Ⅱ	Green	※○			
基礎化学A	2	Ⅰ～Ⅳ	Pink	○			
基礎化学B	2	Ⅰ～Ⅳ	Pink	○			
物理学概論A	2	Ⅰ～Ⅳ	Pink	○			
物理学概論B	2	Ⅰ～Ⅳ	Pink	○			

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム		◎必修 ○選択	
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
基礎生物学 A	2	I ~ IV	Pink	○			
基礎生物学 B	2	I ~ IV	Pink	○			
生物学基礎実験	2	I ~ IV	Pink	○			
物理学基礎実験	2	I ~ IV	Pink	○			
化学選択基礎	2	I		○			
有機化学Ⅲ	2	Ⅲ	Red			◎	
分析化学Ⅱ	2	Ⅲ	Red			◎	
分子分光法	2	Ⅲ	Red			◎	
無機化学Ⅲ	2	Ⅲ	Red			○	以下の科目 から14単位 選択
生体分子機能・反応学	2	Ⅲ	Red			○	
物理化学Ⅳ	2	Ⅲ	Red			○	
有機化学Ⅳ	2	Ⅲ	Red			○	
分子生命科学	2	Ⅲ	Red			○	
量子化学	2	Ⅳ	Red			○	
計算化学	2	Ⅱ	Red			○	
反応物理化学	2	Ⅲ~Ⅳ	Red			○	
高分子化学	2	Ⅲ~Ⅳ	Red			○	
実験値解析法	2	Ⅲ	Red			○	
放射化学	2	Ⅲ~Ⅳ	Red			○	
生物物理化学	2	Ⅲ~Ⅳ	Red			○	
物理化学特別講義Ⅰ	2	Ⅲ~Ⅳ	Red			○	
物理化学特別講義Ⅱ	2	Ⅲ~Ⅳ	Red			○	
物理化学特別講義Ⅲ	2	Ⅲ~Ⅳ	Red			○	
無機化学特別講義Ⅰ	2	Ⅲ~Ⅳ	Red			○	
無機化学特別講義Ⅱ	2	Ⅲ~Ⅳ	Red			○	
無機化学特別講義Ⅲ	2	Ⅲ~Ⅳ	Red			○	
分析化学特別講義Ⅰ	2	Ⅲ~Ⅳ	Red			○	
分析化学特別講義Ⅱ	2	Ⅲ~Ⅳ	Red			○	
分析化学特別講義Ⅲ	2	Ⅲ~Ⅳ	Red			○	
有機化学特別講義Ⅰ	2	Ⅲ~Ⅳ	Red			○	
有機化学特別講義Ⅱ	2	Ⅲ~Ⅳ	Red			○	
有機化学特別講義Ⅲ	2	Ⅲ~Ⅳ	Red			○	
生物化学特別講義Ⅰ	2	Ⅲ~Ⅳ	Red			○	
生物化学特別講義Ⅱ	2	Ⅲ~Ⅳ	Red			○	
生物化学特別講義Ⅲ	2	Ⅲ~Ⅳ	Red			○	
化学特別講義Ⅰ	1		Green			○	
化学特別講義Ⅱ	1		Green			○	
化学特別講義Ⅲ	1		Green			○	
化学特別講義Ⅳ	1		Green			○	
化学特別講義Ⅴ	1		Green			○	
化学特別講義Ⅵ	1		Green			○	
化学特別講義Ⅶ	1		Green			○	
化学特別講義Ⅷ	1		Green			○	

# 生物学科

カリキュラムポリシー	主：60単位	強化：20単位
<p><b>主プログラム</b></p> <p>①教育目標 生物学は自然科学の1分野にとどまらず、周辺領域の医学、薬学、農学、情報学などの学問分野に影響を与え、さらには地球環境問題や生命倫理などの社会的な問題にまで影響を及ぼしている。このような時代背景の下で、生物学を学んだ人材の必要性は益々高まっている。生物学主プログラムでは、1、2年次における生物学の基礎分野の講義と基本的な実習によって、核となる知識・理解力・論理力・実験手法を身につけ、3、4年次での専門的な実習及び特別研究を通して、実践力のある人材を育成することを目標とする。</p> <p>②内容・構成 上記の目標を達成するために、生物学主プログラムは、学年ごとに段階的に学習を積み重ねる構成内容となっている。1、2年次は、生物学の基礎概念を理解するための必修科目（26単位）及び基礎的な実験手法を学ぶ必修実習（4単位）を中心として学んでいく。2、3年次では、この基礎の上に、生物学の各分野の実験手法を学ぶ選択必修実習（8単位以上）及び選択科目を学ぶ。その後、3年次において生物学強化プログラム、学際プログラム、または他学科の副プログラムを学び、生物学主プログラムの総まとめとしての特別研究（12単位）及び生物学演習（4単位）を履修する。</p>		
<p><b>強化プログラム</b></p> <p>①教育目標 生物学主プログラムを履修する学生を対象に、生物学各分野の専門性の高い講義と実習を含む科目群を提供する。これらの科目群の中から各自の興味に応じた科目を選択することにより、より広く高度な応用的または先進的な知識・理解力・論理力・実践手法を身につけることを目的とする。この強化プログラムを踏まえて、実践的な研究活動を行う主プログラムの特別研究に移行することにより、高度な専門教育の実践が可能となる。また、この強化プログラムにより、大学院における生物学の特定分野の専門性を高める教育に対して学問的な基礎を身につける。</p> <p>②内容・構成 生物学主プログラムを学び終えた学生を対象にしているため、必修の科目は設けずに、多様な高度で専門的な講義及び実習から構成される内容となっている。学生の興味に従い、20単位以上を履修することが要件である。この強化プログラムは、学生に必要と判断される内容を柔軟に含めることができる構成となっている。学生は、自らの主体的な履修科目の選択により、個性的・独創的な生物学を構築することができる。</p>		

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム			
				主プログラム	備考	◎必修 ○選択 強化プログラム	備考
生化学	2	I	Pink	◎			
生物物理学	2	I	Pink	◎			
動物系統学	2	I	Green	◎			
植物系統学	2	II	Green	◎			
動物生理学	2	II	Green	◎			
植物生理学	2	I	Green	◎			
代謝生物学	2	II	Green	◎			
基礎遺伝学	2	II	Green	◎			
分子遺伝学	2	II	Green	◎			
細胞生物学	2	II	Green	◎			
発生生物学	2	II	Green	◎			
進化生物学	2	I	Pink	◎			
生物統計学	2	II	Green	◎			
生物学実習Ⅰ	2	I	Green	◎			
生物学実習Ⅱ	2	II	Green	◎			
生物学演習Ⅰ	2	IV	Red	◎			
生物学演習Ⅱ	2	IV	Red	◎			
特別研究Ⅰ	6	IV	Red	◎			
特別研究Ⅱ	6	IV	Red	◎			

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム			
				主プログラム	備考	◎必修 ○選択	強化プログラム
基礎遺伝学実習	1	Ⅱ	Green	○	以下の科目から8単位以上選択		
分子遺伝学実習	1	Ⅲ	Green	○			
細胞生物学実習	1	Ⅲ	Green	○			
細胞生化学実習	1	Ⅲ	Green	○			
代謝生物学実習	1	Ⅲ	Green	○			
植物生理学実習	1	Ⅲ	Green	○			
動物生理学実習	1	Ⅲ	Green	○			
発生生物学実習	1	Ⅲ	Green	○			
植物系統学実習	1	Ⅱ	Green	○			
動物系統学臨海実習	1	Ⅱ	Green	○			
動物生理学臨海実習	1	Ⅲ	Green	○			
植物系統学臨海実習	1	Ⅰ	Pink	○			
生物学外書講読	2	Ⅲ	Green	※○	各選択(※印はコア科目外国語の英語に充てることが出来る)		
植物生態学	2	Ⅱ～Ⅲ	Green	○			
動物生態学	2	Ⅱ～Ⅲ	Green	○			
生物学選択基礎	2	Ⅰ		○			
細胞生化学	2	Ⅱ～Ⅲ	Red			○	以下の科目から20単位以上選択
分子細胞情報学	2	Ⅱ～Ⅲ	Green			○	
生物系統地理学	2	Ⅲ	Green			○	
進化遺伝学	2	Ⅲ	Red			○	
発生遺伝学	2	Ⅲ	Red			○	
バイオメカニクス	2	Ⅲ	Red			○	
植物生理工学	2	Ⅲ	Red			○	
遺伝子工学	2	Ⅲ	Red			○	
植物機能制御学	2	Ⅲ	Red			○	
動物環境応答学	2	Ⅲ	Red			○	
分子構造生物学	2	Ⅱ～Ⅲ	Red			○	
免疫学	2	Ⅱ～Ⅲ	Red			○	
生命情報プログラミング演習	1	Ⅲ	Red			○	
分析・光学機器実習	1	Ⅲ	Red			○	
発生生物学臨海実習	1	Ⅲ	Green			○	
公開臨海実習	1	Ⅰ～Ⅳ	Red			○	
生物学特別講義Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	Red			○	
生物学特別講義Ⅱ	2	Ⅰ～Ⅳ	Red			○	
生物学特別講義Ⅲ	2	Ⅰ～Ⅳ	Red			○	
生物学特別講義Ⅳ	2	Ⅰ～Ⅳ	Red			○	
生物学特別講義Ⅴ	2	Ⅰ～Ⅳ	Red			○	
生物学特別講義Ⅵ	2	Ⅰ～Ⅳ	Red			○	
生物学特別講義Ⅶ	2	Ⅰ～Ⅳ	Red			○	
生物学特別講義Ⅷ	2	Ⅰ～Ⅳ	Red			○	
生物学特別講義Ⅸ	2	Ⅰ～Ⅳ	Red			○	
生物学特別講義Ⅹ	2	Ⅰ～Ⅳ	Red			○	
生物学特別講義ⅩⅠ	2	Ⅰ～Ⅳ	Red			○	
生物学特別講義ⅩⅡ	2	Ⅰ～Ⅳ	Red			○	
生物学特別講義ⅩⅢ	2	Ⅰ～Ⅳ	Red			○	
生物学特別講義ⅩⅣ	2	Ⅰ～Ⅳ	Red			○	
生物学特別講義ⅩⅤ	2	Ⅰ～Ⅳ	Red			○	
生物学特別講義ⅩⅥ	2	Ⅰ～Ⅳ	Red			○	
生物学特別講義ⅩⅦ	2	Ⅰ～Ⅳ	Red			○	

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム		◎必修 ○選択	
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
生物学特別講義XⅧ	2	I～IV	Red			○	
生物学特別講義XⅨ	2	I～IV	Red			○	
生物学特別講義XX	2	I～IV	Red			○	
生物学特殊講義I	1	I～IV	Red			○	
生物学特殊講義II	1	I～IV	Red			○	
生物学特殊講義III	1	I～IV	Red			○	
生物学特殊講義IV	1	I～IV	Red			○	
生物学特殊講義V	1	I～IV	Red			○	
生物学特殊講義VI	1	I～IV	Red			○	
生物学特殊講義VII	1	I～IV	Red			○	
生物学特殊講義VIII	1	I～IV	Red			○	
生物学特殊講義IX	1	I～IV	Red			○	
生物学特殊講義X	1	I～IV	Red			○	
生物学特殊講義XI	1	I～IV	Red			○	
生物学特殊講義XII	1	I～IV	Red			○	
生物学特殊講義XIII	1	I～IV	Red			○	
生物学特殊講義XIV	1	I～IV	Red			○	
生物学特殊講義XV	1	I～IV	Red			○	
生物学特殊講義XVI	1	I～IV	Red			○	
生物学特殊講義XVII	1	I～IV	Red			○	
生物学特殊講義XVIII	1	I～IV	Red			○	
生物学特殊講義XⅨ	1	I～IV	Red			○	
生物学特殊講義XX	1	I～IV	Red			○	

# 情報科学科

カリキュラムポリシー	主：60単位	強化：20単位
<b>主プログラム</b> <b>①教育目標</b> 情報科学を学ぶために必要な基礎を身につけるためのプログラムです。研究テーマを決めて指導教員のもとで専門的な情報科学の研究を行う特別研究も含まれますが、特別研究の履修には主プログラムの基礎科目だけでなく強化プログラムまたは副プログラムでそれぞれの専門分野について深く学ぶ必要があります。		
<b>②内容・構成</b> コンピュータシステム序論、データ構造とアルゴリズムなどの情報科学の基礎科目、線形代数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、微分積分学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、数理基礎論、確率序論、離散数学などの数学系の基礎科目、プログラミング実習、システムプログラミング実習などのプログラミング力を身につけるための実習科目、コンピュータアーキテクチャ、コンピュータネットワーク、マルチメディアなどの情報科学技術を学ぶ科目、特別研究が含まれます。		
<b>強化プログラム</b> <b>①教育目標</b> 主プログラムで情報科学を学ぶために必要な基礎を身につけた後で、更に情報科学についての理解を深めるためのプログラムです。特別研究を円滑に行えるように希望する指導教員の推奨する科目を中心に専門分野について深く学びます。		
<b>②内容・構成</b> 主プログラムで学んだ基礎を元に、専門性を強化するためのプログラムです。情報科学の様々な研究分野からそれぞれの興味にあった科目を選択して履修することができます。特別研究を担当するそれぞれの教員が履修を推奨する科目を中心になるべく多くの科目を履修できるように情報科学の専門科目を幅広く開講します。		

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム			
				主プログラム	備考	◎必修	○選択
線形代数学Ⅰ	2	I	Green	○			
線形代数学Ⅱ	2	I	Green	○			
微分積分学Ⅰ	2	I	Green	○			
微分積分学Ⅱ	2	I	Green	○			
数理基礎論	2	I	Pink	○			
コンピュータシステム序論	2	I	Pink	○			
データ構造とアルゴリズム	2	I	Green	○			
コンピュータ基礎演習	2	I	Green	○			
プログラミング実習	2	I	Green	○			
確率序論	2	Ⅱ	Green	○			
離散数学	2	Ⅱ	Green	○			
システムプログラミング実習	2	Ⅱ	Green	○			
コンピュータアーキテクチャⅠ	2	Ⅱ	Green	○			
コンピュータアーキテクチャⅡ	2	Ⅱ	Green	○			
コンピュータネットワークⅠ	2	Ⅱ	Green	○			
マルチメディア	2	Ⅱ	Green	○			
マルチメディアプログラミング実習	2	Ⅱ	Green	○			
特別研究	6	Ⅳ	Red	○			
線形代数学Ⅲ	2	Ⅱ	Green	○	(※印はコア科目外国語の英語に充てることが出来る)		
微分積分学Ⅲ	2	Ⅱ	Green	○			
初等代数学	2	I～Ⅳ	Pink	○			
線形代数学演習Ⅰ	2	I	Green	○			
線形代数学演習Ⅱ	2	I	Green	○			
微分積分学演習Ⅰ	2	I	Green	○			
微分積分学演習Ⅱ	2	I	Green	○			
微分積分学演習Ⅲ	2	Ⅱ	Green	○			

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム		◎必修 ○選択	
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
グラフ理論	2	Ⅱ	Green	○			
関数型言語	2	Ⅱ	Green	○			
英文講読	2	Ⅲ	Green	※○			
計算機代数演習	2	Ⅱ	Green	○			
位相空間論	2	Ⅱ	Green	○			
情報理論	2	Ⅱ	Green	○			
物理学概論A	2	I～Ⅳ	Pink	○			
物理学概論B	2	I～Ⅳ	Pink	○			
情報科学選択基礎	2	I		○			
情報科学集中演習	2	Ⅲ	Red			○	以下の科目 から20単位 以上選択
関数論	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数値計算	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数値計算演習	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
言語理論とオートマトン	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
計算基礎論	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
情報解析学	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
組み合わせ論	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
暗号と符号	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
フーリエ解析とラプラス変換	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
微分方程式論	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
数理統計学	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
情報倫理	2	Ⅲ～Ⅳ	Green			○	
情報と職業	2	Ⅲ～Ⅳ	Green			○	
計算モデル論	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
コンパイラ構成論	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
形式言語論	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
人工知能論	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
自然言語論	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
バイオインフォマティクス	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
データベースシステム	2	Ⅱ～Ⅳ	Red			○	
データベース設計論	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
コンピュータグラフィックス	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
コンピュータビジョン	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
コンピュータネットワークⅡ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
ヒューマンインターフェイス	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
ソフトウェア工学	2	I～Ⅳ	Red			○	
環境情報論	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
シミュレーション科学	2	Ⅲ～Ⅳ	Red			○	
情報科学特別講義Ⅰ	2		Red			○	
情報科学特別講義Ⅱ	2		Red			○	
情報科学特別講義Ⅲ	2		Red			○	
情報科学特別講義Ⅳ	2		Red			○	
情報科学特別講義Ⅴ	2		Red			○	
情報科学演習Ⅰ	2		Red			○	
情報科学演習Ⅱ	2		Red			○	
情報科学演習Ⅲ	2		Red			○	
情報科学演習Ⅳ	2		Red			○	
情報科学演習Ⅴ	2		Red			○	

# 副プログラム・学際プログラム

## 数学副プログラム

単位数：20

授業科目一覧

II

2

理学部  
専門教育科目

### カリキュラムポリシー

#### ①教育目標

他学科の純粋数学を学ぼうとする学生を対象とし、数学における抽象化、一般化、論理性が数学の発展の上でどのように寄与して来たかを学ぶ事により、物事を抽象的に把握し、その本質を見ぬく力を身につける事がこのプログラムの教育目標である。数学の専門性を追求しながら論理的・抽象的思考力を培い、数学の面白さを理解する知識と感性を備えた人物が養成されることが期待できる。

#### ②内容・構成

数学の基礎科目に加えて、解析学、幾何学、代数学の各分野の4科目、概論的な科目である『数理逍遥』、『数の歴史』、及び演習を選択科目とする科目構成より成る。基礎を身につけた上で、各人の興味の傾向に従って分野を主体的に選択することが可能である。

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
初等代数学	2	I～IV	選択	Pink	以下の科目から20単位選択 (※印の科目は、情報科学科は本プログラムとしては履修できない)
数学演習XV	2	I	選択	Green	
線形代数学Ⅲ	2	II	※選択	Green	
微分積分学Ⅲ	2	II	※選択	Green	
微分積分学演習Ⅲ	2	II	※選択	Green	
位相空間論	2	II	※選択	Green	
位相空間論演習	2	II	選択	Green	
関数論	2	III	選択	Green	
関数論演習	2	III	選択	Green	
積分論	2	III	選択	Red	
関数解析	2	III～IV	選択	Red	
微分方程式論	2	III～IV	選択	Red	
多様体論	2	III～IV	選択	Red	
位相幾何学	2	III～IV	選択	Red	
微分幾何学	2	III～IV	選択	Red	
代数学Ⅰ	2	II	選択	Green	
代数学Ⅱ	2	III	選択	Green	
ガロア理論	2	IV	選択	Red	
数理逍遥Ⅰ	2	I～III	選択	Red	
数理逍遥Ⅱ	2	I～IV	選択	Red	
数理逍遥Ⅲ	2	I～III	選択	Red	
数理逍遥Ⅳ	2	I～III	選択	Red	
数理逍遥Ⅴ	2	III	選択	Red	
数理逍遥Ⅵ	2	II～III	選択	Red	
数理逍遥Ⅶ	2	II～III	選択	Red	
数理逍遥Ⅷ	2	III～IV	選択	Red	
数理逍遥Ⅸ	2	III～IV	選択	Red	
数理逍遥Ⅹ	2	III～IV	選択	Red	
数の歴史	2	I～IV	選択	Pink	
代数学特別講義Ⅰ	2	III～IV	選択	Red	
代数学特別講義Ⅱ	2	III～IV	選択	Red	
代数学特別講義Ⅲ	2	III～IV	選択	Red	
代数学特別講義Ⅳ	2	III～IV	選択	Red	
代数学特別講義Ⅴ	2	III～IV	選択	Red	
幾何学特別講義Ⅰ	2	III～IV	選択	Red	



授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
幾何学特別講義Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
幾何学特別講義Ⅲ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
幾何学特別講義Ⅳ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
幾何学特別講義Ⅴ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
解析学特別講義Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
解析学特別講義Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
解析学特別講義Ⅲ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
解析学特別講義Ⅳ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
解析学特別講義Ⅴ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	

カリキュラムポリシー
<p>①教育目標 数学は、自然、社会諸科学の“言葉”として用いられ、それら諸科学を解明する方法となる。このプログラムでは、数理的方法による諸科学の基礎となる数学と、実際に応用される諸分野を広く学び、数理的方法の有用性を知り、この方法による問題解決力を身につけることが目標である。</p> <p>②内容・構成 数学、物理学、情報科学の3つの科目群からなる。数学科目は数学の中でも、特に応用される事の多い科目から成っている。物理学の科目群は物理学の基礎として重要な科目から成り、情報科学の科目は数学の応用として捉えやすい科目から成る。</p>

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
<b>【履修にあたっての注意】</b>					
以下の（数学）・（物理学）・（情報科学）のグループから2つ以上を選択し、それぞれ6単位以上を修得すること					
関数解析	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	(数学)
関数論統論	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
確率論	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
フーリエ解析とラプラス変換	2	Ⅳ	選択	Red	
ガロア理論	2	Ⅳ	選択	Red	
多様体論	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
微分幾何学	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
微分方程式論	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
数理統計学	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
数理経済学	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
代数学特別講義Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
代数学特別講義Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
代数学特別講義Ⅲ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
代数学特別講義Ⅳ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
代数学特別講義Ⅴ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
幾何学特別講義Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
幾何学特別講義Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
幾何学特別講義Ⅲ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
幾何学特別講義Ⅳ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
幾何学特別講義Ⅴ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
解析学特別講義Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
解析学特別講義Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
解析学特別講義Ⅲ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
解析学特別講義Ⅳ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
解析学特別講義Ⅴ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
数理物理学	2	Ⅱ	※選択	Green	(物理学) (※印の科目は、物理学科は本プログラムとしては履修できない)
古典力学	2	Ⅰ	※選択	Pink	
電磁気学Ⅰ	2	Ⅰ	※選択	Pink	
電磁気学Ⅱ	2	Ⅰ	※選択	Green	
量子力学Ⅰ	2	Ⅱ	※選択	Green	
量子力学Ⅱ	2	Ⅱ	※選択	Green	
解析力学	2	Ⅰ	※選択	Green	
熱力学	2	Ⅱ	※選択	Pink	
統計力学	2	Ⅲ	※選択	Green	
量子光学	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
凝縮系物理学	2	Ⅳ	選択	Red	
場の量子論	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
物性物理学序論	2	Ⅱ～Ⅳ	選択	Green	
素粒子物理学	2	Ⅲ	選択	Red	
相対論	2	Ⅱ	選択	Green	
流体物理学	2	Ⅲ	選択	Green	
宇宙物理学	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
物理学基礎研究	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Pink	
計算基礎論	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
グラフ理論	2	Ⅱ	※選択	Green	
情報理論	2	Ⅱ	※選択	Green	
組み合わせ論	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
コンピュータシステム序論	2	Ⅰ	※選択	Pink	
暗号と符号	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	(情報科学) (※印の科目は、情報科学科 は本プログラムとしては履修で きない)
情報解析学	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	

## カリキュラムポリシー

## ①教育目標

他専攻の学生で、物理学に関心のある者がはじめに修めるべき主要分野の基礎的内容を講義により学習する。講義内容の消化と問題解決能力の養成のための演習を行う。以上を経て、各人が物理学的な考え方に習熟し、それをある程度使いこなせるようになることを目指す。

## ②内容・構成

物理学科が用意する主要分野の基礎的な講義科目・演習科目からなる。

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
物理学概論A	2	I～IV	選択	Pink	以下の科目から20単位選択
物理学概論B	2	I～IV	選択	Pink	
物理学基礎実験	2	I～IV	選択	Pink	
宇宙・地球科学	2	I～IV	選択	Pink	
古典力学	2	I	選択	Pink	
解析力学	2	I	選択	Green	
電磁気学Ⅰ	2	I	選択	Pink	
電磁気学Ⅱ	2	I	選択	Green	
物理数学Ⅰ	2	I	選択	Pink	
物理数学Ⅱ	2	I	選択	Pink	
力学系理論	2	Ⅱ	選択	Green	
熱力学	2	Ⅱ	選択	Pink	
量子力学Ⅰ	2	Ⅱ	選択	Green	
量子力学Ⅱ	2	Ⅱ	選択	Green	
力学演習	2	I	選択	Pink	
電磁気学演習	2	I	選択	Pink	
物理数学演習	2	Ⅱ	選択	Pink	
量子力学演習	2	Ⅱ	選択	Pink	

<b>カリキュラムポリシー</b>
<b>主プログラム</b>
①教育目標 物理や化学の主プログラムで学んだ、当該分野の基礎的内容を発展させた専門科目を履修すると共に、相互の分野の基礎的および専門的科目を同時に履修する。それにより、物理学と化学の学際領域で活躍するための基本的な力を身につける。
②内容・構成 物理と化学の学際分野に進むために有用である、両分野の入門的科目（基礎化学、物理学概論）および基礎実験科目を配置し、基礎的および専門的な講義科目を集めている。

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
					以下の科目から20単位選択
基礎化学A	2	I～IV	選択	Pink	(化学科は、本プログラムとしては履修できない)
基礎化学B	2	I～IV	選択	Pink	
化学基礎実験	2	I～IV	選択	Pink	
物理学概論A	2	I～IV	選択	Pink	
物理学概論B	2	I～IV	選択	Pink	
物理学基礎実験	2	I～IV	選択	Pink	
物理化学I	2	II	選択	Green	
物理化学II	2	II	選択	Green	
物理化学III	2	II	選択	Green	
物理化学IV	2	III	選択	Red	
無機化学I	2	I	選択	Green	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
有機化学I	2	II	選択	Green	
分析化学I	2	II	選択	Green	
分析化学II	2	III	選択	Red	
計算化学	2	II	選択	Red	
分子分光法	2	III	選択	Red	
量子化学	2	IV	選択	Red	
反応物理化学	2	III～IV	選択	Red	
生物物理化学	2	III～IV	選択	Red	
放射化学	2	III～IV	選択	Red	
量子力学I	2	II	選択	Green	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
量子力学II	2	II	選択	Green	
熱力学	2	II	選択	Pink	
統計力学	2	III	選択	Green	
物理数学I	2	I	選択	Pink	
物性物理学序論	2	II～IV	選択	Green	
固体電子論	2	III	選択	Red	
相転移物理学	2	III	選択	Red	
凝縮系物理学	2	IV	選択	Red	
ソフトマター物理	2	II～IV	選択	Red	
物理実験学	2	II～IV	選択	Green	
基礎エレクトロニクス	2	III	選択	Green	
物理学基礎研究	2	III～IV	選択	Pink	
計算物理学講義・演習	4	III	選択	Green	

カリキュラムポリシー					
①教育目標 化学の分野における基本的な考え方、基礎知識を身につけるとともに、先端化学について、その概要をある程度理解できる様な力を養う。					
②内容・構成 化学関連の全学共通科目において、初歩的なところを学び、化学の各分野の基礎的なものを選択して学べる様な構成となっている。					

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
基礎化学 A	2	I ~ IV	必修	Pink	以下の科目から 14 単位選択
基礎化学 B	2	I ~ IV	必修	Pink	
化学基礎実験	2	I ~ IV	必修	Pink	
物理化学 I	2	II	選択	Green	
物理化学 II	2	II	選択	Green	
物理化学 III	2	II	選択	Green	
無機化学 I	2	I	選択	Green	
無機化学 II	2	II	選択	Green	
有機化学 I	2	II	選択	Green	
有機化学 II	2	II	選択	Green	
分析化学 I	2	II	選択	Green	
生物化学 I	2	II	選択	Green	
生物化学 II	2	II	選択	Green	
化学英語	2	II	選択	Green	
化学特別ゼミ I	2	I	選択	Pink	

カリキュラムポリシー	
①教育目標	化学または生物の基礎をもつ学生がその知識と考え方を発展させて、生体分子および生物の働きを解明する学際分野へ進むための橋渡しをする。生命のしくみを物質の視点からより深く学ぶとともに、生体物質の構造と機能の解明、ならびに生体機能を制御する物質の合成・創成のために必要な基盤を習得する。
②内容・構成	化学主プログラムまたは生物主プログラムを履修した学生について必要なケミカルバイオロジー分野の基盤的科目及び、それらを発展して学ぶ科目及び周辺領域に視野を広げる科目から構成されている。

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考	
分子生命科学	2	Ⅲ	選択	Red	以下の科目から12単位以上 選択	
有機化学Ⅲ	2	Ⅲ	選択	Red		
生体分子機能・反応学	2	Ⅲ	選択	Red		
有機化学Ⅳ	2	Ⅲ	選択	Red		
生体分子機能・認識学	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red		
生物物理化学	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red		
細胞生化学	2	Ⅱ～Ⅲ	選択	Red		
分子細胞情報学	2	Ⅱ～Ⅲ	選択	Green		
分子構造生物学	2	Ⅱ～Ⅲ	選択	Red		
植物生理工学	2	Ⅲ	選択	Red		
細胞生物学	2	Ⅱ	選択	Green		(生物学科は本プログラムとして 履修できない)
代謝生物学	2	Ⅱ	選択	Green		
公開臨海実習	1	Ⅰ～Ⅳ	選択	Red	(化学科は本プログラムとして 履修できない)	
動物環境応答学	2	Ⅲ	選択	Red		
植物機能制御学	2	Ⅲ	選択	Red		
遺伝子工学	2	Ⅲ	選択	Red		
分析化学Ⅱ	2	Ⅲ	選択	Red		
計算化学	2	Ⅱ	選択	Red		
無機化学Ⅲ	2	Ⅲ	選択	Red		
ケミカルバイオロジー特別講義Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red		
ケミカルバイオロジー特別講義Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red		
高分子化学	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red		
生物化学特別講義Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red		
生物化学特別講義Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red		
生物化学特別講義Ⅲ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red		
有機化学特別講義Ⅰ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red		
有機化学特別講義Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red		
有機化学特別講義Ⅲ	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red		
有機化学Ⅰ	2	Ⅱ	選択	Green		
有機化学Ⅱ	2	Ⅱ	選択	Green		
生物化学Ⅰ	2	Ⅱ	選択	Green		
生物化学Ⅱ	2	Ⅱ	選択	Green		
基礎生物学A	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Pink	(生物学科は履修できない)	
基礎生物学B	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Pink		
生物学基礎実験	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Pink		
化学基礎実験	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Pink	(化学科は履修できない)	
基礎化学A	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Pink	(化学科は本プログラムとして 履修できない)	
基礎化学B	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Pink		

カリキュラムポリシー	
①教育目標	生物学の主プログラムを専攻しない他学科の学生に向けて、生物学のエッセンスを学び、生物学を構成する基本的な知識および概念を学ぶことを目的とする。近年の地球環境問題や生命倫理の問題が重要視される社会情勢の中で、生物学を主たる専攻としない学生に対する生物学教育の重要性は、益々高まるものと考え。主たる専門に加えて、このような生物学の基礎的な素養を持つ学生を育成することが、本プログラムの目標である。
②内容・構成	この副プログラムの履修要件として、生物学の全学共通科目である基礎生物学 A、B 及び生物学基礎実験を必修科目（6単位）として履修し、これらに加えて生物学の必修科目の中から7科目以上を選択することとする。なお、生物学科の学生はこのプログラムを履修することができない。

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
基礎生物学 A	2	I～IV	必修	Pink	以下の科目から 14 単位選択
基礎生物学 B	2	I～IV	必修	Pink	
生物学基礎実験	2	I～IV	必修	Pink	
生化学	2	I	選択	Pink	
生物物理学	2	I	選択	Pink	
動物系統学	2	I	選択	Green	
植物系統学	2	II	選択	Green	
動物生理学	2	II	選択	Green	
植物生理学	2	I	選択	Green	
代謝生物学	2	II	選択	Green	
基礎遺伝学	2	II	選択	Green	
分子遺伝学	2	II	選択	Green	
細胞生物学	2	II	選択	Green	
発生生物学	2	II	選択	Green	
進化生物学	2	I	選択	Pink	
生物統計学	2	II	選択	Green	



カリキュラムポリシー	
①教育目標	生命情報学学際プログラムは、理学部の主プログラムの基礎を習得する学生に対して、学際分野である生命情報学の基礎から応用までを提供する。生命情報学研究に最低限必要な基礎知識の習得と様々なデータを解析し新しい知見を抽出するために必要な論理力と技術力の取得を目的とする。これらの習得により、ライフサイエンスのさまざまな分野で活躍できる人材の育成を目指す。
②内容・構成	生命情報学の基礎知識と基礎技術を習得するために、1科目の必修と7科目の選択必修を提供する。選択必修からは3科目を履修する。その上で、今までに学んできた主プログラムと生命情報学の基礎とを合流させて、学生自らがもっとも力を発揮できる領域を見だし、6科目以上（必修として選択しなかった選択必修科目と選択科目から）を履修する。

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
生命情報学概論	2	I～IV	必修	Green	
計算生物学	2	I～IV	選択	Green	以下の7科目から6単位以上選択
進化遺伝学	2	III～IV	選択	Red	
分子遺伝学	2	II	選択	Green	(生物学科は本プログラムとしては履修できない)
バイオインフォマティクス	2	III～IV	選択	Red	
コンピュータシステム序論	2	I	選択	Pink	(情報科学科は本プログラムとしては履修できない)
生体分子機能・反応学	2	III～IV	選択	Red	
計算化学	2	II	選択	Red	
生命情報プログラミング演習	1	III	選択	Red	(*印の科目は生物学科は本プログラムとしては履修できない)
生化学	2	I	*選択	Pink	
細胞生物学	2	II	*選択	Green	
発生遺伝学	2	III	選択	Red	
動物生理学	2	II	*選択	Green	
遺伝子工学	2	III	選択	Red	
植物生態学	2	II～III	選択	Green	
動物生態学	2	II～III	選択	Green	
生物統計学	2	II	*選択	Green	
分子構造生物学	2	II～III	選択	Red	
データ構造とアルゴリズム	2	I	*選択	Green	
情報解析学	2	III～IV	選択	Red	
数理基礎論	2	I	*選択	Pink	
確率序論	2	II	*選択	Green	
グラフ理論	2	II	*選択	Green	
情報理論	2	II	*選択	Green	
組み合わせ論	2	III～IV	選択	Red	
暗号と符号	2	III～IV	選択	Red	
データベース設計論	2	III～IV	選択	Red	
マルチメディア	2	II	*選択	Green	
環境情報論	2	III～IV	選択	Red	
物理化学Ⅰ	2	II	☆選択	Green	(*印の科目は化学科は本プログラムとしては履修できない)
物理化学Ⅱ	2	II	☆選択	Green	
分子生命科学	2	III	選択	Red	
有機化学Ⅰ	2	II	☆選択	Green	
有機化学Ⅱ	2	II	☆選択	Green	
有機化学Ⅲ	2	III	選択	Green	
有機化学Ⅳ	2	III	選択	Green	
物理化学Ⅲ	2	II	☆選択	Green	
物理化学Ⅳ	2	III	選択	Red	

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
高分子化学	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
実験値解析法	2	Ⅲ	選択	Red	
分析化学Ⅰ	2	Ⅱ	☆選択	Green	
数理統計学	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
数理物理学	2	Ⅱ	選択	Green	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
微分幾何学	2	Ⅲ～Ⅳ	選択	Red	
基礎生物学A	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Pink	(生物学科は履修できない)
基礎生物学B	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Pink	
基礎化学A	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Pink	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
基礎化学B	2	Ⅰ～Ⅳ	選択	Pink	

カリキュラムポリシー	
①教育目標	情報科学の基礎を学ぶための情報科学科以外の学生のための科目です。プログラミングの指導はできませんので各自で勉強してから履修してください。プログラミング課題を伴うマルチメディア I、コンピュータネットワーク I、データベースシステムについては、コア科目のプログラミング演習の成績が S または A であることを履修の要件とします。人数制限がある場合にはプログラミング演習の成績が S の学生を優先します。
②内容・構成	コンピュータシステム序論などの情報科学の基礎科目、数理基礎論、確率序論、離散数学などの数学系の基礎科目、コンピュータアーキテクチャ、コンピュータネットワーク、マルチメディア、暗号と符号などの情報科学技術を学ぶ科目が含まれます。

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
数理基礎論	2	I	必修	Pink	
情報理論	2	II	必修	Green	
コンピュータシステム序論	2	I	選択	Pink	(*数学科は本プログラムとしては履修できない)
確率序論	2	II	*選択	Green	
離散数学	2	II	*選択	Green	(*数学科は履修できない)
コンピュータアーキテクチャ I	2	II	選択	Green	
コンピュータネットワーク I	2	II	選択	Green	
マルチメディア	2	II	選択	Green	
グラフ理論	2	II	選択	Green	
位相空間論	2	II	*選択	Green	
情報倫理	2	III~IV	選択	Green	
情報と職業	2	III~IV	選択	Green	
バイオインフォマティクス	2	III~IV	選択	Red	
データベースシステム	2	II~IV	選択	Red	
組み合わせ論	2	III~IV	選択	Red	
暗号と符号	2	III~IV	選択	Red	
ヒューマンインターフェイス	2	III~IV	選択	Red	
環境情報論	2	III~IV	選択	Red	

## 関連科目 数学科

授業科目	単位	CCBM
物理学概論A	2	Pink
物理学概論B	2	Pink
基礎化学A	2	Pink
基礎化学B	2	Pink
基礎生物学A	2	Pink
基礎生物学B	2	Pink
宇宙・地球科学	2	Pink
地球環境科学	2	Pink

授業科目	単位	CCBM
大気・海洋科学概論	2	Pink
地史・古生物学概論	2	Pink
物理学基礎実験	2	Pink
化学基礎実験	2	Pink
生物学基礎実験	2	Pink
地学基礎実験	2	Pink
数理基礎論	2	Pink
コンピュータシステム序論	2	Pink

## 関連科目 物理学科

授業科目	単位	CCBM
初等解析学Ⅰ	2	Pink
初等解析学Ⅱ	2	Pink
初等線形代数学	2	Pink
初等代数学	2	Pink
数の歴史	2	Pink
基礎化学A	2	Pink
基礎化学B	2	Pink
基礎生物学A	2	Pink
基礎生物学B	2	Pink
宇宙・地球科学	2	Pink

授業科目	単位	CCBM
地球環境科学	2	Pink
大気・海洋科学概論	2	Pink
地史・古生物学概論	2	Pink
化学基礎実験	2	Pink
生物学基礎実験	2	Pink
地学基礎実験	2	Pink
数理基礎論	2	Pink
確率序論	2	Green
コンピュータシステム序論	2	Pink

## 関連科目 化学科

授業科目	単位	CCBM
初等解析学Ⅰ	2	Pink
初等解析学Ⅱ	2	Pink
初等線形代数学	2	Pink
初等代数学	2	Pink
物理学概論A	2	Pink
物理学概論B	2	Pink
基礎化学A	2	Pink
基礎化学B	2	Pink
基礎生物学A	2	Pink
基礎生物学B	2	Pink

授業科目	単位	CCBM
宇宙・地球科学	2	Pink
地球環境科学	2	Pink
大気・海洋科学概論	2	Pink
地史・古生物学概論	2	Pink
物理学基礎実験	2	Pink
生物学基礎実験	2	Pink
地学基礎実験	2	Pink
数理基礎論	2	Pink
確率序論	2	Green
コンピュータシステム序論	2	Pink

## 関連科目 生物学科

授業科目	単位	CCBM
初等解析学Ⅰ	2	Pink
初等解析学Ⅱ	2	Pink
初等線形代数学	2	Pink
初等代数学	2	Pink
数の歴史	2	Pink
物理学概論A	2	Pink
物理学概論B	2	Pink
基礎化学A	2	Pink
基礎化学B	2	Pink
宇宙・地球科学	2	Pink

授業科目	単位	CCBM
地球環境科学	2	Pink
大気・海洋科学概論	2	Pink
地史・古生物学概論	2	Pink
物理学基礎実験	2	Pink
化学基礎実験	2	Pink
地学基礎実験	2	Pink
数理基礎論	2	Pink
確率序論	2	Green
コンピュータシステム序論	2	Pink

## 関連科目 情報科学科

授業科目	単位	CCBM
初等代数学	2	Pink
物理学概論A	2	Pink
物理学概論B	2	Pink
基礎化学A	2	Pink
基礎化学B	2	Pink
基礎生物学A	2	Pink
基礎生物学B	2	Pink
宇宙・地球科学	2	Pink

授業科目	単位	CCBM
地球環境科学	2	Pink
大気・海洋科学概論	2	Pink
地史・古生物学概論	2	Pink
物理学基礎実験	2	Pink
化学基礎実験	2	Pink
生物学基礎実験	2	Pink
地学基礎実験	2	Pink

# 全学共通科目

授業科目	単位	CCBM	備考
NPO入門	2	Pink	
女性リーダーへの道（入門編）	2	Pink	
女性リーダーへの道（ロールモデル入門編）	2	Pink	
女性リーダーへの道（実践入門編）	2	Green	
キャリアプランとライフプランⅠ	2	Pink	
キャリアプランとライフプランⅡ	2	Pink	
情報コミュニケーション技術と創発性	2	Pink	
働く女性の権利と地位	2	Pink	卒業に必要な単位に含めることができない
共生社会で働く	2	Green	卒業に必要な単位に含めることができない
グループワークとマネジメント	2	Green	卒業に必要な単位に含めることができない
キャリアプランニング実習	1	Pink	卒業に必要な単位に含めることができない
インターンシップ	1	Green	卒業に必要な単位に含めることができない
クリエイティブ・ライティングⅠ	2	Green	
クリエイティブ・ライティングⅡ	2	Green	
クリエイティブ・ライティングⅢ	2	Green	
クリエイティブ・ライティングⅣ	2	Green	
博物館学概論	2	Ivory	
博物館資料特殊講義	2	Ivory	
博物館活動特殊講義	2	Ivory	
博物館実習	3	Ivory	
初等解析学Ⅰ	2	Pink	数学科、情報科学科は履修できない
初等解析学Ⅱ	2	Pink	数学科、情報科学科は履修できない
初等線形代数学	2	Pink	数学科、情報科学科は履修できない
初等代数学	2	Pink	
数の歴史	2	Pink	
物理学概論A	2	Pink	物理学科は履修できない
物理学概論B	2	Pink	物理学科は履修できない
基礎化学A	2	Pink	
基礎化学B	2	Pink	
基礎生物学A	2	Pink	生物学科は履修できない
基礎生物学B	2	Pink	生物学科は履修できない
宇宙・地球科学	2	Pink	
地球環境科学	2	Pink	
大気・海洋科学概論	2	Pink	
地史・古生物学概論	2	Pink	
物理学基礎実験	2	Pink	物理学科は履修できない
化学基礎実験	2	Pink	化学科は履修できない
生物学基礎実験	2	Pink	生物学科は履修できない
地学基礎実験	2	Pink	
数理基礎論	2	Pink	
確率序論	2	Green	
コンピュータシステム序論	2	Pink	
生命情報学概論	2	Green	
計算生物学	2	Green	
海外交換留学認定科目	2～12		
グローバル COE 人間発達科学論Ⅰ	2	Green	
グローバル COE 人間発達科学論Ⅱ	2	Green	
グローバル COE 人間発達科学論Ⅲ	2	Green	

授業科目	単位	CCBM	備考
科学英語 I	2		
科学英語 II	2		
物理学サブリメント	2	Pink	卒業に必要な単位に含めることができない
生物学サブリメント	2	Pink	卒業に必要な単位に含めることができない
英語基礎強化ゼミ	2	Pink	卒業に必要な単位に含めることができない
TOEFL 対策ゼミ R/L	2		卒業に必要な単位に含めることができない
TOEFL 対策ゼミ S/W	2		卒業に必要な単位に含めることができない
企画・運営力養成講座	2		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 I	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 II	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 III	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 IV	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 V	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 VI	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 VII	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 VIII	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 IX	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 X	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 X I	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 X II	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 X III	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 X IV	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 X V	1		卒業に必要な単位に含めることができない

## 教職に関する科目

授業科目	単位	CCBM
教職概論	2	Ivory
教育原論（思想・歴史）	2	Ivory
教育心理	2	Ivory
教育原論（社会・制度）	2	Ivory
教育方法論	2	Ivory
視聴覚教育メディア論	2	Ivory
数学科教育法Ⅰ	2	Ivory
数学科教育法Ⅱ	2	Ivory
理科教育法Ⅰ	2	Ivory
理科教育法Ⅱ	2	Ivory
情報科教育法Ⅰ	2	Ivory

授業科目	単位	CCBM
情報科教育法Ⅱ	2	Ivory
道徳教育の研究	2	Ivory
教育課程論	2	Ivory
特別活動の研究	2	Ivory
生徒指導の研究	2	Ivory
学校カウンセリング	2	Ivory
事前・事後指導	1	Ivory
教育実習	高校は2単位	Ivory
	中学は4単位	Ivory
教職実践演習（教諭）	2	Ivory

授業科目一覧

Ⅱ

2

理学部  
専門教育科目

## 外国人留学生特別科目

授業科目	単位	CCBM
日本語演習ⅠA	2	Pink
日本語演習ⅠB	2	Pink
日本語演習ⅡA	2	Green
日本語演習ⅡB	2	Green
日本語演習ⅢA	2	Green
日本語演習ⅢB	2	Green
日本語演習ⅣA	2	Green
日本語演習ⅣB	2	Green
日本語演習ⅤA	2	Green
日本語演習ⅤB	2	Pink
日本事情演習ⅠA	2	Pink
日本事情演習ⅠB	2	Green
日本事情演習ⅡA	2	Green
日本事情演習ⅡB	2	Green
日本事情演習ⅢA	2	Green
日本事情演習ⅢB	2	Green
日本事情演習ⅣA	2	Green
日本事情演習ⅣB	2	Green
日本事情演習ⅤA	2	Green
日本事情演習ⅤB	2	Green





### 3 生活科学部

生活科学部履修規程 (P. 208) により、以下の別表のとおり卒業に必要な単位 124 単位を修得してください。各学科プログラム等に関することは、別表 2、3 を参照してください。

**別表第 1-1 (第 5 条関係)**

学科別	科目区分	必修及び選択必修の科目・単位							自由を選択して履修する科目・単位							卒業に必要な履修単位数		
		コア科目					専門教育科目(必修プログラム)		コア科目	専攻科目	学部共通科目	自由科目	他学部の科目	全学共通科目	教職共通科目		教職に関する科目	必修以外の選択プログラム
		文理融合リベラルアーツ	基礎講義	情報報	外国語	スポーツ健康	主プログラム	強化プログラム										
人間・環境科学科								60	20								14	124
人間生活学科								42	20								32	124

**備考**

- 1 情報処理演習(情報)2単位は、必修とする。
- 2 外国語は、一の外国語について8単位を必修とする。
- 3 スポーツ健康実習2単位を必修とし、その履修方法は別に定める。
- 4 主プログラムは、所属学科から選択すること。
- 5 強化プログラム・副プログラム・学際プログラムは、所属学部のプログラムから一つを選択すること。
- 6 強化プログラムは、同一名の主プログラムを選択していることが履修要件となる。
- 7 選択している主プログラムと同領域の副プログラムを選択することはできない。
- 8 必修以外の選択プログラムは、別表第2の所属学科が指定するプログラム選択一覧に従い、副プログラム、学際プログラムから選択すること。
- 9 教職に関する科目(教職概論、教育実習及び教職実践演習は除く。)の単位については、14単位までを自由を選択して履修する科目・単位として取り扱う。
- 10 外国人留学生特別科目(外国人留学生対象)の単位については、18単位までをコア科目として取り扱う。
- 11 生活科学部の「学部共通科目」は、別表第9のとおりとする。これらの科目の履修方法等は、別に定める。
- 12 特別設置科目は、自由科目の単位として取り扱う。  
ただし、卒業に必要な単位として取り扱うことのできる単位の上限は、8単位とする。

**別表第 1-2 (第 5 条関係)**

学科別	科目区分	必修及び選択必修の科目・単位					自由を選択して履修する科目・単位							卒業に必要な履修単位数				
		コア科目					専攻科目	学部共通科目	コア科目	専攻科目	学部共通科目	自由科目	他学部の科目		全学共通科目	教職共通科目	教職に関する科目	必修以外の選択プログラム
		文理融合リベラルアーツ	基礎講義	情報報	外国語	スポーツ健康												
食物栄養学科						101	4										3	138

**備考**

- 1 情報処理演習(情報)2単位は、必修とする。
- 2 外国語は、一の外国語について8単位を必修とする。
- 3 スポーツ健康実習2単位を必修とし、その履修方法は別に定める。
- 4 必修以外の選択プログラムは、別表第2の所属学科が指定するプログラム選択一覧に従い、副プログラム、学際プログラムから選択すること。
- 5 教職に関する科目(教職概論、教育実習及び教職実践演習は除く。)の単位については、14単位までを自由を選択して履修する科目・単位として取り扱う。
- 6 外国人留学生特別科目(外国人留学生対象)の単位については、18単位までをコア科目として取り扱う。
- 7 生活科学部の「学部共通科目」は、別表第9のとおりとする。これらの科目の履修方法等は、別に定める。
- 8 特別設置科目は、自由科目の単位として取り扱う。  
ただし、卒業に必要な単位として取り扱うことのできる単位の上限は、8単位とする。

別表第2

【(生) 二つ目の選択プログラム】(別表第1-1 備考5関係)

所属学科・講座	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」					
	人間・環境科学(副)	発達臨床心理学(副)	公共政策論(副)	ジェンダー論(副)	生活文化学(副)	消費者学(学際)
食物栄養学科						
人間・環境科学科		×	×	×	×	○
人間生活学科	○		○	○	○	○
発達臨床心理学講座	○		○	○	○	○
生活社会科学講座	○	○			○	○
生活文化学講座	○	○	○	○		○

【(生) 三つ目の選択プログラム(文・プログラム)】(別表第1-1 備考8関係、別表第1-2 備考4関係)

所属学科・講座	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」														
	哲学・倫理学・美術史(副)	比較歴史学(副)	地理環境学(副)	日本語・日本文学(副)	中国語圏言語文化(副)	英語圏言語文化(副)	仏語圏言語文化(副)	日本語教育(副)	社会学(副)	教育学(副)	心理学(副A) 人間社会科学科対象	心理学(副B) 人間社会科学科以外対象	舞踊教育学(副)	音楽表現(副)	グローバル文化学(学際)
食物栄養学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人間・環境科学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人間生活学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
発達臨床心理学講座	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生活社会科学講座	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生活文化学講座	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【(生) 三つ目の選択プログラム(理・プログラム)】(別表第1-1 備考8関係、別表第1-2 備考4関係)

所属学科・講座	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」								
	数学(副)	物理学(副)	化学(副)	生物学(副)	情報科学(副)	応用数理(学際)	物理・化学(学際)	ケミカルバイオロジー(学際)	生命情報学(学際)
食物栄養学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人間・環境科学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人間生活学科	○	○	○	○	○	×	×	×	×
発達臨床心理学講座	○	○	○	○	○	×	×	×	×
生活社会科学講座	○	○	○	○	○	×	×	×	×
生活文化学講座	○	○	○	○	○	×	×	×	×

【(生) 三つ目の選択プログラム(生・プログラム)】(別表第1-1 備考8関係、別表第1-2 備考4関係)

所属学科・講座	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」					
	人間・環境科学(副)	発達臨床心理学(副)	公共政策論(副)	ジェンダー論(副)	生活文化学(副)	消費者学(学際)
食物栄養学科	○	○	○	○	○	○
人間・環境科学科		○	○	○	○	○
人間生活学科	○		○	○	○	○
発達臨床心理学講座	○		○	○	○	○
生活社会科学講座	○	○			○	○
生活文化学講座	○	○	○	○		○

# 生活科学部 主プログラム・強化プログラム

## 人間・環境科学科

授業科目一覧

II

2

専門教育科目  
生活科学部

カリキュラムポリシー	主：60単位	強化：20単位
<b>主プログラム</b> <b>①教育目標</b> 環境と人間との間でのアンバランスから生じるさまざまな問題に対し、人間が享受する快適性、利便性、安全・安心を生活者にとって重要な要素と位置付けた上で、互いに影響を受け合っ変化する環境と人間との間のダイナミクス（相互作用）を、環境と人間の双方の視点から、また歴史・進化的視点のもとで科学的に理解することを目標とする。さらには、人間と環境がバランスを保ちつつ暮らせる具体的な対策を、社会に対して提案して実践する能力を養うことを教育目標とする。		
<b>②内容・構成</b> 人間と環境のあいだの問題の解決には定量制や客観性といった科学的な思考能力が不可欠であるため、入学後の1・2年次には、徹底した自然科学系基礎教育（数学、物理、化学、生物、統計学など）を行い、卒業研究のための基礎力を涵養する。3年次には関心に従い、応用へ展開する諸科目を学習する。4年間の勉学を通じて、科学技術の実践的な応用、生活関連分野におけるタイムリーなテーマへの取組み、研究成果の社会での応用・評価などを学ぶ。		
<b>強化プログラム</b> <b>①教育目標</b> 科学技術応用による具体課題の解決に対する社会的要求に応えるべく、実験実習を中心に充実した工学教育プログラムを提供する。本プログラムでは工学分野における主要科目（講義科目ならびに実験演習科目）を配置し、設計から評価にわたる徹底した一連の工学教育を展開する。そして、理系における実務教育の実施および女性技術者の育成に努める。なお、二級建築士受験資格を目指すものは、必要となる単位数が異なるので、注意すること。		
<b>②内容・構成</b> 主プログラムで学んだ自然科学基礎力を一層発展させることとし、工学的トレーニングを通じて、設計・評価能力を養う。また、プレゼンテーション技術を身につける。世界的科学技術競争の激化、少子高齢化、安全と安心の問題や地球的課題などに対応すべく、優れた創造的人材を育成する。理工系の基礎能力を身に付け、かつ、生活・生活の質に関連した具体的な応用課題に対する解決能力を有する人材の育成をはかる。		

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム			
				主プログラム	備考	◎必修	○選択
統計学	2	II	Green	◎			
基礎有機化学	2	II～IV	Pink	◎			
数学物理学演習 I	2	I	Pink	◎			
物理学	2	I	Pink	◎			
生物化学	2	II	Green	◎			
人体解剖学	2	I	Pink	◎			
環境化学	2	II	Green	◎			
情報工学演習	2	III	Red	◎			
人間環境科学演習	2	III	Red	◎			
人間環境科学実験実習 I	2	III	Red	◎			
人間環境科学実験実習 II	2	III	Red	◎			
人間環境科学実験実習 III	2	III	Red	◎			
人間環境科学輪講 I	2	IV	Red	◎			
人間環境科学輪講 II	2	IV	Red	◎			
卒業論文	10	IV	Red	◎			
数学物理学演習 II	2	I	Pink	○	以下の科目から22単位以上選択		
物理化学	2	II	Green	○			
反応工学論	2	II	Green	○			
環境生理学	2	II	Green	○			
ヒトと文化	2	I～IV	Pink	○			

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム		◎必修 ○選択	
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
人体計測学演習	4	Ⅱ	Green	○			
科学英語演習	2	Ⅲ	Green	○			
機器分析演習	2	Ⅱ	Green	○			
応用統計学	2	Ⅰ～Ⅳ	Green	○			
基礎構造力学	2	Ⅱ	Pink	○			
住居学概論	2	Ⅰ	Pink	○			
生活科学概論	2	Ⅰ	Pink	○			
人間・環境科学選択基礎	2	Ⅰ		○			
人間工学	2	Ⅱ	Green			○	以下の科目 から20単位 以上選択
システム工学	2	Ⅲ	Red			○	
水環境工学	2	Ⅲ	Red			○	
環境材料物性	2	Ⅲ	Red			○	
環境物理学	2	Ⅲ	Red			○	
人類進化史	2	Ⅱ～Ⅲ	Green			○	
統計学演習	2	Ⅲ	Red			○	
数学物理学演習Ⅲ	2	Ⅱ	Green			○	
人間環境科学特別実習Ⅰ	2	Ⅲ	Red			○	
人間環境科学特別実習Ⅱ	2	Ⅲ	Red			○	
環境衛生学	2	Ⅱ	Green			○	
人間環境科学特別講義	2	Ⅲ～Ⅳ	Green			○	
建築環境計画論	2	Ⅱ	Green			○	
建築環境工学	2	Ⅱ～Ⅲ	Green			○	
建築一般構造	2	Ⅰ	Pink			○	
建築材料学Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅲ	Green			○	
設計製図基礎	2	Ⅰ	Pink			○	
建築設計製図演習Ⅰ	2	Ⅱ	Green			○	
建築設計製図演習Ⅱ	2	Ⅱ	Red			○	
建築史	2	Ⅱ～Ⅲ	Green			○	
建築法規	1	Ⅱ～Ⅲ	Green			○	
建築施工	1	Ⅱ～Ⅲ	Green			○	
建築材料学Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
生活設備学	2	Ⅱ～Ⅲ	Green			○	
建築意匠論	2	Ⅱ～Ⅲ	Red			○	
建築構造力学	2	Ⅱ～Ⅲ	Red			○	
測量学	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
環境デザイン論	2	Ⅱ～Ⅲ	Green			○	
住生活論	2	Ⅱ	Green			○	

# 人間生活学科 発達臨床心理学

<b>カリキュラムポリシー</b>	主：42単位	強化：20単位
<p><b>主プログラム</b></p> <p>①教育目標                  発達臨床心理学講座では、生涯にわたる人間の発達・変容と、それに対する支援・援助のあり方について、理論的に、かつ、実践的に考究する学問である。そのため、家庭、就学前教育施設、児童福祉施設、学校、心理臨床など、様々な現場とのダイナミックな連携を重視しつつカリキュラムが構成されている。                  卒業後は、就学前教育・学校教育の教員、心理臨床の専門家（臨床心理士）養成の準備教育を行うと同時に、大学で学んだ知見をあらゆる社会生活の中で実践的に生かせる態度と見識を養うことを目標としている。</p> <p>②内容・構成                  臨床心理学、発達心理学、教育心理学、保育学、教育学などの基礎となる様々な学問的知見について学び、研究の姿勢と方法を身につけることが目指されているが、加えて、実践の場で求められる知識や態度のために必要な基礎的学習を重視している。したがって、主プログラムでは、講義科目として、発達と臨床に関する基礎的な知識を習得する科目、また、観察・診断・検査・統計分析といった方法論や分析スキルを身につける科目を用意している。さらに、演習科目として、講義講読科目群と研究演習科目群が用意されており、それぞれから1科目以上、計2科目以上の演習科目を履修し、卒業論文を執筆する。</p>		
<p><b>強化プログラム</b></p> <p>①教育目標                  発達臨床心理学主プログラムにより基礎的な力を養った後、より広範な専門的知識と分析方法を学習し、自ら分析・研究を進めていく力を養うためのプログラムである。また、充実した実習科目や演習科目を履修することによって、専門的な研究方法や、実践的な思考を深めることを目標としている。</p> <p>②内容・構成                  人の心やコミュニケーションの問題、子どもから大人まで生涯にわたる発達に関する課題等、専門に関する講義科目がすべて選択科目として用意されているので、各自の関心を深めると同時に視野を広げるために自由に選択することができる。実習科目については、履修年次制限に留意すること。4年次向けに開講されている発達臨床論文演習I・IIは必修ではないが、卒論執筆に当たっては、履修することが望まれる。</p>		

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム			
				主プログラム	備考	◎必修 ○選択	備考
人間生活論	2	I	Pink	◎			
児童学概論	2	I	Pink	◎			
生活文化学概論	2	I	Pink	○	以下の科目から 2単位以上選択		
生活社会科学概論	2	I	Pink	○			
発達臨床基礎論Ⅰ	2	I	Pink	◎			
発達臨床基礎論Ⅱ	2	I	Pink	◎			
発達臨床基礎演習Ⅰ	2	I	Pink	◎			
発達臨床基礎演習Ⅱ	2	I	Pink	◎			
人間関係学	2	I	Pink	◎			
発達臨床心理学Ⅰ	2	I	Green	◎			
発達臨床心理学Ⅱ	2	Ⅱ	Green	◎			
発達臨床人格検査法	2	Ⅱ	Green	◎			
発達臨床観察法	2	Ⅱ	Green	◎			
心理統計法（理論）	2	Ⅲ	Green	◎			
心理統計法（実践）	2	Ⅲ	Green	◎			
卒業論文	8	Ⅳ	Red	◎			
生活科学概論	2	I	Pink	○			
発達臨床心理学選択基礎	2	I		○			
生涯発達講義講読	2	Ⅲ	Red	○	以下の科目 から2単位 以上選択	○	以下の科目 から20単位 以上選択
心理臨床講義講読	2	Ⅲ	Red	○		○	
保育臨床講義講読	2	Ⅲ	Red	○		○	

授業科目一覧

Ⅱ  
2  
専門教育科目  
生活科学部

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム			
				主プログラム	備考	◎必修 ○選択	備考
人間関係講義講読	2	Ⅲ	Red	○	以下の科目 から2単位 以上選択	○	
人格発達講義講読	2	Ⅲ	Red	○		○	
学校心理講義講読	2	Ⅲ	Red	○		○	
生涯発達研究演習	2	Ⅲ	Red	○		○	
心理臨床研究演習	2	Ⅲ	Red	○		○	
保育臨床研究演習	2	Ⅲ	Red	○		○	
人間関係研究演習	2	Ⅲ	Red	○		○	
人格発達研究演習	2	Ⅲ	Red	○		○	
学校心理研究演習	2	Ⅲ	Red	○		○	
保育臨床学	2	Ⅱ	Green			○	
学校臨床学	2	Ⅱ	Green			○	
人格心理学	2	Ⅱ	Green			○	
保育学	2	Ⅱ	Green			○	
カウンセリング論	2	Ⅱ	Green			○	
心理臨床学	2	Ⅱ	Green			○	
障害臨床学	2	Ⅱ	Green			○	
発達社会文化論	2	Ⅱ	Green			○	
発達過程論	2	Ⅱ	Green			○	
児童社会文化論	2	Ⅱ	Green			○	
発達保健学	2	Ⅱ	Green			○	
家族療法	2	Ⅱ	Green			○	
質問紙法	2	Ⅱ	Green			○	
面接法	2	Ⅱ	Green			○	
産業心理臨床	2	Ⅱ	Green			○	
児童文化論	2	Ⅱ	Green			○	
発達臨床心理学専門英語	2	Ⅱ	Green			○	
発達臨床特殊講義Ⅰ	2	Ⅱ	Green			○	
発達臨床特殊講義Ⅱ	2	Ⅱ	Green			○	
発達臨床特殊講義Ⅲ	2	Ⅱ	Green			○	
心理臨床実習	2	Ⅲ	Red			○	
保育臨床実習	2	Ⅱ	Red			○	
発達臨床学特別実習Ⅰ	2	Ⅲ	Red			○	
発達臨床学特別実習Ⅱ	2	Ⅲ	Red			○	
発達臨床論文演習Ⅰ	2	Ⅳ	Red			○	
発達臨床論文演習Ⅱ	2	Ⅳ	Red			○	

# 人間生活学科 生活社会科学

<b>カリキュラムポリシー</b>	主：42単位	強化：20単位
<b>主プログラム</b> <b>①教育目標</b> 本プログラムは、社会科学の理論と方法論を習得し、身近な生活問題の発生メカニズムを理解するとともに、その解決の方途について提案する力を養うことを目的とする。法学、政治学、経済学、社会学の4分野にわたり広く社会科学の基礎知識を習得し、これを応用して各自の研究課題を解明するための基礎力を身につける。 <b>②内容・構成</b> 社会科学の理論と方法論の基礎を集中的に学ぶとともに、家族論、ジェンダー論、社会政策論、消費者経済、生活法、生活政治学等、本主プログラムと強化プログラムの柱となる現代的トピックについて学ぶ。3年次にはいずれかの演習を選択して密度濃い指導を受けつつ卒業研究のテーマを明確にし、4年次では卒業論文の作成に取り組む。		
<b>強化プログラム</b> <b>①教育目標</b> 生活社会科学主プログラムにより基礎的な力を養った後、各自の研究テーマ及びその関連領域につき体系的な知識を習得するためのプログラムである。本強化プログラムを履修することにより、社会科学の高度な知識と研究方法論を自在に使いこなす力身につけることができる。 <b>②内容・構成</b> 講義科目は、家族論、ジェンダー論、社会政策論、消費者経済、生活法、生活政治学など、主プログラムにより提示された柱となるトピックへの関心をさらに広げ、同時に深めるための科目群からなる。一部必修化するが、大半の科目は選択科目であり、各自の関心に応じて自由に選ぶことができる。また、演習科目については、主プログラムに組み込まれた2科目4単位分は必修であるが、さらにもう一種の演習（Ⅲ）を選択して学際的な視点をもって卒業論文の作成に取り組むことも可能である。		

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム			
				主プログラム	備考	◎必修 ○選択	備考
人間生活論	2	I	Pink	◎			
生活社会科学概論	2	I	Pink	◎			
児童学概論	2	I	Pink	○	以下の科目から		
生活文化学概論	2	I	Pink	○	2単位以上選択		
生活科学概論	2	I	Pink	○			
生活社会科学選択基礎	2	I		○			
生活社会科学演習	2	Ⅱ	Green	◎			
家族社会学	2	Ⅲ	Green	◎			
応用生活統計学	2	I	Pink	◎			
社会統計学Ⅰ	2	Ⅱ	Green	◎			
ジェンダー論	2	I～Ⅳ	Pink	◎			
生活関連法	2	Ⅱ	Green	◎			
家族法Ⅰ	2	Ⅲ	Green	◎			
生活政治学	2	Ⅱ	Green	◎			
家政経済学概論	2	I～Ⅳ	Pink	◎			
消費者経済学	2	Ⅱ	Green	◎			
家族関係論	2	I～Ⅱ	Pink	◎			
社会保障論	2	Ⅱ	Pink	◎			
卒業論文	8	Ⅳ	Red	◎			
家族法演習Ⅰ	2	Ⅲ	Red	○	以下の科目から4単位選択	○	以下の科目から4単位までを含めることができる
家族法演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
生活法学演習Ⅰ	2	Ⅲ	Red	○		○	
生活法学演習Ⅱ	2	Ⅲ	Red	○		○	
生活政治学演習Ⅰ	2	Ⅲ	Red	○		○	
生活政治学演習Ⅱ	2	Ⅲ	Red	○		○	
				○		○	



授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム		◎必修 ○選択	
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
家族社会学演習Ⅰ	2	Ⅲ	Red	○		○	
家族社会学演習Ⅱ	2	Ⅲ	Red	○		○	
生活福祉学演習Ⅰ	2	Ⅲ	Red	○		○	
生活福祉学演習Ⅱ	2	Ⅲ	Red	○		○	
消費者経済学演習Ⅰ	2	Ⅲ	Red	○		○	
消費者経済学演習Ⅱ	2	Ⅲ	Red	○		○	
生活経済学演習Ⅰ	2	Ⅲ	Red	○		○	
生活経済学演習Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Red	○		○	
労働経済学演習Ⅰ	2	Ⅲ	Red	○		○	
労働経済学演習Ⅱ	2	Ⅲ	Red	○		○	
社会福祉学	2	Ⅱ	Green			◎	
労働経済学総論	2	Ⅲ	Green			◎	
社会統計学Ⅱ	2	Ⅱ	Green			◎	
生活社会科学論文演習Ⅰ	2	Ⅳ	Red			◎	
生活社会科学論文演習Ⅱ	2	Ⅳ	Red			◎	
生活社会科学専門英語	2	Ⅱ	Green			○	
女性政策論	2	Ⅰ～Ⅳ	Green			○	
法女性学	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
家族法Ⅱ	2	Ⅲ～Ⅳ	Green			○	
労働法	2	Ⅰ～Ⅱ	Green			○	
比較家族思想史	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
比較ジェンダー論	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
政治とジェンダー	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
消費者教育論	2	Ⅱ	Green			○	
労働経済学各論	2	Ⅱ	Green			○	
企業経営論	2	Ⅱ	Green			○	
老年学	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
老人福祉論	2	Ⅱ	Green			○	
児童福祉論	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
発達社会学	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
人口学	2	Ⅰ～Ⅳ	Pink			○	
地域社会論	2	Ⅱ	Green			○	
住生活論	2	Ⅱ	Green			○	
生活調査法	2	Ⅱ	Green			○	
生活社会調査実習	2	Ⅲ～Ⅳ	Green			○	
生活設計論	2	Ⅰ～Ⅳ	Green			○	
財産と法	2	Ⅱ	Green			○	
刑事法	2	Ⅰ～Ⅱ	Green			○	
生活法学	2	Ⅲ	Green			○	
生活と行政Ⅰ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
生活と行政Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
生活経済学	2	Ⅱ	Green			○	
生活と金融	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
生活と財政	2	Ⅰ～Ⅳ	Green			○	
国際経済と生活	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
国民経済と生活	2	Ⅱ～Ⅳ	Red			○	
社会問題論	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	以下の科目から
現代社会論	2	Ⅰ～Ⅳ	Pink			○	4単位までを含
現代生活論	2	Ⅰ～Ⅳ	Pink			○	めることができる

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム			
				主プログラム	備考	強化プログラム	備考
社会意識論	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
比較社会論	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	
社会政策論Ⅰ	2	Ⅰ～Ⅳ	Pink			○	
社会政策論Ⅱ	2	Ⅱ～Ⅳ	Green			○	

# 人間生活学科 生活文化学

<b>カリキュラムポリシー</b>	<b>主：42単位</b>	<b>強化：20単位</b>
<p><b>主プログラム</b></p> <p>①<b>教育目標</b> 生活文化学は、日常生活に関わる文化事象、とくに服飾、住まい、工芸、デザインなどの生活造形を対象とし、比較文化論、民俗学、歴史学、美学などの手法によって新しい文化論を構築することを目指している。生活に根差した文化論の考究を基盤とすることにより、現代生活の諸問題を解決する実践能力を養い、生活文化をリードする見識と創造力を養う。</p> <p>②<b>内容・構成</b> 古今東西の生活文化に関する幅広い知識の習得と、自ら問題意識をもって文化事象を追究することのできる基礎力を養うことを重視する。そのために、人間生活学科の共通科目、生活文化学の各領域の基本的な知識を習得する概論科目、分析スキルを習得する基礎科目、自らの問題意識で分析・解釈を試みる基礎演習および卒業論文で構成される。</p>		
<p><b>強化プログラム</b></p> <p>①<b>教育目標</b> 生活造形の領域に関する専門的な知識に加え、より広範の生活文化に関する知識を習得し、また自ら分析・解釈を試みる演習を少なくとも二つの領域で履修することにより、生活文化に対する深い見識を養うとともに、より深い思考力と柔軟な分析力を養う。服飾制作実習や、民俗学のフィールドワークを含む実習によって身体を通して学び、理解力を深める。</p> <p>②<b>内容・構成</b> 生活造形に関するより専門的な講義科目、生活史・生活思想、芸術・情報・環境など生活文化の関連領域に関するより広範なテーマの講義科目、基礎演習を展開させ、自らの分析スキルによって調査・解釈を試みる演習科目、あるいは実習科目、そして生活文化学専門英語で構成される。</p>		

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム			
				主プログラム	備考	◎必修 ○選択	備考
人間生活論	2	I	Pink	◎			
生活文化学概論	2	I	Pink	◎			
生活社会科学概論	2	I	Pink	○	以下の科目から		
児童学概論	2	I	Pink	○	2単位以上選択		
生活造形論	2	I	Pink	◎			
民俗学	2	I	Pink	◎			
服飾文化概論	2	I	Pink	◎			
服飾美学概論	2	I	Pink	◎			
服飾史論	2	II	Green	◎			
服飾史資料論	2	II	Green	◎			
比較生活文化論	2	II	Green	◎			
比較生活文化史 I	2	II	Green	◎			
民俗文化史概論	2	II	Green	◎			
歴史民俗文化論	2	II	Green	◎			
生活文化学論文演習 I	2	IV	Green	◎			
生活文化学論文演習 II	2	IV	Red	◎			
卒業論文	8	IV	Red	◎			
比較文化論基礎演習	2	III	Red	○	以下の科目		
民俗文化史基礎演習	2	III	Red	○	から4単位		
日本服飾史演習 I	2	III	Red	○	以上選択		
服飾文化論基礎演習	2	III	Red	○			
生活科学概論	2	I	Pink	○			
生活文化学選択基礎	2	I		○			
服飾史 I	2	II	Green			○	以下の科目
服飾史 II	2	II	Green			○	から20単位
比較文化論演習	2	III	Red			○	以上選択

授業科目	単位	履修年次	CCBM	プログラム			
				主プログラム	備考	◎必修 ○選択 強化プログラム	備考
民俗文化史演習	2	Ⅲ	Red			○	
服飾文化論演習	2	Ⅲ	Red			○	
日本服飾史演習Ⅱ	2	Ⅲ	Red			○	
民俗文化史各論	2	Ⅲ	Red			○	
環境デザイン論	2	Ⅱ	Green			○	
生活文化論	2	Ⅱ	Green			○	
生活造形史	2	Ⅲ	Red			○	
工芸史	2	Ⅲ	Green			○	
比較生活文化史Ⅱ	2	Ⅲ	Red			○	
地域文化論	2	Ⅱ	Green			○	
現代文化論	2	Ⅱ	Green			○	
文化情報論	2	Ⅲ	Green			○	
美学・芸術学	2	Ⅲ	Green			○	
西洋服飾論	2	Ⅱ	Green			○	
日本服飾論	2	Ⅱ	Green			○	
服飾文化各論	2	Ⅲ	Red			○	
服飾美学各論	2	Ⅲ	Red			○	
服飾制作実習	1	Ⅲ	Green			○	
服飾文化実習	1	Ⅲ	Green			○	
生活文化実習Ⅰ	1	Ⅱ	Green			○	
生活文化実習Ⅱ	1	Ⅲ	Red			○	
生活文化学専門英語	2	Ⅱ	Green			○	

# 副プログラム・学際プログラム

## 人間・環境科学副プログラム

単位数：20

カリキュラムポリシー
<p><b>①教育目標</b> 人間や環境に係る理学や工学を総合的に幅広く学ぶことを目標とする。環境と科学技術のあり方について、今後の技術動向に関する分析力を養うとともに、人間・環境に係る科学技術についての理解を目指す。文系・理系学習者のいずれも受講可とする。</p> <p><b>②内容・構成</b> 人間・環境科学科の主プログラムならびに強化プログラムにおいて提供される科目群から、受講者の関心に従って選択して受講する。なお、二級建築士受験資格を取得するには、厳しい履修条件が課されています。二級建築士受験資格希望者は、かならず、人間・環境科学科の教員に事前に相談すること。</p>

授業科目	単位	必修・選択	CCBM	備考
統計学	2	選択	Green	以下の科目から20単位以上選択
人体解剖学	2	選択	Pink	
環境化学	2	選択	Green	
反応工学論	2	選択	Green	
環境生理学	2	選択	Green	
ヒトと文化	2	選択	Pink	
基礎構造力学	2	選択	Pink	
生活設備学	2	選択	Green	
住居学概論	2	選択	Pink	
環境物理学	2	選択	Red	
人類進化史	2	選択	Green	
人間工学	2	選択	Green	
システム工学	2	選択	Red	
環境材料物性	2	選択	Red	
水環境工学	2	選択	Red	
統計学演習	2	選択	Red	
人間環境科学実験実習Ⅰ	2	選択	Red	
人間環境科学特別実習Ⅱ	2	選択	Red	
情報工学演習	2	選択	Red	
人間環境科学演習	2	選択	Red	
建築環境計画論	2	選択	Green	
建築環境工学	2	選択	Green	
建築一般構造	2	選択	Pink	
建築材料学Ⅰ	2	選択	Green	
建築材料学Ⅱ	2	選択	Green	
設計製図基礎	2	選択	Pink	
建築設計製図演習Ⅰ	2	選択	Green	
建築設計製図演習Ⅱ	2	選択	Red	
建築史	2	選択	Green	
建築法規	1	選択	Green	
建築施工	1	選択	Green	
建築意匠論	2	選択	Red	
建築構造力学	2	選択	Red	
測量学	2	選択	Green	
環境デザイン論	2	選択	Green	
住生活論	2	選択	Green	

カリキュラムポリシー

①教育目標  
発達臨床心理学講座では、生涯にわたる人間の発達・変容と、それに対する支援・援助のあり方について、理論的に、かつ、実践的に考究する学問である。副プログラムでは、発達臨床心理学に関する学問的知見を学ぶことによって、それらをあらゆる社会生活の中で生かす態度と見識を養うことを目標としている。

②内容・構成  
臨床心理学、発達心理学、教育心理学、保育学、教育学などの様々な学問的知見について、学ぶことができる科目が用意されている。幅の広い領域をまなぶことによって、視野を広げていくことが可能となる科目から構成されている。

授業科目	単位	必修・選択	CCBM	備考
児童学概論	2	必修	Pink	ただし、他のプログラムで必修科目として履修している場合には、本プログラムの他の科目で単位を満たすことができる。 以下の科目から18単位以上選択
生活文化学概論	2	選択	Pink	
生活社会科学概論	2	選択	Pink	
人間関係学	2	選択	Pink	
発達臨床心理学Ⅰ	2	選択	Green	
発達臨床心理学Ⅱ	2	選択	Green	
保育臨床学	2	選択	Green	
学校臨床学	2	選択	Green	
人格心理学	2	選択	Green	
保育学	2	選択	Green	
カウンセリング論	2	選択	Green	
心理臨床学	2	選択	Green	
障害臨床学	2	選択	Green	
発達社会文化論	2	選択	Green	
発達過程論	2	選択	Green	
児童社会文化論	2	選択	Green	
発達保健学	2	選択	Green	
家族療法	2	選択	Green	
質問紙法	2	選択	Green	
面接法	2	選択	Green	
産業心理臨床	2	選択	Green	
児童文化論	2	選択	Green	
発達臨床特殊講義Ⅰ	2	選択	Green	
発達臨床特殊講義Ⅱ	2	選択	Green	
発達臨床特殊講義Ⅲ	2	選択	Green	
生涯発達講義講読	2	選択	Red	
心理臨床講義講読	2	選択	Red	
保育臨床講義講読	2	選択	Red	
人間関係講義講読	2	選択	Red	
人格発達講義講読	2	選択	Red	
学校心理講義講読	2	選択	Red	
生涯発達研究演習	2	選択	Red	
心理臨床研究演習	2	選択	Red	
保育臨床研究演習	2	選択	Red	
人間関係研究演習	2	選択	Red	
人格発達研究演習	2	選択	Red	
学校心理研究演習	2	選択	Red	

カリキュラムポリシー
<p>①教育目標 さまざまな主専攻領域で学んできた学生を想定し、社会科学の基本的な考え方と方法論の基礎を学び、主専攻の専門知識と関連づけつつ実践に活かすための力を養うことを目的とする。公務員受験を志望するものにも役立つカリキュラムを提供する。</p> <p>②内容・構成 社会科学の基本的な考え方と方法論を習得するため、「生活社会科学概論」「生活社会科学演習」を必修とする。また、その力をより強化するとともに、プログラム運営教員とのつながりを維持するため、演習科目1科目を履修する機会を持てるようにする。他の講義科目については、演習担当教員と相談しつつ、体系的に学べるようなメニューを提供する。</p>

授業科目	単位	必修・選択	CCBM	備考	
生活社会科学概論	2	必修	Pink	ただし、他のプログラムで必修科目として履修している場合には、本プログラムの他の科目で単位を満たすことができる。	
生活社会科学演習	2	必修	Green		
家族法演習Ⅰ	2	選択	Red	以下の科目から4単位までを含めることができる	
家族法演習Ⅱ	2	選択	Red		
生活法学演習Ⅰ	2	選択	Red		
生活法学演習Ⅱ	2	選択	Red		
生活政治学演習Ⅰ	2	選択	Red		
生活政治学演習Ⅱ	2	選択	Red		
家族社会学演習Ⅰ	2	選択	Red		
家族社会学演習Ⅱ	2	選択	Red		
生活福祉学演習Ⅰ	2	選択	Red		
生活福祉学演習Ⅱ	2	選択	Red		
消費者経済学演習Ⅰ	2	選択	Red		
消費者経済学演習Ⅱ	2	選択	Red		
生活経済学演習Ⅰ	2	選択	Red		
生活経済学演習Ⅱ	2	選択	Red		
労働経済学演習Ⅰ	2	選択	Red		
労働経済学演習Ⅱ	2	選択	Red		
ジェンダー論	2	選択	Pink		
生活関連法	2	選択	Green		
家族法Ⅰ	2	選択	Green		
生活政治学	2	選択	Green		
家政経済学概論	2	選択	Pink		
消費者経済学	2	選択	Green		
女性政策論	2	選択	Green		
家族法Ⅱ	2	選択	Green		
労働法	2	選択	Green		
政治とジェンダー	2	選択	Green		
社会福祉学	2	選択	Green		
消費者教育論	2	選択	Green		
労働経済学総論	2	選択	Green		
社会保障論	2	選択	Pink		
老人福祉論	2	選択	Green		
児童福祉論	2	選択	Green		
地域社会論	2	選択	Green		
生活設計論	2	選択	Green		
財産と法	2	選択	Green		
刑事法	2	選択	Green		
生活法学	2	選択	Green		

授業科目	単位	必修・選択	CCBM	備考
生活と行政Ⅰ	2	選択	Green	
生活と行政Ⅱ	2	選択	Green	
生活経済学	2	選択	Green	
生活と金融	2	選択	Green	
生活と財政	2	選択	Green	
国際経済と生活	2	選択	Green	
国民経済と生活	2	選択	Red	



## カリキュラムポリシー

## ①教育目標

さまざまな主専攻領域で学んできた学生を想定し、社会科学領域におけるジェンダー研究の視点と方法を学び、主専攻の専門知識と関連づけつつ研究や実践に活かすための力を養うことを目的とする。

## ②内容・構成

社会科学とジェンダー研究の基本的な考え方と方法論を習得するため、「生活社会科学概論」「生活社会科学演習」「ジェンダー論」を必修とする。また、社会科学的な考察力をより強化するとともに、プログラム運営教員とのつながりを維持するため、演習科目1科目を履修する機会を持てるようにする。他の講義科目については、演習担当教員と相談しつつ、体系的に学べるようなメニューを提供する。

授業科目	単位	必修・選択	CCBM	備考
生活社会科学概論	2	必修	Pink	ただし、他のプログラムで必修科目として履修している場合には、本プログラムの他の科目で単位を満たすことができる。
生活社会科学演習	2	必修	Green	
ジェンダー論	2	必修	Pink	
家族法演習Ⅰ	2	選択	Red	以下の科目から4単位までを含めることができる。
家族法演習Ⅱ	2	選択	Red	
生活法学演習Ⅰ	2	選択	Red	
生活法学演習Ⅱ	2	選択	Red	
生活政治学演習Ⅰ	2	選択	Red	
生活政治学演習Ⅱ	2	選択	Red	
家族社会学演習Ⅰ	2	選択	Red	
家族社会学演習Ⅱ	2	選択	Red	
生活福祉学演習Ⅰ	2	選択	Red	
生活福祉学演習Ⅱ	2	選択	Red	
消費者経済学演習Ⅰ	2	選択	Red	
消費者経済学演習Ⅱ	2	選択	Red	
生活経済学演習Ⅰ	2	選択	Red	
生活経済学演習Ⅱ	2	選択	Red	
労働経済学演習Ⅰ	2	選択	Red	
労働経済学演習Ⅱ	2	選択	Red	
家族法Ⅰ	2	選択	Green	
家族関係論	2	選択	Pink	
女性政策論	2	選択	Green	
法女性学	2	選択	Green	
家族法Ⅱ	2	選択	Green	
労働法	2	選択	Green	
比較家族思想史	2	選択	Green	
比較ジェンダー論	2	選択	Green	
政治とジェンダー	2	選択	Green	
社会福祉学	2	選択	Green	
労働経済学総論	2	選択	Green	
社会保障論	2	選択	Pink	
家族社会学	2	選択	Green	
老年学	2	選択	Green	
老人福祉論	2	選択	Green	
児童福祉論	2	選択	Green	
発達社会学	2	選択	Green	
生活関連法	2	選択	Green	
生活法学	2	選択	Green	

授業科目	単位	必修・選択	CCBM	備考
生活と行政 I	2	選択	Green	
国際経済と生活	2	選択	Green	
国民経済と生活	2	選択	Red	

カリキュラムポリシー	
①教育目標	消費生活にともなう諸問題を学際的・総合的に学ぶ。成熟した市民社会を担う能動的消費者となるための基礎的カリキュラム。消費生活アドバイザー資格試験を受ける人などにも最適。
②内容・構成	必修は「消費者科学入門」「国民経済と生活」の2科目4単位。選択は16単位。選択科目として、生活社会科学講座の専門科目から7科目、それ以外の学科講座の専門科目から10科目。資格試験との関連性については、別紙資料参照。

授業科目	単位	必修・選択	CCBM	備考
消費者科学入門	2	必修	Pink	以下の科目から16単位以上 選択
国民経済と生活	2	必修	Red	
企業経営論	2	選択	Green	
家政経済学概論	2	選択	Pink	
環境衛生学	2	選択	Green	
建築環境計画論	2	選択	Green	
医療と健康	2	選択	Green	
社会保障論	2	選択	Pink	
被服学概論	2	選択	Pink	
食物学概論	2	選択	Pink	
食糧経済学	2	選択	Green	
住居学概論	2	選択	Pink	
生活と財政	2	選択	Green	
生活と金融	2	選択	Green	
社会統計学Ⅰ	2	選択	Green	
社会統計学Ⅱ	2	選択	Green	
生活調査法	2	選択	Green	
消費者経済学	2	選択	Green	
生活造形論	2	選択	Pink	
現代文化論	2	選択	Green	
発達臨床心理学Ⅰ	2	選択	Green	
児童学概論	2	選択	Pink	
カウンセリング論	2	選択	Green	
応用統計学	2	選択	Green	
建築一般構造	2	選択	Pink	
国際栄養学	2	選択	Green	
食生活史	2	選択	Green	

カリキュラムポリシー	
①教育目標	生活科学を学ぶ学生が文化的視野をもち、人間の精神生活に対する理解を深めることは、生活の質を考える上でもっとも重要である。またどのような学問領域であれ、学生が生活をとりまく身近な文化に関心をもつことは、生活人として重要である。本プログラムは、生活造形を中心とした生活文化学の基本を学ぶことにより、より創造的な生活の感性を養うことを目指す。なお学芸員の資格を取得するための履修科目が複数含まれている。これらの科目については、履修ガイドの「Ⅲ 諸資格の取得 2. 博物館学芸員」掲載の表を参照すること。
②内容・構成	生活造形に関するもっとも基礎的な知識を習得する概論などの基礎科目、生活に関わる思想・芸術など、多様なテーマに関する講義科目および基礎演習科目で構成される。基礎4科目を必修とし、他は自由に選択することができる。演習科目を1つは履修することが望ましい。

授業科目	単位	必修・選択	CCBM	備考
生活造形論	2	必修	Pink	以下の科目から12単位以上選択
民俗学	2	必修	Pink	
服飾文化概論	2	必修	Pink	
服飾美学概論	2	必修	Pink	
服飾史論	2	選択	Green	
服飾史資料論	2	選択	Green	
服飾史Ⅰ	2	選択	Green	
服飾史Ⅱ	2	選択	Green	
比較生活文化論	2	選択	Green	
比較生活文化史Ⅰ	2	選択	Green	
民俗文化史概論	2	選択	Green	
歴史民俗文化論	2	選択	Green	
比較文化論基礎演習	2	選択	Red	
民俗文化史基礎演習	2	選択	Red	
服飾文化論基礎演習	2	選択	Red	
日本服飾史演習Ⅰ	2	選択	Red	
民俗文化史各論	2	選択	Red	
環境デザイン論	2	選択	Green	
生活文化論	2	選択	Green	
生活造形史	2	選択	Red	
工芸史	2	選択	Green	
比較生活文化史Ⅱ	2	選択	Red	
地域文化論	2	選択	Green	
現代文化論	2	選択	Green	
文化情報論	2	選択	Green	
美学・芸術学	2	選択	Green	
西洋服飾論	2	選択	Green	
日本服飾論	2	選択	Green	
服飾文化各論	2	選択	Red	
服飾美学各論	2	選択	Red	

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
解剖生理学Ⅰ	2	I	必修	Pink	
生化学	2	I	必修	Pink	
解剖生理学Ⅱ	2	I	必修	Pink	
調理科学	2	I	必修	Pink	
基礎調理学実習	1	I	必修	Pink	
細胞生化学	2	Ⅱ	必修	Green	
臨床医学総論	2	Ⅱ	必修	Green	
代謝栄養学	2	Ⅱ	必修	Green	
社会福祉学	2	Ⅱ	必修	Green	
食品化学	2	Ⅱ	必修	Green	
栄養教育論Ⅰ	2	Ⅱ	必修	Green	
生活環境学	2	Ⅱ	必修	Green	
食嗜好評価学	2	Ⅱ	必修	Green	
応用調理学実習	1	Ⅱ	必修	Green	
臨床医学各論Ⅰ	2	Ⅱ	必修	Green	
臨床医学各論Ⅱ	2	Ⅱ	必修	Green	
応用栄養学	2	Ⅱ	必修	Green	
給食経営管理論	2	Ⅱ	必修	Green	
食品製造・保存学	2	Ⅱ	必修	Green	
食品微生物学	2	Ⅱ	必修	Green	
臨床栄養アセスメント学	2	Ⅱ	必修	Green	
栄養カウンセリング論	2	Ⅱ	必修	Green	
分析化学実験	2	Ⅱ	必修	Green	
解剖生理学実験	1	Ⅱ	必修	Green	
食品微生物学実験	1	Ⅱ	必修	Green	
病態栄養学	2	Ⅲ	必修	Red	
食品衛生学	2	Ⅲ	必修	Red	
臨床栄養療法学	2	Ⅲ	必修	Red	
公衆栄養学	2	Ⅲ	必修	Red	
栄養教育論Ⅱ	2	Ⅲ	必修	Red	
ライフステージ栄養学	2	Ⅲ	必修	Red	
公衆衛生学	2	Ⅲ	必修	Red	
給食マネジメント論	2	Ⅲ	必修	Red	
栄養行政学	2	Ⅲ	必修	Red	
ライフスタイル栄養学	2	Ⅲ	必修	Red	
食品機能論	2	Ⅲ	必修	Red	
食事療法学	2	Ⅲ	必修	Red	
栄養学実験	2	Ⅲ	必修	Red	
応用栄養学実習	1	Ⅲ	必修	Red	
食品製造・保存学実験	2	Ⅲ	必修	Red	
栄養カウンセリング論実習	1	Ⅲ	必修	Red	
公衆栄養学実習	1	Ⅲ	必修	Red	
臨床栄養アセスメント学実習	2	Ⅲ	必修	Red	
食品化学実験	2	Ⅲ	必修	Red	
調理科学実験	2	Ⅲ	必修	Red	
給食経営管理実習	2	Ⅲ	必修	Red	
食物栄養管理論総合演習	2	Ⅳ	必修	Red	
栄養臨地実習	4	Ⅳ	必修	Red	

授業科目	単位	履修年次	必修・選択	CCBM	備考
卒業論文	6	Ⅳ	必修	Red	
<b>●専攻科目（選択）</b>					
* 食物栄養専門英語	2	Ⅱ	選択	Green	*印はコア科目外国語（必修）英語に充てることができる。
食品学	2	Ⅱ	選択	Green	
食品評価論	2	Ⅲ	選択	Green	
食物栄養学基礎演習	2	Ⅳ	選択	Red	
食物栄養学輪講	4	Ⅳ	選択	Red	
<b>●専攻科目（選択）－高大連携科目</b>					
食物栄養学選択基礎	2	Ⅰ			
<p>高大連携科目は、大学との連携を行っている高校の生徒が履修する科目であるため、大学生は履修できない。なお、履修した生徒が本学に入学した場合は、当該科目は別表第1（第6条関係）「自由に選択して履修する科目・単位」内の「専攻科目 選択」の単位として認定することができる。</p>					

## 学部共通科目

授業科目	単位	履修年次	CCBM	備考
生活科学概論	2		Pink	
基礎有機化学	2	(I)	Pink	食物栄養学科は必修
分析化学	2	(II)	Green	食物栄養学科は必修
ヒトと文化	2	(I~IV)	Pink	
発達社会学	2		Pink	
ジェンダー論	2		Pink	
比較ジェンダー論	2		Green	
人口学	2		Pink	
社会保障論	2	II	Pink	
企業経営論	2		Green	
消費者科学入門	2		Pink	
生活造形論	2	I	Pink	
民俗学	2	I	Pink	
生活設計論	2		Green	
生活法学	2		Green	
比較家族思想史	2	II~IV	Green	
老年学	2		Green	
服飾文化概論	2	I	Pink	
服飾美学概論	2	I	Pink	
国際栄養学	2	(I)	Green	
食糧経済学	2	(II)	Green	
食生活史	2	(I)	Green	
環境衛生学	2	(II)	Green	
人間関係学	2	I	Pink	
応用統計学	2	(II)	Green	
家族関係論	2	I~II	Pink	
家政経済学概論	2		Pink	
被服学概論	2	I~IV	Pink	
食物学概論	2	(I)	Pink	
建築環境計画論	2	(II)	Green	
住居学概論	2	(I)	Pink	
児童学概論	2	I	Pink	
発達臨床心理学 I	2	II	Pink	
保育臨床学	2	II	Green	
学校臨床学	2	II	Green	
医療と健康	2	(II)	Green	

## 全学共通科目

授業科目	単位	CCBM	備考
NPO入門	2	Pink	
女性リーダーへの道（入門編）	2	Pink	
女性リーダーへの道（ロールモデル入門編）	2	Pink	
女性リーダーへの道（実践入門編）	2	Green	
キャリアプランとライフプランⅠ	2	Pink	
キャリアプランとライフプランⅡ	2	Pink	
情報コミュニケーション技術と創発性	2	Pink	卒業に必要な単位に含めることができない
働く女性の権利と地位	2	Pink	卒業に必要な単位に含めることができない
共生社会で働く	2	Green	卒業に必要な単位に含めることができない
グループワークとマネジメント	2	Green	卒業に必要な単位に含めることができない
キャリアプランニング実習	1	Pink	卒業に必要な単位に含めることができない
インターンシップ	1	Green	
クリエイティブ・ライティングⅠ	2	Green	
クリエイティブ・ライティングⅡ	2	Green	
クリエイティブ・ライティングⅢ	2	Green	
クリエイティブ・ライティングⅣ	2	Green	
博物館学概論	2	Ivory	
博物館資料特殊講義	2	Ivory	
博物館活動特殊講義	2	Ivory	
博物館実習	3	Ivory	
初等解析学Ⅰ	2	Pink	
初等解析学Ⅱ	2	Pink	
初等線形代数学	2	Pink	
初等代数学	2	Pink	
数の歴史	2	Pink	
物理学概論A	2	Pink	
物理学概論B	2	Pink	
基礎化学A	2	Pink	
基礎化学B	2	Pink	
基礎生物学A	2	Pink	
基礎生物学B	2	Pink	
宇宙・地球科学	2	Pink	
地球環境科学	2	Pink	
大気・海洋科学概論	2	Pink	
地史・古生物学概論	2	Pink	
物理学基礎実験	2	Pink	
化学基礎実験	2	Pink	
生物学基礎実験	2	Pink	
地学基礎実験	2	Pink	
数理基礎論	2	Pink	
確率序論	2	Green	
コンピュータシステム序論	2	Pink	
生命情報学概論	2	Green	
計算生物学	2	Green	
海外交換留学認定科目	2～12		
グローバルCOE人間発達科学論Ⅰ	2	Green	
グローバルCOE人間発達科学論Ⅱ	2	Green	
グローバルCOE人間発達科学論Ⅲ	2	Green	



授業科目	単位	CCBM	備考
科学英語 I	2	Pink	
科学英語 II	2	Pink	
物理学サブリメント	2	Pink	卒業に必要な単位に含めることができない
生物学サブリメント	2	Pink	卒業に必要な単位に含めることができない
英語基礎強化ゼミ	2	Pink	卒業に必要な単位に含めることができない
TOEFL 対策ゼミ R/L	2		卒業に必要な単位に含めることができない
TOEFL 対策ゼミ S/W	2		卒業に必要な単位に含めることができない
企画・運営力養成講座	2		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 I	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 II	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 III	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 IV	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 V	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 VI	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 VII	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 VIII	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 IX	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 X	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 X I	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 X II	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 X III	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 X IV	1		卒業に必要な単位に含めることができない
理数特別講義演習 X V	1		卒業に必要な単位に含めることができない

## 教職共通科目

授業科目	単位	履修年次	CCBM
家庭看護学	2	I～IV	Green
家庭機械及び家庭電気	2		Pink
調理実習	1		Pink
被服製作実習	1	I～IV	Green
保育実践論	2	I～IV	Green
学校栄養教育論 I	2	I～IV	Green
学校栄養教育論 II	2		Green
教職概論	2		Ivory
教育原論（思想・歴史）	2		Ivory
教育心理	2		Ivory
教育原論（社会・制度）	2		Ivory
教育課程論	2		Ivory
家庭科教育法 I	2	III	Ivory
家庭科教育法 II	2	III・IV	Ivory
道德教育の研究	2		Ivory
特別活動の研究	2		Ivory
教育方法論	2		Ivory
生徒指導の研究	2	I～IV	Ivory
学校カウンセリング	2		Ivory
事前・事後指導	1		Ivory
教育実習	2または4		Ivory
栄養教育実習	2	(IV)	Ivory
教職実践演習（教諭）	2		Ivory
教職実践演習（栄養教諭）	2	(IV)	Ivory
視聴覚教育メディア論	2		Ivory

## 外国人留学生特別科目

授業科目	単位	CCBM
日本語演習 I A	2	Pink
日本語演習 I B	2	Pink
日本語演習 II A	2	Green
日本語演習 II B	2	Green
日本語演習 III A	2	Green
日本語演習 III B	2	Green
日本語演習 IV A	2	Green
日本語演習 IV B	2	Green
日本語演習 V A	2	Green
日本語演習 V B	2	Green
日本事情演習 I A	2	Pink
日本事情演習 I B	2	Pink
日本事情演習 II A	2	Green
日本事情演習 II B	2	Green
日本事情演習 III A	2	Green
日本事情演習 III B	2	Green
日本事情演習 IV A	2	Green
日本事情演習 IV B	2	Green
日本事情演習 V A	2	Green
日本事情演習 V B	2	Green

## 特別設置科目

授業科目	単位	履修年次	備考
子ども理解と保育の探求 I	2	II	
乳幼児発達障害論 I	2	II	
乳幼児発達障害論 II	2	II	
乳幼児教育・保育政策論 I	2	II	
乳幼児教育・保育政策論 II	2	II	
乳幼児保育マネジメント I	2	II	
乳幼児保育マネジメント II	2	II	
コミュニティ保育資源の活用 I	2	II	
コミュニティ保育資源の活用 II	2	II	
保育メディア論	2	II	
実践音楽療法	2	II	
子どもと家族	2	II	
比較保育実践研究 I	2	II	
比較保育実践研究 II	2	II	
現代保育課題研究 I	2	II	
現代保育課題研究 II	2	II	
子ども理解と保育の探求 II	2	II	

いま、学生の<就業力>育成が課題になっています。就業力とは、学生が自分に合った仕事を見つけ出し、社会に出て活躍できるような力を指します。社会を変えていく女性リーダー育成を大きな目標とする本学にとって、就業力とは単に実学的なものにとどまりません。広く公共的視野のもとに課題を発見し、蓄えた知識やスキルを自在に練り、異質な人々との協同・共生の中で課題解決のための選択肢を見きわめて行動する「女性リーダー力」を意味します。この力を学生に保証するために、今年度から新たにキャリアデザインプログラム科目群が設置されます。キャリアデザインプログラムでは、高度な就業力としての「女性リーダー力」をコンピテンシー（知識や技能を組み合わせることで成果を生む包括的能力）の概念枠組みでとらえています。現代社会の諸課題を解決する新たなリーダー育成を目標に、全学をあげてコンピテンシーの開発に取り組みます（図1）。

### (1) コンピテンシーとは

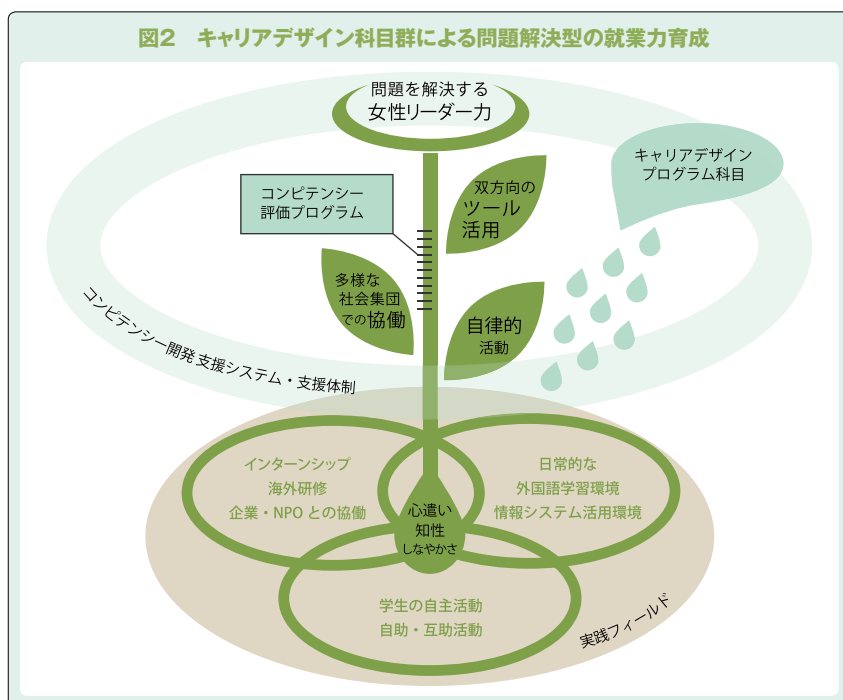
コンピテンシーとは、知識や技能を適切な思考・行動特性のもと状況に応じて組み合わせ、問題を発見・解決して高い成果を生む包括的能力を意味します。キャリアデザイン科目群では OECD（経済協力開発機構）が提案しているキー・コンピテンシーの枠組みをもとに、**双方向のツール活用、自律的活動、多様な社会集団での協働**という3分野のコンピテンシーを身につけ、これらを本学が女性リーダー力の核と考える**心遣い・知性・しなやかさ**という思考・行動特性のもと、適切に組み合わせ成果をあげられる学生を育てます（図2）。

図1 全学をあげた「女性リーダー力」の育成

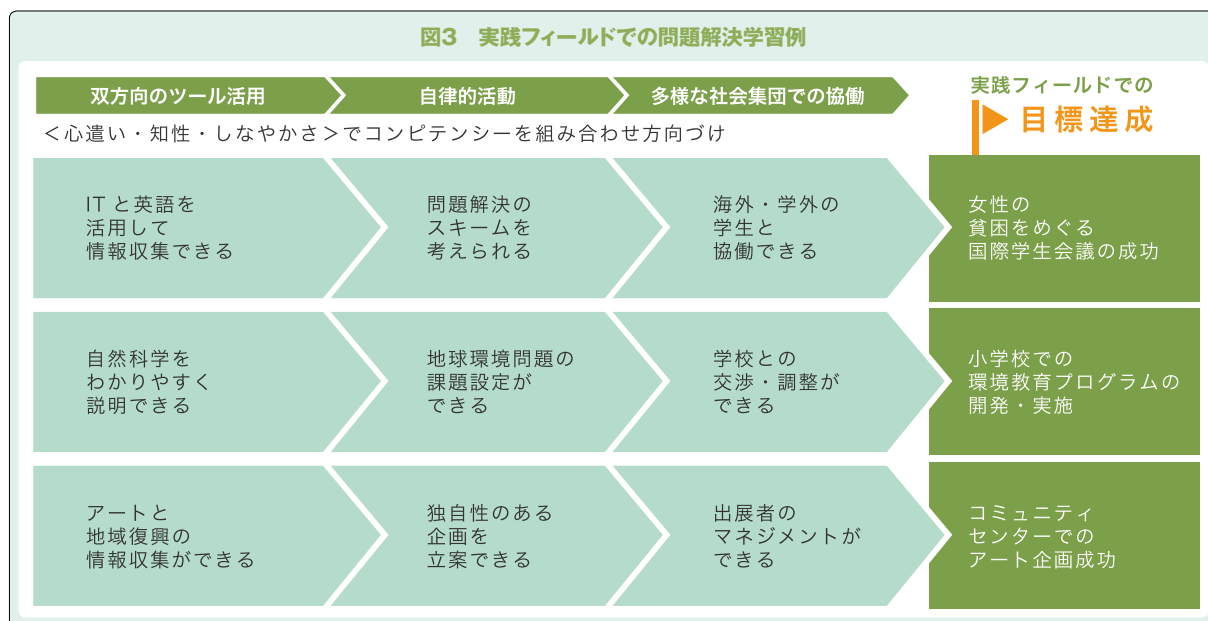


お茶の水女子大学は学生個々の特性と志向性に応じた多次元的な学士力の養成を目指しています。そのための全学的な教育・支援体制を図1のように構築していきます。この養成過程で修得される諸能力を適切に組み合わせ、女性の地位向上をはじめとする社会的課題の解決に貢献する高度な就業力として発揮できるようにすることが、「女性リーダーのためのコンピテンシー開発」の目標です。この取組みが、平成22年度文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に選定されました。その中心となるのが、多様化する女性のキャリアや生活をみすえながら、意欲的・計画的に大学での学修をすすめるための<キャリアデザイン科目群>です。

図2 キャリアデザイン科目群による問題解決型の就業力育成



高校までの学習は、教科ごとに与えられる知識を習得していくことが中心でした。しかし実社会では、目標達成のための主体的な学びが求められます。キャリアデザイン科目群では、目標に向かって、学生が主体的に必要な知識やスキルを知り、それを習得することを動機づけます。また「実践フィールド」での活動で、仲間と協働してコンピテンシーを開発できるしくみをつくります（図3）。



## (2) キャリアデザイン科目群の概要

キャリアデザイン科目群は、大学で学ぶ知識や技能を、適切な思考・行動特性のもと組み合わせ、問題を発見し解決できるようにする、という枠組みを持ちます。学生自身が客観的基準で自分の力をはかり、自律的に向上させられる仕組みづくりがこの取組みの目的です。そのために、以下の4つの課題に取り組みます。

1. キャリアプランニングや実務家による講義、実習などからなるキャリアデザイン科目群 基幹科目の開発・設置
2. コンピテンシーの習得度合いを客観的に評価するコンピテンシー評価プログラムの開発・実施
3. どのコンピテンシーを習得したかが一目でわかるポートフォリオをはじめとする、コンピテンシー開発支援システムの構築
4. 教員・職員が一体となった総合的なコンピテンシー開発支援体制の整備

これらによって、大学教育におけるコンピテンシーの開発と評価のサイクルを、これを支える情報システムと人的支援体制のもとに構築します。これらを通じて、学生が将来の目標をみすえ、主体的に大学での学修に取り組めるようにします。

キャリアデザイン科目群の中心として、各分野のコンピテンシーに対応する**キャリアデザイン科目群 基幹科目**が設置されます（表1）。ただし、コンピテンシー開発には、これら基幹科目だけではなく、教養教育・専門教育の多くの科目が関連します。そこで、これら基幹科目から8単位、コンピテンシー開発の目的に関連する基幹科目・コア科目・専攻科目・関連科目等（選定中）から12単位、計20単位を履修し、評価プログラムに参加したものについて、キャリアデザインプログラムの修了を認定する予定です。

### 問い合わせ先：

キャリア支援センター（キャリアデザインプログラム担当）  
hp-p-careerdesign@cc.ocha.ac.jp

表1 キャリアデザイン科目群 基幹科目

授業科目	単位	CCBM	種別	卒業単位 参入	目的	内容	
お茶の水女子 大 学 論	2	Pink	総合科目	可	プログラムで育成する 就業力を方向づける。	お茶の水女子大学の特色を知り、自分の 将来を考える。	
女性リーダーへ の道（入門編）： コミュニケーション力を磨く	2	Pink	全学共通 科目	可	双方向に ツールを 活用する	言語、シンボ ル、テキストを 双方向的に 用いる	現場の第一線で活躍する講師をゲストに、 企業や行政などで実際に使われているコ ミュニケーションのノウハウ、必要とされる 資質や能力を知る。
知能環境論（文 理融合リベラル アーツ・ことば と世界）	2	White	文理融合 リベラル アーツ	可		知識や情報 を双方向的 に用いる	問題解決・目標達成型の学習者主体の 学習方法で、協同学習による問題発見と 問題解決、課題達成を、知能環境を意 識しつつ実効性のあるかたちで果たす。
情報コミュニ ケーション技術 と創発性	2	Pink	全学共通 科目	可		技術を双方向 的に用いる	具体的な課題解決にグループで取り組み ながら、学修やキャリア形成に情報コミュ ニケーション技術をどう活用するかを体得 する。
女性リーダーへ の道（実践入門 編）：企業と起業	2	Green	全学共通 科目	可	自律的 に活動する	大きな展望の 中で活動する	企業などの活動における課題を認識し、 社会の中で自分なりの目標をもって活動 するために必要な、基本的な知識やスキ ルを知る。
キャリアプラン とライフプラン I	2	Pink	全学共通 科目	可		人生計画や 個人プロジェ クトを設計し 実行する	キャリアプラン（職業的な生涯計画）を、 より広い女性のライフプランの中でとらえ、 大学での自己の学習課題を認識し、学修 計画を考える。
キャリアプラン とライフプラン II	2	Pink	全学共通 科目	可			キャリアプラン（職業的な生涯計画）を、 より広い社会的視野からとらえ、大学での 自己の学習課題を認識し、学修計画を考 える。
働く女性の 権利と地位	2	Pink	全学共通 科目	不可		自らの権利、 利害、限界や ニーズを表明 する	労働法や社会保障などの、女性が働き、 生きていく上で不可欠な権利や、それに 付随する責任を学ぶ。学生が行うアルバ イトも事例にしなが、基本的な権利を体 得する。
共生社会で働く	2	Green	全学共通 科目	不可	多様な社会 集団で協働 する	他人といい 関係を作る	最前線の経営者・実務家に学びながら、 現在の金融・経済情勢のもと、ダイバー シティ（人種や性別などにとらわれない多 様な人材の活躍）や男女共同参画をい かに実現するかを検討する。
グループワーク とマネジメント	2	Green	全学共通 科目	不可		協力する。 チームで働く	企業や行政などの組織で将来実際に活 用可能な、課題解決やグループマネジ メントの考え方と手法を学び、実習など で活用できるようにする。
女性リーダーへ の道（ロールモ デル入門編）	2	Pink	全学共通 科目	可		争いを処理し、 解決する	現在女性の活躍が目立つ分野の社会的 課題を、金融・経済界のリーダー、CSR （企業の社会的責任）担当者やNPO/ NGO、行政の担当者などをゲスト講師に 招きながら、実践的に学ぶ。
インターンシップ	1	Green	全学共通 科目	不可	知識や技能を適切に 組み合わせ、実践する		企業や行政などの組織で就労し体験を 交流、社会に出て働く意味を考える。
キャリアプラン ニング実習	1	Pink	全学共通 科目	不可			企業や行政からの提起をもとに課題解決 型の実習を行い、身につけた知識やスキ ルを適切に用いることができるようにする。

# Ⅲ

## 諸資格の取得

---

1. 教育職員免許状 ..... 163
2. 学芸員（博物館） ..... 163
3. 社会教育主事 ..... 165
4. 社会調査士 ..... 166
5. 栄養士 ..... 166
6. 食品衛生管理及び食品衛生監視員 … 167
7. 管理栄養士 ..... 167
8. 二級建築士 ..... 167

# Ⅲ

## 諸資格の取得

1 本学では、各種教育職員免許状、栄養士免許、博物館学芸員・社会教育主事・社会調査士の資格、食品衛生管理者・食品衛生監視員・管理栄養士・二級建築士の国家試験受験資格を取得することができます。取得のためには、卒業に必要な授業科目のほかに、それぞれ指定された授業科目を履修し、本学が発行する卒業証明書、及びそれぞれの資格等の取得に関する科目の単位修得証明書を関係機関に提出すれば、それぞれの資格等を取得することができます。

### 【取得できる資格一覧】

学部	学科等	中学校・高等学校教諭（一種）											栄養教諭（一種）	小学校教諭（一種）	幼稚園教諭（一種）	博物館学芸員	社会教育主事	社会調査士	食品衛生監視員	食品衛生管理者	栄養士	管理栄養士	二級建築士
		公民	地理歴史・公民	家庭	情報	理科	数学	音楽	保健体育	英語	中国語	国語											
文教育学部	人文科学科		○											○			△	△	△				
	言語文化学科																△	△	△				
	日本語・日本文学履修コース													○									
	中国語圏言語文化履修コース													○									
	英語圏言語文化履修コース													○									
	人間社会科学科																△	△	△				
	社会コース	○													○								
	小学校・幼稚園コース														○	○							
	芸術・表現行動学科																△	△	△				
	舞踊教育学履修コース																						
音楽表現学履修コース														○									
理学部	数学科																△	△	△				
	物理学科																△	△	△				
	化学科																△	△	△				
	生物学科																△	△	△				
	情報科学科																△	△	△				
	数学コース																						
生活科学部	食物栄養学科														○		△	△	△	□	□	○	□
	人間・環境科学科																△	△	△				□
	人間生活学科																△	△	△				
	家庭コース																						

○=免許、△=資格、□=国家試験受験資格

注) 地理歴史・公民、公民、情報は、高等学校教諭（一種）のみ

※生活科学部人間生活学科の学生は、文教育学部の小学校・幼稚園コースを履修することにより小学校・幼稚園教諭一種免許状を取得できます。

※生活科学部食物栄養学科及び人間・環境科学科の学生は、人間生活学科家庭コースを履修することにより中学校・高等学校教諭一種免許状（家庭）を取得できます。



## 1 教育職員免許状

本学で教員免許状を取得するには、卒業に必要な単位を修得するほか、教員職員免許関係法令（「教育職員免許法」「同法施行規則」「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」）が定めるそれぞれの免許状に必要な科目の単位を併せて修得する必要があります。教職課程の履修方法は、入学時に配付された『教育職員免許法に関する説明及び科目認定一覧表』を参照してください。

食物栄養学科の学生は、栄養教諭一種免許状を取得することが可能です。

生活科学部人間生活学科の学生で小学校・幼稚園教諭一種免許状の取得を希望する者は、文教育学部の小学校・幼稚園コースを履修することにより取得可能です。（平成15年度からの変更）

生活科学部食物栄養学科及び人間・環境学科の学生で、中学校・高等学校教諭一種免許状（家庭）を取得希望の者は、人間生活学科家庭コースを履修することにより取得可能です。（平成16年度からの変更）

なお、教職課程の説明会を何度か行うので、必ず参加してください。その他不明な点は、教務チーム教職担当に問い合わせてください。

### 基礎資格・最低修得単位数・介護等体験

区 分	基礎資格	教育職員免許法に定められた単位数			介護等 体 験	
		教科に 関する科目	教職に 関する科目	教科又は教職に 関する科目		
中 学 校 教 諭	専 修	修士の学位を有すること。	20単位	31単位	32単位	*
	一 種	学士の学位を有すること。	20単位	31単位	8単位	必 要
高 等 学 校 教 諭	専 修	修士の学位を有すること。	20単位	23単位	40単位	
	一 種	学士の学位を有すること。	20単位	23単位	16単位	
小 学 校 教 諭	専 修	修士の学位を有すること。	8単位	41単位	34単位	*
	一 種	学士の学位を有すること。	8単位	41単位	10単位	必 要
幼 稚 園 教 諭	専 修	修士の学位を有すること。	6単位	35単位	34単位	
	一 種	学士の学位を有すること。	6単位	35単位	10単位	

注) ① 「修士の学位を有すること」には、大学の専攻科又は文部科学大臣の指定するこれに相当する課程に一年以上在学し、30単位以上修得した場合を含むものとします。

② 介護等体験の「\*」は、既に小学校又は中学校の免許状を取得している者（取得要件を満たしている者を含む。）は不要。

③ この表に規定する最低単位数の他に日本国憲法2単位、体育2単位、外国語コミュニケーション2単位及び情報機器の操作2単位を修得することを必要とします。

※教育職員免許状取得の方法、授業科目等の詳細については、別冊「教育職員免許法に関する説明及び科目認定一覧表」を参照してください。

## 2 博物館学芸員

博物館学芸員の資格を取得するには、卒業に必要な単位を修得するほか、博物館法施行規則に基づいて本学が定めた所定の単位を併せて修得する必要があります。したがって資格の取得を希望するものは、低学年次から計画的に履修する必要があります。なお、選択科目は文教育学部及び生活科学部人間生活学科の学生は文化史・美術史・考古学・民俗学の中から、理学部・生活科学部食物栄養学科、人間・環境科学科の学生は物理学・化学・生物学・地学の中から選択して履修してください。

博物館学芸員として就職する際には、本学が発行する卒業証明書及び学芸員の資格認定に関する科目の単位修得証明書を任命権者（都道府県及び市町村の教育委員会等、博物館の管理機関）に提出する必要があります。

なお、本学における博物館学芸員の資格取得のための履修は、学部学生を対象としたものであり、大学院生は履修できません。ただし、大学院博士前期（修士）課程の学生に限り、かつ、履修人数に余裕がある場合などに限っては、履修できることがありますので、希望者は教務チームまで相談してください。

博物館学芸員の資格を取得するための履修科目

	博物館法施行規則に定める科目	単位	本学における講義科目	単位
必修科目	生涯学習概論	1	生涯学習概論	2
	博物館概論	6	博物館学概論	2
	博物館経営論		博物館活動特殊講義	2
	博物館資料論		博物館資料特殊講義	2
	博物館情報論			
	博物館実習	3	博物館実習	3
	視聴覚教育メディア論	1	視聴覚教育メディア論	2
	教育学概論	1	教育原論（思想・歴史）	2
	計	12	計	15
選択科目	文化史	左記系列の中より2系列以上にわたって8単位以上を選択履修すること。	文化人類学特殊講義	2
			民族誌学特殊講義	2
			日本史概説	2
			アジア史概説	2
			西洋史概説	2
			文化地理学	2
			日本古典文学史論（上代）	2
			〃（中古）	2
			〃（中世）	2
			〃（近世）	2
			日本近代文学史論（近代）	2
			〃（現代）	2
	比較生活文化史Ⅱ		2	
	美術史		美術史学特殊講義Ⅰ～Ⅲ	} 各4
			美術史学演習Ⅰ～Ⅲ	
			形象分析学特殊講義Ⅰ～Ⅲ	
			形象分析学演習Ⅰ～Ⅲ	
	西洋美術史AⅠ～AⅢ、BⅠ～BⅢ		} 各2	
				東洋美術史AⅠ～AⅢ、BⅠ～BⅢ
	考古学		工芸史	2
			生活造形史	2
			考古学通論Ⅰ	2
			考古学通論Ⅱ	2
	民俗学		歴史考古学	2
			史跡調査	2
			民俗学	2
			服飾史論	2
服飾史資料論		2		
服飾史Ⅰ		2		
物理学	服飾史Ⅱ	2		
	物理学概論A	2		
	物理学概論B	2		
	古典力学	2		
	電磁気学Ⅰ	2		

	博物館法施行規則に定める科目	単位	本学における講義科目	単位
選 択 科 目	化 学		基礎化学 A	2
			基礎化学 B	2
			無機化学 I	2
			有機化学 I	2
	生 物 学		基礎生物学 A	2
			基礎生物学 B	2
			動物系統学	2
			植物系統学	2
			人類進化史	2
			人体解剖学	2
	地 学		宇宙・地球科学	2
			大気・海洋科学概論	2
			地史・古生物学概論	2
			地球環境科学	2

### 3 社会教育主事

社会教育主事は、社会教育を行う者に専門的、技術的な助言と指導を与える専門職員であり、地方公共団体の教育委員会の事務局に置かれています。

本学で社会教育主事の資格を取得するには、卒業に必要な単位を修得するほか、社会教育主事講習等規程に基づいて本学が定めた所定の単位を併せて取得する必要があります。したがって資格の取得を希望する学生は、低学年次から計画的に履修する必要があります。

社会教育主事としての就職の道は縮小の傾向にあります。しかし、学校教員（地域の人々との協働）、地方公務員、NPO・ボランティア団体リーダー、企業内教育担当者として就職するときも、社会教育主事の資格とその知識は役立ちます。

#### 社会教育主事となる資格取得のための履修科目

社会教育主事講習等規程に定める科目	単位	本学における開講科目	(単位)	単位
生涯学習概論	4	生涯学習概論	(2) 必修	4
		生涯学習特殊講義	(2)	
		社会教育学特殊講義	(2)	
		いずれか1科目以上		
社会教育計画	4	社会教育計画 I	(2) 必修	4
		社会教育計画 II	(2) 必修	
社会教育演習、社会教育実習又は社会教育課題研究のうち1以上の科目	4	社会教育課題研究	(2) 必修	4以上
		生涯学習演習	(4)	
		社会教育学演習	(4)	
		社会教育実習	(2)	
		いずれか1科目以上		

社会教育主事講習等規程に定める科目	単位	本学における開講科目 (単位)	単位
社会教育特講Ⅰ (現代社会と社会教育)	12	社会教育特講Ⅰ (2) 必修	(以上から最低6単位以上を選択)
社会教育特講Ⅱ (社会教育活動・事業・施設)		社会教育特講Ⅱ (2) 必修	
社会教育特講Ⅲ (その他必要な科目)		博物館学概論 (2)	
		教育思想概論 (2)	
		教育史概論 (2)	
		教育方法学概論 (2)	
		教育原論 (思想・歴史) (2)	
		教育行財政学概論 (2)	
		教育開発論 (2)	
		NPO 入門 (2)	
		児童学概論 (2)	
		老年学 (2)	
		老人福祉論 (2)	
		障害臨床学 (2)	
		スポーツ人間学 (2)	
		生涯スポーツ (1)	
		多文化交流論 (2)	
多文化共生論 (2)			
合 計	24	合 計	24

## 4 社会調査士

社会調査士とは、一般社団法人社会調査協会が認定・発行する資格であり、社会調査に関する基礎的な知識、技能、相応の応用力と倫理観を習得したことを証明するものです。資格取得には、社会調査協会が認定した機関・大学における標準カリキュラムの履修と、大学学部卒業を要件とします。また、社会調査士資格は、より上位の専門社会調査士の取得の要件となっています。

本学では、文教育学部人文科学科地理学コース・人間社会科学科社会学コース・教育科学コース・心理学コース及びグローバル文化学環、生活科学部人間生活学科発達臨床心理学講座・生活社会科学講座が共同で対応カリキュラムを組織しています。社会調査士の資格を取得するには、卒業に必要な単位を修得するほか、社会調査士資格認定機構が定める標準カリキュラムA～Gに対応するものとして認定された所定の科目を修得する必要があります。資格の取得を希望する学生は、早い段階から計画的に履修する必要があります。具体的な標準カリキュラム対応科目は年度ごとに異なり、またGの実習科目に関しては受講制限があるかもしれませんので注意してください。詳細は毎年度初頭に予定される説明会等でお知らせします。

### 社会調査士資格取得のための標準カリキュラムと本学での必要単位数

標準カリキュラム	本学での必要単位数
A 社会調査の基本的事項に関する科目	2 単位
B 調査設計と実施方法に関する科目	2 単位
C 基本的な資料とデータの分析に関する科目	2 単位
D 社会調査士に必要な統計学に関する科目	2 単位
E 量的データ解析の方法に関する科目	いずれか一方を2 単位
F 質的な分析の方法に関する科目	
G 社会調査の実習を中心とする科目	4 単位

## 5 栄養士

栄養士の資格は、生活科学部食物栄養学科の卒業に必要な履修単位 138 単位を修得すると取得できます。

## 6 食品衛生管理者および食品衛生監視員

食品衛生管理者および食品衛生監視員の国家試験受験資格は、以下の科目から40単位以上取得すると得られます。これらの国家試験受験資格は、必要な職種についたとき、その任につくことができる任用資格であり、特に証書は発行されません。

専門分野	授業科目	単位	専門分野	授業科目	単位
A群 化学関係	○基礎有機化学	2	E群 関連科目	○代謝栄養学	2
	○分析化学	2		・食物学概論	2
	○分析化学実験	2		○病態栄養学	2
B群 生物化学	○生化学	2		・食品学	2
	○細胞生化学	2		○調理科学	2
	○食品化学	2		・食品評価論	2
	○食品化学実験	2		○栄養学実験	2
C群 微生物学	○食品製造・保存学	2		・食物栄養学基礎演習	2
	○食品微生物学	2		○解剖生理学Ⅰ	2
	○食品微生物学実験	1		○解剖生理学Ⅱ	2
	○食品製造・保存学実験	2		○食品機能論	2
D群 公衆衛生学	○食品衛生学	2		○臨床医学総論	2
	○生活環境学	2		○臨床医学各論Ⅰ	2
	○公衆衛生学	2		○臨床医学各論Ⅱ	2
			○解剖生理学実験	1	

○は必修科目

## 7 管理栄養士

管理栄養士は、医療機関などで傷病者に対する栄養評価・判定に基づく専門的な病気療養のための栄養管理、保健所における健康増進を図るための専門的な栄養指導、および特定給食施設において利用者の栄養状態等に応じた特別の配慮を必要とする給食管理などを行う専門職です。生活科学部食物栄養学科の卒業に必要な履修単位138単位を修得すると国家試験受験資格が与えられます。

## 8 二級建築士

建築物の設計、工事監理等の業務を行う専門職です。生活科学部人間環境学科の必要な科目を修得すると国家試験受験資格が与えられます。なお、二級建築士受験資格を取得するには、厳しい履修条件が課されていますので、希望者は、必ず、人間・環境科学科の教員に事前に相談してください。

# IV

## 諸規程等〔規則集〕

---

1. お茶の水女子大学学則 …………… 170
2. お茶の水女子大学複数プログラム  
    選択履修制度実施規則…………… 178
3. お茶の水女子大学文教育学部履修規程 …… 179
4. お茶の水女子大学理学部履修規程 …… 198
5. お茶の水女子大学生活科学部履修規程 …… 208
6. お茶の水女子大学学位規則 …………… 218
7. 本学在学中において、他大学等において  
    修得した単位等の取扱いについて …… 222
8. 転学及び編入学した学生の  
    既修得単位の取扱いについて …… 223
9. 新たに第1年次に入学した学生の  
    既修得単位等の取扱いについて …… 224
10. お茶の水女子大学  
    個人情報の管理に関する規則 …… 226
11. お茶の水女子大学授業料未納者に  
    係る除籍及び復籍に関する規程 …… 229

## 第1章 総則

## 第1節 目的

(目的)

第1条 国立大学法人お茶の水女子大学（以下「本学」という。）は、広く知識を授け、深く専門の学術を教授、研究し、知的、道徳的及び応用的能力を養い、もって社会の諸分野における有為にして教養高き女子を養成し、併せて文化の進展に寄与することを目的とする。

(点検及び評価)

第2条 本学は、前条の目的を達成するため、教育研究水準の向上を図り、その状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

2 点検及び評価の項目並びにその実施体制等に関し必要な事項は、別に定める。

## 第2節 組織・構成及び収容定員等

(学部)

第3条 本学に、次に掲げる学部を置く。

文教育学部

理 学 部

生活科学部

2 学部の学科及び収容定員等は、次の表のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	第3年次入学定員	収容定員
文教育学部	人文科学科	55人		220人
	言語文化学科	80人		320人
	人間社会科学科	40人		160人
	芸術・表現行動学科	27人		108人
	学部共通		10人	20人
	計	202人	10人	828人
理 学 部	数学科	20人		80人
	物理学科	20人		80人
	化学科	20人		80人
	生物学科	25人		100人
	情報科学科	40人		160人
	学部共通		10人	20人
	計	125人	10人	520人
生活科学部	食物栄養学科	36人		144人
	人間・環境科学科	24人		96人
	人間生活学科	65人		260人
	学部共通		10人	20人
	計	125人	10人	520人
合 計		452人	30人	1,868人

3 前項に規定する学科に、次に掲げる講座を置く。

学部	学 科	講 座
文教育学部	人 文 学 科	形象分析学講座、哲学講座、比較歴史学講座、地理学講座
	言 語 文 化 学 科	日本語・日本文学講座、中国語圏言語文化講座、英語圏言語文化講座、応用言語学講座、日本語教育講座
	人 間 社 会 学 科	社会学講座、教育学講座、心理学講座
	芸術・表現行動学科	舞踊教育学講座、音楽表現講座
理 学 部	数 学 科	数学構造講座、数理解析講座
	物 理 学 科	基礎物理学講座、物性物理学講座
	化 学 科	構造化学講座、反応化学講座
	生 物 学 科	構造生物学講座、機能生物学講座
	情 報 学 科	情報数理講座、情報処理講座
生 活 科 学 部	食 物 栄 養 学 科	食物栄養学講座
	人 間 ・ 環 境 学 科	人間・環境科学講座
	人 間 生 活 学 科	発達臨床心理学講座、生活社会科学講座、生活文化学講座

(文教育学部の目的)

第3条の2 文教育学部は、人文・社会科学系の学問を中心に、講義、演習、実験、実習等の多様な授業を通じて、学術研究のための確かな基礎と、国際的に通用する問題発見能力、情報処理能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を備えた人材を養成することを目的とする。

2 前項の目的を達成するため、前条第2項に定める文教育学部各学科の目的は、次に掲げるとおりとする。

一 人文科学科

人文科学科は、人類の様々な歩みの中の現象を広く文化として捉え、深く幅広い知識を修得し、それらに立脚したオリジナルな問いを自ら見つけ

だし、必要な資料・データをねばり強く収集・整理した上で、独自の論理を築きあげる総合的な力を有する人材を養成する。

## 二 言語文化学科

言語文化学科は、人間の言語活動や様々な言語表現の本質について深い知見を有するような人材、また、個々の言語に関して高い運動能力を有するような人材、更には各言語圏に固有の文化とそれら相互間の交流について幅広い知識を有するような人材を養成する。

## 三 人間社会科学科

人間社会科学科は、社会学、教育学、心理学の幅広い基礎知識、深い専門的及び応用的知識を習得し、人間に対する深い理解に基づき、世界的視野に立って社会の広い分野において主導的役割を果たすことができる人材を養成する。

## 四 芸術・表現行動学科

芸術・表現行動学科は、音楽や舞踊に代表される芸術及び表現行動を理論的研究と実践の両面から追求し、現代的問題への対応に適用できるような人材を養成する。

### (理学部の目的)

第3条の3 理学部は、理学の基礎知識を修得し、大学院において高度な教育を受けるための能力を有する人材及び理学の基礎知識を活用し社会の多様な分野において主導的役割を果たすことができる人材を養成することを目的とする。

2 前項の目的を達成するため、第3条第2項に定める理学部各学科の目的は、次に掲げるとおりとする。

### 一 数学科

数学科は、数学的素養と論理的思考力を備え社会の様々な分野で主導的役割を果たすことができる人材及び現代数学の基礎知識と数学的論理思考を身に付け数理的諸科学の発展に貢献できる人材を養成する。

### 二 物理学科

物理学科は、自然科学の基礎である物理学の基礎知識を修得し、それを実際の問題に適用して解決する能力を身に付けた人材を養成する。

### 三 化学科

化学科は、様々な物質から成り立つ自然界を、原子・分子の構成とその変化の視点で捉え、得られた知識を体系化しつつ、化学の諸分野はもとより、生物学、物理学などの基礎分野から、工学や薬学、農学、医学、地球科学、情報学など多彩な応用分野まで幅広く展開できる人材を養成する。

### 四 生物学科

生物学科は、「生き物」の複雑で多様な生命現象を科学的に解析する力を養い、幅広い知識に基づいた柔軟で論理的な思考力を有して豊かな人間社会の構築に貢献できる人材を養成する。

### 五 情報科学科

情報科学科は、20世紀に登場し新しい科学の対象となった「情報」というものを探究するための基礎となる知識や方法論と、その様々な応用の実態を学び、更にその成果の上に、これらを自ら開拓するための研究力の基礎を身に付けた人材を養成する。

### (生活科学部の目的)

第3条の4 生活科学部は、自然・人文・社会科学的教養に基づき、人間と生活についての総合的な学識を身に付け、生活者の立場から、社会で活躍できる優秀な人材を養成することを目的とする。

2 前項の目的を達成するため、第3条第2項に定める生活科学部各学科の目的は、次に掲げるとおりとする。

### 一 食物栄養学科

食物栄養学科は、人間の「食」を自然科学的かつ総合的に捉え、豊かな食生活や健康な社会を実現するために、食物と栄養について科学的知識と実践的能力を備えた人材を養成する。

### 二 人間・環境科学科

人間・環境科学科は、生活者たる人間と環境との相互作用に関する深い理解を備え、科学的手法を応用して、生活面での諸課題に対して人間と環境が共存しうる方策を考案し、かつ、実社会にて実践できる優秀な人材を養成する。

### 三 人間生活学科

人間生活学科は、個人の発達や心の健康、人間と社会の関係、生活と文化について、多角的な視点と複合的なアプローチを駆使し、人間と生活を総合的に理解し、分析する力を備えた優秀な人材を養成する。

### (大学院)

第4条 本学に、大学院を置く。

2 大学院に、人間文化創成科学研究科を置く。

3 大学院人間文化創成科学研究科に関し必要な事項は、別に定める。

### (附属図書館)

第5条 本学に、附属図書館を置く。

### (学内共同教育研究施設)

第6条 本学に、次に掲げる学内共同教育研究施設を置く。

#### 一 教育開発センター

#### 二 外国語教育センター

#### 三 総合学修支援センター

#### 四 グローバル教育センター

#### 五 グローバル協力センター

#### 六 生活環境教育研究センター

#### 七 糖鎖科学教育研究センター

#### 八 ソフトマター教育研究センター

#### 九 比較日本学教育研究センター

#### 十 生命情報学教育研究センター

#### 十一 シミュレーション科学教育研究センター

#### 十二 教育研究特設センター

#### 十三 情報基盤センター

#### 十四 共通機器センター

#### 十五 ラジオアイソトープ実験センター



- 十六 動物実験施設
  - 十七 湾岸生物教育研究センター
  - 十八 サイエンス&エデュケーションセンター
  - 十九 ライフワールド・ウオッチセンター
  - 二十 保健管理センター
  - 二十一 学生支援センター
  - 二十二 キャリア支援センター
  - 二十三 人間発達教育研究センター
  - 二十四 ジェンダー研究センター
  - 二十五 リーダーシップ養成教育研究センター
- (共同利用)

第6条の2 湾岸生物教育研究センターは、本学の教育上支障がないと認められるときは、他の大学の利用に供することができる。

第7条 削除

第8条 削除

第9条 削除

(附属学校部)

第10条 本学に、附属学校部を置く。

(附属学校)

第11条 本学に、次に掲げる附属学校を置く。

- 一 附属幼稚園
- 二 附属小学校
- 三 附属中学校
- 四 附属高等学校

(保育所)

第11条の2 本学に、保育所を置く。

(附属施設)

第12条 大学院人間文化創成科学研究科に、附属心理臨床相談センターを置く。

(寄宿舎、学生会館及び課外活動共用施設)

第13条 本学に、寄宿舎、学生会館及び課外活動共用施設を置く。

## 第2章 学部通則

### 第1節 教育課程及び履修方法

(修業年限)

第14条 学部の修業年限は、4年とする。

2 学生は、修業年限の2倍を超えて在学することはできない。ただし、第29条、第34条、第36条、第39条及び第42条の規定により入学した学生は、修業すべき年数の2倍を超えて在学することはできない。

3 入学前に、本学の科目等履修生として一定の単位を修得した者が入学する場合、第18条の規定により認められた単位の全部又は一部が教育課程の一部を履修したと認められるときは、当該学部教授会の議を経て、第1項に規定する修業年限について当該単位数、その修得に要した期間その他を考慮して、2分の1を超えない範囲でその修業年限に通算することができる。

(授業科目)

第15条 各学部が開設する授業科目は、講座又は学科目の区分に従って、学部ごとに別に定める。

(教育課程及び履修方法)

第16条 各学部の教育課程及び履修方法は、学部ごとに別に定める。

(他大学等における授業科目の履修及び大学以外の教育施設等における学修)

第17条 本学は、教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学（以下「他大学等」という。）との協議に基づき、学生が当該他大学等において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項の規定により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、合わせて60単位を超えないものとする。

4 前3項に定めるもののほか、修得単位等の認定に関し必要な事項は、別に定める。

(入学前の既修得単位等の認定)

第18条 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学若しくは短期大学（以下「大学等」という。）又は外国の大学等において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、当該学部教授会の議を経て、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、当該学部教授会の議を経て、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項の規定により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、転学、編入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第17条第3項の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

4 前3項に定めるもののほか、既修得単位等の認定に関し必要な事項は、別に定める。

(教育職員免許状の取得)

第19条 学部において取得することができる教育職員の免許状の種類は、別表に掲げるとおりとする。

2 前項の免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める所要の単位を修得しなければならない。

**(社会教育主事資格の取得)**

第20条 社会教育主事の資格を取得しようとする者は、社会教育法(昭和24年法律第207号)及び社会教育主事講習等規程(昭和26年文部省令第12号)に定める科目の単位を修得しなければならない。

2 前項の授業科目及びその履修方法に関し必要な事項は、別に定める。

**(学芸員資格の取得)**

第21条 学芸員の資格を取得しようとする者は、博物館法(昭和26年法律第285号)及び博物館法施行規則(昭和30年文部省令第24号)に定める科目の単位を修得しなければならない。

2 前項の授業科目及びその履修方法に関し必要な事項は、別に定める。

**第2節 卒業及び学位****(卒業)**

第22条 学部にて4年以上在学し、定められた授業科目を履修し、124単位以上を修得した者は、卒業生としてこれに卒業証書を授与する。ただし、生活科学部食物栄養学科については、138単位以上を修得した者とする。

2 転学者、編入学者の学業に関し必要な事項は、別に定める。

**(学位の授与)**

第23条 卒業生に対しては、別に定めるところにより、学士の学位を授与する。

**第3節 学年、学期及び休業日****(学年)**

第24条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

**(学期)**

第25条 学年を分けて、次の2学期とする。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から翌年3月31日まで

**(休業日)**

第26条 学年中の休業日は、次のとおりとする。

一 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

二 日曜日

三 創立記念日 11月29日

四 春期休業

五 夏期休業

六 冬期休業

2 前項第4号から第6号までの休業日の期間は、学長が別に定める。

3 第1項に定めるもののほか、学長は、臨時的休業日を定めることができる。

4 休業日において、必要がある場合には、授業を行うことができる。

**第4節 入学、退学、休学、転学、留学、編入学、転学部及び転学科****(入学の時期)**

第27条 入学の時期は、毎学年の始めより30日以内とする。

**(入学資格)**

第28条 本学に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する女子とする。

一 高等学校又は中等教育学校を卒業した者

二 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を受けた者

三 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

四 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

五 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

六 文部科学大臣の指定した者

七 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程(昭和26年文部省令第13号)による大学入学資格検定に合格した者を含む。)

八 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したものの

**(第3年次入学資格)**

第29条 第3条第2項に定める第3年次入学定員により入学することのできる者は、前条の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する女子とする。

一 大学を卒業した者

二 学校教育法(昭和22年法律第26号)第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者

三 短期大学を卒業した者

四 高等専門学校を卒業した者

五 大学に2年以上在学し、所定の単位を修得した者

六 外国において、学校教育における14年以上の課程を修了した者

七 外国の短期大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を我が国において修了した者(学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。)

**(入学出願手続)**

第30条 入学志願者は、入学願書に調査書その他所定の書類及び検定料を添えて願出しなければならない。

#### (入学者の選考)

第31条 学長は、前条の入学志願者について、別に定めるところにより選考の上、当該学部教授会の議を経て合格者を決定する。

#### (入学手続)

第32条 前条の合格者は、所定の期日までに宣誓書その他所定の書類を提出するとともに、入学金を納付しなければならない。

#### (入学許可)

第33条 学長は、前条の入学手続を完了した者（第47条の規定により入学金の免除を申請した者を含む。）に入学を許可する。

第34条 次の各号のいずれかに該当する者は、第31条の規定にかかわらず入学を許可することができる。

- 一 一学部を卒業した者で、さらに他の学部又は同一学部の他の学科に入学を志願する者
- 二 退学した者で、さらに同一の学部に入学金を納付する者
- 三 他の大学の学部を卒業した者

#### (退学)

第35条 退学を希望する者は、その理由を具して学長に願い出て、許可を受けなければならない。

#### (再入学)

第36条 一度退学した者が再入学を願い出た場合は、審査の上これを許可することができる。

#### (除籍)

第37条 次の各号のいずれかに該当する者は、当該学部教授会の議を経て、学長が除籍する。

- 一 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
  - 二 第14条第2項に定める在学年限を超えた者
  - 三 次条第3項に定める休学期間を超えてなお修学できない者
  - 四 長期間にわたり行方不明の者
- 2 入学金の免除を申請した者で、免除を許可されなかった場合又は半額免除を許可された場合であって、納付すべき入学金の全額又は半額を所定の期日までに納付しないときは、学長は、これを除籍する。

#### (復籍)

第37条の2 前条第1項第1号に該当し除籍となった者が当該除籍の事由となった未納の授業料に相当する額を納付して復籍を願い出た場合は、審査の上これを許可することができる。

2 復籍に関し必要な事項は、別に定める。

#### (休学)

第38条 病気その他の事由により引き続き2か月以上修学することができないときは、事由を具して学長に願い出てその許可を得て休学することができる。

- 2 休学の期間は、その学年末までとする。ただし、特別の事情があるときは、引き続き休学を願い出ることができる。
- 3 休学期間は、通算して定められた修業年限の年数を超えることができない。
- 4 休学期間は、在学期間には算入しない。
- 5 休学期間中にその事由が消滅したときは、学長の許可を得て復学することができる。

#### (転学)

第39条 他の大学から本学に転学を志望する者があるときは、収容力のある限り、審査の上、入学させることができる。

2 前項の場合、入学願書には現に在学する大学の学長の承認書を添えなければならない。

第40条 本学から他の大学に転学しようとする者は、学長の承認を得なければならない。

#### (留学)

第41条 学生は、当該学部教授会が教育上有益であると認めるときは、学長の許可を得て外国の大学等に留学することができる。

- 2 第17条第3項の規定は、外国の大学等へ留学する場合に準用する。
- 3 前2項に定めるもののほか、留学に関し必要な事項は、別に定める。

#### (編入学)

第42条 第3条第2項に定める第3年次入学定員によるもの以外で編入学を志願する者があるときは、第39条を準用する。

#### (転学部及び転学科)

第42条の2 学生が、本学の他学部への転入又は当該学生が在学している学部内の他学科等への転入を希望したときは、当該学部又は当該学科に収容力のある限り、審査の上、許可することができる。

### 第5節 検定料、入学金、授業料及び寄宿料

#### (検定料等の額)

第43条 検定料、入学金、授業料及び寄宿料の額は、別に定める。

#### (授業料の納付)

第44条 授業料は、年額の2分の1ずつを、次の2期に分けて納めなければならない。ただし、前期に係る授業料を納めるときに、当該年度の後期に係る授業料を併せて納めることができる。

- 前期 5月末日まで
- 後期 11月末日まで

2 前項の規定にかかわらず、入学年度の授業料について、入学を許可される者の申出があったときは、入学手続時に徴収するものとする。

#### (寄宿料の納付)

第45条 寄宿料は、毎月その月の20日までに納めなければならない。

#### (検定料等の返付)

第46条 一度納めた検定料、入学金、授業料及び寄宿料は、これを返さない。ただし、入学手続時に授業料を納付した者が3月31日までに入学を辞退した場合には、納付した者の申出により当該授業料相当額を返還する。

#### (入学金の免除)

第47条 特別な事情により納付が著しく困難であると認められる者で、学長に願い出たときは、入学金の全額又は半額を免除することができる。

2 入学金の免除に関し必要な事項は、別に定める。

**(入学生の徴収猶予)**

第48条 経済的理由によって納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者又はその他やむを得ない事情があると認められる者で、学長に願い出たときは、入学生の徴収を猶予することがある。

2 入学生の徴収猶予に関し必要な事項は、別に定める。

**(授業料及び寄宿料の免除並びに授業料の徴収猶予)**

第49条 経済的理由によって納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者又はその他やむを得ない事情があると認められる者で、当該学部を経て学長に願い出たときは、授業料及び寄宿料の全部若しくは一部を免除し、又は授業料の徴収を猶予（月割分納による徴収の猶予を含む。以下同じ。）することがある。

2 授業料及び寄宿料の免除並びに授業料の徴収猶予に関し必要な事項は、別に定める。

**(退学者の授業料)**

第50条 退学の許可を得た者の授業料は、その者が在学していた学期までの分を納めなければならない。

**(休学者の授業料)**

第51条 休学の許可を得た者の授業料は、月割計算により休学当月の翌月から復学当月の前月までの分を免除する。

**(停学者の授業料)**

第52条 停学を命ぜられた期間中の授業料は、これを徴収する。

**第6節 科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、委託生、研究生、内地研究員、私学研修員、専修学校研修員、公立高等専門学校研修員、公立大学研修員、教員研修センター研修員、受託研究員、外国人受託研修員及び国連大学派遣研究員****(科目等履修生)**

第53条 本学の学生以外の者で本学が開設する一又は複数の授業科目の履修を希望する者があるときは、別に定めるところにより、科目等履修生として入学を許可し、単位を与えることができる。

**(聴講生)**

第54条 本学の定める課程の一部を選択し聴講を希望する者があるときは、学生の学習を妨げない場合に限り、選考の上、聴講生として入学を許可することがある。

**(特別聴講学生)**

第55条 特定の授業科目を履修することを希望する他の大学又は外国の大学の学生があるときは、当該大学との協議に基づき、所定の手続を経て、特別聴講学生として入学を許可することがある。

**(委託生)**

第56条 教育委員会、学校その他の公共機関から授業及び研究指導の委託出願があるときは、学生の学習を妨げない場合に限り、選考の上、委託生として入学を許可することがある。

**(研究生)**

第57条 特定事項に関する研究に従事することを希望する者があるときは、選考の上、研究生として入学を許可することがある。

**(内地研究員の受入れ)**

第57条の2 国立大学法人又は国立高等専門学校機構に所属する教員から、その所属機関を通じ、その専攻分野に関する研究の申出があるときは、選考の上、内地研究員として受入れを許可することがある。

**(私学研修員等の受入れ)**

第58条 私立学校、専修学校、公立高等専門学校、公立大学又は教員研修センターの教職員について所定の手続を経て研修員の申出があるときは、選考の上、私学研修員、専修学校研修員、公立高等専門学校研修員、公立大学研修員又は教員研修センター研修員（以下「私学研修員等」という。）として受入れを許可することがある。

**(受託研究員の受入れ)**

第59条 民間会社等から現職技術者が特定事項に関する研究に従事することについて受託受入れの申込みがあるときは、選考の上、受託研究員として受入れを許可することがある。

**(外国人受託研修員の受入れ)**

第60条 独立行政法人国際協力機構が開発途上国から招致する研修員について研修受入れの申込みがあるときは、外国人受託研修員として受入れを許可することがある。

**(国際大学派遣研究員の受入れ)**

第61条 国際連合大学から派遣される海外の若手研究者について研修受入れの申込みがあるときは、国連大学派遣研究員として受入れを許可することがある。

**(委任規定)**

第62条 第53条から前条に定めるもののほか、科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、委託生、研究生、内地研究員、私学研修員等、受託研究員、外国人受託研修員及び国連大学派遣研究員に関し必要な事項は、別に定める。

**第7節 外国人留学生****(外国人留学生)**

第63条 外国人で大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することがある。

2 外国人留学生で、大学間交流協定に基づき入学する者に係る検定料、入学料及び授業料については、所定の要件を満たした場合は、これを徴収しない。

3 前2項に定めるもののほか、外国人留学生に関し必要な事項は、別に定める。

**第8節 寄附講座等****(寄附講座等)**

第63条の2 教育研究の進展及び充実に資するとともに、社会貢献の推進を図るため、本学に寄附講座及び寄附研究部門（以下「寄附講座等」という。）を設置することができる。

2 寄附講座等に関し必要な事項は、別に定める。

## 第9節 公開講座及び通信教育

### (公開講座及び通信教育)

第64条 公開講座及び通信教育は、一般市民の教養を高めるため適時これを行う。

2 公開講座及び通信教育に関し必要な事項は、別に定める。

## 第10節 賞罰

### (表彰)

第65条 学生が学業その他の活動において優れた成績を挙げたときは、学長は、これを表彰することがある。

2 学生の表彰に関し必要な事項は、別に定める。

### (懲戒)

第66条 本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、当該学部教授会及び教育研究評議会の議を経て、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行う。

- 一 性行不良で改善の見込みがない者
- 二 正当な理由がなくて出席常でない者
- 三 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

### (学生団体の活動停止等)

第67条 学生団体の活動が学生準則に違反し、その他本学の使命に反するものと認められたとき、学生委員会の議を経て、学長が学生団体の活動の制限停止又は解散を命ずることができる。

### (異議の申出)

第68条 前2条の処分に対して関係者より相当の理由を附して異議の申出があったときは、教育研究評議会の議を経て、学長が適当な措置を行うことができる。

### 附 則

1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。

2 この学則の施行の際廃止されたお茶の水女子大学学則の規定により存続するものとされた文教育学部史学科及び生活科学部生活環境学科は、第3条第2項の規定にかかわらず、平成16年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

3 第3条第2項に掲げる表の生活科学部の項及び合計の項に定める収容定員は、同項の規定にかかわらず、平成16年度から平成18年度までは、次の表のとおりとする。

学 部	学 科	平成16年度	平成17年度	平成18年度
生活科学部	食物栄養学科	36人	72人	108人
	人間・環境科学科	24人	48人	72人
	人間生活学科	260人	260人	260人
	学部共通	20人	20人	20人
計	340人	400人	460人	
合 計		1,688人	1,748人	1,808人

### 附 則

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

### 附 則

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

### 附 則

この学則は、平成17年6月15日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

### 附 則

この学則は、平成17年12月14日から施行する。ただし、第29条第2号の改正規定は、平成17年10月1日から適用する。

### 附 則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

### 附 則

1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。ただし、第22条の改正規定は、平成20年度入学者から適用する。

2 この学則の施行前から引き続き生活科学部食物栄養学科に在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

### 附 則

1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。ただし、改正後の別表の規定は、平成21年度入学者から適用する。

2 この学則の施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

### 附 則

この学則は、平成21年6月10日から施行する。

### 附 則

この学則は、平成22年4月1日から施行する。

### 附 則

この学則は、平成22年7月28日から施行する。

### 附 則

この学則は、平成22年12月22日から施行する。

### 附 則

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成 23 年 2 月 23 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

別表（第 19 条関係）

学 部	学科等	免許状の種類	
文教育学部	人文科学科	中学校教諭一種免許状	社 会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史公民
	言語文化学科 日本語・日本文学履修コース 中国語圏言語文化履修コース 英語圏言語文化履修コース	中学校教諭一種免許状	国 語
		高等学校教諭一種免許状	中国語
			英 語
	人間社会科学科 社会コース	中学校教諭一種免許状	社 会
		高等学校教諭一種免許状	公 民
小学校・幼稚園コース	小学校教諭一種免許状 幼稚園教諭一種免許状		
芸術・表現行動学科 舞踊教育学履修コース 音楽表現履修コース	中学校教諭一種免許状	保健体育	
	高等学校教諭一種免許状	音 楽	
理 学 部	数学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	数 学
	物理学科		理 科
	化学科		
	生物学科		
	情報科学科 数学コース 情報コース	高等学校教諭一種免許状	数 学
生活科学部	人間生活学科 家庭コース	中学校教諭一種免許状	家 庭
		高等学校教諭一種免許状	
	食物栄養学科	栄養教諭一種免許状	—

**(趣旨)**

第1条 お茶の水女子大学（以下「本学」という。）における複数プログラム選択履修制度（以下「複数履修制」という。）の実施については、国立大学法人お茶の水女子大学学則の定めによるほか、この規則の定めるところによる。

**(目的)**

第2条 複数選択制は、本学の学部専門教育において、学生が主体的な学習プログラムを構築し、深い専門性と幅広い教養を備えた自主自律の精神を養うことを目的として実施する。

**(構成)**

第3条 複数履修制は、主プログラム、強化プログラム、副プログラム及び学際プログラムにより構成する。

2 前項の各プログラムは各学部が定めるところにより、学科、講座、コースその他の単位ごとに開設する。ただし、学際プログラムについては開設しないことができる。

**(主プログラム)**

第4条 主プログラムは、学位の取得を目的として、各専門領域の基礎的な知識や技能を全学年間に一貫的及び調和的に修得するためのプログラムをいう。

2 主プログラムは、学生が所属する学部及び学科内で開設するプログラムとする。

3 主プログラムの履修に関し必要な事項は、学部が定める。

**(強化プログラム)**

第5条 強化プログラムは、各専門領域のより高度な科目群からなり、専門領域に特化した深い専門性を培うためのプログラムをいう。

2 強化プログラムは、学生が所属する学部及び学科内で開設するプログラムとする。

3 強化プログラムの履修に関し必要な事項は、学部が定める。

**(副プログラム)**

第6条 副プログラムは、学生の多様な能力・適性及び学習意欲に応え、主プログラムと併行して、専門とは異なる分野の幅広い学習機会を提供するためのプログラムをいう。

2 副プログラムの履修資格は学部が定め、その他履修に関し必要な事項は別に定める。

**(学際プログラム)**

第7条 学際プログラムは、新たな領域型ないしは学際型の専門領域に即応し、先端研究分野等で要請される新しいタイプの専門人材育成に対応するプログラムをいう。

2 学際プログラムの履修資格は学部が定め、その他履修に関し必要な事項は別に定める。

**(選択及び登録)**

第8条 学生による主プログラム、強化プログラム、副プログラム及び学際プログラムの選択及び登録に関する基本方針は、別に定める。

**(実施体制)**

第9条 複数選択制に関し審議及び連絡調整をするため、学務部会のもとに複数プログラム選択履修専門部会（以下「専門部会」という。）を置く。

2 専門部会は前項の業務を行うにあたっては、総合学修支援センターとの緊密な連携をとるものとする。

**(教育目標等)**

第10条 第3条第1項に定めるプログラムごとに、その教育目標並びにプログラム選択に必要な情報及び履修方法等については、別に定める。

**(点検・評価・改善)**

第11条 学部は、前条に定める教育目標の達成度等を基に点検・評価・改善を行うものとする。

2 前項の場合において、学部をまたがって開設するプログラムにあっては、関係する学部が協議の上、全学教育システム改革推進本部の承認を得るものとする。

**(開設)**

第12条 学部は、前条第1項に規定する点検・評価・改善を行った結果、複数履修制を構成する新たなプログラムの開設が必要と認める場合には、全学教育システム改革推進本部の議を経て、開設を決定するものとする。

2 前項において、学部をまたがって開設する場合は、あらかじめ関係する学部が協議の上、全学教育システム改革推進本部本部会議の議を経て、開設を決定するものとする。

**(廃止)**

第13条 学部は、第11条第1項に規定する点検・評価・改善を行った結果、複数履修制を構成しているプログラムの廃止が必要と認める場合には、全学教育システム改革推進本部本部会議の議を経て、廃止を決定するものとする。

2 前項において、学部をまたがって開設している場合は、あらかじめ関係する学部が協議の上、全学教育システム改革推進本部本部会議の議を経て、廃止を決定するものとする。

**(雑則)**

第14条 この規則に定めるもののほか、複数履修制の実施に関し必要な事項は、別に定める。

**附 則**

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

## (趣旨)

第1条 国立大学法人お茶の水女子大学文教育学部の教育課程及び履修方法については、国立大学法人お茶の水女子大学学則、国立大学法人お茶の水女子大学複数プログラム選択履修制度実施規則又はこれに基づく別段の定めによるほか、この規程の定めるところによる。

## (履修コース・グローバル文化学環)

第2条 広領域に及ぶ幅広い知識と、高度で実践的な専門的知識を教育するため、学科ごとに、履修方法を異にする履修コース及びグローバル文化学環（以下「環」という。）を設ける。

2 前項の履修コース及び環に係る履修方法については、別に定める。

## (授業科目の区分)

第3条 授業科目は、コア科目、専門教育科目、専攻科目、関連科目、学部共通科目、全学共通科目、教職共通科目、教職に関する科目及び外国人留学生特別科目とする。

2 コア科目は、文理融合リベラルアーツ、基礎講義、情報、外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語及び朝鮮語）及びスポーツ健康とする。

3 専門教育科目は、主プログラム、強化プログラム、副プログラム及び学際プログラムを構成する科目とする。

4 専攻科目は、各学科・環において設置する科目とする。

5 関連科目は、芸術・表現行動学科に関連の深い科目であって、必修又は選択として指定する。

6 各学科・環で共通して履修できる科目として、学部共通科目を置く。

7 全学で共通して履修できる科目として、全学共通科目を置く。

8 教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める教職に関する科目を置く。また、教科に関する科目として教職共通科目を置く。

9 外国人留学生に対して、外国人留学生特別科目を置く。

## (他学部の授業科目の履修)

第4条 理学部及び生活科学部の授業科目は、これを履修することができる。

## (単位の計算方法)

第5条 各授業科目の単位数の計算方法は、1単位が45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

一 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。

二 演習については、15時間の授業をもって1単位とする。

三 実験、実習及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、個人指導による実技及び教育実習等の授業科目については、別に定める。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究については別に定める。

## (卒業要件)

第6条 卒業するためには、別表第1-1又は別表第1-2に定めるところにより、124単位以上を修得しなければならない。

2 人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科及びグローバル文化学環において履修すべき授業科目及び単位数は別表第3から別表第7、別表第9及び別表第11に定めるとおりとする。ただし、別表第11は人間社会科学科において履修すべき授業科目及び単位数とする。また、芸術・表現行動学科においては、別表第3、別表第8及び別表第9に定めるとおりとする。

3 全学共通科目の授業科目及び単位数は、別表第10に定めるとおりとする。

4 教職共通科目の授業科目及び単位数は、別表第12に定めるとおりとする。

5 教職に関する科目の授業科目及び単位数は、別表第13に定めるとおりとする。また、単位の取扱いについては、人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科及びグローバル文化学環は別表第1-1備考9とし、芸術・表現行動学科は別表第1-2備考5のとおりとする。

6 外国人留学生特別科目の授業科目及び単位数は、別表第14に定めるとおりとする。また、単位の取扱いについては、人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科及びグローバル文化学環は別表第1-1備考10とし、芸術・表現行動学科は別表第1-2備考6のとおりとする。

## (履修手続)

第7条 学生は、履修しようとする授業科目を所定の期日までに指定する方法により申請し、担当教員の許可を得なければならない。

2 学生が前項により履修申請した授業科目の履修を取消すには、所定の期日までに指定する方法により履修取消し手続を行い、担当教員の許可を得なければならない。

3 学生が授業科目について聴講のみを希望する場合は、担当教員の許可を得なければならない。

## (単位の授与)

第8条 授業科目を履修した者については、試験（論文、報告等を含む。以下同じ。）により学修の成果を評価して、所定の単位を与える。

2 試験は、原則として学年末又は学期末に行うこととする。ただし、病気その他正当な理由で試験を受けることができなかった者は、別に定める手続により追試験を受けることができる。

## (成績の評価)

第9条 成績の評価は、原則として試験、平常の成績及び出席状況を総合して決定する。

2 成績の評価は、「S」（基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている）、「A」（基本的な目標を十分に達成している）、「B」（基本的な目標を達成している）、「C」（基本的な目標を最低限度達成している）、「D」（基本的な目標を達成していない。再履修が必要である）の5種類の評語をもって表し、「S」、「A」、「B」及び「C」を合格とし、「D」を不合格とする。

3 前項の成績の評価又は科目の原成績（素点）に基づき、成績の数値平均 Grade Point Average（以下「GPA」という。）を算出するものとする。GPAに関し必要な事項は別に定める。

## (細則)

第10条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項については、文教育学部教授会が定める。



附 則

- この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行し、平成 16 年度入学者から適用する。
- この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附 則

- この規程は、平成 17 年 4 月 1 日から施行し、平成 17 年度入学者から適用する。
- この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附 則

- この規程は、平成 18 年 4 月 1 日から施行し、平成 18 年度入学者から適用する。
- この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成 19 年 1 月 17 日から施行し、平成 17 年度入学者から適用する。

附 則

- この規程は、平成 19 年 4 月 1 日から施行し、改正後の別表第 3 及び第 3 の 2 の規定は、平成 19 年度入学者から適用する。
- この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成 19 年 10 月 24 日から施行し、平成 19 年 10 月 1 日から適用する。

附 則

- この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行し、平成 20 年度入学者から適用する。
- この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附 則

- この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行し、平成 21 年度入学者から適用する。
- この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附 則

- この規程は、平成 22 年 4 月 1 日から施行し、平成 22 年度入学者から適用する。
- この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附 則

- この規程は、平成 23 年 4 月 1 日から施行し、平成 23 年度入学者から適用する。
- この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

別表第 1-1 (第 6 条関係)

学科別 科目区分	必修及び選択必修の科目・単位								自由に選択して履修する科目・単位							卒業に必要な履修単位数		
	コア科目				専門教育科目(必修プログラム)				コ ア 科 目	専 攻 科 目	学 部 共 通 科 目	他 学 科 の 専 攻 科 目	他 学 部 の 科 目	全 学 共 通 科 目	教 職 共 通 科 目		教 職 に 関 する 科 目	必 修 以 外 の 選 択 プ ロ グ ラ ム
	文 理 融 合 リ ベ ラ ル ア ー ツ	基 礎 講 義	情 報	外 国 語	ス ポ ー ツ 健 康	主 プ ロ グ ラ ム	強 化 プ ロ グ ラ ム	副 プ ロ グ ラ ム										
人 文 学 科	18		16	2	44		20							24				124
言 語 文 化 学 科	18		20	2	44		20							20				124
人 間 社 会 学 科	18		10	2	48		20							26				124
グ ロー バ ル 文 化 学 環	18		18	2	44		20							22				124

- 備考
- 情報処理演習(情報)2単位は、必修とする。
  - 外国語の必修単位に関しては、別表第3を参照すること。また、外国語の履修方法は別に定める。
  - スポーツ健康は、スポーツ健康実習2単位を必修とし、その履修方法は別に定める。
  - 主プログラムは、所属学科から選択すること。
  - 強化プログラム・副プログラム・学際プログラムは、所属学部のプログラムから一つを選択すること。
  - 強化プログラムは、同一名の主プログラムを選択していることが履修要件となる。
  - 選択している主プログラムと同領域の副プログラムを選択することはできない。
  - 必修以外の選択プログラムは、別表第2の所属学科が指定するプログラム選択一覧に従い、副プログラム、学際プログラムから選択すること。
  - 教職に関する科目(教職概論、教育実習及び教職実践演習は除く。)の単位については、10単位までを自由に選択して履修する科目・単位として取り扱う。
  - 外国人留学生特別科目(外国人留学生対象)の単位については、20単位までをコア科目として取り扱う。ただし、スポーツ健康実習の単位に充てることはできない。
  - グローバル文化学環履修者は、所属学科によらず、グローバル文化学環の欄に記載される科目・単位を履修すること。また、必修プログラムとして、グローバル文化学環主プログラムと所属学科の副プログラムを履修すること。

別表第1-2 (第6条関係)

学科別	科目区分	必修及び選択必修の科目・単位						自由に選択して履修する科目・単位							卒業に必要な履修単位数			
		コア科目					専攻科目	関連科目	コア科目	専攻科目	学部共通科目	他学科の専攻科目	他学部の科目	全学共通科目		教職共通科目	教職に関する科目	必修以外の選択プログラム
		文理融合リベラルアーツ	基礎講義	情報報	外国語	スポーツ健康												
芸術・表現行動学科		18		10	2	64							30					124

- 備考 1 情報処理演習(情報)2単位は、必修とする。  
 2 外国語の必修単位に関しては、別表第3を参照すること。また、外国語の履修方法は別に定める。  
 3 スポーツ健康は、スポーツ健康実習2単位を必修とし、その履修方法は別に定める。  
 4 必修以外の選択プログラムは、別表第2の所属学科が指定するプログラム選択一覧に従い、副プログラム、学際プログラムから選択すること。  
 5 教職に関する科目(教職概論、教育実習及び教職実践演習は除く。)の単位については、10単位までを自由に選択して履修する科目・単位として取り扱う。  
 6 外国人留学生特別科目(外国人留学生対象)の単位については、20単位までをコア科目として取り扱う。ただし、スポーツ健康実習の単位に充てることはできない。

別表第2

【(文) 二つ目の選択プログラム】(別表第1-1 備考5関係)

所属学科・コース		所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」														
		哲学・倫理学・美術史(副)	比較歴史学(副)	地理環境学(副)	日本語・日本文学(副)	中国語圏言語文化(副)	英語圏言語文化(副)	仏語圏言語文化(副)	日本語教育(副)	社会学(副)	教育学(副)	心理学(副A) 人間社会科学科対象	心理学(副B) 人間社会科学科以外対象	舞踊教育学(副)	音楽表現(副)	グローバル文化学(学際)
人文科学科	哲学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	歴史	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地理	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	グロ文	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○
言語文化学科	日文	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	中文	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	英文	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	仏文	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人間社会科学科	グロ文	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	社会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	教育	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	心理	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
芸術・表現行動学科	グロ文	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
	舞踊	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	音楽	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【(文) 三つ目の選択プログラム(文・プログラム)】(別表第1-1 備考8関係、別表第1-2 備考4関係)

所属学科・コース		所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」														
		哲学・倫理学・美術史(副)	比較歴史学(副)	地理環境学(副)	日本語・日本文学(副)	中国語圏言語文化(副)	英語圏言語文化(副)	仏語圏言語文化(副)	日本語教育(副)	社会学(副)	教育学(副)	心理学(副A) 人間社会科学科対象	心理学(副B) 人間社会科学科以外対象	舞踊教育学(副)	音楽表現(副)	グローバル文化学(学際)
人文科学科	哲学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	歴史	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地理	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	グロ文	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
言語文化学科	日文	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	中文	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	英文	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	仏文	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人間社会科学科	グロ文	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	社会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	教育	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	心理	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
芸術・表現行動学科	グロ文	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	舞踊	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	音楽	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

諸規程等(規則集)

IV

【(文) 三つ目の選択プログラム(理・プログラム)] (別表第1-1 備考8関係、別表第1-2 備考4関係)

所属学科・コース	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」									
	数 学 (副)	物 理 学 (副)	化 学 (副)	生 物 学 (副)	情 報 科 学 (副)	応 用 数 理 (学際)	物 理・ 化 学 (学際)	ケミカルバ イオロジー (学際)	生 命 情 報 学 (学際)	
人 文 科 学 科	哲 学	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	歴 史	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	地 理	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	グロ文	○	○	○	○	○	×	×	×	×
言 語 文 化 学 科	日 文	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	中 文	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	英 文	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	仏 文	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	グロ文	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	社 会	○	○	○	○	○	×	×	×	×
人 間 社 会 科 学 科	教 育	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	心 理	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	グロ文	○	○	○	○	○	×	×	×	×
	舞 踊	○	○	○	○	○	×	×	×	×
芸 術 ・ 表 現 行 動 学 科	音 楽	○	○	○	○	○	×	×	×	×

【(文) 三つ目の選択プログラム(生・プログラム)] (別表第1-1 備考8関係、別表第1-2 備考4関係)

所属学科・コース	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」						
	人 間・ 環 境 科 学 (副)	発 達 臨 床 心 理 学 (副)	公 共 政 策 論 (副)	ジェンダー論 (副)	生 活 文 化 学 (副)	消 費 者 学 (学際)	
人 文 科 学 科	哲 学	○	○	○	○	○	○
	歴 史	○	○	○	○	○	○
	地 理	○	○	○	○	○	○
	グロ文	○	○	○	○	○	○
言 語 文 化 学 科	日 文	○	○	○	○	○	○
	中 文	○	○	○	○	○	○
	英 文	○	○	○	○	○	○
	仏 文	○	○	○	○	○	○
	グロ文	○	○	○	○	○	○
	社 会	○	○	○	○	○	○
人 間 社 会 科 学 科	教 育	○	○	○	○	○	○
	心 理	○	○	○	○	○	○
	グロ文	○	○	○	○	○	○
	舞 踊	○	○	○	○	○	○
芸 術 ・ 表 現 行 動 学 科	音 楽	○	○	○	○	○	○

別表第3 コア科目 (第6条関係)

授業科目	単位数	備考 (ローマ数字は、標準履修年次を示す。)	授業科目	単位数	備考 (ローマ数字は、標準履修年次を示す。)
<b>文理融合リベラルアーツ</b>			<b>系列3 生活世界の安全保障</b>		
<b>系列1 生命と環境</b>			(講義)		
(講義)			生活世界の安全保障 1	2	
生命と環境 1	2		生活世界の安全保障 2	2	
生命と環境 2	2		生活世界の安全保障 3	2	
生命と環境 3	2		生活世界の安全保障 4	2	
生命と環境 4	2		生活世界の安全保障 5	2	
生命と環境 5	2		生活世界の安全保障 6	2	
生命と環境 6	2		生活世界の安全保障 7	2	
生命と環境 7	2		生活世界の安全保障 8	2	
生命と環境 8	2		生活世界の安全保障 9	2	
生命と環境 9	2		生活世界の安全保障 10	2	
生命と環境 10	2		(演習・実習・実験)		
(演習・実習・実験)			生活世界の安全保障 21	2	
生命と環境 21	2		生活世界の安全保障 22	2	
生命と環境 22	2		生活世界の安全保障 23	2	
生命と環境 23	2		生活世界の安全保障 24	2	
生命と環境 24	2		生活世界の安全保障 25	2	
生命と環境 25	2		<b>系列4 ことばと世界</b>		
生命と環境 26	2		(講義)		
<b>系列2 色・音・香</b>			ことばと世界 1	2	
(講義)			ことばと世界 2	2	
色・音・香 1	2		ことばと世界 3	2	
色・音・香 2	2		ことばと世界 4	2	
色・音・香 3	2		ことばと世界 5	2	
色・音・香 4	2		ことばと世界 6	2	
色・音・香 5	2		ことばと世界 7	2	
色・音・香 6	2		ことばと世界 8	2	
色・音・香 7	2		ことばと世界 9	2	
色・音・香 8	2		ことばと世界 10	2	
色・音・香 9	2		ことばと世界 11	2	
色・音・香 10	2		ことばと世界 12	2	
(演習・実習・実験)			(演習・実習・実験)		
色・音・香 21	2		ことばと世界 21	2	
色・音・香 22	2		ことばと世界 22	2	
色・音・香 23	2		ことばと世界 23	2	
色・音・香 24	2		ことばと世界 24	2	
			ことばと世界 25	2	

授業科目	単位数	備考（ローマ数字は、標準履修年次を示す。）
ことばと世界 26	2	
ことばと世界 27	2	
<b>系列5 ジェンダー</b> (講義)		
ジェンダー 1	2	
ジェンダー 2	2	
ジェンダー 3	2	
ジェンダー 4	2	
ジェンダー 5	2	
ジェンダー 6	2	
ジェンダー 7	2	
ジェンダー 8	2	
ジェンダー 9	2	
(演習・実習・実験)		
ジェンダー 21	2	
ジェンダー 22	2	
ジェンダー 23	2	
ジェンダー 24	2	
<b>基礎講義</b>		
哲学	2	
現代心理学	2	
法学Ⅰ（日本国憲法）	2	
法学Ⅱ（法学入門）	2	
法と文学	2	
政治学入門	2	
ミクロ経済学入門	2	
マクロ経済学入門	2	
基礎微積分学	2	
基礎線形代数学	2	
統計学	2	
一般物理学実験	2	
一般化学実験	2	
安全管理概論	2	
総合コース	2～4	(Ⅰ～Ⅳ)
お茶の水女子大学論	2	(Ⅰ)
<b>情報（必修）</b>		
情報処理演習	2	
<b>情報（選択）</b>		
メディアリテラシ	2	
情報科学	2	
情報処理学	2	
プログラミング演習1	2	
プログラミング演習2	2	
コンピュータ演習1	2	
コンピュータ演習2	2	
情報学演習1	2	
情報学演習2	2	
<b>外国語（必修）</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●人文科学科：外国語の必修単位数は16単位である。英語（10単位）・ドイツ語（16単位）・フランス語（16単位）・中国語（16単位）から1か国語を（ ）内に示された単位数修得すること。なお、英語を選択した場合、残りの6単位は、他の外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・朝鮮語）から一つ選んで修得すること。</li> <li>●言語文化学科：外国語の必修単位数は20単位である。英語（10単位）・ドイツ語（16単位）・フランス語（16単位）・中国語（16単位）から1か国語を（ ）内に示された単位数修得すること。2つ以上の外国語（英語・ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・朝鮮語から選択）の単位数を修得し、合計20単位修得すること。なお、英語を選択した場合、残りの10単位は、他の外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・朝鮮語から選択）で修得すること。</li> <li>●人間社会科学科、芸術・表現行動学科：英語（10単位）・ドイツ語（16単位）・フランス語（16単位）・中国語（16単位）から1か国語を（ ）内に示された単位数修得すること。なお、ドイツ語・フランス語・中国語を選択した場合は、10単位を外国語の必修単位とした上で、6単位を「自由に選択して履修できる科目の単位」とすることができる。</li> <li>●グローバル文化学環：外国語の必修単位数は18単位である。英語10単位を必修とする。残りの8単位は、コア外国語のドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語、ないし、学部共通科目のスペイン語、イタリア語、アジア諸語で修得すること。</li> </ul>

授業科目	単位数	備考（ローマ数字は、標準履修年次を示す。）
		<ul style="list-style-type: none"> <li>* : 必修単位数に充てることができる基本科目</li> <li>** : 必修単位数に充てることができる準基本科目。英語の必修単位数に充てる場合は、2単位が限度。ドイツ語、フランス語、中国語の必修単位数に充てる場合は、8単位が限度。</li> <li>*** : 言語文化学科、グローバル文化学環の学生のみが、英語10単位またはドイツ語、フランス語、中国語16単位を*もしくは**のついた(準)基本科目で履修した場合に限り、残りの必修単位数に充てることができる科目。ただし、ロシア語および朝鮮語の各科目は、人文科学科の学生が、英語10単位を*もしくは**のついた(準)基本科目で履修した場合に、残りの必修単位数に充てることができる。</li> </ul>
<b>英語</b>		
* 基礎英語Ⅰ	2	(Ⅰ)
* 基礎英語Ⅱ	2	(Ⅰ)
* 中級英語Ⅰ	2	(Ⅱ)
* 中級英語Ⅱ	2	(Ⅱ)
** 総合英語Ⅰ	2	(Ⅰ・Ⅱ)
** 総合英語Ⅱ	2	(Ⅰ・Ⅱ)
** 英会話Ⅰ	2	(Ⅰ)
** 英会話Ⅱ	2	(Ⅰ)
** 英会話Ⅲ	2	(Ⅱ～Ⅳ)
** 英会話Ⅳ	2	(Ⅱ～Ⅳ)
上級英語Ⅰ	2	(Ⅲ・Ⅳ)
上級英語Ⅱ	2	(Ⅲ・Ⅳ)
ビジネス英語Ⅰ	2	(Ⅱ～Ⅳ)
ビジネス英語Ⅱ	2	(Ⅱ～Ⅳ)
時事英語Ⅰ	2	(Ⅱ～Ⅳ)
時事英語Ⅱ	2	(Ⅱ～Ⅳ)
英語プレゼンテーションⅠ	2	(Ⅱ～Ⅳ)
英語プレゼンテーションⅡ	2	(Ⅱ～Ⅳ)
<b>ドイツ語</b>		
* 基礎ドイツ語（文法）Ⅰ	2	(Ⅰ)
* 基礎ドイツ語（文法）Ⅱ	2	(Ⅰ)
* 基礎ドイツ語（演習）Ⅰ	2	(Ⅰ)
* 基礎ドイツ語（演習）Ⅱ	2	(Ⅰ)
** 基礎ドイツ語（応用）Ⅰ	2	(Ⅰ)
** 基礎ドイツ語（応用）Ⅱ	2	(Ⅰ)
** 発展ドイツ語Ⅰ	2	(Ⅱ)
** 発展ドイツ語Ⅱ	2	(Ⅱ)
** 発展ドイツ語Ⅲ	2	(Ⅱ)
** 発展ドイツ語Ⅳ	2	(Ⅱ)
*** 基礎ドイツ語会話Ⅰ	2	(Ⅰ～Ⅳ)
*** 基礎ドイツ語会話Ⅱ	2	(Ⅰ～Ⅳ)
*** ドイツ語初歩Ⅰ	2	(Ⅰ～Ⅳ)
*** ドイツ語初歩Ⅱ	2	(Ⅰ～Ⅳ)
<b>フランス語</b>		
* 基礎フランス語（文法）Ⅰ	2	(Ⅰ)
* 基礎フランス語（文法）Ⅱ	2	(Ⅰ)
* 基礎フランス語（演習）Ⅰ	2	(Ⅰ)
* 基礎フランス語（演習）Ⅱ	2	(Ⅰ)
** 基礎フランス語（応用）Ⅰ	2	(Ⅰ)
** 基礎フランス語（応用）Ⅱ	2	(Ⅰ)
** 発展フランス語Ⅰ	2	(Ⅱ)
** 発展フランス語Ⅱ	2	(Ⅱ)
** 発展フランス語Ⅲ	2	(Ⅱ)
** 発展フランス語Ⅳ	2	(Ⅱ)
*** 基礎フランス語会話Ⅰ	2	(Ⅰ～Ⅳ)
*** 基礎フランス語会話Ⅱ	2	(Ⅰ～Ⅳ)
*** フランス語初歩Ⅰ	2	(Ⅰ～Ⅳ)
*** フランス語初歩Ⅱ	2	(Ⅰ～Ⅳ)
<b>中国語</b>		
* 基礎中国語（文法）Ⅰ	2	(Ⅰ)
* 基礎中国語（文法）Ⅱ	2	(Ⅰ)
* 基礎中国語（演習）Ⅰ	2	(Ⅰ)
* 基礎中国語（演習）Ⅱ	2	(Ⅰ)
** 基礎中国語（応用）Ⅰ	2	(Ⅰ)
** 基礎中国語（応用）Ⅱ	2	(Ⅰ)
** 発展中国語Ⅰ	2	(Ⅱ)
** 発展中国語Ⅱ	2	(Ⅱ)
** 発展中国語Ⅲ	2	(Ⅱ)
** 発展中国語Ⅳ	2	(Ⅱ)
*** 基礎中国語会話Ⅰ	2	(Ⅱ～Ⅳ)
*** 基礎中国語会話Ⅱ	2	(Ⅱ～Ⅳ)
*** 中国語初歩Ⅰ	2	(Ⅰ～Ⅳ)
*** 中国語初歩Ⅱ	2	(Ⅰ～Ⅳ)
<b>ロシア語</b>		
*** ロシア語初歩Ⅰ	2	(Ⅰ～Ⅳ)

授業科目	単位数	備考（ローマ数字は、標準履修年次を示す。）
***ロシア語初歩Ⅱ	2	(Ⅰ～Ⅳ)
***ロシア語会話Ⅰ	2	(Ⅰ～Ⅳ)
***ロシア語会話Ⅱ	2	(Ⅰ～Ⅳ)
朝鮮語		
***朝鮮語初歩Ⅰ	2	(Ⅰ～Ⅳ)
***朝鮮語初歩Ⅱ	2	(Ⅰ～Ⅳ)
***朝鮮語会話Ⅰ	2	(Ⅰ～Ⅳ)
***朝鮮語会話Ⅱ	2	(Ⅰ～Ⅳ)
スポーツ健康(必修)		
スポーツ健康実習	2	(Ⅰ)
スポーツ健康(選択)		
スポーツ科学概論	2	(Ⅰ～Ⅳ)
健康科学概論	2	(Ⅰ～Ⅳ)
生涯スポーツ	1～3	(Ⅰ～Ⅳ)

別表第4 専門教育科目(第6条関係)

主プログラム

哲学・倫理学・美術史主プログラム		単位数：44	
授業科目	単位数	必修・選択	備考
哲学基礎論	2	選択	以下の科目から 4単位選択
倫理学基礎論	2	選択	
美術史基礎論	2	選択	
比較文化史	2	選択	以下の科目から 4単位選択
比較社会史	2	選択	
自然と人間	2	選択	
人間と空間	2	選択	
哲学・倫理学・美術史選択基礎	2	選択	
卒業論文	8	必修	
哲学概論Ⅰ	2	選択	以下の科目から 28単位選択
哲学概論Ⅱ	2	選択	
倫理学概論Ⅰ	2	選択	
倫理学概論Ⅱ	2	選択	
美術史概論	2	選択	
概念分析論演習Ⅰ	2	選択	
概念分析論演習Ⅱ	2	選択	
理論分析論演習Ⅰ	2	選択	
理論分析論演習Ⅱ	2	選択	
問題分析論演習Ⅰ	2	選択	
問題分析論演習Ⅱ	2	選択	
英書講読	2	選択	
哲学AⅠ	2	選択	
哲学AⅡ	2	選択	
哲学AⅢ	2	選択	
哲学AⅣ	2	選択	
哲学BⅠ	2	選択	
哲学BⅡ	2	選択	
哲学BⅢ	2	選択	
哲学BⅣ	2	選択	
哲学演習AⅠ	2	選択	
哲学演習AⅡ	2	選択	
哲学演習AⅢ	2	選択	
哲学演習AⅣ	2	選択	
哲学演習BⅠ	2	選択	
哲学演習BⅡ	2	選択	
哲学演習BⅢ	2	選択	
哲学演習BⅣ	2	選択	
哲学演習CⅠ	2	選択	
哲学演習CⅡ	2	選択	
哲学演習CⅢ	2	選択	
哲学演習CⅣ	2	選択	
日本倫理想史Ⅰ	2	選択	
日本倫理想史Ⅱ	2	選択	
西洋倫理想史Ⅰ	2	選択	
西洋倫理想史Ⅱ	2	選択	
倫理学演習A	4	選択	
倫理学演習B	4	選択	
倫理想史演習A	4	選択	
倫理想史演習B	4	選択	
倫理学特殊講義AⅠ	2	選択	
倫理学特殊講義AⅡ	2	選択	
倫理学特殊講義BⅠ	2	選択	
倫理学特殊講義BⅡ	2	選択	
倫理想史特殊講義AⅠ	2	選択	
倫理想史特殊講義AⅡ	2	選択	
倫理想史特殊講義BⅠ	2	選択	
倫理想史特殊講義BⅡ	2	選択	
倫理学資料講読	4	選択	
日本倫理想史資料講読	4	選択	
西洋倫理想史資料講読	4	選択	
倫理想史研究	2	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
日本倫理想史研究	2	選択	
西洋倫理想史研究	2	選択	
宗教と倫理学	2	選択	
生命と倫理学	2	選択	
日本の社会と文化	2	選択	
形象分析学演習Ⅰ	4	選択	
形象分析学演習Ⅱ	4	選択	
形象分析学演習Ⅲ	4	選択	
形象分析学特殊講義Ⅰ	4	選択	
形象分析学特殊講義Ⅱ	4	選択	
形象分析学特殊講義Ⅲ	4	選択	
西洋美術史AⅠ	2	選択	
西洋美術史AⅡ	2	選択	
西洋美術史AⅢ	2	選択	
西洋美術史BⅠ	2	選択	
西洋美術史BⅡ	2	選択	
西洋美術史BⅢ	2	選択	
東洋美術史AⅠ	2	選択	
東洋美術史AⅡ	2	選択	
東洋美術史AⅢ	2	選択	
東洋美術史BⅠ	2	選択	
東洋美術史BⅡ	2	選択	
東洋美術史BⅢ	2	選択	
美術史学演習Ⅰ	4	選択	
美術史学演習Ⅱ	4	選択	
美術史学演習Ⅲ	4	選択	
美術史学特殊講義Ⅰ	4	選択	
美術史学特殊講義Ⅱ	4	選択	
美術史学特殊講義Ⅲ	4	選択	

比較歴史学主プログラム		単位数：44	
授業科目	単位数	必修・選択	備考
比較文化史	2	必修	
比較社会史	2	必修	
哲学基礎論	2	選択	以下の科目から 4単位選択
倫理学基礎論	2	選択	
美術史基礎論	2	選択	
自然と人間	2	選択	
人間と空間	2	選択	
日本文化史概論	2	選択	
日本史概説	2	選択	
アジア史概説	2	選択	
西洋史概説	2	選択	
日本史入門講読	2	選択	
外国史入門講読Ⅰ	2	選択	
外国史入門講読Ⅱ	2	選択	
比較歴史学選択基礎	2	選択	
日本史研究法	2	選択	
アジア史研究法	2	選択	
西洋史研究法	2	選択	
グローバル・ヒストリー	2	選択	
日本史講読	2	選択	
アジア史講読	2	選択	
西洋史講読	2	選択	
古文書学	2	選択	
歴史科学	2	選択	
日本史論文講読	2	選択	
外国史論文講読	2	選択	
歩いて学ぶ比較歴史Ⅰ	2	選択	
歩いて学ぶ比較歴史Ⅱ	2	選択	
日本古代史演習Ⅰ	2	選択	以下の科目から 12単位以上選択
日本古代史演習Ⅱ	2	選択	
日本中世史演習Ⅰ	2	選択	
日本中世史演習Ⅱ	2	選択	
日本近世史演習Ⅰ	2	選択	
日本近世史演習Ⅱ	2	選択	
日本近代史演習Ⅰ	2	選択	
日本近代史演習Ⅱ	2	選択	
日本古代史料演習Ⅰ	2	選択	
日本古代史料演習Ⅱ	2	選択	
日本中世史料演習Ⅰ	2	選択	
日本中世史料演習Ⅱ	2	選択	
日本近世史料演習Ⅰ	2	選択	
日本近世史料演習Ⅱ	2	選択	
日本近代史料演習Ⅰ	2	選択	
日本近代史料演習Ⅱ	2	選択	
東アジア史演習Ⅰ	2	選択	
東アジア史演習Ⅱ	2	選択	
西アジア史演習Ⅰ	2	選択	
西アジア史演習Ⅱ	2	選択	
東アジア史料演習Ⅰ	2	選択	
東アジア史料演習Ⅱ	2	選択	
西アジア史料演習Ⅰ	2	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
西アジア史料演習Ⅱ	2	選択	
比較アジア史演習Ⅰ	2	選択	
比較アジア史演習Ⅱ	2	選択	
比較アジア史料演習Ⅰ	2	選択	
比較アジア史料演習Ⅱ	2	選択	
西洋政治史演習Ⅰ	2	選択	
西洋政治史演習Ⅱ	2	選択	
西洋社会史演習Ⅰ	2	選択	
西洋社会史演習Ⅱ	2	選択	
西洋社会経済史演習Ⅰ	2	選択	
西洋社会経済史演習Ⅱ	2	選択	
西洋政治史料演習Ⅰ	2	選択	
西洋政治史料演習Ⅱ	2	選択	
西洋社会史料演習Ⅰ	2	選択	
西洋社会史料演習Ⅱ	2	選択	
西洋社会経済史料演習Ⅰ	2	選択	
西洋社会経済史料演習Ⅱ	2	選択	
史学研究指導	2	選択	
卒業論文	8	必修	

地理環境学主プログラム				単位数：44
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
人間と空間	2	必修		
自然と人間	2	必修		
哲学基礎論	2	選択	以下の科目から	
倫理学基礎論	2	選択	4単位選択	
美術史基礎論	2	選択		
比較文化史	2	選択		
比較社会史	2	選択		
都市と自然	2	選択	以下の科目から	
地理学選択基礎	2	選択	10単位選択	
地理学英書講読	2	選択		
地図学	2	選択		
都市地理学	2	選択		
経済地理学	2	選択		
社会地理学	2	選択		
自然地理学	2	選択		
文化地理学	2	選択		
測量学	2	選択		
地誌学	2	選択		
地理情報システム演習Ⅰ	2	選択		
環境地理学基礎演習	4	選択	以下の科目から	
人文地理学分析基礎演習	4	選択	4単位選択	
文化地理学演習	2	選択	以下の科目から	
地域分析学演習Ⅰ	2	選択	2単位選択	
環境地理学演習Ⅰ	2	選択		
自然地理学演習Ⅰ	2	選択		
社会地理学演習Ⅰ	2	選択		
都市・福祉地理学演習Ⅰ	2	選択		
地理学フィールドワーク A	2	必修		
地理学フィールドワーク B	2	必修		
地理学フィールドワーク演習	2	必修		
地理学研究法演習	2	必修		
地域分析学演習Ⅱ	2	選択	以下の科目から	
環境地理学演習Ⅱ	2	選択	2単位選択	
社会地理学演習Ⅱ	2	選択		
都市・福祉地理学演習Ⅱ	2	選択		
地理学卒業演習	2	必修		
卒業論文	8	必修		

日本語・日本文学主プログラム				単位数：44
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
日本文学概説	2	選択	以下の科目から	
日本語学通論	2	選択	8単位選択	
英語圏言語文化入門	2	選択		
中国現代文学史	2	選択		
中国古典文学史(宋～清)	2	選択		
ヨーロッパ言語文化論	2	選択		
言語学入門Ⅰ	2	選択		
言語学入門Ⅱ	2	選択		
日本古典文学史論(上代)	2	選択	以下の科目から	
日本古典文学史論(中古)	2	選択	8単位選択	
日本古典文学史論(中世)	2	選択		
日本古典文学史論(近世)	2	選択		
日本近代文学史論(近代)	2	選択		
日本近代文学史論(現代)	2	選択		
日本語学概論	2	選択	以下の科目から	
日本語文法総論	2	選択	2単位選択	
日本語音声表現論	2	選択		
日本語文章表現論	2	選択	以下の科目から	
日本文学論講読Ⅰ	2	選択	2単位選択	
日本文学論講読Ⅱ	2	選択		

授業科目	単位数	必修・選択	備考
日本文学論講読Ⅲ	2	選択	
日本文学論講読Ⅳ	2	選択	
日本語学特殊研究	2	選択	以下の科目から
日本語史特殊研究	2	選択	6単位選択
日本古典文学論特殊研究(上代)	2	選択	
日本古典文学論特殊研究(中古)	2	選択	
日本古典文学論特殊研究(中世)	2	選択	
日本古典文学論特殊研究(近世)	2	選択	
日本近代文学論特殊研究(近代)	2	選択	
日本近代文学論特殊研究(現代)	2	選択	
日本語学特殊講義Ⅰ	2	選択	
日本語学特殊講義Ⅱ	2	選択	
日本古典文学論特殊講義Ⅰ	2	選択	
日本古典文学論特殊講義Ⅱ	2	選択	
日本古典文学論特殊講義Ⅲ	2	選択	
日本近代文学論特殊講義Ⅰ	2	選択	
日本近代文学論特殊講義Ⅱ	2	選択	
日本語・日本文学選択基礎	2	選択	
日本古典文学論基礎演習Ⅰ	2	必修	
日本古典文学論演習(上代)Ⅰ	2	選択	以下の科目から
日本古典文学論演習(上代)Ⅱ	2	選択	6単位選択
日本古典文学論演習(中古)Ⅰ	2	選択	
日本古典文学論演習(中古)Ⅱ	2	選択	
日本古典文学論演習(中世)Ⅰ	2	選択	
日本古典文学論演習(中世)Ⅱ	2	選択	
日本古典文学論演習(近世)Ⅰ	2	選択	
日本古典文学論演習(近世)Ⅱ	2	選択	
日本近代文学論演習(近代)Ⅰ	2	選択	
日本近代文学論演習(近代)Ⅱ	2	選択	
日本近代文学論演習(現代)Ⅰ	2	選択	
日本近代文学論演習(現代)Ⅱ	2	選択	
日本語学演習Ⅰ	2	選択	
日本語学演習Ⅱ	2	選択	
日本語学研究指導	2	選択	以下の科目から
日本文学研究指導	2	選択	2単位選択
卒業論文	8	必修	

中国語圏言語文化主プログラム				単位数：44
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
日本文学概説	2	選択	以下の科目から	
日本語学通論	2	選択	8単位選択	
英語圏言語文化入門	2	選択		
中国現代文学史	2	選択		
中国古典文学史(宋～清)	2	選択		
ヨーロッパ言語文化論	2	選択		
言語学入門Ⅰ	2	選択		
言語学入門Ⅱ	2	選択		
中国語ヒアリング基礎	2	必修		
中国語コミュニケーション・スキル	2	必修		
中国語作文基礎演習	2	必修		
中国語作文応用演習	2	必修		
中国語講読	2	必修		
中国語学概論	2	必修		
中国古典文学史(先秦～唐)	2	必修		
中国文化論	2	選択	以下の科目から	
中国現代作家論	2	選択	12単位選択	
日中対照言語学	2	選択		
中国語統語論	2	選択		
中国古典文献講読入門	2	選択		
中国古典文献講読基礎	2	選択		
中国文学古典講読	2	選択		
中国文学古典演習	2	選択		
中国語圏言語文化選択基礎	2	選択		
中国現代文化特別演習	2	選択	以下の科目から	
中国現代語学特別演習	2	選択	2単位選択	
中国古典文献特別演習	2	選択		
中国古典文学特別演習	2	選択		
卒業論文	8	必修		

英語圏言語文化主プログラム				単位数：44
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
日本文学概説	2	選択	以下の科目から	
日本語学通論	2	選択	8単位選択	
英語圏言語文化入門	2	選択		
中国現代文化史	2	選択		
中国古典文学史(宋～清)	2	選択		
ヨーロッパ言語文化論	2	選択		
言語学入門Ⅰ	2	選択		
言語学入門Ⅱ	2	選択		
英米文学演習(初級)	2	必修		
英作文演習(初級)	2	必修		
英会話演習(初級)	2	必修		

授業科目	単位数	必修・選択	備考
対照表現学演習Ⅰ	2	必修	
対照表現学演習Ⅱ	2	必修	
英文法Ⅰ	2	必修	
英文法Ⅱ	2	必修	
卒業論文	8	必修	
特別演習(言語研究方法論)Ⅰ	2	選択	以下の科目から 6単位選択
特別演習(言語研究方法論)Ⅱ	2	選択	
特別演習(英米文学研究方法論)Ⅰ	2	選択	
特別演習(英米文学研究方法論)Ⅱ	2	選択	
特別演習(作品分析)	2	選択	
特別演習(言語資料分析)	2	選択	
英語学入門	2	選択	以下の科目から 8単位選択
英語学概論	2	選択	
英文法演習	2	選択	
英語音声学演習	2	選択	
英文学史Ⅰ	2	選択	
英文学史Ⅱ	2	選択	
米文学史Ⅰ	2	選択	
米文学史Ⅱ	2	選択	
英語圏言語文化選択基礎	2	選択	
英語圏テキスト講読	2	選択	
英作文演習(中級)	2	選択	
英会話演習(中級)	2	選択	
英文学特殊講義Ⅰ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅱ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅲ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅳ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅴ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅵ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅶ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅷ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅰ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅱ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅲ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅳ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅴ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅵ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅶ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅷ	2	選択	
英語圏言語文化研究	2	選択	
英米事情	2	選択	
第二言語教授法研究	2	選択	

仏語圏言語文化主プログラム				単位数：44
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
日本文学概説	2	選択	以下の科目から 8単位選択	
日本語学通論	2	選択		
英語圏言語文化入門	2	選択		
中国現代文学史	2	選択		
中国古典文学史(宋～清)	2	選択		
ヨーロッパ言語文化論	2	選択		
言語学入門Ⅰ	2	選択		
言語学入門Ⅱ	2	選択		
欧州文化論Ⅰ	2	選択	以下の科目から 26単位選択	
欧州文化論Ⅱ	2	選択		
西欧社会文化論Ⅰ	2	選択		
西欧社会文化論Ⅱ	2	選択		
西欧社会文化論Ⅲ	2	選択		
西欧社会文化論Ⅳ	2	選択		
独文学演習Ⅰ	2	選択		
独文学演習Ⅱ	2	選択		
独文学特殊講義Ⅰ	2	選択		
独文学特殊講義Ⅱ	2	選択		
ギリシャ語	4	選択		
ラテン語	4	選択		
スペイン語	4	選択		
イタリア語	4	選択		
仏語圏言語文化論Ⅰ	2	選択		
仏語圏言語文化論Ⅱ	2	選択		
仏語圏言語文化論Ⅲ	2	選択		
仏語圏言語文化論Ⅳ	2	選択		
仏語圏社会言語論Ⅰ	2	選択		
仏語圏社会言語論Ⅱ	2	選択		
フランス社会文化論Ⅰ	2	選択		
フランス社会文化論Ⅱ	2	選択		
フランス社会文化論Ⅲ	2	選択		
フランス社会文化論Ⅳ	2	選択		
基礎仏作文演習	2	選択		
中級仏作文演習	2	選択		
基礎仏会話演習	2	選択		
中級仏会話演習	2	選択		
上級仏会話演習Ⅰ	2	選択		
上級仏会話演習Ⅱ	2	選択		

授業科目	単位数	必修・選択	備考
基礎仏語学演習	2	選択	
中級仏語学演習	2	選択	
上級仏語学演習Ⅰ	2	選択	
上級仏語学演習Ⅱ	2	選択	
応用仏語学演習Ⅰ	2	選択	
応用仏語学演習Ⅱ	2	選択	
近代仏文学演習Ⅰ	2	選択	
近代仏文学演習Ⅱ	2	選択	
近代仏文学特殊講義Ⅰ	2	選択	
近代仏文学特殊講義Ⅱ	2	選択	
現代仏文学演習Ⅰ	2	選択	
現代仏文学演習Ⅱ	2	選択	
現代仏文学特殊講義Ⅰ	2	選択	
現代仏文学特殊講義Ⅱ	2	選択	
仏文学特殊研究	2	選択	
仏文学特別研究	2	選択	
研究指導	2	必修	
卒業論文	8	必修	
仏語圏言語文化選択基礎	2	選択	

社会学主プログラム				単位数：48	
授業科目	単位数	必修・選択	備考		
人間と社会	2	必修			
人間科学論	2	選択	以下の科目から 6単位選択		
人間科学方法論	2	選択			
人間と情報	2	選択			
人間と発達	2	選択			
社会学選択基礎	2	選択	以下の科目から 14単位選択		
ジェンダー論	2	選択			
現代社会論	2	選択			
現代生活論	2	選択			
社会意識論	2	選択			
比較社会論	2	選択			
社会政策論Ⅰ	2	選択			
社会政策論Ⅱ	2	選択			
社会問題論	2	選択			
社会調査の設計と実施	2	選択			
教育社会学概論	2	選択			
教育社会学特殊講義	2	選択			
学校社会学特殊講義	2	選択			
文化人類学概論	2	選択			
文化人類学特殊講義	2	選択			
民族誌学特殊講義	2	選択			
比較社会政策論	2	選択			
フィールドワーク方法論	2	選択			
人間と空間	2	選択			
都市地理学	2	選択			
※社会福祉学	2	選択	※の科目からは6 単位までを含め ることができる		
※家族社会学	2	選択			
※老人福祉論	2	選択			
※老年学	2	選択			
※地域社会論	2	選択			
※児童福祉論	2	選択			
※応用生活統計学	2	選択			
※社会統計学Ⅰ	2	選択			
ジェンダー論演習Ⅰ	2	選択		以下の科目から 10単位選択	
ジェンダー論演習Ⅱ	2	選択			
現代社会論演習Ⅰ	2	選択			
現代社会論演習Ⅱ	2	選択			
社会保障論演習Ⅰ	2	選択			
社会保障論演習Ⅱ	2	選択			
社会政策論演習Ⅰ	2	選択			
社会政策論演習Ⅱ	2	選択			
現代生活論演習Ⅰ	2	選択			
現代生活論演習Ⅱ	2	選択			
社会意識論演習Ⅰ	2	選択			
社会意識論演習Ⅱ	2	選択			
教育社会学演習	4	選択			
学校社会学演習	4	選択			
文化人類学演習	4	選択			
民族誌学演習	4	選択			
社会調査法	4	必修			
社会学研究指導Ⅰ	2	必修			
社会学研究指導Ⅱ	2	必修			
卒業論文	8	必修			

教育科学主プログラム				単位数：48
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
人間と発達	2	必修		
人間科学論	2	選択	以下の科目から 6単位選択	
人間科学方法論	2	選択		
人間と社会	2	選択		

授業科目	単位数	必修・選択	備考
人間と情報	2	選択	
ジェンダー論	2	選択	以下の科目から
現代社会論	2	選択	6単位選択
教育心理学概論	2	選択	
社会心理学概論	2	選択	
発達心理学概論	2	選択	
臨床心理学概論	2	選択	
認知心理学概論	2	選択	
教育思想概論	2	選択	以下の科目から
教育史概論	2	選択	6単位選択
教育社会学概論	2	選択	
文化人類学概論	2	選択	
教育行財政学概論	2	選択	
教育方法学概論	2	選択	
教育課程概論	2	選択	
教育開発概論	2	選択	
生涯学習概論	2	選択	
教育科学概論Ⅰ	2	選択	
教育科学概論Ⅱ	2	選択	
教育思想特殊講義	2	選択	以下の科目から
教育人間学特殊講義	2	選択	8単位選択
教育史特殊講義	2	選択	
教育史料分析特殊講義	2	選択	
教育社会学特殊講義	2	選択	
学校社会学特殊講義	2	選択	
文化人類学特殊講義	2	選択	
民族誌学特殊講義	2	選択	
教育方法学特殊講義	2	選択	
教育課程特殊講義	2	選択	
教育開発特殊講義	2	選択	
比較教育特殊講義	2	選択	
生涯学習特殊講義	2	選択	
社会教育学特殊講義	2	選択	
教育科学特殊講義Ⅰ	2	選択	
教育科学特殊講義Ⅱ	2	選択	
教育科学特殊講義Ⅲ	2	選択	
教育科学特殊講義Ⅳ	2	選択	
教育科学選択基礎	2	選択	
教育思想演習	4	選択	以下の科目から
教育人間学演習	4	選択	8単位選択
教育史演習	4	選択	
教育史料分析演習	4	選択	
教育社会学演習	4	選択	
学校社会学演習	4	選択	
文化人類学演習	4	選択	
民族誌学演習	4	選択	
教育方法学演習	4	選択	
教育課程演習	4	選択	
教育開発演習	4	選択	
比較教育演習	4	選択	
生涯学習演習	4	選択	
社会教育学演習	4	選択	
教育科学演習Ⅰ	4	選択	
教育科学演習Ⅱ	4	選択	
教育実地研究	2	必修	
教育科学研究指導Ⅰ	1	必修	
教育科学研究指導Ⅱ	1	必修	
卒業論文	8	必修	

心理学主プログラム		単位数：48	
授業科目	単位数	必修・選択	備考
人間科学方法論	2	必修	
人間と情報	2	必修	
人間科学論	2	選択	以下の科目から
人間と発達	2	選択	4単位選択
人間と社会	2	選択	
発達心理学概論	2	必修	
認知心理学概論	2	必修	
教育心理学概論	2	必修	
社会心理学概論	2	必修	
臨床心理学概論	2	必修	
心理学基礎演習(理論)	2	必修	
心理学基礎演習(応用)	2	必修	
心理学基礎実験演習Ⅰ	2	必修	
心理学基礎実験演習Ⅱ	2	必修	
心理学応用実験演習	2	必修	
心理統計法	2	必修	
卒業論文	8	必修	
発達心理学演習(基礎)	2	選択	以下の科目から
発達心理学演習(応用)	2	選択	「基礎」「応用」
認知心理学演習(基礎)	2	選択	を必ず含む4単位
認知心理学演習(応用)	2	選択	選択
教育心理学演習(基礎)	2	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
教育心理学演習(応用)	2	選択	
社会心理学演習(基礎)	2	選択	
社会心理学演習(応用)	2	選択	
臨床心理学演習(基礎)	2	選択	
臨床心理学演習Ⅰ(応用)	2	選択	
臨床心理学演習Ⅱ(応用)	2	選択	
心理学選択基礎	2	選択	
発達心理学の展開	2	選択	以下の科目から
認知心理学の展開	2	選択	2単位選択
教育心理学の展開	2	選択	
社会心理学の展開	2	選択	
臨床心理学の展開	2	選択	
発達心理学特殊講義	2	選択	
認知心理学特殊講義	2	選択	
教育心理学特殊講義	2	選択	
社会心理学特殊講義	2	選択	
臨床心理学特殊講義	2	選択	
発達心理学研究法(基礎)	2	選択	以下の科目から
発達心理学研究法(応用)	2	選択	4単位選択
認知心理学研究法(基礎)	2	選択	
認知心理学研究法(応用)	2	選択	
教育心理学研究法(基礎)	2	選択	
教育心理学研究法(応用)	2	選択	
社会心理学研究法(基礎)	2	選択	
社会心理学研究法(応用)	2	選択	
臨床心理学研究法Ⅰ(基礎)	2	選択	
臨床心理学研究法Ⅰ(応用)	2	選択	
臨床心理学研究法Ⅱ(基礎)	2	選択	
臨床心理学研究法Ⅱ(応用)	2	選択	

グローバル文化学主プログラム		単位数：44	
授業科目	単位数	必修・選択	備考
哲学基礎論	2	選択	以下の科目から
倫理学基礎論	2	選択	所属する学科が
美術史基礎論	2	選択	開講する科目4
比較文化史	2	選択	単位選択
比較社会史	2	選択	
人間と空間	2	選択	
自然と人間	2	選択	
日本文学概説	2	選択	
日本語学通論	2	選択	
中国現代文学史	2	選択	
中国古典文学史(宋～清)	2	選択	
英語圏言語学入門	2	選択	
言語学入門Ⅰ	2	選択	
言語学入門Ⅱ	2	選択	
ヨーロッパ言語文化論	2	選択	
人間と社会	2	選択	
人間と発達	2	選択	
人間科学論	2	選択	
人間科学方法論	2	選択	
人間と情報	2	選択	
グローバル文化学総論	2	選択	以下の科目から
国際関係論	2	選択	8単位以上選択
グローバル・メディア論	2	選択	
グローバル化と経済	2	選択	
比較ジェンダー論	2	選択	
比較法文化論	2	選択	
グローバル・ヒストリー	2	選択	
地域研究方法論	2	選択	
文化理論研究	2	選択	
多文化間交流論	2	選択	
言語と文化	2	選択	
国際協力学	2	選択	
文化変動論Ⅰ	2	選択	以下の科目から
文化変動論Ⅱ	2	選択	4単位以上選択
イスラム社会文化論Ⅰ	2	選択	
イスラム社会文化論Ⅱ	2	選択	
オセアニア社会文化論Ⅰ	2	選択	
オセアニア社会文化論Ⅱ	2	選択	
対日交流論	2	選択	
中国社会文化論	2	選択	
東アジア社会文化論	2	選択	
南アジア社会文化論	2	選択	
アフリカ社会文化論	2	選択	
地域研究特論	2	選択	
英米事情	2	選択	
文化と人間関係Ⅰ	2	選択	以下の科目から
文化と人間関係Ⅱ	2	選択	4単位以上選択
グローバル化と言語教育Ⅰ	2	選択	
グローバル化と言語教育Ⅱ	2	選択	
文化と心理	2	選択	
表現行動論Ⅰ	2	選択	



授業科目	単位数	必修・選択	備考
表現行動論Ⅱ	2	選択	
言語と社会Ⅰ	2	選択	
言語と社会Ⅱ	2	選択	
多文化共生論	2	選択	
国際交流論Ⅰ	2	選択	
国際交流論Ⅱ	2	選択	
多文化交流特論	2	選択	
国際協力方法論Ⅰ	2	選択	以下の科目から 4単位以上選択
国際協力方法論Ⅱ	2	選択	
平和構築論Ⅰ	2	選択	
平和構築論Ⅱ	2	選択	
国際開発論Ⅰ	2	選択	
国際開発論Ⅱ	2	選択	
グローバル化と労働	2	選択	
国際機構論	2	選択	
国際教育協力論	2	選択	
NGO/NPO論	2	選択	
比較社会政策論	2	選択	
地域開発論	2	選択	
国際金融論	2	選択	
国際協力特論	2	選択	
多文化交流実習Ⅰ	2	選択	以下の科目から 4単位以上選択
多文化交流実習Ⅱ	2	選択	
多文化交流実習Ⅲ	2	選択	
多文化交流実習Ⅳ	2	選択	
グローバル文化実習	2	選択	
地域研究実習Ⅰ	2	選択	
地域研究実習Ⅱ	2	選択	
国際協力実習Ⅰ	2	選択	
国際協力実習Ⅱ	2	選択	
国際協力実習Ⅲ	2	選択	
フィールドワーク方法論	2	選択	
グローバル文化学方法論	2	選択	
グローバル文化学特論	2	必修	
卒業研究	8	必修	
卒業研究演習	2	選択	

別表第5 専門教育科目(第6条関係)

強化プログラム

哲学・倫理学・美術史強化プログラム			単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考
哲学演習AⅠ	2	選択	以下の科目から 20単位選択
哲学演習AⅡ	2	選択	
哲学演習AⅢ	2	選択	
哲学演習AⅣ	2	選択	
哲学演習BⅠ	2	選択	
哲学演習BⅡ	2	選択	
哲学演習BⅢ	2	選択	
哲学演習BⅣ	2	選択	
哲学特別研究AⅠ	2	選択	
哲学特別研究AⅡ	2	選択	
哲学特別研究AⅢ	2	選択	
哲学特別研究BⅠ	2	選択	
哲学特別研究BⅡ	2	選択	
哲学特別研究BⅢ	2	選択	
哲学研究指導Ⅰ	2	選択	
哲学研究指導Ⅱ	2	選択	
倫理学演習A	4	選択	
倫理学演習B	4	選択	
倫理想史演習A	4	選択	
倫理想史演習B	4	選択	
倫理学特殊講義AⅠ	2	選択	
倫理学特殊講義AⅡ	2	選択	
倫理学特殊講義BⅠ	2	選択	
倫理学特殊講義BⅡ	2	選択	
倫理学資料講義	4	選択	
日本倫理想史資料講義	4	選択	
西洋倫理想史資料講義	4	選択	
倫理学研究	2	選択	
日本倫理想史研究	2	選択	
西洋倫理想史研究	2	選択	
宗教と倫理学	2	選択	
生命と倫理学	2	選択	
日本の社会と文化	2	選択	
倫理学研究指導Ⅰ	2	選択	
倫理学研究指導Ⅱ	2	選択	
倫理学研究指導Ⅲ	2	選択	
形象分析学演習Ⅰ	4	選択	
形象分析学演習Ⅱ	4	選択	
形象分析学演習Ⅲ	4	選択	
形象分析学調査演習	2	選択	
形象分析学特殊講義Ⅰ	4	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
形象分析学特殊講義Ⅱ	4	選択	
形象分析学特殊講義Ⅲ	4	選択	
美術史学演習Ⅰ	4	選択	
美術史学演習Ⅱ	4	選択	
美術史学演習Ⅲ	4	選択	
美術史学特殊講義Ⅰ	4	選択	
美術史学特殊講義Ⅱ	4	選択	
美術史学特殊講義Ⅲ	4	選択	
美術史学研究指導Ⅰ	4	選択	
美術史学研究指導Ⅱ	4	選択	
美術史学研究指導Ⅲ	4	選択	

比較歴史学強化プログラム 単位数：20

授業科目	単位数	必修・選択	備考
日本文化史概論	2	選択	以下の科目から 20単位選択
日本史概説	2	選択	
アジア史概説	2	選択	
西洋史概説	2	選択	
日本史入門講義	2	選択	
外国史入門講義Ⅰ	2	選択	
外国史入門講義Ⅱ	2	選択	
日本史研究法	2	選択	
アジア史研究法	2	選択	
西洋史研究法	2	選択	
グローバル・ヒストリー	2	選択	
日本史講義	2	選択	
アジア史講義	2	選択	
西洋史講義	2	選択	
古文書学	2	選択	
歴史史料学	2	選択	
日本史論文講義	2	選択	
外国史論文講義	2	選択	
歩いて学ぶ比較歴史Ⅰ	2	選択	
歩いて学ぶ比較歴史Ⅱ	2	選択	
歴史史料調査Ⅰ	2	選択	
歴史史料調査Ⅱ	2	選択	
歴史現地調査Ⅰ	2	選択	
歴史現地調査Ⅱ	2	選択	
考古学通論Ⅰ	2	選択	
考古学通論Ⅱ	2	選択	
歴史考古学	2	選択	
史跡調査	2	選択	
日本古代中世文化史	2	選択	
日本近世近代文化史	2	選択	
日本古代中世特殊講義	2	選択	
日本近世近代特殊講義	2	選択	
日本古代中世政治史	2	選択	
日本近世近代政治史	2	選択	
日本古代中世社会経済史	2	選択	
日本近世近代社会経済史	2	選択	
東アジア政治史	2	選択	
西アジア政治史	2	選択	
東アジア社会経済史	2	選択	
西アジア社会経済史	2	選択	
東アジアの歴史と文化	2	選択	
西アジアの歴史と文化	2	選択	
比較アジア社会史論Ⅰ	2	選択	
比較アジア社会史論Ⅱ	2	選択	
比較アジア文化史論Ⅰ	2	選択	
比較アジア文化史論Ⅱ	2	選択	
西洋政治史	2	選択	
西洋社会経済史	2	選択	
西洋社会史	2	選択	
西洋中世史	2	選択	
西洋近世史	2	選択	
西洋近代史	2	選択	
西洋文化史	2	選択	
フランス史	2	選択	
ドイツ史	2	選択	
イギリス史	2	選択	
歴史学文献講義Ⅰ	2	選択	
歴史学文献講義Ⅱ	2	選択	
都市社会史	2	選択	
歴史情報論	2	選択	
比較女性史	2	選択	
比較家族史	2	選択	
歴史人類学	2	選択	
日本古代史演習Ⅰ	2	選択	
日本古代史演習Ⅱ	2	選択	
日本中世史演習Ⅰ	2	選択	
日本中世史演習Ⅱ	2	選択	
日本近世史演習Ⅰ	2	選択	
日本近世史演習Ⅱ	2	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
日本近代史演習Ⅰ	2	選択	
日本近代史演習Ⅱ	2	選択	
日本古代史料演習Ⅰ	2	選択	
日本古代史料演習Ⅱ	2	選択	
日本中世史料演習Ⅰ	2	選択	
日本中世史料演習Ⅱ	2	選択	
日本近世史料演習Ⅰ	2	選択	
日本近世史料演習Ⅱ	2	選択	
日本近代史料演習Ⅰ	2	選択	
日本近代史料演習Ⅱ	2	選択	
東アジア史演習Ⅰ	2	選択	
東アジア史演習Ⅱ	2	選択	
西アジア史演習Ⅰ	2	選択	
西アジア史演習Ⅱ	2	選択	
東アジア史料演習Ⅰ	2	選択	
東アジア史料演習Ⅱ	2	選択	
西アジア史料演習Ⅰ	2	選択	
西アジア史料演習Ⅱ	2	選択	
比較アジア史演習Ⅰ	2	選択	
比較アジア史演習Ⅱ	2	選択	
比較アジア史料演習Ⅰ	2	選択	
比較アジア史料演習Ⅱ	2	選択	
西洋政治史演習Ⅰ	2	選択	
西洋政治史演習Ⅱ	2	選択	
西洋社会史演習Ⅰ	2	選択	
西洋社会史演習Ⅱ	2	選択	
西洋社会経済史演習Ⅰ	2	選択	
西洋社会経済史演習Ⅱ	2	選択	
西洋政治史料演習Ⅰ	2	選択	
西洋政治史料演習Ⅱ	2	選択	
西洋社会史料演習Ⅰ	2	選択	
西洋社会史料演習Ⅱ	2	選択	
西洋社会経済史料演習Ⅰ	2	選択	
西洋社会経済史料演習Ⅱ	2	選択	

地理環境学強化プログラム			単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考
都市と自然	2	選択	主プログラムで 未履修科目
地理学英書講読	2	選択	
地図学	2	選択	
都市地理学	2	選択	
経済地理学	2	選択	
社会地理学	2	選択	
自然地理学	2	選択	
文化地理学	2	選択	
測量学	2	選択	
地誌学	2	選択	
地理情報システム演習Ⅰ	2	選択	
環境地理学基礎演習	4	選択	
人文地理学分析基礎演習	4	選択	
地域分析学演習Ⅰ	2	選択	
環境地理学演習Ⅰ	2	選択	
自然地理学演習Ⅰ	2	選択	
文化地理学演習	2	選択	
社会地理学演習Ⅰ	2	選択	
都市・福祉地理学演習Ⅰ	2	選択	
地理環境学演習Ⅰ	2	選択	
地理環境学演習Ⅱ	2	選択	
地理環境学演習Ⅲ	2	選択	
地理環境学演習Ⅳ	2	選択	
地理情報システム演習Ⅱ	2	選択	
都市社会史	2	選択	
歴史情報論	2	選択	
オセアニア社会文化論Ⅰ	2	選択	
オセアニア社会文化論Ⅱ	2	選択	
文化理論研究	2	選択	
地域開発論	2	選択	
フィールドワーク方法論	2	選択	
社会政策論Ⅰ	2	選択	
社会政策論Ⅱ	2	選択	
地球環境科学	2	選択	
大気・海洋科学概論	2	選択	
地学基礎実験	2	選択	
環境情報論	2	選択	
環境化学	2	選択	
住居学概論	2	選択	
建築環境計画論	2	選択	
民俗学	2	選択	
歴史文化論	2	選択	
環境デザイン論	2	選択	

日本語・日本文学強化プログラム			単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考
日本古典文学史論（上代）	2	選択	以下の科目から 4単位選択
日本古典文学史論（中古）	2	選択	
日本古典文学史論（中世）	2	選択	
日本古典文学史論（近世）	2	選択	
日本近代文学史論（近代）	2	選択	
日本近代文学史論（現代）	2	選択	
日本語彙論	2	選択	以下の科目から 2単位選択
日本語文法総論	2	選択	
日本語音声表現論	2	選択	
日本語文章表現論	2	選択	以下の科目から 2単位選択
日本文学論講読Ⅰ	2	選択	
日本文学論講読Ⅱ	2	選択	
日本文学論講読Ⅲ	2	選択	
日本文学論講読Ⅳ	2	選択	
日本語学特殊研究	2	選択	以下の科目から 6単位選択
日本語史特殊研究	2	選択	
日本古典文学論特殊研究（上代）	2	選択	
日本古典文学論特殊研究（中古）	2	選択	
日本古典文学論特殊研究（中世）	2	選択	
日本古典文学論特殊研究（近世）	2	選択	
日本近代文学論特殊研究（近代）	2	選択	
日本近代文学論特殊研究（現代）	2	選択	
日本語学特殊講義Ⅰ	2	選択	
日本語学特殊講義Ⅱ	2	選択	
日本古典文学論特殊講義Ⅰ	2	選択	
日本古典文学論特殊講義Ⅱ	2	選択	
日本古典文学論特殊講義Ⅲ	2	選択	
日本近代文学論特殊講義Ⅰ	2	選択	
日本近代文学論特殊講義Ⅱ	2	選択	
日本古典文学論基礎演習Ⅱ	2	選択	以下の科目から 2単位選択
日本語学基礎演習	2	選択	
書道Ⅰ	2	選択	以下の科目から 2単位選択
書道Ⅱ	2	選択	
日本古典文学論演習（上代）Ⅰ	2	選択	以下の科目から 2単位選択
日本古典文学論演習（上代）Ⅱ	2	選択	
日本古典文学論演習（中古）Ⅰ	2	選択	
日本古典文学論演習（中古）Ⅱ	2	選択	
日本古典文学論演習（中世）Ⅰ	2	選択	
日本古典文学論演習（中世）Ⅱ	2	選択	
日本古典文学論演習（近世）Ⅰ	2	選択	
日本古典文学論演習（近世）Ⅱ	2	選択	
日本近代文学論演習（近代）Ⅰ	2	選択	
日本近代文学論演習（近代）Ⅱ	2	選択	
日本近代文学論演習（現代）Ⅰ	2	選択	
日本近代文学論演習（現代）Ⅱ	2	選択	
日本語学演習Ⅰ	2	選択	
日本語学演習Ⅱ	2	選択	

中国語圏言語文化強化プログラム			単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考
中国言語文化論演習	2	必修	
中国事情	2	必修	
中国語会話演習	2	必修	
中国語ヒアリング演習	2	必修	
中国現代作品論	2	必修	
中国語文法論	2	必修	
中国語学文献講読	2	必修	
中国古典詩講義演習	2	必修	
中国文化論	2	選択	以下の科目から、 主プログラムに おいて既修得の 科目を除く4単 位選択
中国現代作家論	2	選択	
日中対照言語学	2	選択	
中国語統語論	2	選択	
中国古典文献講読入門	2	選択	
中国古典文献講読基礎	2	選択	
中国文学古典講読	2	選択	
中国文学古典演習	2	選択	

英語圏言語文化強化プログラム			単位数：20	
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
英文法演習	2	選択	以下の科目から 6～8単位選択	
英語音声学演習	2	選択		
英文学史Ⅰ	2	選択		
英文学史Ⅱ	2	選択		
米文学史Ⅰ	2	選択		
米文学史Ⅱ	2	選択		
英米文学演習（中級）	2	選択		
英米文学演習（上級）	2	選択		
中国語文化論	2	選択		以下の科目から 12～14単位選択
仏語圏言語文化論Ⅰ	2	選択		
仏語圏言語文化論Ⅱ	2	選択		

諸規程等（規則集）

IV

授業科目	単位数	必修・選択	備考
独文学特殊講義Ⅰ	2	選択	
英作文演習(中級)	2	選択	
英作文演習(上級)	2	選択	
英会話演習(中級)	2	選択	
英会話演習(上級)	2	選択	
英文学特殊講義Ⅰ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅱ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅲ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅳ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅴ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅵ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅶ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅷ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅰ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅱ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅲ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅳ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅴ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅵ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅶ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅷ	2	選択	
英語圏言語文化研究	2	選択	
ギリシア語	4	選択	
ラテン語	4	選択	
スペイン語	4	選択	
イタリア語	4	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
学校社会学特殊講義	2	選択	
文化人類学特殊講義	2	選択	
民族誌学特殊講義	2	選択	
比較社会政策論	2	選択	
※社会福祉学	2	選択	※の科目からは、
※家族社会学	2	選択	主プログラムで
※老人福祉論	2	選択	取得するものも
※老年学	2	選択	含めて、6単位
※地域社会論	2	選択	までを含めるこ
※児童福祉論	2	選択	とができる
※応用生活統計学	2	選択	
※社会統計学Ⅰ	2	選択	
ジェンダー論演習Ⅰ	2	選択	以下の科目から
ジェンダー論演習Ⅱ	2	選択	8単位選択
現代社会論演習Ⅰ	2	選択	
現代社会論演習Ⅱ	2	選択	
社会保障論演習Ⅰ	2	選択	
社会保障論演習Ⅱ	2	選択	
社会政策論演習Ⅰ	2	選択	
社会政策論演習Ⅱ	2	選択	
現代生活論演習Ⅰ	2	選択	
現代生活論演習Ⅱ	2	選択	
社会意識論演習Ⅰ	2	選択	
社会意識論演習Ⅱ	2	選択	

仏語圏言語文化強化プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
欧州文化論Ⅰ	2	選択	以下の科目から	
欧州文化論Ⅱ	2	選択	20単位選択	
西欧社会文化論Ⅲ	2	選択		
西欧社会文化論Ⅳ	2	選択		
独文学演習Ⅰ	2	選択		
独文学演習Ⅱ	2	選択		
独文学特殊講義Ⅰ	2	選択		
独文学特殊講義Ⅱ	2	選択		
ギリシャ語	4	選択		
ラテン語	4	選択		
スペイン語	4	選択		
イタリア語	4	選択		
仏語圏言語文化論Ⅰ	2	選択		
仏語圏言語文化論Ⅱ	2	選択		
仏語圏言語文化論Ⅲ	2	選択		
仏語圏言語文化論Ⅳ	2	選択		
仏語圏社会言語論Ⅰ	2	選択		
仏語圏社会言語論Ⅱ	2	選択		
フランス社会文化論Ⅰ	2	選択		
フランス社会文化論Ⅱ	2	選択		
フランス社会文化論Ⅲ	2	選択		
フランス社会文化論Ⅳ	2	選択		
上級仏会話演習Ⅰ	2	選択		
上級仏会話演習Ⅱ	2	選択		
基礎仏語学演習	2	選択		
中級仏語学演習	2	選択		
上級仏語学演習Ⅰ	2	選択		
上級仏語学演習Ⅱ	2	選択		
応用仏語学演習Ⅰ	2	選択		
応用仏語学演習Ⅱ	2	選択		
近代仏文学演習Ⅰ	2	選択		
近代仏文学演習Ⅱ	2	選択		
近代仏文学特殊講義Ⅰ	2	選択		
近代仏文学特殊講義Ⅱ	2	選択		
現代仏文学演習Ⅰ	2	選択		
現代仏文学演習Ⅱ	2	選択		
現代仏文学特殊講義Ⅰ	2	選択		
現代仏文学特殊講義Ⅱ	2	選択		
仏文学特殊研究	2	選択		
仏文学特別研究	2	選択		

教育科学強化プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
教育思想概論	2	選択	以下の科目から	
教育史概論	2	選択	4単位以上選択	
教育社会学概論	2	選択		
文化人類学概論	2	選択		
教育行財政学概論	2	選択		
教育方法学概論	2	選択		
教育課程概論	2	選択		
教育開発概論	2	選択		
生涯学習概論	2	選択		
教育科学概論Ⅰ	2	選択		
教育科学概論Ⅱ	2	選択		
教育思想特殊講義	2	選択	以下の科目から	
教育人間学特殊講義	2	選択	4単位以上選択	
教育史特殊講義	2	選択		
教育史料分析特殊講義	2	選択		
教育社会学特殊講義	2	選択		
学校社会学特殊講義	2	選択		
文化人類学特殊講義	2	選択		
民族誌学特殊講義	2	選択		
教育方法学特殊講義	2	選択		
教育課程特殊講義	2	選択		
教育開発特殊講義	2	選択		
比較教育特殊講義	2	選択		
生涯学習特殊講義	2	選択		
社会教育学特殊講義	2	選択		
教育科学特殊講義Ⅰ	2	選択		
教育科学特殊講義Ⅱ	2	選択		
教育科学特殊講義Ⅲ	2	選択		
教育科学特殊講義Ⅳ	2	選択		
学校インターンシップ	2	選択		
児童社会文化論	2	選択		
博物館学概論	2	選択		
教育思想演習	4	選択	以下の科目から	
教育人間学演習	4	選択	8単位以上選択	
教育史演習	4	選択		
教育史料分析演習	4	選択		
教育社会学演習	4	選択		
学校社会学演習	4	選択		
文化人類学演習	4	選択		
民族誌学演習	4	選択		
教育方法学演習	4	選択		
教育課程演習	4	選択		
教育開発演習	4	選択		
比較教育演習	4	選択		
生涯学習演習	4	選択		
社会教育学演習	4	選択		
教育科学演習Ⅰ	4	選択		
教育科学演習Ⅱ	4	選択		
社会教育計画Ⅰ	2	選択	以下の科目から	
社会教育計画Ⅱ	2	選択	0～2単位選択	
社会教育特講Ⅰ	2	選択		
社会教育特講Ⅱ	2	選択		
社会教育課題研究	2	選択		
社会教育実習	2	選択		

社会学強化プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
ジェンダー論	2	選択	以下の科目から	
現代社会論	2	選択	12単位選択	
現代生活論	2	選択		
社会意識論	2	選択		
比較社会論	2	選択		
社会政策論Ⅰ	2	選択		
社会政策論Ⅱ	2	選択		
社会問題論	2	選択		
社会調査の設計と実施	2	選択		
教育社会学特殊講義	2	選択		

心理学強化プログラム		単位数：20	
授業科目	単位数	必修・選択	備考
発達心理学演習（基礎）	2	選択	以下の科目から 20単位選択
発達心理学演習（応用）	2	選択	
認知心理学演習（基礎）	2	選択	
認知心理学演習（応用）	2	選択	
教育心理学演習（基礎）	2	選択	
教育心理学演習（応用）	2	選択	
社会心理学演習（基礎）	2	選択	
社会心理学演習（応用）	2	選択	
臨床心理学演習（基礎）	2	選択	
臨床心理学演習Ⅰ（応用）	2	選択	
臨床心理学演習Ⅱ（応用）	2	選択	
発達心理学の展開	2	選択	
認知心理学の展開	2	選択	
教育心理学の展開	2	選択	
社会心理学の展開	2	選択	
臨床心理学の展開	2	選択	
発達心理学特殊講義	2	選択	
認知心理学特殊講義	2	選択	
教育心理学特殊講義	2	選択	
社会心理学特殊講義	2	選択	
臨床心理学特殊講義	2	選択	
発達心理学研究法（基礎）	2	選択	
発達心理学研究法（応用）	2	選択	
認知心理学研究法（基礎）	2	選択	
認知心理学研究法（応用）	2	選択	
教育心理学研究法（基礎）	2	選択	
教育心理学研究法（応用）	2	選択	
社会心理学研究法（基礎）	2	選択	
社会心理学研究法（応用）	2	選択	
臨床心理学研究法Ⅰ（基礎）	2	選択	
臨床心理学研究法Ⅰ（応用）	2	選択	
臨床心理学研究法Ⅱ（基礎）	2	選択	
臨床心理学研究法Ⅱ（応用）	2	選択	

別表第6 専門教育科目（第6条関係）

副プログラム

哲学・倫理学・美術史副プログラム		単位数：20	
授業科目	単位数	必修・選択	備考
哲学基礎論	2	選択	以下の科目から 20単位選択
倫理学基礎論	2	選択	
美術史学基礎論	2	選択	
哲学概論Ⅰ	2	選択	
哲学概論Ⅱ	2	選択	
哲学AⅠ	2	選択	
哲学AⅡ	2	選択	
哲学AⅢ	2	選択	
哲学AⅣ	2	選択	
哲学BⅠ	2	選択	
哲学BⅡ	2	選択	
哲学BⅢ	2	選択	
哲学BⅣ	2	選択	
倫理学概論Ⅰ	2	選択	
倫理学概論Ⅱ	2	選択	
日本倫理思想史Ⅰ	2	選択	
日本倫理思想史Ⅱ	2	選択	
西洋倫理思想史Ⅰ	2	選択	
西洋倫理思想史Ⅱ	2	選択	
倫理学研究	2	選択	
西洋倫理思想史研究	2	選択	
宗教と倫理学	2	選択	
生命と倫理学	2	選択	
日本の社会と文化	2	選択	
形象分析学特殊講義Ⅰ	4	選択	
形象分析学特殊講義Ⅱ	4	選択	
形象分析学特殊講義Ⅲ	4	選択	
西洋美術史AⅠ	2	選択	
西洋美術史AⅡ	2	選択	
西洋美術史AⅢ	2	選択	
西洋美術史BⅠ	2	選択	
西洋美術史BⅡ	2	選択	
西洋美術史BⅢ	2	選択	
東洋美術史AⅠ	2	選択	
東洋美術史AⅡ	2	選択	
東洋美術史AⅢ	2	選択	
東洋美術史BⅠ	2	選択	
東洋美術史BⅡ	2	選択	
東洋美術史BⅢ	2	選択	
美術史学特殊講義Ⅰ	4	選択	
美術史学特殊講義Ⅱ	4	選択	
美術史学特殊講義Ⅲ	4	選択	

比較歴史学副プログラム		単位数：20	
授業科目	単位数	必修・選択	備考
比較文化史	2	選択	以下の科目から 20単位選択
比較社会史	2	選択	
日本文化史概論	2	選択	
日本史概説	2	選択	
アジア史概説	2	選択	
西洋史概説	2	選択	
日本史研究法	2	選択	
アジア史研究法	2	選択	
西洋史研究法	2	選択	
グローバル・ヒストリー	2	選択	
日本史講読	2	選択	
アジア史講読	2	選択	
西洋史講読	2	選択	
古文書学	2	選択	
歴史科学	2	選択	
歩いて学ぶ比較歴史Ⅰ	2	選択	
歩いて学ぶ比較歴史Ⅱ	2	選択	
歴史史料調査Ⅰ	2	選択	
歴史史料調査Ⅱ	2	選択	
歴史現地調査Ⅰ	2	選択	
歴史現地調査Ⅱ	2	選択	
考古学通論Ⅰ	2	選択	
考古学通論Ⅱ	2	選択	
歴史考古学	2	選択	
史跡調査	2	選択	
日本古代中世文化史	2	選択	
日本近世近代文化史	2	選択	
日本古代中世特殊講義	2	選択	
日本近世近代特殊講義	2	選択	
日本古代中世政治史	2	選択	
日本近世近代政治史	2	選択	
日本古代中世社会経済史	2	選択	
日本近世近代社会経済史	2	選択	
東アジア政治史	2	選択	
西アジア政治史	2	選択	
東アジア社会経済史	2	選択	
西アジア社会経済史	2	選択	
東アジアの歴史と文化	2	選択	
西アジアの歴史と文化	2	選択	
比較アジア社会史論Ⅰ	2	選択	
比較アジア社会史論Ⅱ	2	選択	
比較アジア文化史論Ⅰ	2	選択	
比較アジア文化史論Ⅱ	2	選択	
西洋政治史	2	選択	
西洋社会経済史	2	選択	
西洋社会史	2	選択	
西洋中世史	2	選択	
西洋近世史	2	選択	
西洋近代史	2	選択	
西洋文化史	2	選択	
フランス史	2	選択	
ドイツ史	2	選択	
イギリス史	2	選択	
歴史学文献講読Ⅰ	2	選択	
歴史学文献講読Ⅱ	2	選択	
都市社会史	2	選択	
比較女性史	2	選択	
比較家族史	2	選択	
日本古代史演習Ⅰ	2	選択	
日本古代史演習Ⅱ	2	選択	
日本中世史演習Ⅰ	2	選択	
日本中世史演習Ⅱ	2	選択	
日本近世史演習Ⅰ	2	選択	
日本近世史演習Ⅱ	2	選択	
日本近代史演習Ⅰ	2	選択	
日本近代史演習Ⅱ	2	選択	
日本古代史料演習Ⅰ	2	選択	
日本古代史料演習Ⅱ	2	選択	
日本中世史料演習Ⅰ	2	選択	
日本中世史料演習Ⅱ	2	選択	
日本近世史料演習Ⅰ	2	選択	
日本近世史料演習Ⅱ	2	選択	
日本近代史料演習Ⅰ	2	選択	
日本近代史料演習Ⅱ	2	選択	
東アジア史演習Ⅰ	2	選択	
東アジア史演習Ⅱ	2	選択	
西アジア史演習Ⅰ	2	選択	
西アジア史演習Ⅱ	2	選択	
東アジア史料演習Ⅰ	2	選択	
東アジア史料演習Ⅱ	2	選択	
西アジア史料演習Ⅰ	2	選択	
西アジア史料演習Ⅱ	2	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
比較アジア史演習Ⅰ	2	選択	
比較アジア史演習Ⅱ	2	選択	
比較アジア史料演習Ⅰ	2	選択	
比較アジア史料演習Ⅱ	2	選択	
西洋政治史演習Ⅰ	2	選択	
西洋政治史演習Ⅱ	2	選択	
西洋社会史演習Ⅰ	2	選択	
西洋社会史演習Ⅱ	2	選択	
西洋社会経済史演習Ⅰ	2	選択	
西洋社会経済史演習Ⅱ	2	選択	
西洋政治史料演習Ⅰ	2	選択	
西洋政治史料演習Ⅱ	2	選択	
西洋社会史料演習Ⅰ	2	選択	
西洋社会史料演習Ⅱ	2	選択	
西洋社会経済史料演習Ⅰ	2	選択	
西洋社会経済史料演習Ⅱ	2	選択	

地理環境学副プログラム 単位数：20			
授業科目	単位数	必修・選択	備考
人間と空間	2	選択	以下の科目から
自然と人間	2	選択	既修得の科目を
都市と自然	2	選択	除く12単位選択
地誌学	2	選択	
都市地理学	2	選択	
経済地理学	2	選択	
社会地理学	2	選択	
自然地理学	2	選択	
文化地理学	2	選択	
地理学英書講読	2	選択	以下の科目から
地図学	2	選択	4単位選択
測量学	2	選択	
人文地理学分析基礎演習	4	選択	
環境地理学基礎演習	4	選択	
地域分析学演習Ⅰ	2	選択	以下の科目から
環境地理学演習Ⅰ	2	選択	2単位選択
自然地理学演習Ⅰ	2	選択	
文化地理学演習	2	選択	
社会地理学演習Ⅰ	2	選択	
都市・福祉地理学演習Ⅰ	2	選択	
地理学フィールドワークB	2	必修	

日本語・日本文学副プログラム 単位数：20			
授業科目	単位数	必修・選択	備考
日本文学概説	2	必修	
日本古典文学史論(上代)	2	選択	以下の科目から
日本古典文学史論(中古)	2	選択	6単位選択
日本古典文学史論(中世)	2	選択	
日本古典文学史論(近世)	2	選択	
日本近代文学史論(近代)	2	選択	
日本近代文学史論(現代)	2	選択	
日本語学通論	2	選択	以下の科目から
日本語語彙論	2	選択	2単位選択
日本語文法総論	2	選択	
日本語音声表現論	2	選択	
日本語文章表現論	2	選択	以下の科目から
日本文学論講読Ⅰ	2	選択	4単位選択
日本文学論講読Ⅱ	2	選択	
日本文学論講読Ⅲ	2	選択	
日本文学論講読Ⅳ	2	選択	
日本語学特殊研究	2	選択	以下の科目から
日本語史特殊研究	2	選択	6単位選択
日本古典文学論特殊研究(上代)	2	選択	
日本古典文学論特殊研究(中古)	2	選択	
日本古典文学論特殊研究(中世)	2	選択	
日本古典文学論特殊研究(近世)	2	選択	
日本近代文学論特殊研究(近代)	2	選択	
日本近代文学論特殊研究(現代)	2	選択	
日本語学特殊講義Ⅰ	2	選択	
日本語学特殊講義Ⅱ	2	選択	
日本古典文学論特殊講義Ⅰ	2	選択	
日本古典文学論特殊講義Ⅱ	2	選択	
日本古典文学論特殊講義Ⅲ	2	選択	
日本近代文学論特殊講義Ⅰ	2	選択	
日本近代文学論特殊講義Ⅱ	2	選択	

中国語圏言語文化副プログラム 単位数：20			
授業科目	単位数	必修・選択	備考
中国語学概論	2	必修	
中国古典文学史(先秦～唐)	2	必修	
中国語ヒアリング基礎	2	選択	以下の科目から
中国語コミュニケーションスキル	2	選択	4単位以上選択

授業科目	単位数	必修・選択	備考
中国語作文基礎演習	2	選択	
中国語作文応用演習	2	選択	
中国語講読	2	選択	
中国文化論	2	選択	以下の科目から
中国現代作家論	2	選択	6単位以上選択
日中対照言語学	2	選択	
中国語統語論	2	選択	
中国古典文献講読入門	2	選択	
中国古典文献講読基礎	2	選択	
中国文学古典講読	2	選択	
中国文学古典演習	2	選択	

英語圏言語文化副プログラム 単位数：20			
授業科目	単位数	必修・選択	備考
英文法Ⅰ	2	必修	
英文法Ⅱ	2	必修	
英米文学演習(初級)	2	選択	以下の科目から
英作文演習(初級)	2	選択	4単位選択
英会話演習(初級)	2	選択	
英語学入門	2	選択	以下の科目から
英語学概論	2	選択	4～6単位選択
英文法演習	2	選択	
英語音声学演習	2	選択	
英文学史Ⅰ	2	選択	
英文学史Ⅱ	2	選択	
米文学史Ⅰ	2	選択	
米文学史Ⅱ	2	選択	
英作文演習(中級)	2	選択	以下の科目から
英会話演習(中級)	2	選択	6～8単位選択
英文学特殊講義Ⅰ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅱ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅲ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅳ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅴ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅵ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅶ	2	選択	
英文学特殊講義Ⅷ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅰ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅱ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅲ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅳ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅴ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅵ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅶ	2	選択	
英語学特殊講義Ⅷ	2	選択	
英語圏言語文化研究	2	選択	
英米事情	2	選択	
第二言語教授法研究	2	選択	

仏語圏言語文化副プログラム 単位数：20			
授業科目	単位数	必修・選択	備考
欧州文化論Ⅰ	2	選択	以下の科目から
欧州文化論Ⅱ	2	選択	20単位選択
西欧社会文化論Ⅰ	2	選択	
西欧社会文化論Ⅱ	2	選択	
西欧社会文化論Ⅲ	2	選択	
西欧社会文化論Ⅳ	2	選択	
独文学演習Ⅰ	2	選択	
独文学演習Ⅱ	2	選択	
独文学特殊講義Ⅰ	2	選択	
独文学特殊講義Ⅱ	2	選択	
ギリシャ語	4	選択	
ラテン語	4	選択	
スペイン語	4	選択	
イタリア語	4	選択	
仏語圏言語文化論Ⅰ	2	選択	
仏語圏言語文化論Ⅱ	2	選択	
仏語圏言語文化論Ⅲ	2	選択	
仏語圏言語文化論Ⅳ	2	選択	
仏語圏社会言語論Ⅰ	2	選択	
仏語圏社会言語論Ⅱ	2	選択	
フランス社会文化論Ⅰ	2	選択	
フランス社会文化論Ⅱ	2	選択	
フランス社会文化論Ⅲ	2	選択	
フランス社会文化論Ⅳ	2	選択	
基礎仏作文演習	2	選択	
中級仏作文演習	2	選択	
基礎仏会話演習	2	選択	
中級仏会話演習	2	選択	
上級仏会話演習Ⅰ	2	選択	
上級仏会話演習Ⅱ	2	選択	
基礎仏語学演習	2	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
中級仏語学演習	2	選択	
上級仏語学演習Ⅰ	2	選択	
上級仏語学演習Ⅱ	2	選択	
応用仏語学演習Ⅰ	2	選択	
応用仏語学演習Ⅱ	2	選択	
近代仏文学演習Ⅰ	2	選択	
近代仏文学演習Ⅱ	2	選択	
近代仏文学特殊講義Ⅰ	2	選択	
近代仏文学特殊講義Ⅱ	2	選択	
現代仏文学演習Ⅰ	2	選択	
現代仏文学演習Ⅱ	2	選択	
現代仏文学特殊講義Ⅰ	2	選択	
現代仏文学特殊講義Ⅱ	2	選択	
仏文学特殊研究	2	選択	
仏文学特別研究	2	選択	

日本語教育副プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
第二言語教授法演習Ⅰ	2	必修		
第二言語教授法演習Ⅱ	2	選択	以下の科目から	
日本語表現法概論	2	選択	18単位選択	
日本語教育学研究法実習	2	選択		
日本語教育学概論Ⅰ	2	選択		
日本語教育学概論Ⅱ	2	選択		
日本語教育法演習	2	選択		
多文化間人間関係論演習	2	選択		
異文化間教育学演習	2	選択		
社会言語学演習	2	選択		
日本語学概論Ⅰ	2	選択		
日本語学概論Ⅱ	2	選択		
日本語非母語話者年少者教育学概論	2	選択		
日本語教育学特殊講義	2	選択		

社会学副プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
人間と社会	2	選択	以下の科目から4単位選択。ただし、人間社会科学科の学生は、本プログラムの他の科目で単位を満たすことができる。	
人間科学論	2	選択		
人間科学方法論	2	選択		
人間と情報	2	選択		
人間と発達	2	選択		
ジェンダー論	2	選択	以下の科目から8単位選択	
現代社会論	2	選択		
現代生活論	2	選択		
社会意識論	2	選択		
比較社会論	2	選択		
社会政策論Ⅰ	2	選択		
社会政策論Ⅱ	2	選択		
社会問題論	2	選択		
社会調査の設計と実施	2	選択		
ジェンダー論演習Ⅰ	2	選択	以下の科目から4単位選択	
ジェンダー論演習Ⅱ	2	選択		
現代社会論演習Ⅰ	2	選択		
現代社会論演習Ⅱ	2	選択		
社会保障論演習Ⅰ	2	選択		
社会保障論演習Ⅱ	2	選択		
社会政策論演習Ⅰ	2	選択		
社会政策論演習Ⅱ	2	選択		
現代生活論演習Ⅰ	2	選択		
現代生活論演習Ⅱ	2	選択		
社会意識論演習Ⅰ	2	選択		
社会意識論演習Ⅱ	2	選択		
社会調査法	4	必修		

教育学副プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
人間と発達	2	必修		
教育思想概論	2	選択	以下の科目から6単位以上選択	
教育史概論	2	選択		
教育社会学概論	2	選択		
文化人類学概論	2	選択		
教育行財政学概論	2	選択		
教育方法学概論	2	選択		
教育課程概論	2	選択		
教育開発概論	2	選択		
生涯学習概論	2	選択		
教育科学概論Ⅰ	2	選択		
教育科学概論Ⅱ	2	選択		
教育思想特殊講義	2	選択	以下の科目から6単位以上選択	
教育人間学特殊講義	2	選択		
教育史特殊講義	2	選択		
教育史料分析特殊講義	2	選択		

授業科目	単位数	必修・選択	備考
教育社会学特殊講義	2	選択	
学校社会学特殊講義	2	選択	
文化人類学特殊講義	2	選択	
民族誌学特殊講義	2	選択	
教育方法学特殊講義	2	選択	
教育課程特殊講義	2	選択	
教育開発特殊講義	2	選択	
比較教育特殊講義	2	選択	
生涯学習特殊講義	2	選択	
社会教育学特殊講義	2	選択	
教育科学特殊講義Ⅰ	2	選択	
教育科学特殊講義Ⅱ	2	選択	
教育科学特殊講義Ⅲ	2	選択	
教育科学特殊講義Ⅳ	2	選択	
学校インターンシップ	2	選択	
教育思想演習	4	選択	以下の科目から0～8単位選択
教育人間学演習	4	選択	
教育史演習	4	選択	
教育史料分析演習	4	選択	
教育社会学演習	4	選択	
学校社会学演習	4	選択	
文化人類学演習	4	選択	
民族誌学演習	4	選択	
教育方法学演習	4	選択	
教育課程演習	4	選択	
教育開発演習	4	選択	
比較教育演習	4	選択	
生涯学習演習	4	選択	
社会教育学演習	4	選択	
教育科学演習Ⅰ	4	選択	
教育科学演習Ⅱ	4	選択	

心理学副プログラムA（人間社会科学科生用）				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
発達心理学概論	2	選択	以下の科目から4単位以上選択	
認知心理学概論	2	選択		
教育心理学概論	2	選択		
社会心理学概論	2	選択		
臨床心理学概論	2	選択		
心理統計法	2	選択		
発達心理学演習（基礎）	2	選択	以下の科目から4単位以上選択	
認知心理学演習（基礎）	2	選択		
教育心理学演習（基礎）	2	選択		
社会心理学演習（基礎）	2	選択		
臨床心理学演習（基礎）	2	選択		
発達心理学の展開	2	選択		
認知心理学の展開	2	選択		
教育心理学の展開	2	選択		
社会心理学の展開	2	選択		
臨床心理学の展開	2	選択		
発達心理学特殊講義	2	選択		
認知心理学特殊講義	2	選択		
教育心理学特殊講義	2	選択		
社会心理学特殊講義	2	選択		
臨床心理学特殊講義	2	選択		

心理学副プログラムB（人間社会科学科以外生用）				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
人間科学方法論	2	必修		
人間と情報	2	必修		
発達心理学概論	2	選択	以下の科目から4単位以上選択	
認知心理学概論	2	選択		
教育心理学概論	2	選択		
社会心理学概論	2	選択		
臨床心理学概論	2	選択		
心理統計法	2	選択		
発達心理学の展開	2	選択	以下の科目から4単位以上選択	
認知心理学の展開	2	選択		
教育心理学の展開	2	選択		
社会心理学の展開	2	選択		
臨床心理学の展開	2	選択		
発達心理学演習（基礎）	2	選択		
認知心理学演習（基礎）	2	選択		
教育心理学演習（基礎）	2	選択		
社会心理学演習（基礎）	2	選択		
臨床心理学演習（基礎）	2	選択		
発達心理学特殊講義	2	選択		
認知心理学特殊講義	2	選択		
教育心理学特殊講義	2	選択		
社会心理学特殊講義	2	選択		
臨床心理学特殊講義	2	選択		

舞踊教育学副プログラム		単位数：20		
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
舞踊学概論	2	必修		
表現行動論Ⅰ	2	選択	以下の科目から 6～14単位選択	
表現行動論Ⅱ	2	選択		
舞踊芸術学	2	選択		
民族舞踊学	2	選択		
臨床舞踊論	2	選択		
スポーツ人間学	2	選択		
体育原理	2	選択		
動作学	2	選択		
舞踊・運動科学研究法入門	2	選択		
舞踊芸術学実験演習	2	選択		以下の科目から 0～4単位選択
民族舞踊学実験演習	2	選択		
臨床舞踊論実験演習	2	選択		
スポーツ人間学実験演習	2	選択		
動作学実験演習	2	選択		
スポーツ文化論演習	2	選択		
体育心理学	2	選択	以下の科目から 0～8単位選択	
運動学（運動方法学を含む）	2	選択		
解剖学	2	選択		
生理学（運動生理学を含む）	2	選択		
舞踊学特殊講義	2	選択		
運動科学特殊講義	2	選択		
舞踊教育法実習（初等教育）	1	選択		以下の科目から 0～2単位選択
舞踊教育法実習（中等教育）	1	選択		
民族舞踊実習（基礎）	1	選択		

音楽表現副プログラム		単位数：20		
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
音楽学概論	2	選択	以下の科目から 8～14単位選択	
日本音楽史概論	2	選択		
西洋音楽史Ⅰ	2	選択		
西洋音楽史Ⅱ	2	選択		
音楽学研究法	2	選択		
音楽形式論	2	選択		
民族音楽学	2	選択		
音楽学基礎演習Ⅰ	2	選択	以下の科目から 4～8単位選択	
音楽学基礎演習Ⅱ	2	選択		
音楽学研究演習	4	選択		
音楽学特殊講義Ⅰ	2	選択	以下の科目から 0～4単位選択	
音楽学特殊講義Ⅱ	2	選択		
西洋音楽史特殊講義Ⅰ	2	選択		
西洋音楽史特殊講義Ⅱ	2	選択		
アジア音楽論Ⅰ	2	選択		
アジア音楽論Ⅱ	2	選択		

別表第7 専門教育科目（第6条関係）

学際プログラム

グローバル文化学学際プログラム		単位数：20		
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
グローバル文化学総論	2	選択	以下の科目から 4～8単位選択	
国際関係論	2	選択		
グローバル・メディア論	2	選択		
グローバル化と経済	2	選択		
比較ジェンダー論	2	選択		
比較法文化論	2	選択		
グローバル・ヒストリー	2	選択		
地域研究方法論	2	選択		
文化理論研究	2	選択		
多文化間交流論	2	選択		
言語と文化	2	選択		
国際協力学	2	選択		
文化変動論Ⅰ	2	選択		
文化変動論Ⅱ	2	選択		
イスラム社会文化論Ⅰ	2	選択		
イスラム社会文化論Ⅱ	2	選択		
オセアニア社会文化論Ⅰ	2	選択		
オセアニア社会文化論Ⅱ	2	選択		
対日交流論	2	選択		
中国社会文化論	2	選択		
東アジア社会文化論	2	選択		
南アジア社会文化論	2	選択		
アフリカ社会文化論	2	選択		
地域研究特論	2	選択		
英米事情	2	選択		
文化と人間関係Ⅰ	2	選択		
文化と人間関係Ⅱ	2	選択		
グローバル化と言語教育Ⅰ	2	選択		
グローバル化と言語教育Ⅱ	2	選択		
文化と心理	2	選択		

授業科目	単位数	必修・選択	備考
表現行動論Ⅰ	2	選択	
表現行動論Ⅱ	2	選択	
言語と社会Ⅰ	2	選択	
言語と社会Ⅱ	2	選択	
多文化共生論	2	選択	
国際交流論Ⅰ	2	選択	
国際交流論Ⅱ	2	選択	
多文化交流特論	2	選択	
国際協力方法論Ⅰ	2	選択	
国際協力方法論Ⅱ	2	選択	
平和構築論Ⅰ	2	選択	
平和構築論Ⅱ	2	選択	
国際開発論Ⅰ	2	選択	
国際開発論Ⅱ	2	選択	
グローバル化と労働	2	選択	
国際機構論	2	選択	
国際教育協力論	2	選択	
NGO/NPO論	2	選択	
比較社会政策論	2	選択	
地域開発論	2	選択	
国際金融論	2	選択	
国際協力特論	2	選択	
多文化交流実習Ⅰ	2	選択	
多文化交流実習Ⅱ	2	選択	
多文化交流実習Ⅲ	2	選択	
多文化交流実習Ⅳ	2	選択	
グローバル文化学実習	2	選択	
地域研究実習Ⅰ	2	選択	
地域研究実習Ⅱ	2	選択	
国際協力実習Ⅰ	2	選択	
国際協力実習Ⅱ	2	選択	
国際協力実習Ⅲ	2	選択	
フィールドワーク方法論	2	選択	
グローバル文化学方法論	2	選択	
卒業研究演習	2	選択	

別表第8 専攻科目・関連科目（第6条関係）

芸術・表現行動学科

授業科目	単位数	必修・選択	備考	
<b>舞踊教育学コース</b>				
●専攻科目（必修）				
舞踊芸術学	2	必修	専攻科目（選択） 及び関連科目から 35単位以上 選択	
民族舞踊学	2	必修		
臨床舞踊論	2	必修		
スポーツ人間学	2	必修		
体育原理	2	必修		
動作学	2	必修		
モダンダンス・テクニク（初級）	1	必修		
舞踊創作法実習（舞踊構成法）	1	必修		
舞踊創作法実習（即興創作）	1	必修		
民族舞踊実習（基礎）	1	必修		
舞踊教育法実習（中等教育）	1	必修		
舞踊・運動科学研究法入門	2	必修		
舞踊・運動科学研究法演習	2	必修		
卒業論文	8	必修		
●専攻科目（選択）				
舞踊学概論	2	選択		
表現行動論Ⅰ	2	選択		
表現行動論Ⅱ	2	選択		
モダンダンス・テクニク（中級）Ⅰ	1	選択		
モダンダンス・テクニク（中級）Ⅱ	1	選択		
モダンダンス・テクニク（上級）	1	選択		
舞踊創作法実習（舞踊上演・制作）	2	選択		
舞踊教育法実習（初等教育）	1	選択		
民族舞踊実習（発展）	1	選択		
舞踊上演法実習（初級）	1	選択		
舞踊上演法実習（中級）	1	選択		
舞踊上演法実習（上級）	1	選択		
舞踊表現技法実習	1	選択		
舞踊芸術学実験演習	2	選択		
民族舞踊学実験演習	2	選択		
臨床舞踊論実験演習	2	選択		
スポーツ人間学実験演習	2	選択		
動作学実験演習	2	選択		
スポーツ文化論演習	2	選択		
陸上競技	1	選択		
器械体操	1	選択		
新体操	1	選択		
球技（基礎）	1	選択		
球技（指導法）	1	選択		
球技（教材研究）	1	選択		
水泳実習	1	選択		

授業科目	単位数	必修・選択	備考
スキー実習	1	選択	
日本舞踊実習	1	選択	
バレエ実習	1	選択	
舞踊音楽構成法	1	選択	
運動学 (運動方法学を含む)	2	選択	
解剖学	2	選択	
生理学 (運動生理学を含む)	2	選択	
体育心理学	2	選択	
衛生学及び公衆衛生学	2	選択	
学校保健	2	選択	
病理学	2	選択	
学校安全と救急看護	2	選択	
舞踊学特殊講義	2	選択	
運動科学特殊講義	2	選択	
表現療法講義演習	2	選択	
舞踊・スポーツ情報演習	2	選択	
●関連科目 (選択)			
教育方法学概論	2	選択	
教育社会学概論	2	選択	
文化人類学概論	2	選択	
生涯学習概論	2	選択	
●専攻科目 (選択) 一高大連携科目			
舞踊教育学選択基礎	2	選択	
高大連携科目は、大学との連携を行っている高校の生徒が履修する科目であるため、大学生は履修できない。なお、履修した生徒が本学に入学した場合は、当該科目は別表第1 (第6条関係)「自由に選択して履修する科目・単位」内の「専攻科目 選択」の単位として認定することができる。			
<b>音楽表現コース</b>			
●専攻科目 (必修)			
ソルフェージュ	2	必修	
音楽形式論	2	必修	
ピアノⅠ演習 (伴奏を含む)	4	必修	
声楽Ⅰ演習	4	必修	
作曲原論Ⅰ	2	必修	
作曲原論Ⅱ	2	必修	
西洋音楽史Ⅰ	2	必修	
西洋音楽史Ⅱ	2	必修	
日本音楽史概論	2	必修	
音楽学研究法	2	必修	
音楽学基礎演習Ⅰ	2	必修	
音楽学基礎演習Ⅱ	2	必修	
卒業研究	8	必修	
●専攻科目 (選択)			
ピアノⅡ	4	選択	以下の科目から
ピアノⅢ	4	選択	28単位以上選択
ピアノⅣ	4	選択	
ピアノ研究演習AⅠ	2	選択	
ピアノ研究演習AⅡ	2	選択	
ピアノ研究演習BⅠ	2	選択	
ピアノ研究演習BⅡ	2	選択	
ピアノ研究演習CⅠ	2	選択	
ピアノ研究演習CⅡ	2	選択	
ピアノレパートリー研究AⅠ	2	選択	
ピアノレパートリー研究AⅡ	2	選択	
ピアノレパートリー研究BⅠ	2	選択	
ピアノレパートリー研究BⅡ	2	選択	
ピアノレパートリー研究CⅠ	2	選択	
ピアノレパートリー研究CⅡ	2	選択	
ピアノ特別演習AⅠ	2	選択	
ピアノ特別演習AⅡ	2	選択	
ピアノ特別演習BⅠ	2	選択	
ピアノ特別演習BⅡ	2	選択	
ピアノ特別演習CⅠ	2	選択	
ピアノ特別演習CⅡ	2	選択	
ピアノ演奏法研究AⅠ	2	選択	
ピアノ演奏法研究AⅡ	2	選択	
ピアノ演奏法研究BⅠ	2	選択	
ピアノ演奏法研究BⅡ	2	選択	
ピアノ演奏法研究CⅠ	2	選択	
ピアノ演奏法研究CⅡ	2	選択	
ピアノ合奏研究	2	選択	
室内楽研究	2	選択	
ピアノ指導法研究	2	選択	
声楽Ⅱ	4	選択	
声楽Ⅲ	4	選択	
声楽Ⅳ	4	選択	
声楽特別演習	4	選択	
歌曲研究AⅠ	2	選択	
歌曲研究AⅡ	2	選択	
歌曲研究BⅠ	2	選択	
歌曲研究BⅡ	2	選択	
オペラ研究AⅠ	2	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
オペラ研究AⅡ	2	選択	
オペラ研究AⅢ	2	選択	
オペラ研究AⅣ	2	選択	
オペラ研究BⅠ	2	選択	
オペラ研究BⅡ	2	選択	
オペラ研究BⅢ	2	選択	
オペラ研究BⅣ	2	選択	
演奏身体論AⅠ	2	選択	
演奏身体論AⅡ	2	選択	
演奏身体論BⅠ	2	選択	
演奏身体論BⅡ	2	選択	
演奏身体論CⅠ	2	選択	
演奏身体論CⅡ	2	選択	
声楽指導法研究Ⅰ	2	選択	
声楽指導法研究Ⅱ	2	選択	
音楽学概論	2	選択	
指揮法	2	選択	
作曲Ⅰ	4	選択	
作曲Ⅱ	4	選択	
西洋音楽史特殊講義Ⅰ	2	選択	
西洋音楽史特殊講義Ⅱ	2	選択	
民族音楽学	2	選択	
アジア音楽論Ⅰ	2	選択	
アジア音楽論Ⅱ	2	選択	
音楽学研究演習	4	選択	
音楽学特殊講義Ⅰ	2	選択	
音楽学特殊講義Ⅱ	2	選択	
日本音楽演奏法	2	選択	
合唱演習Ⅰ	2	選択	
合唱演習Ⅱ	2	選択	
合奏演習	2	選択	
卒業演奏研究	2	選択	
卒業論文演習	4	選択	
●専攻科目 (選択) 一高大連携科目			
音楽表現選択基礎	2	選択	
高大連携科目は、大学との連携を行っている高校の生徒が履修する科目であるため、大学生は履修できない。なお、履修した生徒が本学に入学した場合は、当該科目は別表第1 (第6条関係)「自由に選択して履修する科目・単位」内の「専攻科目 選択」の単位として認定することができる。			

別表第9 学部共通科目 (第6条関係)

授業科目	単位数	備考
法学通論	4	
法学概論	2	
政治学通論	4	
政治学概論	2	
経済学通論	4	
経済学概論	2	
社会学通論	4	
社会学概論	2	
ギリシャ語	4	
ラテン語	4	
スペイン語	4	
イタリア語	4	
哲学通論Ⅰ	2	
哲学通論Ⅱ	2	
倫理学通論Ⅰ	2	
倫理学通論Ⅱ	2	
文化交流論	2	
アジア諸語Ⅰ	2	
アジア諸語Ⅱ	2	
アジア諸語Ⅲ	2	
アジア諸語Ⅳ	2	

別表第10 全学共通科目 (第6条関係)

授業科目	単位数	備考
NPO入門	2	
女性リーダーへの道 (入門編)	2	
女性リーダーへの道 (ロールモデル入門編)	2	
女性リーダーへの道 (実践入門編)	2	
キャリアプランとライフプランⅠ	2	
キャリアプランとライフプランⅡ	2	
情報コミュニケーション技術と創発性	2	
働く女性の権利と地位	2	(卒業単位に含めることができない)
共生社会で働く	2	(卒業単位に含めることができない)
グループワークとマネジメント	2	(卒業単位に含めることができない)
キャリアプランニング実習	1	(卒業単位に含めることができない)
インターンシップ	1	(卒業単位に含めることができない)
クリエイティブ・ライティングⅠ	2	
クリエイティブ・ライティングⅡ	2	
クリエイティブ・ライティングⅢ	2	



授業科目	単位数	備考
クリエイティブ・ライティングⅣ	2	
博物館学概論	2	
博物館資料特殊講義	2	
博物館活動特殊講義	2	
博物館実習	3	
初等解析学Ⅰ	2	
初等解析学Ⅱ	2	
初等線形代数	2	
初等代数学	2	
数の歴史	2	
物理学概論A	2	
物理学概論B	2	
基礎化学A	2	
基礎化学B	2	
基礎生物学A	2	
基礎生物学B	2	
宇宙・地球科学	2	
地球環境科学	2	
大気・海洋科学概論	2	
地史・古生物学概論	2	
物理学基礎実験	2	
化学基礎実験	2	
生物学基礎実験	2	
地学基礎実験	2	
数理基礎論	2	
確率序論	2	
コンピュータシステム序論	2	
生命情報学概論	2	
計算生物学	2	
海外交換留学認定科目	2～12	
グローバルCOE人間発達科学論Ⅰ	2	
グローバルCOE人間発達科学論Ⅱ	2	
グローバルCOE人間発達科学論Ⅲ	2	
科学英語Ⅰ	2	
科学英語Ⅱ	2	
物理学サブリメント	2	(卒業単位に含めることができない)
生物学サブリメント	2	(卒業単位に含めることができない)
英語基礎強化ゼミ	2	(卒業単位に含めることができない)
TOEFL対策ゼミR/L	2	(卒業単位に含めることができない)
TOEFL対策ゼミS/W	2	(卒業単位に含めることができない)
企画・運営力養成講座	2	(卒業単位に含めることができない)
理数特別講義演習Ⅰ	1	(卒業単位に含めることができない)
理数特別講義演習Ⅱ	1	(卒業単位に含めることができない)
理数特別講義演習Ⅲ	1	(卒業単位に含めることができない)
理数特別講義演習Ⅳ	1	(卒業単位に含めることができない)
理数特別講義演習Ⅴ	1	(卒業単位に含めることができない)
理数特別講義演習Ⅵ	1	(卒業単位に含めることができない)
理数特別講義演習Ⅶ	1	(卒業単位に含めることができない)
理数特別講義演習Ⅷ	1	(卒業単位に含めることができない)
理数特別講義演習Ⅸ	1	(卒業単位に含めることができない)
理数特別講義演習Ⅹ	1	(卒業単位に含めることができない)
理数特別講義演習ⅩⅠ	1	(卒業単位に含めることができない)
理数特別講義演習ⅩⅡ	1	(卒業単位に含めることができない)
理数特別講義演習ⅩⅢ	1	(卒業単位に含めることができない)
理数特別講義演習ⅩⅣ	1	(卒業単位に含めることができない)
理数特別講義演習ⅩⅤ	1	(卒業単位に含めることができない)

別表第11 人間社会科学科教職科目(第6条関係)

授業科目	単位数	備考
<b>●教職(社会コース(中学校・高等学校))</b>		
日本史概説	2	
日本文化史概論	2	
アジア史概説	2	
西洋史概説	2	
考古学通論Ⅰ	2	
考古学通論Ⅱ	2	
歴史考古学	2	
教育史演習	4	
教育史料分析演習	4	
都市と自然	2	
地誌学	2	
自然地理学	2	
文化地理学	2	
社会地理学	2	
地図学	2	
自然と人間	2	
人間と空間	2	
文化人類学概論	2	
文化人類学特殊講義	2	
民族誌学特殊講義	2	
文化人類学演習	4	
民族誌学演習	4	
法学通論	4	

授業科目	単位数	備考
法学概論	2	
政治学通論	4	
政治学概論	2	
社会学通論	4	
社会学概論	2	
経済学通論	4	
経済学概論	2	
教育行財政学特殊講義	2	
教育政策科学演習	4	
教育行財政学演習	4	
現代生活論	2	
経済地理学	2	
都市地理学	2	
現代社会論	2	
社会政策論Ⅰ	2	
社会調査法	4	
教育社会学特殊講義	2	
教育社会学演習	4	
学校社会学演習	4	
生涯学習概論	2	
哲学通論Ⅰ	2	
哲学通論Ⅱ	2	
倫理学通論Ⅰ	2	
倫理学通論Ⅱ	2	
教育思想演習	4	
教育人間学演習	4	
日本倫理思想史Ⅰ	2	
日本倫理思想史Ⅱ	2	
西洋倫理思想史Ⅰ	2	
西洋倫理思想史Ⅱ	2	
社会心理学概論	2	
認知心理学概論	2	
<b>●教職(社会コース(中学校・高等学校))</b>		
教職に関する科目		
教職概論	2	
教育思想概論	2	
教育史概論	2	
教育心理学概論	2	
発達心理学概論	2	
発達臨床心理学Ⅰ	2	
教育行財政学概論	2	
教育社会学概論	2	
教育課程概論	2	
社会科教育法Ⅰ(地理歴史)	2	
社会科教育法Ⅱ(公民)	2	
公民科教育法	2	
道徳教育の研究	2	
特別活動の研究	2	
教育方法学概論	2	
視覚教育メディア論	2	
臨床心理学概論	2	
学校臨床学	2	
事前・事後指導	1	
教育実習	2	高校は2単位 中学校は4単位
教職実践演習(教諭)	2	
<b>●教職(小学校・幼稚園コース)</b>		
国語科教育論	2	
社会科教育論	2	
算数科教育論	2	
理科教育論	2	
生活科教育論	2	
家庭科教育論	2	
教職ピアノ	1	
教職声楽	1	
教職合唱	1	
教職指揮法	1	
図工科教育論	2	
幼・小体育実技	2	
<b>●教職(小学校・幼稚園コース)</b>		
教職概論	2	
教育思想概論	2	
教育史概論	2	
教育心理学概論	2	
発達心理学概論	2	
発達臨床心理学Ⅰ	2	
教育行財政学概論	2	
教育社会学概論	2	
教育課程概論	2	
小学校教材研究(国語)	2	
小学校教材研究(社会)	2	
小学校教材研究(算数)	2	
小学校教材研究(理科)	2	
小学校教材研究(生活)	2	

授業科目	単位数	備考
小学校教材研究 (音楽)	2	
小学校教材研究 (図工)	2	
小学校教材研究 (家庭)	2	
小学校教材研究 (体育)	2	
道徳教育の研究	2	
特別活動の研究	2	
教育方法学概論	2	
視聴覚教育メディア論	2	
保育課程論	2	
保育学	2	
保育内容の研究 I (言葉)	2	
保育内容の研究 II (人間関係)	2	
保育内容の研究 III (環境)	2	
保育表現 I (指導法)	2	
保育表現 II (指導法)	2	
保育内容・健康	2	
保育指導法 I	2	
保育指導法 II	2	
生徒指導の研究	2	
臨床心理学概論	2	
学校臨床学	2	
幼児理解と教育相談	2	
保育臨床学	2	
事前・事後指導	1	
教育実習	4	
教職実践演習 (教諭)	2	

別表第 12 教職共通科目 (第6条関係)

授業科目	単位数	備考
国語科教育論	2	
社会科教育論	2	
算数科教育論	2	
理科教育論	2	
生活科教育論	2	
家庭科教育論	2	
教職ピアノ	1	
教職声楽	1	
教職合唱	1	
教職指揮法	1	
図工科教育論	2	
幼・小体育実技	2	

別表第 13 教職に関する科目 (第6条関係)

中学校・高等学校

授業科目	単位数	備考
教職概論	2	
教育原論 (思想・歴史)	2	
教育心理	2	
教育原論 (社会・制度)	2	
教育課程論	2	
社会科教育法 I (地理歴史)	2	
社会科教育法 II (公民)	2	
地理歴史科教育法	2	
公民科教育法	2	
国語科教育法 I	2	
国語科教育法 II	2	
中国語科教育法 I	2	
中国語科教育法 II	2	
英語科教育法 I	2	
英語科教育法 II	2	
保健体育科教育法 I	2	
保健体育科教育法 II	2	
音楽科教育法 I	2	
音楽科教育法 II	2	
道徳教育の研究	2	
特別活動の研究	2	
教育方法論	2	
視聴覚教育メディア論	2	
生徒指導の研究	2	
学校カウンセリング	2	
事前・事後指導	1	
教育実習	高校は 2 単位 中学校は 4 単位	
教職実践演習 (教諭)	2	

小学校・幼稚園

教職概論	2	
教育原論 (思想・歴史)	2	
教育心理	2	
教育原論 (社会・制度)	2	
教育課程論	2	小学校希望者
小学校教材研究 (国語)	2	〃

授業科目	単位数	備考
小学校教材研究 (社会)	2	〃
小学校教材研究 (算数)	2	〃
小学校教材研究 (理科)	2	〃
小学校教材研究 (生活)	2	〃
小学校教材研究 (音楽)	2	〃
小学校教材研究 (図工)	2	〃
小学校教材研究 (家庭)	2	〃
小学校教材研究 (体育)	2	〃
道徳教育の研究	2	〃
特別活動の研究	2	〃
教育方法論	2	〃
保育課程論	2	幼稚園希望者
保育内容の研究 I (言葉)	2	〃
保育内容の研究 II (人間関係)	2	〃
保育内容の研究 III (環境)	2	〃
保育表現 I (指導法)	2	〃
保育表現 II (指導法)	2	〃
保育内容・健康	2	〃
保育指導法 I	2	〃
保育指導法 II	2	〃
視聴覚教育メディア論	2	〃
生徒指導の研究	2	小学校希望者
学校カウンセリング	2	〃
幼児理解と教育相談	2	幼稚園希望者
事前・事後指導	1	
教育実習	4	
教職実践演習 (教諭)	2	

別表第 14 外国人留学生特別科目 (第6条関係)

授業科目	単位数	備考
日本語演習 I A	2	
日本語演習 I B	2	
日本語演習 II A	2	
日本語演習 II B	2	
日本語演習 III A	2	
日本語演習 III B	2	
日本語演習 IV A	2	
日本語演習 IV B	2	
日本語演習 V A	2	
日本語演習 V B	2	
日本事情演習 I A	2	
日本事情演習 I B	2	
日本事情演習 II A	2	
日本事情演習 II B	2	
日本事情演習 III A	2	
日本事情演習 III B	2	
日本事情演習 IV A	2	
日本事情演習 IV B	2	
日本事情演習 V A	2	
日本事情演習 V B	2	

## (趣旨)

第1条 国立大学法人お茶の水女子大学理学部の教育課程及び履修方法については、国立大学法人お茶の水女子大学学則、国立大学法人お茶の水女子大学複数プログラム選択履修制度実施規則又はこれに基づく別段の定めによるほか、この規程の定めるところによる。

## (授業科目の区分)

第2条 授業科目は、コア科目、専門教育科目、専攻科目、関連科目、全学共通科目、教職に関する科目及び外国人留学生特別科目とする。

- 2 コア科目は、文理融合リベラルアーツ、基礎講義、情報、外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語及び朝鮮語）及びスポーツ健康とする。
- 3 専門教育科目は、主プログラム、強化プログラム、副プログラム及び学際プログラムを構成する科目とする。
- 4 専攻科目は、各学科において設置する科目とする。
- 5 関連科目は、各学科の基礎となる科目又はきわめて関連の深い科目であって選択として指定する。
- 6 全学で共通して履修できる科目として、全学共通科目を置く。
- 7 教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める教職に関する科目を置く。
- 8 外国人留学生に対して、外国人留学生特別科目を置く。

## (他学部の授業科目の履修)

第3条 文教育学部及び生活科学部の授業科目は、これを履修することができる。

## (単位の計算方法)

第4条 各授業科目の単位数の計算方法は、1単位が45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

- 一 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
  - 二 演習については、15時間の授業をもって1単位とする。
  - 三 実験及び実習については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、教育実習については、別に定める。
- 2 前項の規定にかかわらず、特別研究又はこれに準ずる授業科目については、別に定める。

## (卒業要件)

第5条 卒業するためには、別表第1に定めるところにより、124単位以上を修得しなければならない。

- 2 各学科において履修すべき授業科目及び単位数は、別表第3から別表第7までに定めるところとする。
- 3 関連科目の授業科目及び単位数は、別表第8に定めるところとする。
- 4 全学共通科目の授業科目及び単位数は、別表第9に定めるところとする。
- 5 教職に関する科目の授業科目及び単位数は、別表第10に定めるところとする。また、単位の取扱いについては、別表第1備考9のとおりとする。
- 6 外国人留学生特別科目の授業科目及び単位数は、別表第11に定めるところとする。また、単位の取扱いについては、別表第1備考10のとおりとする。

## (履修手続)

第6条 学生は、履修しようとする授業科目を所定の期日までに指定する方法により申請し、担当教員の許可を得なければならない。

- 2 学生が前項により履修申請した授業科目の履修を取消すには、所定の期日までに指定する方法により履修取消し手続を行い、担当教員の許可を得なければならない。
- 3 学生が授業科目について聴講のみを希望する場合は、担当教員の許可を得なければならない。

## (単位の授与)

第7条 授業科目を履修した者については、試験（論文、報告等を含む。以下同じ。）により学修の成果を評価して、所定の単位を与える。

- 2 試験は、原則として学年末又は学期末に行うこととする。ただし、病気その他正当な理由で試験を受けることができなかった者は、別に定める手続により追試験を受けることができる。

## (成績の評価)

第8条 成績の評価は、原則として試験、平常の成績及び出席状況を総合して決定する。

- 2 成績の評価は、「S」（基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている）、「A」（基本的な目標を十分に達成している）、「B」（基本的な目標を達成している）、「C」（基本的な目標を最低限度達成している）、「D」（基本的な目標を達成していない。再履修が必要である）の5種類の評語をもって表し、「S」、「A」、「B」及び「C」を合格とし、「D」を不合格とする。
- 3 前項の成績の評価又は科目の原成績（素点）に基づき、成績の数値平均 Grade Point Average（以下「GPA」という。）を算出するものとする。GPAに関し必要な事項は別に定める。

## (細則)

第9条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項については、理学部教授会が定める。

## 附 則

- 1 この規程は、平成16年4月1日から施行し、平成16年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

## 附 則

- 1 この規程は、平成17年4月1日から施行し、平成17年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

## 附 則

- 1 この規程は、平成18年4月1日から施行し、平成18年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

## 附 則

- 1 この規程は、平成19年4月1日から施行し、改正後の別表第2から別表第6までの規定は、平成19年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成 19 年 10 月 24 日から施行し、平成 19 年 10 月 1 日から適用する。

附 則

- 1 この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行し、平成 20 年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行し、平成 21 年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、平成 22 年 4 月 1 日から施行し、平成 22 年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、平成 23 年 4 月 1 日から施行し、平成 23 年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

別表第 1 (第 5 条関係)

学科別	科目区分	必修及び選択必修の科目・単位								自由に選択して履修する科目・単位							卒業に必要な履修単位数		
		コア科目				専門教育科目(必修プログラム)				コア科目	専攻科目	他学科の専攻科目	関連科目	他学科の科目	全学共通科目	教職に関する科目		必修以外の選択プログラム	
		文理融合リベラルアーツ	基礎講義	情報	外国語	スポーツ健康	主プログラム	強化プログラム	副プログラム										学際プログラム
数	学 科	30				60				20		14							124
物	理 学 科	30				60				20		14							124
化	学 科	30				60				20		14							124
生	物 学 科	30				60				20		14							124
情	報 科 学 科	30				60				20		14							124

- 備考
- 1 情報処理演習(情報)2単位は、必修とする。
  - 2 外国語は、一の外国語について8単位を必修とする。コア科目の必修単位のうち、外国語での単位は12単位までとする。
  - 3 スポーツ健康は、スポーツ健康実習2単位を必修とし、その履修方法は別に定める。
  - 4 主プログラムは、所属学科から選択すること。
  - 5 強化プログラム・副プログラム・学際プログラムは、所属学部からのプログラムから一つを選択すること。
  - 6 強化プログラムは、同一名の主プログラムを選択していることが履修要件となる。
  - 7 選択している主プログラムと同領域の副プログラムを選択することはできない。
  - 8 必修以外の選択プログラムは、別表第2の所属学科が指定するプログラム選択一覧に従い、副プログラム、学際プログラムから選択すること。
  - 9 教職に関する科目(教職概論、教育実習及び教職実践演習は除く。)の単位については、6単位までを自由に選択して履修する科目・単位として取り扱う。
  - 10 外国人留学生特別科目(外国人留学生対象)の単位については、16単位までをコア科目として取り扱う。

別表第2 (第5条関係)

【(理) 二つ目の選択プログラム】(別表第1 備考5関係)

所属学科	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」								
	数 学 (副)	物 理 学 (副)	化 学 (副)	生 物 学 (副)	情報科学 (副)	応用数理 (学際)	物 理・化学 (学際)	ケミカルバイオロジー (学際)	生 命 情報学 (学際)
数 学 科	○	○	×	×	○	○	×	×	○
物 理 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○
化 学 科	×	○	○	○	×	×	○	○	○
生 物 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○
情 報 科 学 科	○	○	×	×	○	○	×	×	○

【(理) 三つ目の選択プログラム(文・プログラム)】(別表第1 備考8関係)

所属学科	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」														
	哲 学・倫理学・美術史 (副)	比 較 歴史学 (副)	地 理 環境学 (副)	日本語・日本文学 (副)	中国語圏言語文化 (副)	英語圏言語文化 (副)	仏語圏言語文化 (副)	日本語教育 (副)	社会学 (副)	教育科学 (副)	心理学 (副A) 人間社会科学科対象	心理学 (副B) 人間社会科学科以外対象	舞 踊 教育学 (副)	音楽表現 (副)	グローバル文化学 (学際)
数 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
物 理 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
化 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生 物 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
情 報 科 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【(理) 三つ目の選択プログラム(理・プログラム)】(別表第1 備考8関係)

所属学科	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」								
	数 学 (副)	物 理 学 (副)	化 学 (副)	生 物 学 (副)	情報科学 (副)	応用数理 (学際)	物 理・化学 (学際)	ケミカルバイオロジー (学際)	生 命 情報学 (学際)
数 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○
物 理 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○
化 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生 物 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○
情 報 科 学 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【(理) 三つ目の選択プログラム(生・プログラム)】(別表第1 備考8関係)

所属学科	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」					
	人 間・環境科学 (副)	発達臨床心理学 (副)	公 共 政策論 (副)	ジェンダー論 (副)	生 活 文化学 (副)	消費者学 (学際)
数 学 科	○	○	○	○	○	○
物 理 学 科	○	○	○	○	○	○
化 学 科	○	○	○	○	○	○
生 物 学 科	○	○	○	○	○	○
情 報 科 学 科	○	○	○	○	○	○

別表第3 コア科目 (第6条関係)

授業科目	単位数	備考 (ローマ数字は、標準履修年次を示す。)
<b>文理融合リベラルアーツ</b>		
<b>系列1 生命と環境</b> (講義)		
生命と環境 1	2	(生物学科は履修できない)
生命と環境 2	2	
生命と環境 3	2	
生命と環境 4	2	
生命と環境 5	2	
生命と環境 6	2	
生命と環境 7	2	
生命と環境 8	2	
生命と環境 9	2	
生命と環境 10	2	
(演習・実習・実験)		
生命と環境 21	2	
生命と環境 22	2	
生命と環境 23	2	
生命と環境 24	2	
生命と環境 25	2	
生命と環境 26	2	
<b>系列2 色・音・香</b> (講義)		
色・音・香 1	2	
色・音・香 2	2	
色・音・香 3	2	
色・音・香 4	2	
色・音・香 5	2	
色・音・香 6	2	
色・音・香 7	2	
色・音・香 8	2	
色・音・香 9	2	

授業科目	単位数	備考 (ローマ数字は、標準履修年次を示す。)
色・音・香 10 (演習・実習・実験)	2	
色・音・香 21	2	
色・音・香 22	2	
色・音・香 23	2	
色・音・香 24	2	
<b>系列3 生活世界の安全保障</b> (講義)		
生活世界の安全保障 1	2	
生活世界の安全保障 2	2	
生活世界の安全保障 3	2	
生活世界の安全保障 4	2	
生活世界の安全保障 5	2	
生活世界の安全保障 6	2	
生活世界の安全保障 7	2	
生活世界の安全保障 8	2	
生活世界の安全保障 9	2	
生活世界の安全保障 10	2	
(演習・実習・実験)		
生活世界の安全保障 21	2	
生活世界の安全保障 22	2	
生活世界の安全保障 23	2	
生活世界の安全保障 24	2	
生活世界の安全保障 25	2	
<b>系列4 ことばと世界</b> (講義)		
ことばと世界 1	2	
ことばと世界 2	2	
ことばと世界 3	2	
ことばと世界 4	2	
ことばと世界 5	2	
ことばと世界 6	2	

授業科目	単位数	備考(ローマ数字は、標準履修年次を示す。)
ことばと世界 7	2	
ことばと世界 8	2	
ことばと世界 9	2	
ことばと世界 10	2	
ことばと世界 11	2	
ことばと世界 12	2	
(演習・実習・実験)		
ことばと世界 21	2	
ことばと世界 22	2	
ことばと世界 23	2	
ことばと世界 24	2	
ことばと世界 25	2	
ことばと世界 26	2	
ことばと世界 27	2	
<b>系列5 ジェンダー</b>		
(講義)		
ジェンダー 1	2	
ジェンダー 2	2	
ジェンダー 3	2	
ジェンダー 4	2	
ジェンダー 5	2	
ジェンダー 6	2	
ジェンダー 7	2	
ジェンダー 8	2	
ジェンダー 9	2	
(演習・実習・実験)		
ジェンダー 21	2	
ジェンダー 22	2	
ジェンダー 23	2	
ジェンダー 24	2	
<b>基礎講義</b>		
哲学	2	
現代心理学	2	
法学Ⅰ(日本国憲法)	2	
法学Ⅱ(法学入門)	2	
法と文学	2	
政治学入門	2	
ミクロ経済学入門	2	
マクロ経済学入門	2	
基礎微積分学	2	(数学科、情報科学科は履修できない)
基礎線形代数学	2	(数学科、情報科学科は履修できない)
統計学	2	
一般物理学実験	2	(物理学科は履修できない)
一般化学実験	2	(化学科は履修できない)
安全管理概論	2	
総合コース	2~4	
お茶の水女子大学論	2	(I)
<b>情報(必修)</b>		
情報処理演習	2	
<b>情報(選択)</b>		
メディアリテラシ	2	
情報科学	2	
情報処理学	2	
プログラミング演習1	2	
プログラミング演習2	2	
コンピュータ演習1	2	
コンピュータ演習2	2	
情報学演習1	2	
情報学演習2	2	
<b>外国語(必修)</b>	<b>8</b>	*:必修単位に充てることができる基本科目。英語を選択した場合、残り2単位は、数学科:数学英語、物理学科:物理英語、化学科:化学英語、生物学科:生物学外書講読、情報科学科:英文講読で満たすこと。
<b>英語</b>		
*基礎英語Ⅰ	2	(I)
*基礎英語Ⅱ	2	(I)
*中級英語	2	(II)
総合英語	2	(II)
英会話Ⅰ	2	(I)
英会話Ⅱ	2	(I)
英会話Ⅲ	2	(II~IV)
英会話Ⅳ	2	(II~IV)
上級英語Ⅰ	2	(III~IV)
上級英語Ⅱ	2	(III~IV)
ビジネス英語Ⅰ	2	(II~IV)
ビジネス英語Ⅱ	2	(II~IV)
時事英語Ⅰ	2	(II~IV)
時事英語Ⅱ	2	(II~IV)
英語プレゼンテーションⅠ	2	(II~IV)
英語プレゼンテーションⅡ	2	(II~IV)

授業科目	単位数	備考(ローマ数字は、標準履修年次を示す。)
<b>ドイツ語</b>		
*基礎ドイツ語(文法)Ⅰ	2	(I)
*基礎ドイツ語(文法)Ⅱ	2	(I)
*基礎ドイツ語(演習)Ⅰ	2	(I)
*基礎ドイツ語(演習)Ⅱ	2	(I)
基礎ドイツ語(応用)Ⅰ	2	(I)
基礎ドイツ語(応用)Ⅱ	2	(I)
発展ドイツ語Ⅰ	2	(II)
発展ドイツ語Ⅱ	2	(II)
基礎ドイツ語会話Ⅰ	2	(I~IV)
基礎ドイツ語会話Ⅱ	2	(I~IV)
ドイツ語初歩Ⅰ	2	(I~IV)
ドイツ語初歩Ⅱ	2	(I~IV)
<b>フランス語</b>		
*基礎フランス語(文法)Ⅰ	2	(I)
*基礎フランス語(文法)Ⅱ	2	(I)
*基礎フランス語(演習)Ⅰ	2	(I)
*基礎フランス語(演習)Ⅱ	2	(I)
基礎フランス語(応用)Ⅰ	2	(I)
基礎フランス語(応用)Ⅱ	2	(I)
発展フランス語Ⅰ	2	(II)
発展フランス語Ⅱ	2	(II)
発展フランス語Ⅲ	2	(II)
発展フランス語Ⅳ	2	(II)
基礎フランス語会話Ⅰ	2	(I~IV)
基礎フランス語会話Ⅱ	2	(I~IV)
フランス語初歩Ⅰ	2	(I~IV)
フランス語初歩Ⅱ	2	(I~IV)
<b>中国語</b>		
*基礎中国語(文法)Ⅰ	2	(I)
*基礎中国語(文法)Ⅱ	2	(I)
*基礎中国語(演習)Ⅰ	2	(I)
*基礎中国語(演習)Ⅱ	2	(I)
基礎中国語(応用)Ⅰ	2	(I)
基礎中国語(応用)Ⅱ	2	(I)
発展中国語Ⅰ	2	(II)
発展中国語Ⅱ	2	(II)
発展中国語Ⅲ	2	(II)
発展中国語Ⅳ	2	(II)
基礎中国語会話Ⅰ	2	(II~IV)
基礎中国語会話Ⅱ	2	(II~IV)
中国語初歩Ⅰ	2	(I~IV)
中国語初歩Ⅱ	2	(I~IV)
<b>ロシア語</b>		
ロシア語初歩Ⅰ	2	(I~IV)
ロシア語初歩Ⅱ	2	(I~IV)
ロシア語会話Ⅰ	2	(I~IV)
ロシア語会話Ⅱ	2	(I~IV)
<b>朝鮮語</b>		
朝鮮語初歩Ⅰ	2	(I~IV)
朝鮮語初歩Ⅱ	2	(I~IV)
朝鮮語会話Ⅰ	2	(I~IV)
朝鮮語会話Ⅱ	2	(I~IV)
<b>スポーツ健康(必修)</b>		
スポーツ健康実習	2	(I)
<b>スポーツ健康(選択)</b>		
スポーツ科学概論	2	(I~IV)
健康科学概論	2	(I~IV)
生涯スポーツ	1~3	(I~IV)

別表第4 専門教育科目(第5条関係)

主プログラム

数学主プログラム		単位数:60	
授業科目	単位数	必修・選択	備考
線形代数学Ⅰ	2	必修	
線形代数学Ⅱ	2	必修	
線形代数学Ⅲ	2	必修	
線形代数学演習Ⅰ	2	必修	
線形代数学演習Ⅱ	2	必修	
微積分学Ⅰ	2	必修	
微積分学Ⅱ	2	必修	
微積分学Ⅲ	2	必修	
微積分学演習Ⅰ	2	必修	
微積分学演習Ⅱ	2	必修	
微積分学演習Ⅲ	2	必修	
ベクトル解析	2	必修	
位相空間論	2	必修	
位相空間論演習	2	必修	
代数学Ⅰ	2	必修	
代数学Ⅱ	2	必修	
代数学演習	2	必修	
関数論	2	必修	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
関数論演習	2	必修	
数学講究	8	必修	
数学演習 X V	2	選択	
多様体論	2	選択	
積分論	2	選択	
代数学Ⅲ	2	選択	
微分方程式論	2	選択	
初等代数学	2	選択	
数の歴史	2	選択	
確率序論	2	選択	
数学選択基礎	2	選択	

物理学主プログラム			
			単位数：60
授業科目	単位数	必修・選択	備考
古典力学	2	必修	
解析力学	2	必修	
電磁気学Ⅰ	2	必修	
電磁気学Ⅱ	2	必修	
物理数学Ⅰ	2	必修	
物理数学Ⅱ	2	必修	
数理物理学	2	必修	
力学系理論	2	必修	
熱力学	2	必修	
統計力学	2	必修	
量子力学Ⅰ	2	必修	
量子力学Ⅱ	2	必修	
量子力学Ⅲ	2	必修	
力学演習	2	必修	
電磁気学演習	2	必修	
物理数学演習	2	必修	
量子力学演習	2	必修	
統計力学演習	2	必修	
基礎物理学実験	2	必修	
物理学実験	4	必修	
特別研究	12	必修	
* 物理英語	2	選択	* 印はコア科目
初等解析学Ⅰ	2	選択	外国語（必修）
初等解析学Ⅱ	2	選択	英語に充てること
初等線形代数学	2	選択	ことができる
宇宙・地球科学	2	選択	
地球環境科学	2	選択	
大気・海洋科学概論	2	選択	
地史・古生物学概論	2	選択	
化学基礎実験	2	選択	
生物学基礎実験	2	選択	
地学基礎実験	2	選択	
物理学選択基礎	2	選択	

化学主プログラム			
			単位数：60
授業科目	単位数	必修・選択	備考
物理化学Ⅰ	2	必修	
物理化学Ⅱ	2	必修	
物理化学Ⅲ	2	必修	
無機化学Ⅰ	2	必修	
無機化学Ⅱ	2	必修	
有機化学Ⅰ	2	必修	
有機化学Ⅱ	2	必修	
分析化学Ⅰ	2	必修	
生物化学Ⅰ	2	必修	
生物化学Ⅱ	2	必修	
基本化学実験Ⅰ	2	必修	
基本化学実験Ⅱ	2	必修	
基本化学実験Ⅲ	2	必修	
基本化学実験Ⅳ	2	必修	
専門化学実験Ⅰ	6	必修	
専門化学実験Ⅱ	4	必修	
化学演習Ⅰ	2	必修	
化学演習Ⅱ	2	必修	
特別研究Ⅰ	4	必修	
特別研究Ⅱ	8	必修	
化学特別ゼミⅠ	2	選択	
化学特別ゼミⅡ	2	選択	
* 化学英語	2	選択	* 印はコア科目
基礎化学A	2	選択	外国語（必修）
基礎化学B	2	選択	英語に充てること
物理学概論A	2	選択	ことができる
物理学概論B	2	選択	
基礎生物学A	2	選択	
基礎生物学B	2	選択	
生物学基礎実験	2	選択	
物理学基礎実験	2	選択	
化学選択基礎	2	選択	

生物学主プログラム			
			単位数：60
授業科目	単位数	必修・選択	備考
生化学	2	必修	
生物物理学	2	必修	
動物系統学	2	必修	
植物系統学	2	必修	
動物生理学	2	必修	
植物生理学	2	必修	
代謝生物学	2	必修	
基礎遺伝学	2	必修	
分子遺伝学	2	必修	
細胞生物学	2	必修	
発生生物学	2	必修	
進化生物学	2	必修	
生物統計学	2	必修	
生物学実習Ⅰ	2	必修	
生物学実習Ⅱ	2	必修	
生物学演習Ⅰ	2	必修	
生物学演習Ⅱ	2	必修	
特別研究Ⅰ	6	必修	
特別研究Ⅱ	6	必修	
基礎遺伝学実習	1	選択	以下の科目から
分子遺伝学実習	1	選択	8単位以上選択
細胞生物学実習	1	選択	
細胞生化学実習	1	選択	
代謝生物学実習	1	選択	
植物生理学実習	1	選択	
動物生理学実習	1	選択	
発生生物学実習	1	選択	
植物系統学実習	1	選択	
動物系統学臨海実習	1	選択	
動物生理学臨海実習	1	選択	
植物系統学臨海実習	1	選択	
生物学選択基礎	2	選択	* 印はコア科目
植物生態学	2	選択	外国語（必修）
動物生態学	2	選択	英語に充てること
* 生物学外書講読	2	選択	ことができる

情報科学主プログラム			
			単位数：60
授業科目	単位数	必修・選択	備考
線形代数学Ⅰ	2	必修	
線形代数学Ⅱ	2	必修	
微分積分学Ⅰ	2	必修	
微分積分学Ⅱ	2	必修	
数理基礎論	2	必修	
コンピュータシステム序論	2	必修	
データ構造とアルゴリズム	2	必修	
コンピュータ基礎演習	2	必修	
プログラミング実習	2	必修	
確率序論	2	必修	
離散数学	2	必修	
システムプログラミング実習	2	必修	
コンピュータアーキテクチャⅠ	2	必修	
コンピュータアーキテクチャⅡ	2	必修	
コンピュータネットワークⅠ	2	必修	
マルチメディア	2	必修	
マルチメディアプログラミング実習	2	必修	
特別研究	6	必修	
線形代数学Ⅲ	2	選択	
微分積分学Ⅲ	2	選択	
初等代数学	2	選択	
線形代数学演習Ⅰ	2	選択	
線形代数学演習Ⅱ	2	選択	
微分積分学演習Ⅰ	2	選択	
微分積分学演習Ⅱ	2	選択	
微分積分学演習Ⅲ	2	選択	
グラフ理論	2	選択	
関数型言語	2	選択	
計算機代数演習	2	選択	
位相空間論	2	選択	
情報理論	2	選択	
物理学概論A	2	選択	* 印はコア科目
物理学概論B	2	選択	外国語（必修）
* 英文講読	2	選択	英語に充てること
情報科学選択基礎	2	選択	ことができる

別表第5 専門教育科目（第5条関係）

強化プログラム

数学強化プログラム			
			単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考
数理解析序論	2	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
*数学英語	2	選択	*印はコア科目
関数解析	2	選択	外国語(必修)
微分幾何学	2	選択	英語に充てるこ
位相幾何学	2	選択	とができる
ガロア理論	2	選択	
フーリエ解析とラプラス変換	2	選択	
関数論総論	2	選択	
確率論	2	選択	
計算基礎論	2	選択	
数理経済学	2	選択	
数理統計学	2	選択	
コンピュータシステム序論	2	選択	
応用数学 I	2	選択	
応用数学 II	2	選択	
応用数学 III	2	選択	
応用数学 IV	2	選択	
応用数学 V	2	選択	
数理構造特別講義 I	2	選択	
数理構造特別講義 II	2	選択	
数理構造特別講義 III	2	選択	
数理構造特別講義 IV	2	選択	
数理構造特別講義 V	2	選択	
数理構造特別講義 VI	2	選択	
数理構造特別講義 VII	2	選択	
数理構造特別講義 VIII	2	選択	
数理構造特別講義 IX	2	選択	
数理構造特別講義 X	2	選択	
数理解析特別講義 I	2	選択	
数理解析特別講義 II	2	選択	
数理解析特別講義 III	2	選択	
数理解析特別講義 IV	2	選択	
数理解析特別講義 V	2	選択	
数理解析特別講義 VI	2	選択	
数理解析特別講義 VII	2	選択	
数理解析特別講義 VIII	2	選択	
数理解析特別講義 IX	2	選択	
数理解析特別講義 X	2	選択	
数学演習 I	2	選択	
数学演習 II	2	選択	
数学演習 III	2	選択	
数学演習 IV	2	選択	
数学演習 V	2	選択	
数学演習 VI	2	選択	
数学演習 VII	2	選択	
数学演習 VIII	2	選択	
数学演習 IX	2	選択	
数学演習 X	2	選択	
数学演習 X I	2	選択	
数学演習 X II	2	選択	
数学演習 X III	2	選択	
数学演習 X IV	2	選択	
数理道遠 I	2	選択	
数理道遠 II	2	選択	
数理道遠 III	2	選択	
数理道遠 IV	2	選択	
数理道遠 V	2	選択	
数理道遠 VI	2	選択	
数理道遠 VII	2	選択	
数理道遠 VIII	2	選択	
数理道遠 IX	2	選択	
数理道遠 X	2	選択	
数学輪講 I	2	選択	
数学輪講 II	2	選択	
数学輪講 III	2	選択	
代数学特別講義 I	2	選択	
代数学特別講義 II	2	選択	
代数学特別講義 III	2	選択	
代数学特別講義 IV	2	選択	
代数学特別講義 V	2	選択	
幾何学特別講義 I	2	選択	
幾何学特別講義 II	2	選択	
幾何学特別講義 III	2	選択	
幾何学特別講義 IV	2	選択	
幾何学特別講義 V	2	選択	
解析学特別講義 I	2	選択	
解析学特別講義 II	2	選択	
解析学特別講義 III	2	選択	
解析学特別講義 IV	2	選択	
解析学特別講義 V	2	選択	

物理学強化プログラム			単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考
固体電子論	2	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
相転移物理学	2	選択	
凝縮系物理学	2	選択	
原子核物理学	2	選択	
素粒子物理学	2	選択	
物性物理学序論	2	選択	
相対論	2	選択	
宇宙物理学	2	選択	
連続体物理学	2	選択	
流体物理学	2	選択	
物理実験学	2	選択	
基礎エレクトロニクス	2	選択	
量子光学	2	選択	
ソフトマター物理	2	選択	
場の量子論	2	選択	
計算物理学講義・演習	4	選択	
物理学基礎研究	2	選択	
物理学特別講義 I	2	選択	
物理学特別講義 II	2	選択	
物理学特別講義 III	2	選択	
物理学特別講義 IV	2	選択	
物理学特別講義 V	2	選択	
物理学特別講義 VI	2	選択	
物理学特別講義 VII	2	選択	
物理学特別講義 VIII	2	選択	
物理学特別講義 IX	2	選択	
物理学特別講義 X	2	選択	
物理学特別講義 X I	2	選択	
物理学特別講義 X II	2	選択	
物理学特別講義 X III	2	選択	
物理学特別講義 X IV	2	選択	
物理学特別講義 X V	2	選択	
物理学特別講義 X VI	2	選択	
物理学特別講義 X VII	2	選択	
物理学特別講義 X VIII	2	選択	
物理学特別講義 X IX	2	選択	
物理学特別講義 X X	2	選択	

化学強化プログラム			単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考
有機化学 III	2	必修	
分析化学 II	2	必修	
分子分光法	2	必修	
無機化学 III	2	選択	
生体分子機能・反応学	2	選択	
物理化学 IV	2	選択	
有機化学 IV	2	選択	
分子生命科学	2	選択	
量子化学	2	選択	
計算化学	2	選択	
反応物理化学	2	選択	
高分子化学	2	選択	
実験値解析法	2	選択	
放射化学	2	選択	
生物物理化学	2	選択	
物理化学特別講義 I	2	選択	
物理化学特別講義 II	2	選択	
物理化学特別講義 III	2	選択	
無機化学特別講義 I	2	選択	
無機化学特別講義 II	2	選択	
無機化学特別講義 III	2	選択	
分析化学特別講義 I	2	選択	
分析化学特別講義 II	2	選択	
分析化学特別講義 III	2	選択	
有機化学特別講義 I	2	選択	
有機化学特別講義 II	2	選択	
有機化学特別講義 III	2	選択	
生物化学特別講義 I	2	選択	
生物化学特別講義 II	2	選択	
生物化学特別講義 III	2	選択	
化学特別講義 I	1	選択	
化学特別講義 II	1	選択	
化学特別講義 III	1	選択	
化学特別講義 IV	1	選択	
化学特別講義 V	1	選択	
化学特別講義 VI	1	選択	
化学特別講義 VII	1	選択	
化学特別講義 VIII	1	選択	

生物学強化プログラム			単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考
細胞生化学	2	選択	
分子細胞情報学	2	選択	



授業科目	単位数	必修・選択	備考
生物系統地理学	2	選択	
進化遺伝学	2	選択	
発生遺伝学	2	選択	
バイオメカニクス	2	選択	
植物生理学	2	選択	
遺伝子工学	2	選択	
植物機能制御学	2	選択	
動物環境応答学	2	選択	
分子構造生物学	2	選択	
免疫学	2	選択	
生命情報プログラミング演習	1	選択	
分析・光学機器実習	1	選択	
発生物理学臨海実習	1	選択	
公開臨海実習	1	選択	
生物学特別講義 I	2	選択	
生物学特別講義 II	2	選択	
生物学特別講義 III	2	選択	
生物学特別講義 IV	2	選択	
生物学特別講義 V	2	選択	
生物学特別講義 VI	2	選択	
生物学特別講義 VII	2	選択	
生物学特別講義 VIII	2	選択	
生物学特別講義 IX	2	選択	
生物学特別講義 X	2	選択	
生物学特別講義 XI	2	選択	
生物学特別講義 XII	2	選択	
生物学特別講義 XIII	2	選択	
生物学特別講義 XIV	2	選択	
生物学特別講義 XV	2	選択	
生物学特別講義 XVI	2	選択	
生物学特別講義 XVII	2	選択	
生物学特別講義 XVIII	2	選択	
生物学特別講義 XIX	2	選択	
生物学特別講義 XX	2	選択	
生物学特殊講義 I	1	選択	
生物学特殊講義 II	1	選択	
生物学特殊講義 III	1	選択	
生物学特殊講義 IV	1	選択	
生物学特殊講義 V	1	選択	
生物学特殊講義 VI	1	選択	
生物学特殊講義 VII	1	選択	
生物学特殊講義 VIII	1	選択	
生物学特殊講義 IX	1	選択	
生物学特殊講義 X	1	選択	
生物学特殊講義 XI	1	選択	
生物学特殊講義 XII	1	選択	
生物学特殊講義 XIII	1	選択	
生物学特殊講義 XIV	1	選択	
生物学特殊講義 XV	1	選択	
生物学特殊講義 XVI	1	選択	
生物学特殊講義 XVII	1	選択	
生物学特殊講義 XVIII	1	選択	
生物学特殊講義 XIX	1	選択	
生物学特殊講義 XX	1	選択	

情報科学強化プログラム		単位数：20	
授業科目	単位数	必修・選択	備考
情報科学集中演習	2	選択	
関数論	2	選択	
数値計算	2	選択	
数値計算演習	2	選択	
言語理論とオートマトン	2	選択	
計算基礎論	2	選択	
情報解析学	2	選択	
組み合わせ論	2	選択	
暗号と符号	2	選択	
フーリエ解析とラプラス変換	2	選択	
微分方程式論	2	選択	
数理統計学	2	選択	
情報倫理	2	選択	
情報と職業	2	選択	
計算モデル論	2	選択	
コンパイラ構成論	2	選択	
形式言語論	2	選択	
人工知能論	2	選択	
自然言語論	2	選択	
バイオインフォマティクス	2	選択	
データベースシステム	2	選択	
データベース設計論	2	選択	
コンピュータグラフィックス	2	選択	
コンピュータビジョン	2	選択	
コンピュータネットワーク II	2	選択	
ヒューマンインターフェイス	2	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
ソフトウェア工学	2	選択	
環境情報論	2	選択	
シミュレーション科学	2	選択	
情報科学特別講義 I	2	選択	
情報科学特別講義 II	2	選択	
情報科学特別講義 III	2	選択	
情報科学特別講義 IV	2	選択	
情報科学特別講義 V	2	選択	
情報科学演習 I	2	選択	
情報科学演習 II	2	選択	
情報科学演習 III	2	選択	
情報科学演習 IV	2	選択	
情報科学演習 V	2	選択	

別表第6 専門教育科目(第5条関係)

副プログラム

数学副プログラム		単位数：20	
授業科目	単位数	必修・選択	備考
初等代数学	2	選択	
数学演習 X V	2	選択	
線形代数学 III	2	選択	(情報科学科は本プログラムとしては履修できない)
微分積分学 III	2	選択	(情報科学科は本プログラムとしては履修できない)
微積分学演習 III	2	選択	(情報科学科は本プログラムとしては履修できない)
位相空間論	2	選択	
位相空間論演習	2	選択	
関数論	2	選択	
関数論演習	2	選択	
積分論	2	選択	
関数解析	2	選択	
微分方程式論	2	選択	
多様体論	2	選択	
位相幾何学	2	選択	
微分幾何学	2	選択	
代数学 I	2	選択	
代数学 II	2	選択	
ガロア理論	2	選択	
数理論 I	2	選択	
数理論 II	2	選択	
数理論 III	2	選択	
数理論 IV	2	選択	
数理論 V	2	選択	
数理論 VI	2	選択	
数理論 VII	2	選択	
数理論 VIII	2	選択	
数理論 IX	2	選択	
数理論 X	2	選択	
数の歴史	2	選択	
代数学特別講義 I	2	選択	
代数学特別講義 II	2	選択	
代数学特別講義 III	2	選択	
代数学特別講義 IV	2	選択	
代数学特別講義 V	2	選択	
幾何学特別講義 I	2	選択	
幾何学特別講義 II	2	選択	
幾何学特別講義 III	2	選択	
幾何学特別講義 IV	2	選択	
幾何学特別講義 V	2	選択	
解析学特別講義 I	2	選択	
解析学特別講義 II	2	選択	
解析学特別講義 III	2	選択	
解析学特別講義 IV	2	選択	
解析学特別講義 V	2	選択	

物理学副プログラム		単位数：20	
授業科目	単位数	必修・選択	備考
物理学概論 A	2	選択	
物理学概論 B	2	選択	
物理学基礎実験	2	選択	
宇宙・地球科学	2	選択	
古典力学	2	選択	
解析力学	2	選択	
電磁気学 I	2	選択	
電磁気学 II	2	選択	
物理数学 I	2	選択	
物理数学 II	2	選択	
力学系理論	2	選択	
熱力学	2	選択	
量子力学 I	2	選択	
量子力学 II	2	選択	
力学演習	2	選択	
電磁気学演習	2	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
物理数学演習	2	選択	
量子力学演習	2	選択	

化学副プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
基礎化学A	2	必修		
基礎化学B	2	必修		
化学基礎実験	2	必修		
物理化学Ⅰ	2	選択		
物理化学Ⅱ	2	選択		
物理化学Ⅲ	2	選択		
無機化学Ⅰ	2	選択		
無機化学Ⅱ	2	選択		
有機化学Ⅰ	2	選択		
有機化学Ⅱ	2	選択		
分析化学Ⅰ	2	選択		
生物化学Ⅰ	2	選択		
生物化学Ⅱ	2	選択		
化学英語	2	選択		
化学特別ゼミⅠ	2	選択		

生物学副プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
基礎生物学A	2	必修		
基礎生物学B	2	必修		
生物学基礎実験	2	必修		
生化学	2	選択		
生物物理学	2	選択		
動物系統学	2	選択		
植物系統学	2	選択		
動物生理学	2	選択		
植物生理学	2	選択		
代謝生物学	2	選択		
基礎遺伝学	2	選択		
分子遺伝学	2	選択		
細胞生物学	2	選択		
発生生物学	2	選択		
進化生物学	2	選択		
生物統計学	2	選択		

情報科学副プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
数理基礎論	2	必修		
情報理論	2	必修		
コンピュータシステム序論	2	選択	(数学科は本プログラムとしては履修できない)	
確率序論	2	選択	(数学科は履修できない)	
離散数学	2	選択	(数学科は履修できない)	
コンピュータアーキテクチャⅠ	2	選択		
コンピュータネットワークⅠ	2	選択		
マルチメディア	2	選択		
グラフ理論	2	選択	(数学科は本プログラムとしては履修できない)	
位相空間論	2	選択	(数学科は本プログラムとしては履修できない)	
情報倫理	2	選択		
情報と職業	2	選択		
バイオインフォマティクス	2	選択		
データベースシステム	2	選択		
組み合わせ論	2	選択		
暗号と符号	2	選択		
ヒューマンインターフェイス	2	選択		
環境情報論	2	選択		

別表第7 専門教育科目(第5条関係)

学際プログラム

応用数理学際プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
以下の(数学)・(物理学)・(情報科学)のグループから2つ以上を選択し、それぞれ6単位以上単位を修得すること				
(数学)				
関数解析	2	選択		
関数論続論	2	選択		
確率論	2	選択		
フーリエ解析とラプラス変換	2	選択		
ガロア理論	2	選択		
多様体論	2	選択		
微分幾何学	2	選択		
微分方程式論	2	選択		
数理統計学	2	選択		
数理経済学	2	選択		
代数学特別講義Ⅰ	2	選択		

授業科目	単位数	必修・選択	備考
代数学特別講義Ⅱ	2	選択	
代数学特別講義Ⅲ	2	選択	
代数学特別講義Ⅳ	2	選択	
代数学特別講義Ⅴ	2	選択	
幾何学特別講義Ⅰ	2	選択	
幾何学特別講義Ⅱ	2	選択	
幾何学特別講義Ⅲ	2	選択	
幾何学特別講義Ⅳ	2	選択	
幾何学特別講義Ⅴ	2	選択	
解析学特別講義Ⅰ	2	選択	
解析学特別講義Ⅱ	2	選択	
解析学特別講義Ⅲ	2	選択	
解析学特別講義Ⅳ	2	選択	
解析学特別講義Ⅴ	2	選択	
(物理学)			
数理解物理学	2	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
古典力学	2	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
電磁気学Ⅰ	2	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
電磁気学Ⅱ	2	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
量子力学Ⅰ	2	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
量子力学Ⅱ	2	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
解析力学	2	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
熱力学	2	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
統計力学	2	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)
量子光学	2	選択	
凝縮系物理学	2	選択	
場の量子論	2	選択	
物性物理学序論	2	選択	
素粒子物理学	2	選択	
相対論	2	選択	
流体物理学	2	選択	
宇宙物理学	2	選択	
物理学基礎研究	2	選択	
(情報科学)			
計算基礎論	2	選択	
グラフ理論	2	選択	(情報科学科は本プログラムとしては履修できない)
情報理論	2	選択	(情報科学科は本プログラムとしては履修できない)
組み合わせ論	2	選択	
コンピュータシステム序論	2	選択	(情報科学科は本プログラムとしては履修できない)
暗号と符号	2	選択	
情報解析学	2	選択	

物理・化学学際プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
基礎化学A	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)	
基礎化学B	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)	
化学基礎実験	2	選択	(化学科は履修できない)	
物理学概論A	2	選択	(物理学科は履修できない)	
物理学概論B	2	選択	(物理学科は履修できない)	
物理学基礎実験	2	選択	(物理学科は履修できない)	
物理化学Ⅰ	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)	
物理化学Ⅱ	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)	
物理化学Ⅲ	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)	
物理化学Ⅳ	2	選択		
無機化学Ⅰ	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)	
有機化学Ⅰ	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)	
分析化学Ⅰ	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)	
分析化学Ⅱ	2	選択		
計算化学	2	選択		
分子分光法	2	選択		
量子化学	2	選択		
反応物理化学	2	選択		
生物物理化学	2	選択		
放射化学	2	選択		
量子力学Ⅰ	2	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)	
量子力学Ⅱ	2	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)	
熱力学	2	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)	
統計力学	2	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)	
物理学Ⅰ	2	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)	
物性物理学序論	2	選択		
固体電子論	2	選択		
相転移物理学	2	選択		
凝縮系物理学	2	選択		
ソフトマター物理	2	選択		
物理実験学	2	選択		
基礎エレクトロニクス	2	選択		
物理学基礎研究	2	選択		
計算物理学講義・演習	4	選択		

ケミカルバイオロジー学際プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
分子生命科学	2	選択	以下の科目から12単位以上選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
有機化学Ⅲ	2	選択	
生体分子機能・反応学	2	選択	
有機化学Ⅳ	2	選択	
生体分子機能・認識学	2	選択	
生物物理化学	2	選択	
細胞生化学	2	選択	
分子細胞情報学	2	選択	
分子構造生物学	2	選択	
植物生理工学	2	選択	
細胞生物学	2	選択	(生物学科は本プログラムとしては履修できない)
代謝生物学	2	選択	(生物学科は本プログラムとしては履修できない)
公開臨海実習	1	選択	
動物環境応答学	2	選択	
植物機能制御学	2	選択	
遺伝子工学	2	選択	
分析化学Ⅱ	2	選択	
計算化学	2	選択	
無機化学Ⅲ	2	選択	
ケミカルバイオロジー特別講義Ⅰ	2	選択	
ケミカルバイオロジー特別講義Ⅱ	2	選択	
高分子化学	2	選択	
生物化学特別講義Ⅰ	2	選択	
生物化学特別講義Ⅱ	2	選択	
生物化学特別講義Ⅲ	2	選択	
有機化学特別講義Ⅰ	2	選択	
有機化学特別講義Ⅱ	2	選択	
有機化学特別講義Ⅲ	2	選択	
有機化学Ⅰ	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
有機化学Ⅱ	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
生物化学Ⅰ	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
生物化学Ⅱ	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
基礎生物学A	2	選択	(生物学科は履修できない)
基礎生物学B	2	選択	(生物学科は履修できない)
生物学基礎実験	2	選択	(生物学科は履修できない)
化学基礎実験	2	選択	(化学科は履修できない)
基礎化学A	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
基礎化学B	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)

生命情報学学際プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
生命情報学概論	2	必修		
計算生物学	2	選択	以下の科目から6単位以上選択	
進化遺伝学	2	選択		
分子遺伝学	2	選択	(生物学科は本プログラムとしては履修できない)	
バイオインフォマティクス	2	選択		
コンピュータシステム序論	2	選択	(情報科学科は本プログラムとしては履修できない)	
生体分子機能・反応学	2	選択		
計算化学	2	選択		
生命情報プログラミング演習	1	選択		
生化学	2	選択	(生物学科は本プログラムとしては履修できない)	
細胞生物学	2	選択	(生物学科は本プログラムとしては履修できない)	
発生遺伝学	2	選択		
動物生理学	2	選択	(生物学科は本プログラムとしては履修できない)	
遺伝子工学	2	選択		
植物生態学	2	選択		
動物生態学	2	選択		
生物統計学	2	選択	(生物学科は本プログラムとしては履修できない)	
分子構造生物学	2	選択		
データ構造とアルゴリズム	2	選択	(情報科学科は本プログラムとしては履修できない)	
情報解析学	2	選択		
数理基礎論	2	選択	(情報科学科は本プログラムとしては履修できない)	
確率序論	2	選択	(情報科学科は本プログラムとしては履修できない)	
グラフ理論	2	選択	(情報科学科は本プログラムとしては履修できない)	
情報理論	2	選択	(情報科学科は本プログラムとしては履修できない)	
組み合わせ論	2	選択		
暗号と符号	2	選択		
データベース設計論	2	選択		
マルチメディア	2	選択	(情報科学科は本プログラムとしては履修できない)	
環境情報論	2	選択		
物理化学Ⅰ	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)	
物理化学Ⅱ	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)	
分子生命科学	2	選択		
有機化学Ⅰ	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)	
有機化学Ⅱ	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)	
有機化学Ⅲ	2	選択		
有機化学Ⅳ	2	選択		
物理化学Ⅲ	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)	
物理化学Ⅳ	2	選択		
高分子化学	2	選択		
実験値解析法	2	選択		
分析化学Ⅰ	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)	
数理統計学	2	選択		
数理物理学	2	選択	(物理学科は本プログラムとしては履修できない)	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
微分幾何学	2	選択	
基礎生物学A	2	選択	(生物学科は履修できない)
基礎生物学B	2	選択	(生物学科は履修できない)
基礎化学A	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)
基礎化学B	2	選択	(化学科は本プログラムとしては履修できない)

別表第8 関連科目 (第5条関係)

数学科

授業科目	単位数	備考
物理学概論A	2	
物理学概論B	2	
基礎化学A	2	
基礎化学B	2	
基礎生物学A	2	
基礎生物学B	2	
宇宙・地球科学	2	
地球環境科学	2	
大気・海洋科学概論	2	
地史・古生物学概論	2	
物理学基礎実験	2	
化学基礎実験	2	
生物学基礎実験	2	
地学基礎実験	2	
数理基礎論	2	
コンピュータシステム序論	2	

物理学科

授業科目	単位数	備考
初等解析学Ⅰ	2	
初等解析学Ⅱ	2	
初等線形代数学	2	
初等代数学	2	
数の歴史	2	
基礎化学A	2	
基礎化学B	2	
基礎生物学A	2	
基礎生物学B	2	
宇宙・地球科学	2	
地球環境科学	2	
大気・海洋科学概論	2	
地史・古生物学概論	2	
化学基礎実験	2	
生物学基礎実験	2	
地学基礎実験	2	
数理基礎論	2	
確率序論	2	
コンピュータシステム序論	2	

化学科

授業科目	単位数	備考
初等解析学Ⅰ	2	
初等解析学Ⅱ	2	
初等線形代数学	2	
初等代数学	2	
物理学概論A	2	
物理学概論B	2	
基礎化学A	2	
基礎化学B	2	
基礎生物学A	2	
基礎生物学B	2	
宇宙・地球科学	2	
地球環境科学	2	
大気・海洋科学概論	2	
地史・古生物学概論	2	
物理学基礎実験	2	
生物学基礎実験	2	
地学基礎実験	2	
数理基礎論	2	
確率序論	2	
コンピュータシステム序論	2	

生物学科

授業科目	単位数	備考
初等解析学Ⅰ	2	
初等解析学Ⅱ	2	
初等線形代数学	2	
初等代数学	2	
数の歴史	2	
物理学概論A	2	
物理学概論B	2	
基礎化学A	2	
基礎化学B	2	
宇宙・地球科学	2	

授業科目	単位数	備考
地球環境科学	2	
大気・海洋科学概論	2	
地史・古生物学概論	2	
物理学基礎実験	2	
化学基礎実験	2	
地学基礎実験	2	
数理基礎論	2	
確率序論	2	
コンピュータシステム序論	2	

情報科学科

授業科目	単位数	備考
初等代数学	2	
物理学概論A	2	
物理学概論B	2	
基礎化学A	2	
基礎化学B	2	
基礎生物学A	2	
基礎生物学B	2	
宇宙・地球科学	2	
地球環境科学	2	
大気・海洋科学概論	2	
地史・古生物学概論	2	
物理学基礎実験	2	
化学基礎実験	2	
生物学基礎実験	2	
地学基礎実験	2	

別表第9 全学共通科目 (第5条関係)

授業科目	単位数	備考
NPO入門	2	
女性リーダーへの道 (入門編)	2	
女性リーダーへの道 (ロールモデル入門編)	2	
女性リーダーへの道 (実践入門編)	2	
キャリアプランとライフプラン I	2	
キャリアプランとライフプラン II	2	
情報コミュニケーション技術と創発性	2	
働く女性の権利と地位	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
共生社会で働く	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
グループワークとマネジメント	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
キャリアプランニング実習	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
インターシップ	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
クリエイティブ・ライティング I	2	
クリエイティブ・ライティング II	2	
クリエイティブ・ライティング III	2	
クリエイティブ・ライティング IV	2	
博物館概論	2	
博物館資料特殊講義	2	
博物館活動特殊講義	2	
博物館実習	3	
初等解析学 I	2	(数学科、情報科学科は履修できない)
初等解析学 II	2	(数学科、情報科学科は履修できない)
初等線形代数学	2	(数学科、情報科学科は履修できない)
初等代数学	2	
数の歴史	2	
物理学概論A	2	(物理学科は履修できない)
物理学概論B	2	(物理学科は履修できない)
基礎化学A	2	
基礎化学B	2	
基礎生物学A	2	(生物学科は履修できない)
基礎生物学B	2	(生物学科は履修できない)
宇宙・地球科学	2	
地球環境科学	2	
大気・海洋科学概論	2	
地史・古生物学概論	2	
物理学基礎実験	2	(物理学科は履修できない)
化学基礎実験	2	(化学科は履修できない)
生物学基礎実験	2	(生物学科は履修できない)
地学基礎実験	2	
数理基礎論	2	
確率序論	2	
コンピュータシステム序論	2	
生命情報学概論	2	
計算生物学	2	
海外交換留学認定科目	2~12	
グローバルCOE人間発達科学 I	2	
グローバルCOE人間発達科学 II	2	
グローバルCOE人間発達科学 III	2	
科学英語 I	2	
科学英語 II	2	
物理学サブメント	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
生物学サブメント	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
英語基礎強化ゼミ	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)

授業科目	単位数	備考
TOEFL対策ゼミR/L	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
TOEFL対策ゼミS/W	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
企画・運営力養成講座	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 I	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 II	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 III	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 IV	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 V	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 VI	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 VII	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 VIII	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 IX	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 X	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 XI	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 XII	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 XIII	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 XIV	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 XV	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)

別表第10 教職に関する科目 (第5条関係)

授業科目	単位数	備考
教職概論	2	
教育原論 (思想・歴史)	2	
教育心理	2	
教育原論 (社会・制度)	2	
教育方法論	2	
視聴覚教育メディア論	2	
数学科教育法 I	2	
数学科教育法 II	2	
理科教育法 I	2	
理科教育法 II	2	
情報科教育法 I	2	
情報科教育法 II	2	
道徳教育の研究	2	
教育課程論	2	
特別活動の研究	2	
生徒指導の研究	2	
学校カウンセリング	2	
事前・事後指導	1	
教育実習	2	高校は2単位 中学校は4単位
教職実践演習 (教論)	2	

別表第11 外国人留学生特別科目 (第5条関係)

授業科目	単位数	備考
日本語演習 I A	2	
日本語演習 I B	2	
日本語演習 II A	2	
日本語演習 II B	2	
日本語演習 III A	2	
日本語演習 III B	2	
日本語演習 IV A	2	
日本語演習 IV B	2	
日本語演習 V A	2	
日本語演習 V B	2	
日本事情演習 I A	2	
日本事情演習 I B	2	
日本事情演習 II A	2	
日本事情演習 II B	2	
日本事情演習 III A	2	
日本事情演習 III B	2	
日本事情演習 IV A	2	
日本事情演習 IV B	2	
日本事情演習 V A	2	
日本事情演習 V B	2	

## (趣旨)

第1条 国立大学法人お茶の水女子大学生生活科学部の教育課程及び履修方法については、国立大学法人お茶の水女子大学学則、国立大学法人お茶の水女子大学複数プログラム選択履修制度実施規則又はこれに基づく別段の定めによるほか、この規程の定めるところによる。

## (授業科目の区分)

第2条 授業科目は、コア科目、専門教育科目、専攻科目、学部共通科目、自由科目、全学共通科目、教職共通科目、教職に関する科目及び外国人留学生特別科目とする。

- 2 コア科目は、文理融合リベラルアーツ、基礎講義、情報、外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語及び朝鮮語）及びスポーツ健康とする。
- 3 専門教育科目は、主プログラム、強化プログラム、副プログラム及び学際プログラムを構成する科目とする。
- 4 専攻科目は、各学科において設置する科目とする。
- 5 学部共通科目は、各学科の基礎となる科目又はきわめて関連の深い科目であって必修又は選択として指定する。
- 6 自由科目は、生活科学部の他学科の科目とする。
- 7 全学で共通して履修できる科目として、全学共通科目を置く。
- 8 教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める教職に関する科目を置く。また、教職に関する科目として教職共通科目を置く。
- 9 外国人留学生に対して、外国人留学生特別科目を置く。
- 10 第1項の規定にかかわらず、特別設置科目を置く。

## (他学部の授業科目の履修)

第3条 文教育学部及び理学部の授業科目は、これを履修することができる。

## (単位の計算方法)

第4条 各授業科目の単位数の計算方法は、1単位が45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

- 一 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
  - 二 演習については、15時間の授業をもって1単位とする。
  - 三 実験及び実習については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、食物栄養学科が開設する専門科目については、45時間の授業をもって1単位とし、教育実習については、別に定める。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文については別に定める。

## (卒業要件)

第5条 卒業するためには、別表第1-1に定めるところにより、124単位以上を修得しなければならない。ただし、食物栄養学科については、別表第1-2に定めるところにより、138単位以上を修得しなければならない。

- 2 人間・環境科学科及び人間生活学科において履修すべき授業科目及び単位数は、別表第3から別表第7及び別表第9までに定めるところとする。また、食物栄養学科においては、別表第3、別表第8及び別表第9に定めるところとする。
- 3 学部共通科目の授業科目及び単位数は、別表第9に定めるところとする。
- 4 全学共通科目の授業科目及び単位数は、別表第10に定めるところとする。
- 5 外国人留学生特別科目の授業科目及び単位数は、別表第13に定めるところとする。また、単位の取扱いについては、人間・環境科学科及び人間生活学科は別表第1-1備考10とし、食物栄養学科は別表第1-2備考6のとおりとする。
- 6 特別設置科目の授業科目、単位数及び単位の取扱いについては、別表第14に定めるところとする。

## (教員免許状)

第6条 教職共通科目の授業科目及び単位数は、別表第11に定めるところとする。

2 教職に関する科目の授業科目及び単位数は、別表第12に定めるところとする。また、単位の取扱いについては、人間・環境科学科及び人間生活学科は別表第1-1備考9とし、食物栄養学科は別表第1-2備考5のとおりとする。

## (履修手続)

第7条 学生は、履修しようとする授業科目を所定の期日までに指定する方法により申請し、担当教員の許可を得なければならない。

- 2 学生が前項により履修申請した授業科目の履修を取消すには、所定の期日までに指定する方法により履修取消し手続を行い、担当教員の許可を得なければならない。
- 3 学生が授業科目について聴講のみを希望する場合は、担当教員の許可を得なければならない。

## (単位の授与)

第8条 授業科目を履修した者については、試験（論文、報告等を含む。以下同じ。）により学修の成果を評価して、所定の単位を与える。

2 試験は、原則として学年末又は学期末に行うこととする。ただし、病気その他正当な理由で試験を受けることができなかつた者は、別に定める手続きにより追試験を受けることができる。

## (成績の評価)

第9条 成績の評価は、原則として試験、平常の成績及び出席状況を総合して決定する。

- 2 成績の評価は、「S」（基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている）、「A」（基本的な目標を十分に達成している）、「B」（基本的な目標を達成している）、「C」（基本的な目標を最低限度達成している）、「D」（基本的な目標を達成していない。再履修が必要である）の5種類の評語をもって表し、「S」、「A」、「B」及び「C」を合格とし、「D」を不合格とする。
- 3 前項の成績の評価又は科目の原成績（素点）に基づき、成績の数値平均 Grade Point Average（以下「GPA」という。）を算出するものとする。GPAに関し必要な事項は別に定める。

## (細則)

第10条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項については、生活科学部教授会が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行し、平成 16 年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、平成 17 年 4 月 1 日から施行し、平成 17 年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、平成 17 年 4 月 1 日から施行し、平成 17 年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、平成 18 年 4 月 1 日から施行し、平成 18 年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、平成 19 年 4 月 1 日から施行し、改正後の別表第 1 から別表第 4 まで及び別表第 10 の規定は、平成 19 年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成 19 年 10 月 24 日から施行し、平成 19 年 10 月 1 日から適用する。

附 則

- 1 この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行し、平成 20 年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行し、平成 21 年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、平成 22 年 4 月 1 日から施行し、平成 22 年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、平成 23 年 4 月 1 日から施行し、平成 23 年度入学者から適用する。
- 2 この規程施行前から引き続き在学する者の取扱いについては、別に定めるもののほか、なお従前の例による。

別表第 1-1 (第 5 条関係)

学科別	科目区分	必修及び選択必修の科目・単位							自由に選択して履修する科目・単位							卒業に必要な履修単位数		
		コア科目				専門教育科目(必修プログラム)			コ ア 科 目	専 攻 科 目	学 部 共 通 科 目	自 由 科 目	他 学 部 の 科 目	全 学 共 通 科 目	教 職 共 通 科 目		教 職 に 関 する 科 目	必 修 以 外 の 選 択 プ ロ グ ラ ム
		文 理 融 合 リ ベ ラ ル ア ー ツ	基 礎 講 義	情 報	外 国 語	ス ポ ー ツ 健 康	主 プ ロ グ ラ ム	強 化 プ ロ グ ラ ム										
人 間 ・ 環 境 学 科			30			60		20						14				124
人 間 生 活 学 科			30			42		20						32				124

- 備考
- 1 情報処理演習(情報)2単位は、必修とする。
  - 2 外国語は、一の外国語について8単位を必修とする。
  - 3 スポーツ健康実習2単位を必修とし、その履修方法は別に定める。
  - 4 主プログラムは、所属学科から選択すること。
  - 5 強化プログラム・副プログラム・学際プログラムは、所属学部のプログラムから一つを選択すること。
  - 6 強化プログラムは、同一名の主プログラムを選択していることが履修要件となる。
  - 7 選択している主プログラムと同領域の副プログラムを選択することはできない。
  - 8 必修以外の選択プログラムは、別表第2の所属学科が指定するプログラム選択一覧に従い、副プログラム、学際プログラムから選択すること。
  - 9 教職に関する科目(教職概論、教育実習及び教職実践演習は除く。)の単位については、14単位までを自由に選択して履修する科目・単位として取り扱う。
  - 10 外国人留学生特別科目(外国人留学生対象)の単位については、18単位までをコア科目として取り扱う。
  - 11 生活科学部の「学部共通科目」は、別表第9のとおりとする。これらの科目の履修方法等は、別に定める。
  - 12 特別設置科目は、自由科目の単位として取り扱う。ただし、卒業に必要な単位として取り扱うことのできる単位の上限は、8単位とする。

別表第1-2 (第5条関係)

学科別	科目区分	必修及び選択必修の科目・単位					自由に選択して履修する科目・単位								卒業に必要な履修単位数			
		コア科目					専攻科目	学部共通科目	コア科目	専攻科目	学部共通科目	自由科目	他学部の科目	全学共通科目		教職共通科目	教職に関する科目	必修以外の選択プログラム
		文理融合リベラルアーツ	基礎講義	情報報	外国語	スポーツ健康												
食物栄養学科						101	4											138

- 備考
- 1 情報処理演習(情報)2単位は、必修とする。
  - 2 外国語は、一の外国語について8単位を必修とする。
  - 3 スポーツ健康実習2単位を必修とし、その履修方法は別に定める。
  - 4 必修以外の選択プログラムは、別表第2の所属学科が指定するプログラム選択一覧に従い、副プログラム、学際プログラムから選択すること。
  - 5 教職に関する科目(教職概論、教育実習及び教職実践演習は除く。)の単位については、14単位までを自由に選択して履修する科目・単位として取り扱う。
  - 6 外国人留学生特別科目(外国人留学生対象)の単位については、18単位までをコア科目として取り扱う。
  - 7 生活科学部の「学部共通科目」は、別表第9のとおりとする。これらの科目の履修方法等は、別に定める。
  - 8 特別設置科目は、自由科目の単位として取り扱う。ただし、卒業に必要な単位として取り扱うことのできる単位の上限は、8単位とする。

別表第2

【(生) 二つ目の選択プログラム】(別表第1-1 備考5関係)

所属学科・講座	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」					
	人間・環境科学(副)	発達臨床心理学(副)	公共政策論(副)	ジェンダー論(副)	生活文化学(副)	消費者学(学際)
食物栄養学科						
人間・環境科学科		×	×	×	×	○
人間生活学科	発達臨床心理学講座	○	○	○	○	○
	生活社会科学講座	○	○	○	○	○
	生活文化学講座	○	○	○	○	○

【(生) 三つ目の選択プログラム(文・プログラム)】(別表第1-1 備考8関係、別表第1-2 備考4関係)

所属学科・講座	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」														
	哲学・倫理学・美術史(副)	比較歴史学(副)	地理学(副)	日本語・日本文学(副)	中国語圏言語文化(副)	英語圏言語文化(副)	仏語圏言語文化(副)	日本語教育(副)	社会学(副)	教育科学(副)	心理学(副A)人間社会科学科対象	心理学(副B)人間社会科学科以外対象	舞踊教育学(副)	音楽表現(副)	グローバル文化学(学際)
食物栄養学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人間・環境科学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人間生活学科	発達臨床心理学講座	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	生活社会科学講座	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	生活文化学講座	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【(生) 三つ目の選択プログラム(理・プログラム)】(別表第1-1 備考8関係、別表第1-2 備考4関係)

所属学科・講座	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」								
	数学(副)	物理学(副)	化学(副)	生物学(副)	情報科学(副)	応用数理(学際)	物理・化学(学際)	ケミカルバイオロジー(学際)	生命情報学(学際)
食物栄養学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人間・環境科学科	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人間生活学科	発達臨床心理学講座	○	○	○	○	×	×	×	×
	生活社会科学講座	○	○	○	○	×	×	×	×
	生活文化学講座	○	○	○	○	×	×	×	×

【(生) 三つ目の選択プログラム(生・プログラム)】(別表第1-1 備考8関係、別表第1-2 備考4関係)

所属学科・講座	所属学科の強化プログラム以外に選択することのできる「選択プログラム群」					
	人間・環境科学(副)	発達臨床心理学(副)	公共政策論(副)	ジェンダー論(副)	生活文化学(副)	消費者学(学際)
食物栄養学科	○	○	○	○	○	○
人間・環境科学科		○	○	○	○	○
人間生活学科	発達臨床心理学講座	○	○	○	○	○
	生活社会科学講座	○	○	○	○	○
	生活文化学講座	○	○	○	○	○

別表第3 コア科目（第5条関係）

授業科目	単位数	備考（ローマ数字は、標準履修年次を示す。）
<b>文理融合リベラルアーツ</b>		
<b>系列1 生命と環境</b> (講義)		
生命と環境 1	2	
生命と環境 2	2	
生命と環境 3	2	
生命と環境 4	2	
生命と環境 5	2	
生命と環境 6	2	
生命と環境 7	2	
生命と環境 8	2	
生命と環境 9	2	
生命と環境 10	2	
(演習・実習・実験)		
生命と環境 21	2	
生命と環境 22	2	
生命と環境 23	2	
生命と環境 24	2	
生命と環境 25	2	
生命と環境 26	2	
<b>系列2 色・音・香</b> (講義)		
色・音・香 1	2	
色・音・香 2	2	
色・音・香 3	2	
色・音・香 4	2	
色・音・香 5	2	
色・音・香 6	2	
色・音・香 7	2	
色・音・香 8	2	
色・音・香 9	2	
色・音・香 10	2	
(演習・実習・実験)		
色・音・香 21	2	
色・音・香 22	2	
色・音・香 23	2	
色・音・香 24	2	
<b>系列3 生活世界の安全保障</b> (講義)		
生活世界の安全保障 1	2	
生活世界の安全保障 2	2	
生活世界の安全保障 3	2	
生活世界の安全保障 4	2	
生活世界の安全保障 5	2	
生活世界の安全保障 6	2	
生活世界の安全保障 7	2	
生活世界の安全保障 8	2	
生活世界の安全保障 9	2	
生活世界の安全保障 10	2	
(演習・実習・実験)		
生活世界の安全保障 21	2	
生活世界の安全保障 22	2	
生活世界の安全保障 23	2	
生活世界の安全保障 24	2	
生活世界の安全保障 25	2	
<b>系列4 ことばと世界</b> (講義)		
ことばと世界 1	2	
ことばと世界 2	2	
ことばと世界 3	2	
ことばと世界 4	2	
ことばと世界 5	2	
ことばと世界 6	2	
ことばと世界 7	2	
ことばと世界 8	2	
ことばと世界 9	2	
ことばと世界 10	2	
ことばと世界 11	2	
ことばと世界 12	2	
(演習・実習・実験)		
ことばと世界 21	2	
ことばと世界 22	2	
ことばと世界 23	2	
ことばと世界 24	2	
ことばと世界 25	2	
ことばと世界 26	2	
ことばと世界 27	2	
<b>系列5 ジェンダー</b> (講義)		
ジェンダー 1	2	
ジェンダー 2	2	

授業科目	単位数	備考（ローマ数字は、標準履修年次を示す。）
ジェンダー 3	2	
ジェンダー 4	2	
ジェンダー 5	2	
ジェンダー 6	2	
ジェンダー 7	2	
ジェンダー 8	2	
ジェンダー 9	2	
(演習・実習・実験)		
ジェンダー 21	2	
ジェンダー 22	2	
ジェンダー 23	2	
ジェンダー 24	2	
<b>基礎講義</b>		
哲学	2	
現代心理学	2	
法学Ⅰ（日本国憲法）	2	
法学Ⅱ（法学入門）	2	
法と文学	2	
政治学入門	2	
ミクロ経済学入門	2	
マクロ経済学入門	2	
基礎微積分学	2	
基礎線形代数	2	
統計学	2	
一般物理学実験	2	
一般化学実験	2	
安全管理概論	2	
総合コース	2～4	
お茶の水女子大学論	2	(I)
<b>情報（必修）</b>		
情報処理演習	2	
<b>情報（選択）</b>		
メディアリテラシ	2	
情報科学	2	
情報処理学	2	
プログラミング演習1	2	
プログラミング演習2	2	
コンピュータ演習1	2	
コンピュータ演習2	2	
情報学演習1	2	
情報学演習2	2	
<b>外国語（必修）</b>		英語、ドイツ語、フランス語、中国語から一ヶ国語8単位必修 *：必修単位に充てることができる基本科目。英語を選択した場合、残り2単位は、食物栄養学科：食物栄養専門英語、人間・環境科学科：科学英語演習、発達臨床心理学講座：発達臨床心理学専門英語、生活文化学講座：生活文化学専門英語で満たすこと。
<b>英語（選択必修－8）</b>		
*基礎英語Ⅰ	2	(I)
*基礎英語Ⅱ	2	(I)
*中級英語	2	(II)
総合英語	2	(II)
英会話Ⅰ	2	(I)
英会話Ⅱ	2	(I)
英会話Ⅲ	2	(II～IV)
英会話Ⅳ	2	(II～IV)
上級英語Ⅰ	2	(III～IV)
上級英語Ⅱ	2	(III～IV)
ビジネス英語Ⅰ	2	(II～IV)
ビジネス英語Ⅱ	2	(II～IV)
時事英語Ⅰ	2	(II～IV)
時事英語Ⅱ	2	(II～IV)
英語プレゼンテーションⅠ	2	(II～IV)
英語プレゼンテーションⅡ	2	(II～IV)
<b>ドイツ語</b>		
*基礎ドイツ語（文法）Ⅰ	2	(I)
*基礎ドイツ語（文法）Ⅱ	2	(I)
*基礎ドイツ語（演習）Ⅰ	2	(I)
*基礎ドイツ語（演習）Ⅱ	2	(I)
基礎ドイツ語（応用）Ⅰ	2	(I)
基礎ドイツ語（応用）Ⅱ	2	(I)
発展ドイツ語Ⅰ	2	(II)
発展ドイツ語Ⅱ	2	(II)
基礎ドイツ語会話Ⅰ	2	(I～IV)
基礎ドイツ語会話Ⅱ	2	(I～IV)
ドイツ語初歩Ⅰ	2	(I～IV)
ドイツ語初歩Ⅱ	2	(I～IV)
<b>フランス語</b>		
*基礎フランス語（文法）Ⅰ	2	(I)



授業科目	単位数	備考（ローマ数字は、標準履修年次を示す。）
*基礎フランス語（文法）Ⅱ	2	（Ⅰ）
*基礎フランス語（演習）Ⅰ	2	（Ⅰ）
*基礎フランス語（演習）Ⅱ	2	（Ⅰ）
基礎フランス語（応用）Ⅰ	2	（Ⅰ）
基礎フランス語（応用）Ⅱ	2	（Ⅰ）
発展フランス語Ⅰ	2	（Ⅱ）
発展フランス語Ⅱ	2	（Ⅱ）
発展フランス語Ⅲ	2	（Ⅱ）
発展フランス語Ⅳ	2	（Ⅱ）
基礎フランス語会話Ⅰ	2	（Ⅰ～Ⅳ）
基礎フランス語会話Ⅱ	2	（Ⅰ～Ⅳ）
フランス語初歩Ⅰ	2	（Ⅰ～Ⅳ）
フランス語初歩Ⅱ	2	（Ⅰ～Ⅳ）
<b>中国語</b>		
*基礎中国語（文法）Ⅰ	2	（Ⅰ）
*基礎中国語（文法）Ⅱ	2	（Ⅰ）
*基礎中国語（演習）Ⅰ	2	（Ⅰ）
*基礎中国語（演習）Ⅱ	2	（Ⅰ）
基礎中国語（応用）Ⅰ	2	（Ⅰ）
基礎中国語（応用）Ⅱ	2	（Ⅰ）
発展中国語Ⅰ	2	（Ⅱ）
発展中国語Ⅱ	2	（Ⅱ）
発展中国語Ⅲ	2	（Ⅱ）
発展中国語Ⅳ	2	（Ⅱ）
基礎中国語会話Ⅰ	2	（Ⅱ～Ⅳ）
基礎中国語会話Ⅱ	2	（Ⅱ～Ⅳ）
中国語初歩Ⅰ	2	（Ⅰ～Ⅳ）
中国語初歩Ⅱ	2	（Ⅰ～Ⅳ）
<b>ロシア語</b>		
ロシア語初歩Ⅰ	2	（Ⅰ～Ⅳ）
ロシア語初歩Ⅱ	2	（Ⅰ～Ⅳ）
ロシア語会話Ⅰ	2	（Ⅰ～Ⅳ）
ロシア語会話Ⅱ	2	（Ⅰ～Ⅳ）
<b>朝鮮語</b>		
朝鮮語初歩Ⅰ	2	（Ⅰ～Ⅳ）
朝鮮語初歩Ⅱ	2	（Ⅰ～Ⅳ）
朝鮮語会話Ⅰ	2	（Ⅰ～Ⅳ）
朝鮮語会話Ⅱ	2	（Ⅰ～Ⅳ）
<b>スポーツ健康（必修）</b>		
スポーツ健康実習	2	（Ⅰ）
<b>スポーツ健康（選択）</b>		
スポーツ科学概論	2	（Ⅰ～Ⅳ）
健康科学概論	2	（Ⅰ～Ⅳ）
生涯スポーツ	1～3	（Ⅰ～Ⅳ）

別表第4 専門教育科目（第5条関係）

主プログラム

人間・環境科学主プログラム		単位数：60	
授業科目	単位数	必修・選択	備考
統計学	2	必修	
基礎有機化学	2	必修	
数学物理学演習Ⅰ	2	必修	
物理学	2	必修	
生物化学	2	必修	
人体解剖学	2	必修	
環境化学	2	必修	
情報工学演習	2	必修	
人間環境科学演習	2	必修	
人間環境科学実験実習Ⅰ	2	必修	
人間環境科学実験実習Ⅱ	2	必修	
人間環境科学実験実習Ⅲ	2	必修	
人間環境科学輪講Ⅰ	2	必修	
人間環境科学輪講Ⅱ	2	必修	
卒業論文	10	必修	
数学物理学演習Ⅱ	2	選択	以下の科目から
物理化学	2	選択	22単位以上選択
反応工学論	2	選択	
環境生理学	2	選択	
ヒトと文化	2	選択	
人体計測学演習	4	選択	
科学英語演習	2	選択	
機器分析演習	2	選択	
応用統計学	2	選択	
基礎構造力学	2	選択	
住居学概論	2	選択	
生活科学概論	2	選択	
人間環境科学選択基礎	2	選択	

発達臨床心理学主プログラム		単位数：42	
授業科目	単位数	必修・選択	備考
人間生活論	2	必修	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
児童学概論	2	必修	
生活文化学概論	2	選択	以下の科目から
生活社会科学概論	2	選択	2単位以上選択
発達臨床基礎論Ⅰ	2	必修	
発達臨床基礎論Ⅱ	2	必修	
発達臨床基礎演習Ⅰ	2	必修	
発達臨床基礎演習Ⅱ	2	必修	
人間関係学	2	必修	
発達臨床心理学Ⅰ	2	必修	
発達臨床心理学Ⅱ	2	必修	
発達臨床人格検査法	2	必修	
発達臨床観察法	2	必修	
心理統計法（理論）	2	必修	
心理統計法（実践）	2	必修	
卒業論文	8	必修	
生涯発達講義講読	2	選択	以下の科目から
心理臨床講義講読	2	選択	2単位以上選択
保育臨床講義講読	2	選択	
人間関係講義講読	2	選択	
人格発達講義講読	2	選択	
学校心理講義講読	2	選択	
生涯発達研究演習	2	選択	以下の科目から
心理臨床研究演習	2	選択	2単位以上選択
保育臨床研究演習	2	選択	
人間関係研究演習	2	選択	
人格発達研究演習	2	選択	
学校心理研究演習	2	選択	
生活科学概論	2	選択	
発達臨床心理学選択基礎	2	選択	

生活社会科学主プログラム		単位数：42	
授業科目	単位数	必修・選択	備考
人間生活論	2	必修	
生活社会科学概論	2	必修	
児童学概論	2	選択	以下の科目から
生活文化学概論	2	選択	2単位以上選択
生活社会科学演習	2	必修	
家族社会学	2	必修	
応用生活統計学	2	必修	
社会統計学Ⅰ	2	必修	
ジェンダー論	2	必修	
生活関連法	2	必修	
家族法Ⅰ	2	必修	
生活政治学	2	必修	
家政経済学概論	2	必修	
消費者経済学	2	必修	
家族関係論	2	必修	
社会保障論	2	必修	
卒業論文	8	必修	
家族法演習Ⅰ	2	選択	以下の科目から
家族法演習Ⅱ	2	選択	4単位選択
生活法学演習Ⅰ	2	選択	
生活法学演習Ⅱ	2	選択	
生活政治学演習Ⅰ	2	選択	
生活政治学演習Ⅱ	2	選択	
家族社会学演習Ⅰ	2	選択	
家族社会学演習Ⅱ	2	選択	
生活福祉学演習Ⅰ	2	選択	
生活福祉学演習Ⅱ	2	選択	
消費者経済学演習Ⅰ	2	選択	
消費者経済学演習Ⅱ	2	選択	
生活経済学演習Ⅰ	2	選択	
生活経済学演習Ⅱ	2	選択	
労働経済学演習Ⅰ	2	選択	
労働経済学演習Ⅱ	2	選択	
生活科学概論	2	選択	
生活社会科学選択基礎	2	選択	

生活文化学主プログラム		単位数：42	
授業科目	単位数	必修・選択	備考
人間生活論	2	必修	
生活文化学概論	2	必修	
生活社会科学概論	2	選択	以下の科目から
児童学概論	2	選択	2単位以上選択
生活造形論	2	必修	
民俗学	2	必修	
服飾文化概論	2	必修	
服飾美学概論	2	必修	
服飾史論	2	必修	
服飾史資料論	2	必修	
比較生活文化論	2	必修	
比較生活文化史Ⅰ	2	必修	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
民俗文化史概論	2	必修	
歴史民俗文化論	2	必修	
生活文化学論文演習Ⅰ	2	必修	
生活文化学論文演習Ⅱ	2	必修	
卒業論文	8	必修	
比較文化論基礎演習	2	選択	以下の科目から
民俗文化史基礎演習	2	選択	4単位以上選択
日本服飾史演習Ⅰ	2	選択	
服飾文化論基礎演習	2	選択	
生活科学概論	2	選択	
生活文化学選択基礎	2	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
人間関係研究演習	2	選択	
人格発達研究演習	2	選択	
学校心理研究演習	2	選択	
発達臨床論文演習Ⅰ	2	選択	
発達臨床論文演習Ⅱ	2	選択	

別表第5 専門教育科目(第5条関係)

強化プログラム

人間・環境科学強化プログラム 単位数：20			
授業科目	単位数	必修・選択	備考
人間工学	2	選択	以下の科目から
システム工学	2	選択	20単位以上選択
水環境工学	2	選択	
環境材料物性	2	選択	
環境物理学	2	選択	
人類進化史	2	選択	
統計学演習	2	選択	
数学物理学演習Ⅲ	2	選択	
人間環境科学特別実習Ⅰ	2	選択	
人間環境科学特別実習Ⅱ	2	選択	
環境衛生学	2	選択	
人間環境科学特別講義	2	選択	
建築環境計画論	2	選択	
建築環境工学	2	選択	
建築一般構造	2	選択	
建築材料学Ⅰ	2	選択	
設計製図基礎	2	選択	
建築設計製図演習Ⅰ	2	選択	
建築設計製図演習Ⅱ	2	選択	
建築史	2	選択	
建築法規	1	選択	
建築施工	1	選択	
建築材料学Ⅱ	2	選択	
生活設備学	2	選択	
建築意匠論	2	選択	
建築構造力学	2	選択	
測量学	2	選択	
環境デザイン論	2	選択	
住生活論	2	選択	

発達臨床心理学強化プログラム 単位数：20			
授業科目	単位数	必修・選択	備考
保育臨床学	2	選択	以下の科目から
学校臨床学	2	選択	20単位以上選択
人格心理学	2	選択	
保育学	2	選択	
カウンセリング論	2	選択	
心理臨床学	2	選択	
障害臨床学	2	選択	
発達社会文化論	2	選択	
発達過程論	2	選択	
児童社会文化論	2	選択	
発達保健学	2	選択	
家族療法	2	選択	
質問紙法	2	選択	
面接法	2	選択	
産業心理臨床	2	選択	
児童文化論	2	選択	
発達臨床心理学専門英語	2	選択	
発達臨床特殊講義Ⅰ	2	選択	
発達臨床特殊講義Ⅱ	2	選択	
発達臨床特殊講義Ⅲ	2	選択	
心理臨床実習	2	選択	
保育臨床実習	2	選択	
発達臨床学特別実習Ⅰ	2	選択	
発達臨床学特別実習Ⅱ	2	選択	
生涯発達講義講読	2	選択	
心理臨床講義講読	2	選択	
保育臨床講義講読	2	選択	
人間関係講義講読	2	選択	
人格発達講義講読	2	選択	
学校心理講義講読	2	選択	
生涯発達研究演習	2	選択	
心理臨床研究演習	2	選択	
保育臨床研究演習	2	選択	

生活社会科学強化プログラム 単位数：20			
授業科目	単位数	必修・選択	備考
社会福祉学	2	必修	
労働経済学総論	2	必修	
社会統計学Ⅱ	2	必修	
生活社会科学論文演習Ⅰ	2	必修	
生活社会科学論文演習Ⅱ	2	必修	
家族法演習Ⅰ	2	選択	以下の科目から4
家族法演習Ⅱ	2	選択	単位までを含める
生活法学演習Ⅰ	2	選択	ことができる
生活法学演習Ⅱ	2	選択	
生活政治学演習Ⅰ	2	選択	
生活政治学演習Ⅱ	2	選択	
家族社会学演習Ⅰ	2	選択	
家族社会学演習Ⅱ	2	選択	
生活福祉学演習Ⅰ	2	選択	
生活福祉学演習Ⅱ	2	選択	
消費者経済学演習Ⅰ	2	選択	
消費者経済学演習Ⅱ	2	選択	
生活経済学演習Ⅰ	2	選択	
生活経済学演習Ⅱ	2	選択	
労働経済学演習Ⅰ	2	選択	
労働経済学演習Ⅱ	2	選択	
生活社会科学専門英語	2	選択	
女性政策論	2	選択	
法女性学	2	選択	
家族法Ⅱ	2	選択	
労働法	2	選択	
比較家族思想史	2	選択	
比較ジェンダー論	2	選択	
政治とジェンダー	2	選択	
消費者教育論	2	選択	
労働経済学各論	2	選択	
企業経営論	2	選択	
老年学	2	選択	
老人福祉論	2	選択	
児童福祉論	2	選択	
発達社会学	2	選択	
人口学	2	選択	
地域社会学	2	選択	
住生活論	2	選択	
生活調査法	2	選択	
生活社会調査実習	2	選択	
生活設計論	2	選択	
財産と法	2	選択	
刑事法	2	選択	
生活法学	2	選択	
生活と行政Ⅰ	2	選択	
生活と行政Ⅱ	2	選択	
生活経済学	2	選択	
生活と金融	2	選択	
生活と財政	2	選択	
国際経済と生活	2	選択	
国民経済と生活	2	選択	
社会問題論	2	選択	以下の科目から4
現代社会論	2	選択	単位までを含める
現代生活論	2	選択	ことができる
社会意識論	2	選択	
比較社会論	2	選択	
社会政策論Ⅰ	2	選択	
社会政策論Ⅱ	2	選択	

生活文化学強化プログラム 単位数：20			
授業科目	単位数	必修・選択	備考
服飾史Ⅰ	2	選択	以下の科目から
服飾史Ⅱ	2	選択	20単位以上選択
比較文化論演習	2	選択	
民俗文化史演習	2	選択	
服飾文化論演習	2	選択	
日本服飾史演習Ⅱ	2	選択	
民俗文化史各論	2	選択	
環境デザイン論	2	選択	
生活文化論	2	選択	
生活造形史	2	選択	
工芸史	2	選択	
比較生活文化史Ⅱ	2	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
地域文化論	2	選択	
現代文化論	2	選択	
文化情報論	2	選択	
美学・芸術学	2	選択	
西洋服飾論	2	選択	
日本服飾論	2	選択	
服飾文化各論	2	選択	
服飾美学各論	2	選択	
服飾制作実習	1	選択	
服飾文化実習 I	1	選択	
生活文化実習 II	1	選択	
生活文化学専門英語	2	選択	

授業科目	単位数	必修・選択	備考
発達臨床特殊講義Ⅲ	2	選択	
生涯発達講義講読	2	選択	
心理臨床講義講読	2	選択	
保育臨床講義講読	2	選択	
人間関係講義講読	2	選択	
人格発達講義講読	2	選択	
学校心理講義講読	2	選択	
生涯発達研究演習	2	選択	
心理臨床研究演習	2	選択	
保育臨床研究演習	2	選択	
人間関係研究演習	2	選択	
人格発達研究演習	2	選択	
学校心理研究演習	2	選択	

別表第6 専門教育科目(第5条関係)

副プログラム

人間・環境科学副プログラム				単位数: 20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
統計学	2	選択	以下の科目から	
人体解剖学	2	選択	20単位以上選択	
環境化学	2	選択		
反応工学論	2	選択		
環境生理学	2	選択		
ヒトと文化	2	選択		
基礎構造力学	2	選択		
生活設備学	2	選択		
住居学概論	2	選択		
環境物理学	2	選択		
人類進化史	2	選択		
人間工学	2	選択		
システム工学	2	選択		
環境材料物性	2	選択		
水環境工学	2	選択		
統計学演習	2	選択		
人間環境科学実験実習 I	2	選択		
人間環境科学特別実習 II	2	選択		
情報工学演習	2	選択		
人間環境科学演習	2	選択		
建築環境計画論	2	選択		
建築環境工学	2	選択		
建築一般構造	2	選択		
建築材料学 I	2	選択		
建築材料学 II	2	選択		
設計製図基礎	2	選択		
建築設計製図演習 I	2	選択		
建築設計製図演習 II	2	選択		
建築史	2	選択		
建築法規	1	選択		
建築施工	1	選択		
建築意匠論	2	選択		
建築構造力学	2	選択		
測量学	2	選択		
環境デザイン論	2	選択		
住生活論	2	選択		

発達臨床心理学副プログラム				単位数: 20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
児童学概論	2	必修	※1	
生活文化学概論	2	選択	以下の科目から	
生活社会科学概論	2	選択	18単位以上選択	
人間関係学	2	選択		
発達臨床心理学 I	2	選択		
発達臨床心理学 II	2	選択		
保育臨床学	2	選択		
学校臨床学	2	選択		
人格心理学	2	選択		
保育学	2	選択		
カウンセリング論	2	選択		
心理臨床学	2	選択		
障害臨床学	2	選択		
発達社会文化論	2	選択		
発達過程論	2	選択		
児童社会文化論	2	選択		
発達保健学	2	選択		
家族療法	2	選択		
質問紙法	2	選択		
面接法	2	選択		
産業心理臨床	2	選択		
児童文化論	2	選択		
発達臨床特殊講義 I	2	選択		
発達臨床特殊講義 II	2	選択		

公共政策論副プログラム				単位数: 20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
生活社会科学概論	2	必修	※1	
生活社会科学演習	2	必修		
家族法演習 I	2	選択	以下の科目から4	
家族法演習 II	2	選択	単位までを含める	
生活法学演習 I	2	選択	ことができる。	
生活法学演習 II	2	選択		
生活政治学演習 I	2	選択		
生活政治学演習 II	2	選択		
家族社会学演習 I	2	選択		
家族社会学演習 II	2	選択		
生活福祉学演習 I	2	選択		
生活福祉学演習 II	2	選択		
消費者経済学演習 I	2	選択		
消費者経済学演習 II	2	選択		
生活経済学演習 I	2	選択		
生活経済学演習 II	2	選択		
労働経済学演習 I	2	選択		
労働経済学演習 II	2	選択		
ジェンダー論	2	選択		
生活関連法	2	選択		
家族法 I	2	選択		
生活政治学	2	選択		
家政経済学概論	2	選択		
消費者経済学	2	選択		
女性政策論	2	選択		
家族法 II	2	選択		
労働法	2	選択		
政治とジェンダー	2	選択		
社会福祉学	2	選択		
消費者教育論	2	選択		
労働経済学総論	2	選択		
社会保障論	2	選択		
老人福祉論	2	選択		
児童福祉論	2	選択		
地域社会論	2	選択		
生活設計論	2	選択		
財産と法	2	選択		
刑事法	2	選択		
生活法学	2	選択		
生活と行政 I	2	選択		
生活と行政 II	2	選択		
生活経済学	2	選択		
生活と金融	2	選択		
生活と財政	2	選択		
国際経済と生活	2	選択		
国民経済と生活	2	選択		

ジェンダー論副プログラム				単位数: 20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
生活社会科学概論	2	必修	※1	
生活社会科学演習	2	必修		
ジェンダー論	2	必修		
家族法演習 I	2	選択	以下の科目から4	
家族法演習 II	2	選択	単位までを含める	
生活法学演習 I	2	選択	ことができる。	
生活法学演習 II	2	選択		
生活政治学演習 I	2	選択		
生活政治学演習 II	2	選択		
家族社会学演習 I	2	選択		
家族社会学演習 II	2	選択		
生活福祉学演習 I	2	選択		
生活福祉学演習 II	2	選択		
消費者経済学演習 I	2	選択		
消費者経済学演習 II	2	選択		
生活経済学演習 I	2	選択		
生活経済学演習 II	2	選択		

※1: ただし、他のプログラムで必修科目として履修している場合には、本プログラムの他の科目で単位を満たすことができる。

授業科目	単位数	必修・選択	備考
労働経済学演習Ⅰ	2	選択	
労働経済学演習Ⅱ	2	選択	
家族法Ⅰ	2	選択	
家族関係論	2	選択	
女性政策論	2	選択	
法女性学	2	選択	
家族法Ⅱ	2	選択	
労働法	2	選択	
比較家族思想史	2	選択	
比較ジェンダー論	2	選択	
政治とジェンダー	2	選択	
社会福祉学	2	選択	
労働経済学総論	2	選択	
社会保障論	2	選択	
家族社会学	2	選択	
老年学	2	選択	
老人福祉論	2	選択	
児童福祉論	2	選択	
発達社会学	2	選択	
生活関連法	2	選択	
生活法学	2	選択	
生活と行政Ⅰ	2	選択	
国際経済と生活	2	選択	
国民経済と生活	2	選択	

生活文化学副プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
生活造形論	2	必修		
民俗学	2	必修		
服飾文化概論	2	必修		
服飾美学概論	2	必修		
服飾史論	2	選択	以下の科目から	
服飾史資料論	2	選択	12単位以上選択	
服飾史Ⅰ	2	選択		
服飾史Ⅱ	2	選択		
比較生活文化論	2	選択		
比較生活文化史Ⅰ	2	選択		
民俗文化史概論	2	選択		
歴史民俗文化論	2	選択		
比較文化論基礎演習	2	選択		
民俗文化史基礎演習	2	選択		
服飾文化論基礎演習	2	選択		
日本服飾史演習Ⅰ	2	選択		
民俗文化史各論	2	選択		
環境デザイン論	2	選択		
生活文化論	2	選択		
生活造形史	2	選択		
工芸史	2	選択		
比較生活文化史Ⅱ	2	選択		
地域文化論	2	選択		
現代文化論	2	選択		
文化情報論	2	選択		
美学・芸術学	2	選択		
西洋服飾論	2	選択		
日本服飾論	2	選択		
服飾文化各論	2	選択		
服飾美学各論	2	選択		

別表第7 専門教育科目 (第5条関係)

学際プログラム

消費者学学際プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
消費者科学入門	2	必修		
国民経済と生活	2	必修		
企業経営論	2	選択	以下の科目から	
家政経済学概論	2	選択	16単位以上選択	
環境衛生学	2	選択		
建築環境計画論	2	選択		
医療と健康	2	選択		
社会保障論	2	選択		
被服学概論	2	選択		
食物学概論	2	選択		
食糧経済学	2	選択		
住居学概論	2	選択		
生活と財政	2	選択		
生活と金融	2	選択		
社会統計学Ⅰ	2	選択		
社会統計学Ⅱ	2	選択		
生活調査法	2	選択		
消費者経済学	2	選択		
生活造形論	2	選択		

授業科目	単位数	必修・選択	備考
現代文化論	2	選択	
発達臨床心理学Ⅰ	2	選択	
児童学概論	2	選択	
カウンセリング論	2	選択	
応用統計学	2	選択	
建築一般構造	2	選択	
国際栄養学	2	選択	
食生活史	2	選択	

別表第8 専攻科目 (第5条関係)

食物栄養学科

ジェンダー論副プログラム				単位数：20
授業科目	単位数	必修・選択	備考	
●専攻科目 (必修)	97			
解剖生理学Ⅰ	2	(Ⅰ)		
生化学	2	(Ⅰ)		
解剖生理学Ⅱ	2	(Ⅰ)		
調理科学	2	(Ⅰ)		
基礎調理学実習	1	(Ⅰ)		
細胞生化学	2	(Ⅱ)		
臨床医学総論	2	(Ⅱ)		
代謝栄養学	2	(Ⅱ)		
社会福祉学	2	(Ⅱ)		
食品化学	2	(Ⅱ)		
栄養教育論Ⅰ	2	(Ⅱ)		
生活環境学	2	(Ⅱ)		
食嗜好評価学	2	(Ⅱ)		
応用調理学実習	1	(Ⅱ)		
臨床医学各論Ⅰ	2	(Ⅱ)		
臨床医学各論Ⅱ	2	(Ⅱ)		
応用栄養学	2	(Ⅱ)		
給食経営管理論	2	(Ⅱ)		
食品製造・保存学	2	(Ⅱ)		
食品微生物学	2	(Ⅱ)		
臨床栄養アセスメント学	2	(Ⅱ)		
栄養カウンセリング論	2	(Ⅱ)		
分析化学実験	2	(Ⅱ)		
解剖生理学実験	1	(Ⅱ)		
食品微生物学実験	1	(Ⅱ)		
病態栄養学	2	(Ⅲ)		
食品衛生学	2	(Ⅲ)		
臨床栄養療法学	2	(Ⅲ)		
公衆栄養学	2	(Ⅲ)		
栄養教育論Ⅱ	2	(Ⅲ)		
ライフステージ栄養学	2	(Ⅲ)		
公衆衛生学	2	(Ⅲ)		
給食マネジメント論	2	(Ⅲ)		
栄養行政学	2	(Ⅲ)		
ライフスタイル栄養学	2	(Ⅲ)		
食品機能論	2	(Ⅲ)		
食事療法学	2	(Ⅲ)		
栄養学実験	2	(Ⅲ)		
応用栄養学実習	1	(Ⅲ)		
食品製造・保存学実験	2	(Ⅲ)		
栄養カウンセリング論実習	1	(Ⅲ)		
公衆栄養学実習	1	(Ⅲ)		
臨床栄養アセスメント学実習	2	(Ⅲ)		
食品化学実験	2	(Ⅲ)		
調理科学実験	2	(Ⅲ)		
給食経営管理実習	2	(Ⅲ)		
食物栄養管理論総合演習	2	(Ⅳ)		
栄養臨床実習	4	(Ⅳ)		
卒業論文	6	(Ⅳ)		
●専攻科目 (選択)	4			
*食物栄養専門英語	2	(Ⅱ)		
食品学	2	(Ⅱ)		
食品評価論	2	(Ⅲ)		
食物栄養学基礎演習	2	(Ⅳ)		
食物栄養学輪講	4	(Ⅳ)		
*印はコア科目外国語 (必修) 英語に充てることできる。				
●専攻科目 (選択) - 高大連携科目				
食物栄養学選択基礎	2			
高大連携科目は、大学との連携を行っている高校の生徒が履修する科目であるため、大学生は履修できない。なお、履修した生徒が本学に入学した場合は、当該科目は別表第1-2 (第5条関係) 「自由に選択して履修する科目・単位」内の「専攻科目 選択」の単位として認定することができる。				

別表第9 学部共通科目 (第6条関係)

授業科目	単位数	備考
生活科学概論	2	

授業科目	単位数	備考
基礎有機化学	2	(食物栄養学科は必修)
分析化学	2	(食物栄養学科は必修)
ヒトと文化	2	
発達社会学	2	
ジェンダー論	2	
比較ジェンダー論	2	
人口学	2	
社会保障論	2	
企業経営論	2	
消費者科学入門	2	
生活造形論	2	
民俗学	2	
生活設計論	2	
生活法学	2	
比較家族思想史	2	
老年学	2	
服飾文化概論	2	
服飾美学概論	2	
国際栄養学	2	
食糧経済学	2	
食生活史	2	
環境衛生学	2	
人間関係学	2	
応用統計学	2	
家族関係論	2	
家政経済学概論	2	
被服学概論	2	
食物学概論	2	
建築環境計画論	2	
住居学概論	2	
児童学概論	2	
発達臨床心理学 I	2	
保育臨床学	2	
学校臨床学	2	
医療と健康	2	

別表第 10 全学共通科目 (第 6 条関係)

授業科目	単位数	備考
NPO 入門	2	
女性リーダーへの道 (入門編)	2	
女性リーダーへの道 (ロールモデル入門編)	2	
女性リーダーへの道 (実践入門編)	2	
キャリアプランとライフプラン I	2	
キャリアプランとライフプラン II	2	
情報コミュニケーション技術と創発性	2	
働く女性の権利と地位	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
共生社会で働く	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
グループワークとマネジメント	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
キャリアプランニング実習	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
インターンシップ	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
クリエイティブ・ライティング I	2	
クリエイティブ・ライティング II	2	
クリエイティブ・ライティング III	2	
クリエイティブ・ライティング IV	2	
博物館学概論	2	
博物館資料特殊講義	2	
博物館活動特殊講義	2	
博物館実習	3	
初等解析学 I	2	
初等解析学 II	2	
初等線形代数	2	
初等代数学	2	
数の歴史	2	
物理学概論 A	2	
物理学概論 B	2	
基礎化学 A	2	
基礎化学 B	2	
基礎生物学 A	2	
基礎生物学 B	2	
宇宙・地球科学	2	
地球環境科学	2	
大気・海洋科学概論	2	
地史・古生物学概論	2	
物理学基礎実験	2	
化学基礎実験	2	
生物学基礎実験	2	
地学基礎実験	2	
数理基礎論	2	
確率序論	2	
コンピュータシステム序論	2	
生命情報学概論	2	
計算生物学	2	
海外交換留学認定科目	2 ~ 12	

授業科目	単位数	備考
グローバル COE 人間発達科学論 I	2	
グローバル COE 人間発達科学論 II	2	
グローバル COE 人間発達科学論 III	2	
科学英語 I	2	
科学英語 II	2	
物理学サブリメント	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
生物学サブリメント	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
英語基礎強化ゼミ	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
TOEFL 対策ゼミ R / L	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
TOEFL 対策ゼミ S / W	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
企画・運営力養成講座	2	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 I	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 II	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 III	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 IV	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 V	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 VI	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 VII	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 VIII	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 IX	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 X	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 XI	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 XII	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 XIII	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 XIV	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)
理数特別講義演習 XV	1	(卒業に必要な単位に含めることができない)

別表第 11 教職共通科目 (第 6 条関係)

授業科目	単位数	備考
家庭看護学	2	
家庭機械及び家庭電気	2	
調理実習	1	
被服製作実習	1	
保育実践論	2	
学校栄養教育論 I	2	
学校栄養教育論 II	2	

別表第 12 教職に関する科目 (第 6 条関係)

授業科目	単位数	備考
教職概論	2	
教育原論 (思想・歴史)	2	
教育心理	2	
教育原論 (社会・制度)	2	
教育課程論	2	
家庭科教育法 I	2	
家庭科教育法 II	2	
道徳教育の研究	2	
特別活動の研究	2	
教育方法論	2	
生徒指導の研究	2	
学校カウンセリング	2	
事前・事後指導	1	
教育実習	高校は 2 単位 幼稚園・小学校・中学校は 4 単位	
栄養教育実習	2	
教職実践演習 (教論)	2	
教職実践演習 (栄養教論)	2	
視聴覚教育メディア論	2	

別表第 13 外国人留学生特別科目 5 条関係)

授業科目	単位数	備考
日本語演習 I A	2	
日本語演習 I B	2	
日本語演習 II A	2	
日本語演習 II B	2	
日本語演習 III A	2	
日本語演習 III B	2	
日本語演習 IV A	2	
日本語演習 IV B	2	
日本語演習 V A	2	
日本語演習 V B	2	
日本事情演習 I A	2	
日本事情演習 I B	2	
日本事情演習 II A	2	
日本事情演習 II B	2	
日本事情演習 III A	2	
日本事情演習 III B	2	
日本事情演習 IV A	2	
日本事情演習 IV B	2	
日本事情演習 V A	2	
日本事情演習 V B	2	

別表第 14 特別設置科目（第 5 条関係）

授業科目	単位数	備考
子ども理解と保育の探求 I	2	
子ども理解と保育の探求 II	2	
乳幼児発達障害論 I	2	
乳幼児発達障害論 II	2	
乳幼児教育・保育政策論 I	2	
乳幼児教育・保育政策論 II	2	
乳幼児保育マネジメント I	2	
乳幼児保育マネジメント II	2	
コミュニティ保育資源の活用 I	2	
コミュニティ保育資源の活用 II	2	
保育メディア論	2	
実践音楽療法	2	
子どもと家族	2	
比較保育実践研究 I	1	
比較保育実践研究 II	1	
現代保育課題研究 I	1	
現代保育課題研究 II	1	

## 6

## お茶の水女子大学学位規則

## 第1章 総 則

## (趣旨)

第1条 この規則は、学位規則（昭和28年文部省令第9号）第13条第1項の規定に基づき、国立大学法人お茶の水女子大学（以下「本学」という。）において授与する学位に関し必要な事項を定める。

## (学位の名称)

第2条 本学において授与する学位は、学士、修士及び博士とする。

2 学位に付記すべき専攻分野の名称については、次の表のとおりとする。

学部又は研究科		学位	専攻分野の名称
文 教 育 学 部		学士	人文科学
理 学 部			理学
生 活 科 学 部			生活科学
大学院人間文化創成科学研究科	博士前期課程	修士	比較社会文化学専攻
			人間発達科学専攻
			ジェンダー社会科学専攻
			ライフサイエンス専攻
			理学専攻
	博士後期課程	博士	比較社会文化学専攻
			人間発達科学専攻
			ジェンダー学際研究専攻
			ライフサイエンス専攻
			理学専攻

第3条 学位を授与された者は、その学位の名称を用いるときは、本学（この条において「お茶の水女子大学」とする。）の名称を付記するものとする。

## 第2章 学士の学位

## (学位授与の要件)

第4条 学士の学位は、本学を卒業した者に授与する。

## (学位記の授与)

第5条 学長は、前条の規定に基づいて、学位を授与すべき者に別記第1号様式による学位記を授与する。

## 第3章 修士の学位

## (学位授与の要件)

第6条 修士の学位は、本学大学院の博士前期課程を修了した者に授与する。

## (学位論文の提出)

第7条 学位論文は、学長に提出するものとする。

2 提出する学位論文は、1編とする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。

3 審査のため必要があるときは、関係資料を提出させることができる。

## (審査の付託)

第8条 学長は、学位論文を受理したときは、教授会にその審査を付託するものとする。

## (審査委員会)

第9条 教授会は、前条に規定する審査を付託されたときは、2人以上の審査委員で組織する審査委員会を設けるものとする。

2 審査委員は、当該専攻の教員及び関連する科目の担当教員のうちから選出する。ただし、教授会が必要と認めるときは、客員教授若しくは客員准教授（以下「客員教授等」という。）又は学内の教員を加えることができる。

3 審査委員会は、学位論文の審査及び試験に関する事項を行うものとする。

4 審査委員会の運営に関する事項は、教授会において定める。

## (学位論文の審査の協力)

第10条 前条の学位の授与に係る学位論文の審査に当たっては、他の大学院又は研究所等の教員等の協力を得ることができる。

## (学位論文の審査及び試験等)

第11条 試験は、学位論文を中心として、これに関連のある授業科目について口答又は筆答により行うものとする。

2 審査委員会は、学位論文の審査の結果を前項の結果とともに学年度末までに大学院人間文化創成科学研究科長（以下「研究科長」という。）に報告しなければならない。

## (教授会の審議)

第12条 教授会は、前条第2項の報告に基づいて審議し、学位を授与すべきか否かを議決する。

2 前項の議決をするには、構成員総数の3分の2以上の出席を必要とする。ただし、長期出張中及び休職中のため出席することができない構成員は構成員の総数に算入しないものとする。

3 学位の授与を議決するには、出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

## (研究科長の報告)

第13条 教授会が前条の議決をしたときは、研究科長は、その旨を学長に報告しなければならない。

**(学位記の様式)**

第14条 学長は、第6条の規定に基づいて、学位を授与すべき者に別記第2号の1様式又は別記第2号の2様式による学位記を授与し、学位を授与できない者にはその旨を通知する。

**(学位授与の取消し)**

第15条 学位を授与された者が不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は、教授会の議を経て、学位の授与を取り消し、学位記を還付させ、かつ、その旨を公表するものとする。

2 教授会が前項の議決をする場合には、第12条第2項及び第3項の規定を準用する。

**第4章 博士の学位****(学位授与の要件)**

第16条 博士の学位は、本学大学院の博士後期課程を修了した者に授与する。

2 前項に定めるもののほか、博士の学位は、本学大学院の博士後期課程を経ない者が学位論文を提出して、その審査及び試験に合格し、かつ、専攻学術に関し本学大学院の博士後期課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有することを確認(以下「学力の確認」という。)された場合には、授与することができる。

3 本学大学院の博士後期課程に所定の修業年限以上在学し、所定の単位を修得しただけで退学した者が、再入学しないで博士の学位の授与を申請するときも、前項の規定による。

**(学位論文の提出)**

第17条 前条第2項及び第3項に規定する者が博士の学位の授与を申請するときは、学位申請書に学位論文、論文要旨、論文目録、履歴書及び所定の学位論文審査手数料を添え、学長に提出しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、前条第3項に規定する者が退学後1年以内に学位論文を提出する場合には、学位論文審査手数料を納付することを要しない。

3 提出された学位論文及び既納の学位論文審査手数料は、返還しない。

**(審査委員会)**

第18条 教授会は、学長から学位論文の審査を付託されたときは、5人以上の審査委員で組織する審査委員会を設けるものとする。

2 審査委員は、博士後期課程の教員のうちから選出する。ただし、教授会が必要と認めるときは、博士後期課程の客員教授等、学内の教員又は外部審査委員を加えることができる。

3 審査委員会は、学位論文の審査、試験及び学力の確認に関する事項を行うものとする。

**(学力の確認)**

第19条 学力の確認は、試問の方法により行うものとする。

2 前項に規定する試問は、口答又は筆答とし、外国語については1種類以上を課する。

3 審査委員会は、前項の規定にかかわらず、学位の授与を申請する者の経歴及び提出論文以外の業績を審査して、学力の確認のための試問の一部又は全部を行う必要がないと認めるときは、教授会の承認を得て、その経歴及び業績の審査をもって学力の確認のための試問の一部又は全部に代えることができる。

**(学力確認等の特例)**

第20条 第16条第3項に規定する者が、退学後3年以内に学位論文を提出した場合は、学力の確認を行わないことができる。

2 学位論文の審査の結果、その内容が不良であるときは、試験及び学力の確認を行わないことができる。

**(審査期間)**

第21条 審査委員会は、次に掲げる期間中に、学位論文の審査、試験及び学力の確認を終了しなければならない。

一 本学大学院の博士後期課程修了予定の者にあつては、学年度末までとする。

二 第16条第2項及び第3項に規定する者にあつては、学位論文を受理した日から1年以内とする。

**(審査委員会の報告)**

第22条 審査委員会は、学位論文の審査、試験及び学力の確認を終了したときは、直ちに学位論文の内容の要旨、審査の要旨及び試験の結果の要旨に、学位を授与できるか否かの意見を添えて、研究科長に文書で報告しなければならない。ただし、第16条第2項及び第3項に規定する者の場合は、学力の確認の結果の要旨も併せて添付するものとする。

2 前項の規定にかかわらず、第20条各項の規定に該当する場合は、当該要旨の添付を要しない。

**(学位論文の要旨等の公表)**

第23条 本学は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から3月以内に、その論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を公表するものとする。

**(学位論文の公表)**

第24条 博士の学位を授与された者は、当該学位を授与された日から1年以内に、その論文を印刷公表しなければならない。ただし、当該学位を授与される前に既に印刷公表したときは、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、教授会の承認を受けて、当該論文の全文に代えてその内容を要約したものを印刷公表することができる。この場合、研究科は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 前2項の規定により学位論文を公表する場合には、お茶の水女子大学審査学位論文であることを明記しなければならない。

**(学位授与の報告)**

第25条 本学において博士の学位を授与したときは、学長は、文部科学大臣に所定の報告をし、学位簿に登録する。

**(規定の準用)**

第26条 博士の学位に係る学位論文の提出、審査の付託、審査委員会、学位論文の審査の協力、学位論文の審査及び試験等、教授会の審議、研究科長の報告、学位記の様式並びに学位授与の取消し等については、第7条、第8条、第9条第4項、第10条、第11条第1項、第12条から第14条まで及び第16条の規定を準用する。この場合において、第7条第2項中「1編」とあるのは「正副各1編」と、第14条中「別記第2号の1様式又は別記第2号の2様式」とあるのは「別記第3号様式」又は「第4号様式」と読み替えるものとする。



附 則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 17 年 11 月 16 日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

2 この規則の施行の際現に大学院人間文化研究科に在学する学生の学位については、改正後の第 2 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別記第 1 号様式（第 5 条関係）

第 号	大学印	学部印	本学〇〇学部〇〇〇学科所定の 課程を修めたことを認める	氏 名  年 月 日生	卒業証書・学位記
	お茶の水女子大学長 氏名 印	お茶の水女子大学〇〇学部長 氏名 印			
	右の認定により本学を卒業したので 学士(〇〇〇)の学位を授与する				

別記第 2 号の 1 様式（第 5 条関係）

第 号	お茶の水女子大学 印	年 月 日	本学大学院人間文化創成科学研究科 〇〇〇専攻の博士前期課程において 所定の単位を修得し学位論文の 審査及び最終試験に合格したので 修士(〇〇〇)の学位を授与する	氏 名  年 月 日生	学位記

別記第2号の2様式(第14条関係)

学位記	本籍(都道府県)	氏名	年 月 日生
<p>本学大学院人間文化創成科学研究科          ○○○専攻の博士前期課程において          所定の単位を修得し特定の課題に          ついての研究の成果の審査及び          最終試験に合格したので修士          (○○○○)の学位を授与する</p>			
第 号	年 月 日	お茶の水女子大学 印	

別記第3号様式(第26条関係)

学位記	本籍(都道府県)	氏名	年 月 日生
<p>本学大学院人間文化創成科学研究科          ○○○専攻の博士後期課程を          修了したので博士(○○○○)の          学位を授与する</p>			
博甲第 号	年 月 日	お茶の水女子大学 印	
論文題目			

別記第4号様式(第26条関係)

学位記	本籍(都道府県)	氏名	年 月 日生
<p>本学に学位論文を提出しその          審査及び試験に合格しかつ所定の          学力を有するものと認定したので          博士(○○○○)の学位を授与する</p>			
博乙第 号	年 月 日	お茶の水女子大学 印	
論文題目			

お茶の水女子大学学則第17条の規定に基づき、本学が単位を認定する学生の他大学等において修得した単位又は行った学修等の取扱いは、次のとおりとする。

### I 単位認定の対象とする他大学等における修得単位等の取扱いについて

- (1) 本学は、教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学との協議に基づき、学生が当該他大学等において履修した授業科目について修得した単位を、別に定めるところにより、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- (2) 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、別に定めるところにより、本学における授業科目の履修とみなし、単位を授与することができる。
- (3) 前期(1)及び(2)の定めにより、履修したものとみなし、又は授与することができる単位については、合わせて60単位を限度として認めることができる。

前記(2)の単位認定の対象となる「文部科学大臣が定める学修」は、次のとおりとする。

- ・ 大学の専攻科における学修
- ・ 高等専門学校の課程における学修で、大学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
- ・ 専修学校の専門課程のうち修業年限が2年以上のものにおける学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
- ・ 教育職員免許法（昭和24年法律第147号）第6条別表第3備考第4号の規定により文部科学大臣の認定を受けて大学等が行う講習又は公開講座における学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
- ・ 社会教育法（昭和24年法律第207号）第9条の5の規定により文部科学大臣の委嘱を受けて大学その他の教育機関が行う社会教育主事の講習における学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
- ・ 図書館法（昭和25年法律第118号）第6条の規定により文部科学大臣の委嘱を受けて大学又は短期大学が行う司書及び司書補の講習における学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
- ・ 学校図書館法（昭和28年法律第185号）第5条第3項の規定により文部科学大臣の委嘱を受けて大学又は短期大学が行う司書教諭の講習における学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの

### II 単位の認定方法

※当該の単位認定につきましては、あらかじめ所定の承認を必要としますので、教務チーム（学生センター）で手続きをしてください。

- (1) 前記Iにより認定を受けようとする者は、単位等の修得後、速やかに別紙様式Iによる「他大学等において修得した単位等に係る単位認定願」に成績証明書等を添えて、当該学部長に願出するものとする。
- (2) 当該学部長は、当該学科長及び関係教員と協議のうえ、当該教授会の議を経て、単位の認定を行うものとする。
- (3) 当該学部長は認定した科目及び単位について、別紙様式2による認定書を交付するものとする。
- (4) 前記により単位の認定を行った場合は、本学における履修内容の有益化を図るよう、各学部において適切な指導を行うものとする。

### III その他

外国の大学等における授業科目の履修等の取扱いについては、前記Iの(1)及び(3)の定めによるもののほか、別に定めるところによるものとする。

(適用)

この取扱いは、平成11年4月1日から実施する。

### IV 修業年限の通算の措置（学則第14条第3項関係）

本学の科目等履修生として一定の単位を修得した場合、前記Iの(1)により認められた単位の全部又は一部が教育課程の一部を履修したと認められるときは、当該学部教授会の議を経て、学則第14条第1項に規定する修業年限について、当該単位数、その修得に要した期間その他を考慮して、2分の1を超えない範囲でその修業年限に通算することができる。

(適用)

この取扱いは、平成16年4月1日から実施する。



お茶の水女子大学学則第18条の規定に基づき、本学に入学する前の他大学等において修得した単位等に対する単位認定については、次のとおりとする。

#### I 単位認定の対象とする他大学等における既修得単位、並びに学修

- (1) 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学若しくは短期大学（以下「大学等」という。）又は、外国の大学等において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）（以下「既修得単位」という。）を、別に定めるところにより、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- (2) 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った、短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、別に定めるところにより、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。
- (3) 前記2の定めにより、修得したものとみなし、又は与えることができる単位については、転学、編入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについて、学則第17条第3項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を限度として認めることができる。前記(2)の単位認定の対象となる「文部科学大臣が定める学修」は、次のとおりとする。
  - ・大学の専攻科における学修
  - ・高等専門学校の課程における学修で、大学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
  - ・専修学校の専門課程のうち修業年限が2年以上のものにおける学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
  - ・教育職員免許法（昭和24年法律第147号）第6条別表第3備考第4号の規定により文部科学大臣の認定を受けて大学等が行う講習又は公開講座における学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
  - ・社会教育法（昭和24年法律第207号）第9条の5の規定により文部科学大臣の委嘱を受けて大学その他の教育機関が行う社会教育主事の講習における学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
  - ・図書館法（昭和25年法律第118号）第6条の規定により文部科学大臣の委嘱を受けて大学又は短期大学が行う司書及び司書補の講習における学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
  - ・学校図書館法（昭和28年法律第185号）第5条第3項の規定により文部科学大臣の委嘱を受けて大学又は短期大学が行う司書教諭の講習における学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
  - ・『実用英語技能検定』（文部科学省認定・財団法人日本英語検定協会主催）の合格（1級又は準1級）に係る学修
  - ・『TOEIC』（財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会主催）において730点以上の学修
  - ・『TOEFL』（Education Testing Service (ETS) 主催）において550 (PBT) / 213 (CBT) / 79 (iBT) 点以上の学修
  - ・『中国語検定』（日本中国語検定協会主催）の合格（4級以上）に係る学修
  - ・『中国語コミュニケーション能力検定』（中国語コミュニケーション協会主催）において250点以上の学修
  - ・『漢語水平考試験』（中国語検定委員会主催）の合格（2級以上）に係る学修
  - ・『実用フランス語技能検定試験』（財団法人フランス語教育振興協会主催）の合格（4級以上）に係る学修
  - ・『ドイツ語技能検定試験』（財団法人ドイツ語学文学振興会主催）の合格（3級以上）に係る学修

#### II 単位の認定方法

- 既修得単位の認定は、次により行うものとする。
  - (1) 既修得単位の認定を受けようとする者は、別紙様式Iによる「他大学等において修得した単位等に係る認定願」に成績証明書等を添えて、当該学部長に願出するものとする。
  - (2) 当該学部長は、教育上有益と認めるときは、当該学科長及び願出のあった授業科目の関係教員等と協議のうえ、当該教授会の議を経て、既修得単位の認定を行うものとする。
- 『実用英語技能検定』1級又は準1級の合格者、『TOEIC』730点以上スコアを持つ者、『TOEFL』550 (PBT) / 213 (CBT) / 79 (iBT) 点以上のスコアを持つ者、『中国語検定』4級以上の合格者、『中国語コミュニケーション能力検定』250点以上のスコアを持つ者、『漢語水平考試験』2級以上の合格者、『実用フランス語技能検定試験』4級以上の合格者、『ドイツ語技能検定試験』3級以上の合格者の単位認定は、次により行う。
  - (1) 単位の認定を受けようとする者は、別紙様式Iによる「他大学等において修得した単位等に係る認定願」にそれぞれの基準を満たしていることを証明する書類を添えて、当該学部長に願出するものとする。
  - (2) 当該学部長は、関係学科教員等と協議のうえ、当該教授会の議を経て、認定を行うものとする。
- 申請期限——入学した年度の前学期授業開始日の前日（教務チームに申請の申し出をし、申請手続の指示を受けること。）

#### III 単位の認定書の交付等

- (1) 当該学部長は認定した科目及び単位について、別紙様式2による認定書を交付するものとする。
- (2) 前記により単位の認定を行った場合は、認定した単位に代えて、他の授業科目の履修を行わせるなど履修内容の有益化を図るよう、各学部において適切な指導を行うものとする。

#### 別表

授業科目区分	授業の取扱い
コア科目	※60単位を限度とする。
専門・専攻科目	
その他の授業科目	

※本学において修得した単位以外のものについて、上記単位数を上限とする。

各認定単位は以下のとおりとする。（なお、残りの必修単位の充足方法等については、「授業科目区分、履修方法（コア科目）」を参照。）

#### IV 修業年限の通算の措置（学則第14条第3項関係）

本学の科目等履修生として一定の単位を修得した場合、前記Iの(1)により認められた単位の全部又は一部が教育課程の一部を履修したと認められ

るときは、当該学部教授会の議を経て、学則第14条第1項に規定する修行年限について、当該単位数、その修得に要した期間その他を考慮して、2分の1を超えない範囲でその修業年限に通算することができる。

(適用)

この取扱いは、平成16年4月1日から実施する。

## (趣旨)

第1条 この規則は、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第59号。以下「法」という。）及び独立行政法人等の保有する個人情報の適切な管理のための措置に関する指針（平成16年9月14日総務省行政管理局長通知総管情第85号）に基づき、国立大学法人お茶の水女子大学（以下「本学」という。）の保有する個人情報の適切な管理に関し必要な事項を定める。

## (定義)

第2条 この規則において「個人情報」とは、法第2条第2項に規定する個人情報をいう。

2 この規則において「保有個人情報」とは、法第2条第3項に規定する保有個人情報であって、本学が保有するものをいう。

3 この規則において「個人情報ファイル」とは、法第2条第4項に規定する個人情報ファイルであって、本学が保有するものをいう。

4 この規則において「部局」とは、学長室、各機構、各学部、大学院人間文化創成科学研究科、附属図書館、各学内共同教育研究施設、各教育サービス施設、保健管理センター、附属学校部、各附属学校及び保育所をいう。

## (総括保護管理者)

第3条 本学に、総括保護管理者を置き、総務担当理事をもって充てる。

2 総括保護管理者は、本学における保有個人情報の管理に関する事務を総括するものとする。

## (保護管理者)

第4条 保有個人情報を取り扱う部局に、保護管理者を置き、当該部局の長（学長室にあつては、総務担当理事）をもって充てる。

2 保護管理者は、各部局における保有個人情報を適切に管理するものとする。

## (保護担当者)

第5条 保有個人情報を取り扱う部局に、保護担当者を置き、当該部局の保護管理者が指定する部局の職員をもって充てる。

2 保護担当者は、各部局の保護管理者を補佐し、保有個人情報の管理に関する事務を行うものとする。

## (監査責任者)

第6条 本学に、監査責任者を置き、学長が指名する監事をもって充てる。

2 監査責任者は、保有個人情報の管理の状況について監査するものとする。

## (教育研修)

第7条 総括保護管理者は、保有個人情報の取扱いに従事する職員（以下「職員」という。）に対し、保有個人情報の取扱いについて理解を深め、個人情報の保護に関する意識の高揚を図るための啓発その他必要な教育研修を行うものとする。

2 保護管理者は、保有個人情報の適切な管理のために、当該部局の職員に対して、総括保護管理者の実施する教育研修への参加の機会を付与する等の必要な措置を講ずるものとする。

## (職員の責務)

第8条 職員は、法の趣旨に則り、関連する法令及び規程等の定め並びに総括保護管理者、保護管理者及び保護担当者の指示に従い、保有個人情報を取り扱わなければならない。

## (アクセス制限)

第9条 保護管理者は、保有個人情報の秘匿性等その内容に応じて、情報にアクセスする権限を有する者を指定するものとする。

2 アクセスする権限を有しない職員は、保有個人情報にアクセスしてはならない。

3 職員は、アクセスする権限を有する場合であっても、業務上の目的以外の目的で保有個人情報にアクセスしてはならない。

## (複製等の制限)

第10条 職員は、業務上の目的で保有個人情報を取り扱う場合であっても、次に掲げる行為については、保護管理者の指示に従い行うものとする。

- 一 保有個人情報の複製
- 二 保有個人情報の送信
- 三 保有個人情報が記録されている媒体の外部への送付又は持出し
- 四 その他保有個人情報の適切な管理に支障を及ぼすおそれのある行為

## (誤りの訂正等)

第11条 職員は、保有個人情報の内容に誤り等を発見した場合には、保護管理者の指示に従い、訂正等を行うものとする。

## (媒体の管理等)

第12条 職員は、保有個人情報が記録されている媒体を保護管理者の指示する場所に保管するとともに、必要があると認めるときは、耐火金庫への保管、施錠等を行うものとする。

## (廃棄等)

第13条 職員は、保有個人情報又は保有個人情報が記録されている媒体（端末及びサーバに内蔵されているものを含む。）が不要となった場合には、保護管理者の指示に従い、当該保有個人情報の復元又は判読が不可能な方法により当該情報の消去又は当該媒体の廃棄を行うものとする。

## (保有個人情報の取扱状況の記録)

第14条 保護管理者は、保有個人情報の秘匿性等その内容に応じて、台帳等を整備して、当該保有個人情報の利用及び保管等の取扱いの状況について記録するものとする。

## (アクセス制御)

第15条 保護管理者は、保有個人情報の秘匿性等その内容に応じて、パスワード等（パスワード、ICカード、生体情報等をいう。以下同じ。）を使用して権限を識別する機能（以下「認証機能」という。）を設定する等のアクセス制御のために必要な措置を講ずるものとする。

2 保護管理者は、前項の措置を講ずる場合には、パスワード等の管理に関する定め（その定期又は随時に見直しを含む。）、パスワード等の読取防止等を行うために必要な措置を講ずるものとする。

## (アクセス記録)

第16条 保護管理者は、保有個人情報の秘匿性等その内容に応じて、当該保有個人情報へのアクセス状況を記録し、その記録（以下「アクセス記録」という。）を5年間保存し、アクセス記録を定期に又は随時に分析するために必要な措置を講ずるものとする。

2 保護管理者は、アクセス記録の改ざん、窃取又は不正な消去の防止のために必要な措置を講ずるものとする。

**(外部からの不正アクセスの防止)**

第17条 保護管理者は、保有個人情報を取り扱う情報システムへの外部からの不正アクセスを防止するため、ファイアウォールの設定による経路制御等の必要な措置を講ずるものとする。

**(コンピュータウイルスによる漏えい等の防止)**

第18条 保護管理者は、コンピュータウイルスによる保有個人情報の漏えい、滅失又はき損の防止のため、コンピュータウイルスの感染防止等に必要な措置を講ずるものとする。

**(暗号化)**

第19条 保護管理者は、保有個人情報の秘匿性等その内容に応じて、その暗号化のために必要な措置を講ずるものとする。

**(入力情報の照合等)**

第20条 職員は、情報システムで取り扱う保有個人情報の重要度に応じて、入力原票と入力内容との照合、処理前後の当該保有個人情報の内容の確認、既存の保有個人情報との照合等を行うものとする。

**(バックアップ)**

第21条 保護管理者は、保有個人情報の重要度に応じて、バックアップを作成し、分散保管するために必要な措置を講ずるものとする。

**(情報システム設計書等の管理)**

第22条 保護管理者は、保有個人情報に係る情報システムの設計書、構成図等の文書について外部に知られることがないように、その保管、複製、廃棄等について必要な措置を講ずるものとする。

**(端末の限定)**

第23条 保護管理者は、保有個人情報の秘匿性等その内容に応じて、その処理を行う端末を限定するために必要な措置を講ずるものとする。

**(端末の盗難防止等)**

第24条 保護管理者は、端末の盗難又は紛失の防止のため、端末の固定、執務室の施錠等の必要な措置を講ずるものとする。

2 職員は、保護管理者が必要があると認めるときを除き、端末を外部へ持ち出し、又は外部から持ち込んではならない。

**(第三者の閲覧防止)**

第25条 職員は、端末の使用に当たっては、保有個人情報が第三者に閲覧されることがないように、使用状況に応じて情報システムからログオフを行うことを徹底する等の必要な措置を講ずるものとする。

**(入退室の管理)**

第26条 保護管理者は、保有個人情報を取り扱う基幹的なサーバ等の機器を設置する室等（以下「情報サーバ室等」という。）に入室する権限を有する者を指定するとともに、用件の確認、入退室の記録、部外者についての識別化、部外者が入室する場合の職員の立会い等の措置を講ずるものとする。また、保有個人情報を記録する媒体を保管するための施設を設けている場合においても、必要があると認めるときは、同様の措置を講ずるものとする。

2 保護管理者は、必要があると認めるときは、情報サーバ室等の出入口の特定化による入退室の管理の容易化、所在表示の制限等の措置を講ずるものとする。

3 保護管理者は、情報サーバ室等及び保管施設の入退室の管理について、必要があると認めるときは、入室に係る認証機能を設定し、及びパスワード等の管理に関する定めを整備（その定期又は随時の見直しを含む。）、パスワード等の読取防止等を行うために必要な措置を講ずるものとする。

**(情報サーバ室等の管理)**

第27条 保護管理者は、外部からの不正な侵入に備え、情報サーバ室等に施錠装置、警報装置、監視設備の設置等の措置を講ずるものとする。

2 保護管理者は、災害等に備え、情報サーバ室等に、耐震、防火、防煙、防水等の必要な措置を講ずるとともに、サーバ等の機器の予備電源の確保、配線の損傷防止等の措置を講ずるものとする。

**(保有個人情報の提供)**

第28条 保護管理者は、法第9条第2項第3号及び第4号の規定に基づき行政機関及び独立行政法人等以外の者に保有個人情報を提供する場合には、原則として、提供先における利用目的、利用する業務の根拠法令、利用する記録範囲及び記録項目、利用形態等について書面を取り交わすものとする。

2 保護管理者は、法第9条第2項第3号及び第4号の規定に基づき行政機関及び独立行政法人等以外の者に保有個人情報を提供する場合には、安全確保の措置を要求するとともに、必要があると認めるときは、提供前又は随時に実地の調査等を行い措置状況を確認し、その結果を記録するとともに、改善要求等の措置を講ずるものとする。

3 保護管理者は、法第9条第2項第3号の規定に基づき行政機関又は独立行政法人等に保有個人情報を提供する場合において、必要があると認めるときは、前2項に規定する措置を講ずるものとする。

**(業務の委託等)**

第29条 保有個人情報の取扱いに係る業務を外部に委託する場合には、個人情報の適切な管理を行う能力を有しない者を選定することがないように、必要な措置を講ずるものとする。また、契約書に、次に掲げる事項を明記するとともに、委託先における責任者等の管理体制、個人情報の管理の状況についての検査に関する事項等の必要な事項について書面で確認するものとする。

- 一 個人情報に関する秘密保持等の義務
- 二 再委託の制限又は条件に関する事項
- 三 個人情報の複製等の制限に関する事項
- 四 個人情報の漏えい等の事案の発生時における対応に関する事項
- 五 委託終了時における個人情報の消去及び媒体の返却に関する事項
- 六 違反した場合における契約解除の措置その他必要な事項

2 保有個人情報の取扱いに係る業務を派遣労働者によって行わせる場合には、労働者派遣契約書に秘密保持義務等個人情報の取扱いに関する事項を明記するものとする。

**(事案の報告及び再発防止措置)**

第30条 保有個人情報の漏えい等安全確保の上で問題となる事案（以下単に「事案」という。）が発生した場合に、その事実を知った職員は、速やかに当該保有個人情報を管理する保護管理者に報告するものとする。

2 保護管理者は、被害の拡大防止又は復旧等のために必要な措置を講ずるものとする。

3 保護管理者は、事案の発生した経緯、被害状況等を調査し、総括保護管理者に報告するものとする。ただし、特に重大と認める事案が発生した場合には、直ちに総括保護管理者に当該事案の内容等について報告するものとする。

4 総括保護管理者は、前項の規定に基づく報告を受けた場合には、事案の内容等に応じて、当該事案の内容、経緯、被害状況等を学長に速やかに報告するものとする。



5 保護管理者は、事案の発生した原因を分析し、再発防止のために必要な措置を講ずるものとする。

(公表等)

第31条 総括保護管理者は、事案の内容、影響等に応じて、事実関係及び再発防止策の公表、当該事案に係る本人への対応等の措置を講ずるものとする。

(監査)

第32条 監査責任者は、保有個人情報の管理の状況について、定期に又は随時に監査を行い、その結果を総括保護管理者に報告するものとする。

(点検)

第33条 保護管理者は、自ら管理責任を有する保有個人情報の記録媒体、処理経路、保管方法等について、定期に又は随時に点検を行い、必要があると認めるときは、その結果を総括保護管理者に報告するものとする。

(評価及び見直し)

第34条 総括保護管理者は保有個人情報の適切な管理のために、監査又は点検の結果等を踏まえ、実効性等の観点から評価し、必要があると認めるときは、その見直し等の措置を講ずるものとする。

(個人情報ファイル簿)

第35条 保護管理者は、個人情報ファイル(法第11条第2項各号に掲げるもの及び同条第3項の規定により個人情報ファイル簿に掲載しないものを除く。以下同じ。)を保有するに至ったときは、直ちに、別紙様式により個人情報ファイル簿を作成し、総括保護管理者に提出しなければならない。

2 保護管理者は、個人情報ファイル簿に記載すべき事項に変更があったときは、直ちに、当該個人情報ファイル簿を修正し、総括保護管理者に提出しなければならない。

3 保護管理者は、個人情報ファイル簿に掲載した個人情報ファイルの保有をやめたとき、又はその個人情報ファイルが法第11条第2項第7号に該当するに至ったときは、遅滞なく、当該個人情報ファイルについての記載を消除するように総括保護管理者に申し出なければならない。

(雑則)

第36条 この規則に定めるもののほか、個人情報の管理に関し必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

平成 23 年 3 月 28 日  
制 定

(趣旨)

第 1 条 この規程は、国立大学法人お茶の水女子大学学則（以下「学則」という。）第 37 条第 1 項第 1 号に規定する除籍及び第 37 条の 2 に規定する復籍の取扱いに関し、必要な事項を定めるものとする。

(除籍の要件)

第 2 条 授業料を 2 期連続して滞納し、督促してもなお当該 2 期分を納入しない者は、2 期目の末日をもって除籍する。

2 前項の期とは、学則第 25 条に定める学期であって、授業料納付義務のある学期をいう。

(除籍の手続)

第 3 条 除籍の手続は、次に掲げるとおりとする。

一 財務チームは、授業料未納者及び当該授業料未納者の保証人に督促状を送付する。

二 財務チームは、教務チームに授業料未納者を通知する。

三 学科長（又はコース主任、講座主任）、指導教員、学年担当教員は、教務チームとともに、2 期連続して滞納した授業料未納者に、文書をもって修学意思の確認と授業料未納による除籍について説明を行い、また、当該授業料未納者の保証人に同様の措置を行う。

四 除籍は、教授会の議を経て、学長が行う。

五 学長名で、除籍通知書を学生に、その写しを当該授業料未納者の保証人に送付する。

(復籍の取扱い)

第 4 条 学長は、第 2 条の規定により除籍となった者が、除籍の日の翌日から起算して 3 年以内に、当該除籍の事由となった未納の授業料に相当する額を納付し、復籍を願い出た場合は、教授会の審査の上許可することができる。

2 前項の規定による復籍の時期は、許可を得た日以降における最初の学期の始めとする。

3 前 2 項の規定より復籍を許可した学生の復籍後の在学期間は、除籍前の在学期間に通算する。

(復籍の制限)

第 5 条 第 2 条の規定により除籍した者が、復籍後に同条により再び除籍となった場合は、復籍を認めない。

附 則

1 この規程は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。ただし、この規程の施行前に除籍した者については、適用しない。

2 この規程の施行日の前日に本学に在学し、この規程の施行後引き続き本学に在学する者については、第 2 条及び第 3 条中「2 期」とあるのは、この規程の施行日前における授業料未納の期を算入しないものとする。

3 前項の規定により、この規程の施行日前における授業料未納の期を算入されなかった者が、第 2 条の規定により除籍された後に第 4 条第 1 項の規定により復籍を願い出るときは、当該除籍の事由となった未納の授業料に加えて、前項の規定により算入されなかった期に係る未納の授業料を含めた額を納付しなければならない。



大学は、あなたがたがこれまで教えを受けた「学校」とは違う、知の生産の場です。提示された知識を疑うことなく受容するのが、高等学校までのあなたがたの基本的な仕事でした。教科書に書かれた知識を疑った経験はありますか。

大学は自由です。あなたがたの前に、普遍的で絶対的な知識など存在しません。知識とは、自然現象であれ人間や社会現象であれ、誰かがながしかの方法によってそれを観察して切り取った、世界観の断片に過ぎません。間違った知識もあれば偏った世界観もあります。疑うことから始まります。

今日からあなたがたのことを、生徒 (pupil) ではなく学生 (student) と呼びましょう。pupil は puppet (操り人形) と語源を同じくし、受動的に知識を与えられる存在を意味します。生徒から学生へと変身してください。主体的に観察し、思考して、自ら知識を生産する術を身につけてほしいと思います。

同時にあなたがたには社会規範から逸脱する自由も、ちょっぴり認めてあげましょう。ただし他者を傷つけない範囲で。逸脱してみなければ、私たちの社会を支配するルールのばからしさも、そしてその貴重さも、体得することは難しいからです。

あなたがたが手に入れる自由は、自己の利益を最大化するためではなく、この世界を新しくするために使ってほしいと切に願います。大学という時空間はそのためにあるのです。

平成 23 年 4 月 1 日

お茶の水女子大学教育機構長  
理事・副学長 耳塚 寛明

学籍番号

---

氏 名

---

# 2011年(平成23年) お茶の水女子大学 Ochanomizu University

## 履修ガイド

学生便覧

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

Tel.03-5978-5141 教務チーム教務係

Fax.03-5978-5147 学生支援チーム学生係